

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第212集

岡山南遺跡

2019

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

愛知県西尾市の旧矢作川下流部に広がる沖積地に岡山丘陵があります。この丘陵上には中根山遺跡など弥生時代の環濠集落をはじめ、若宮古墳群、全長66メートルにも及ぶ前方後円墳である吉良八幡山古墳など数多くの遺跡の分布が知られています。また山麓には高家吉良家の菩提寺である華蔵寺があり、吉良家墓所、庭園が大切に守られてきました。豊かな自然環境により育まれた地域の歴史は様々な形で暮らしの中に溶け込んでいます。

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターでは、平成23年、平成24年、平成27年、平成28年にかけて道路改良工事（県道西尾幡豆線）に伴う事前調査として岡山南遺跡の調査を行いました。その結果、奈良・平安時代を中心とした時期の竪穴建物、掘立柱建物跡、井戸などが展開する集落跡が確認されたほか、弥生土器、土師器、陶磁器、石器、木製品、金属製品などの遺物の広がりが見られ、岡山丘陵のふもとに暮らした人々の営みを伝える貴重な資料を得ることができました。

本書はこれらの成果をまとめたものであり、今後学術的な資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財の理解への一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査に対しての御理解、御協力を賜りました関係諸機関ならびに地元の皆様、発掘調査や資料整理に参加協力していただきました多くの方々に厚くお礼を申し上げます。

平成31年3月

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長 尾崎 亨

例 言

1. 本書は愛知県西尾市岡山地内に所在する岡山南遺跡（県遺跡番号 590016）の発掘調査報告書である。
2. 調査は道路改良工事（県道西尾幡豆線）に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターが実施した。調査期間は平成 23, 24, 27, 28 年で調査面積（本発掘調査 A・本発掘調査 B）は併せて 6,905 m²である。
3. 発掘調査は、(株) アート、(株) アーキジオ、(株) 波多野組、国際文化財(株) の支援を受けて行い、調査課池本正明（調査課長）、酒井俊彦（主任専門員）、鈴木正貴（主任専門員）、武部真木（調査研究専門員）が担当した。（ ）内は刊行時の当埋蔵文化財センター職員役職
平成 23 年度；(株) アート 浅野光生（現場代理人）、藤田徹也（調査補助員）、木村直司（土木測量技師）
平成 24 年度；(株) アーキジオ 春本和浩（現場代理人）、高野裕二（調査補助員）、宮本 斉（土木測量技師）
平成 27 年度；(株) 波多野組 初澤和博（現場代理人）、雨宮瑞生（調査補助員）、
中野善博・内藤教匡（土木測量技師）
平成 28 年度；国際文化財(株) 鬼頭泰夫（現場代理人）、山崎良二・土橋尚起（調査補助員）、
多田和幸・山田敏夫（土木測量技師）
4. 調査にあたっては以下の関係諸機関の協力を得た。
愛知県建設部道路建設課 愛知県教育委員会文化財保護室
西尾市教育委員会 愛知県埋蔵文化財調査センター
5. 調査・報告書の作成にあたっては以下の方々のご指導を賜った。（敬称略）
尾野善裕 加藤安信 城ヶ谷和広 鈴木とよ江 松井直樹
6. 本書の執筆は、第 2 章（遺構）では第 2 節と第 4 節を池本正明、そのほかを武部が分担して行った。また第 3 章（遺物）については第 1 節を宮腰健司（愛知県埋蔵文化財センター副センター長）、第 5 節を鈴木正貴、第 6 節を樋上 昇（主任専門員）、そのほかを武部が分担して行った。第 4 章科学分析では第 1 節を鬼頭 剛（調査研究専門員）が分担して行った。その他および編集を武部真木が行った。
なお、第 4 章第 2 節は(株) パレオ・ラボ（藤根 久・米田恭子）の分析結果等を掲載した。（敬称略）
7. 報告書に関わる整理作業は、陶磁器類の実測・トレース業務を(株) イビソク、木製品の実測・トレース業務を(株) ナカシャクリエイティブの支援を得た。平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月にかけて主に武部が担当して実施した。
なお、遺物写真撮影については写真工房・遊 金子知久に依頼した。（敬称略）
8. 出土遺物の登録は、本書図版の掲載番号を元に整理を行った。
9. 本書に示す座標値は、国土交通省に定められた平面直角座標第 VII 系に準拠する。海拔表記は東京湾平均海面 (T.P.) の数値である。表記は世界測地系を用いている。
10. 写真および図面などの調査記録については（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターで保管している。
〒 498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 (0567-67-4163)
11. 出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
〒 498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 (0567-67-4164)

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の経緯・経過	1
2 地理的環境	3
3 歴史的環境	4
第2章 遺 構	7
1 調査地点の概要	7
2 11A・11B区（平成23年度調査地点）	7
(1) 11A・11B区下面	
(2) 11A・11B区上面	
3 12A・12B・12C・12D区（平成24年調査地点）	14
(1) 12A区	
(2) 12B区	
(3) 12C・12D区	
4 15区（平成27年度調査地点）	23
5 16A・16B・16C・16D・16E区（平成28年度調査地点）	29
(1) 16A区	
(2) 16B区	
(3) 16C区	
(4) 16D区	
(5) 16E区	
第3章 遺 物	55
1 古墳時代	55
(1) 11A・11B区（平成23年度調査地点）	
(2) 12A・12B・12C・12D区（平成24年調査地点）	
(3) 15区（平成27年度調査地点）	
(4) 16A・16B・16C・16D・16E区（平成28年度調査地点）	
2 古代	67
(1) 11A・11B区（平成23年度調査地点）	
(2) 12A・12B・12C・12D区（平成24年調査地点）	
(3) 15区（平成27年度調査地点）	
(4) 16A・16B・16C・16D・16E区（平成28年度調査地点）	

3	中世・近世	82
4	金属製品・金属関連遺物	84
5	石器・石製品	85
6	木製品	90
	(1) 古墳時代前期	
	(2) 古代(飛鳥～平安時代)	
	(3) 中世(鎌倉～室町時代)	
	(4) 江戸時代(～以降)	
	(5) 樹種組成の変遷について	
第4章	自然科学分析	102
1	西尾市中央部、岡山南遺跡における地形と層序の解析	102
2	岡山南遺跡出土土師器の胎土分析	112
第5章	総括	126

図版・表類

基本平面図

登録遺物一覧表

写真図版(遺構・遺物)

CD-ROM収録データ

- ・報告書PDFデータ
- ・遺構一覧表
- ・登録遺物一覧表
- ・第4章-2分析データ(株式会社パレオ・ラボ 藤根・米田)
- ・その他

図83 岡山南遺跡周辺の等高線図

図99 岡山南遺跡調査地点と周辺地籍図(1/6,000)

挿 図 目 次

図 1	愛知県西尾市・岡山南遺跡の位置	1
図 2	調査地点位置図（西尾市都市計画図に加筆, 1/5, 000）	2
図 3	岡山南遺跡と位置と周辺の地形（『岡島遺跡 II・不馬入遺跡』を元に作成）	3
図 4	岡山南遺跡位置および周辺の遺跡（1/25, 000）	5
図 5	11A 区南壁面 土層断面図（1/100）	8
図 6	11B 区北壁面 土層断面図（1/100）	9
図 7	11A 区主要遺構平面・断面図（1/50）	10
図 8	11B 区主要遺構平面・断面図 1（1/50）	11
図 9	11B 区主要遺構平面・断面図 2（1/50）	12
図 10	11A・B 区主要遺構平面・断面図（1/50）	13
図 11	12A 区東壁面 土層断面図（1/100）	16
図 12	12A 区主要遺構平面・断面図（1/50）	17
図 13	12B 区東・西壁面 土層断面図（1/100）	18
図 14	12C 区南壁面 土層断面図（1/100）	19
図 15	12D 区北壁面 土層断面図（1/100）	20
図 16	12C 区主要遺構平面・断面図 1（1/50, 遺物 1/6）	21
図 17	12C 区主要遺構平面・断面図 2（1/50）	22
図 18	12D 区主要遺構平面・断面図（1/50）	23
図 19	15 区上面 平面図（1/500）	24
図 20	15 区壁面 土層断面図（1/100）	26
図 21	15 区主要遺構平面・断面図 1（1/50）	27
図 22	15 区主要遺構平面・断面図 2（1/50）	28
図 23	16A 区北・南壁面 土層断面図（1/100）	30
図 24	16B 区南壁面 土層断面図（1/100）	31
図 25	16B 区主要遺構平面・断面図（1/50, 1/60）	32
図 26	16C 区南壁面 土層断面図（1/100）	33
図 27	16C 区北・東壁面 土層断面図（1/100）	34
図 28	16C 区北・東壁面 土層断面注記	35
図 29	16C 区北トレンチ 下層自然流路木製品出土状況（平面図 1/50）	36
図 30	16C 区 006SD・077SD 平面・断面図（1/60）	38
図 31	16C 区主要遺構平面・断面図 1（1/50）	39
図 32	16C 区 003SI・004SI 平面・断面図（1/50）	40
図 33	16C 区 011SI・013SI・026SI 平面・断面図（1/50）	41
図 34	16C 区主要遺構平面・断面図 2（1/50）	42
図 35	16C 区主要遺構平面・断面図 3（1/50）	43
図 36	16D 区南壁面 土層断面図（1/100）	45
図 37	16D 区北壁面 土層断面図（1/100）	46
図 38	16D 区主要遺構平面・断面図 1（1/50）	47
図 39	16D 区主要遺構平面・断面図 2（1/50）	48
図 40	16D 区主要遺構平面・断面図 3（1/50）	49
図 41	16D 区主要遺構平面・断面図 4（1/50）	50
図 42	16E 区南壁面 土層断面図（1/100）	51
図 43	16E 区北壁面 土層断面図（1/100）	52
図 44	16E 区主要遺構平面・断面図 1（1/50, 遺物 1/6）	53
図 45	16E 区主要遺構平面・断面図 2（1/50）	54

図 46	土師器実測図 1 (1/4)	56
図 47	土師器実測図 2 (1/4)	57
図 48	土師器実測図 3 (1/4)	59
図 49	土師器実測図 4 (1/4)	60
図 50	土師器実測図 5 (1/4)	62
図 51	土師器実測図 6 (1/4)	63
図 52	土師器実測図 7 (1/4)	65
図 53	土師器実測図 8 (1/4)	66
図 54	土師器実測図 9 (1/4)	67
図 55	古代 土器・陶器実測図 1 (1/4)	69
図 56	古代 土器・陶器実測図 2 (1/4)	70
図 57	古代 土器・陶器実測図 3 (1/4)	72
図 58	古代 土器・陶器実測図 4 (1/4)	73
図 59	古代 土器・陶器実測図 5 (1/4)	74
図 60	古代 土器・陶器実測図 6 (1/4)	75
図 61	古代 土器・陶器実測図 7 (1/4)	77
図 62	古代 土器・陶器実測図 8 (1/4)	78
図 63	古代 土器・陶器実測図 9 (1/4)	80
図 64	古代 土器・陶器実測図 10 (1/4)	81
図 65	古代 土器・陶器実測図 11 (1/4)	82
図 66	中・近世 陶磁器実測図 1 (1/4)	83
図 67	中・近世 陶磁器実測図 2 (1/4)	84
図 68	金属製品実測図 (1/4, 銭貨は 1/2)	84
図 69	石器・石製品実測図 1 (1/4)	86
図 70	石器・石製品実測図 2 (1/4)	87
図 71	石器・石製品実測図 3 (1/4)	88
図 72	石器・石製品実測図 4 (1/4)	89
図 73	木製品実測図 1 (1/6)	91
図 74	木製品実測図 2 (1/10)	92
図 75	木製品実測図 3 (1/6)	93
図 76	木製品実測図 4 (1/6)	94
図 77	木製品実測図 5 (1/10)	95
図 78	木製品実測図 6 (1/10)	96
図 79	木製品実測図 7 (1/10)	97
図 80	木製品実測図 8 (1/10)	98
図 81	木製品実測図 9 (1/6)	99
図 82	木製品実測図 10 (1/10)	100
図 83	岡山南遺跡周辺の等高線図	103
図 84	試錐地点 1 における地質柱状図	105
図 85	試錐地点 2 における地質柱状図	105
図 86	試錐地点 3 における地質柱状図	106
図 87	試料土師器実測図 1 (1/6)	114
図 88	試料土師器実測図 2 (1/6)	115
図 89	遺跡周辺の地質図	119
図 90	分析試料の断面写真 1	123
図 91	分析試料の断面写真 2	124
図 92	胎土の偏光顕微鏡写真	125

図 93	岡山南遺跡遺構変遷図 1 (1/3, 000)	127
図 94	主要遺構の出土遺物 1 (1/8)	128
図 95	主要遺構の出土遺物 2 (1/8)	129
図 96	岡山南遺跡遺構変遷図 2 (1/3, 000)	130
図 97	主要遺構の出土遺物 3 (1/8)	132
図 98	主要遺構の出土遺物 4 (1/8)	133
図 99	岡山南遺跡調査地点と周辺地籍図 (1/6, 000)	134-135

挿表目次

表 1	調査の経過	2
表 2	石器・石製品と石材	85
表 3	木製品・自然木の樹種 (時期別)	101
表 4	試錐地点 1 における放射性炭素年代測定結果	108
表 5	試錐地点 2 における放射性炭素年代測定結果	108
表 6	試錐地点 3 における放射性炭素年代測定結果	108
表 7	胎土分析試料とその詳細	113
表 8	各試料の粘土中の微化石類と砂粒組成の特徴記載	116
表 9	胎土中の粘土および砂粒の特徴一覧表	117
表 10	岩石片の起源と組み合わせ	117
表 11	粘土の種類と砂粒組成	117
表 12	調査区ごとの遺構・遺物の分布	126

写真図版目次

写真図版 1～8	遺跡遠景・遺構調査状況
写真図版 9～16	出土遺物

第1章 調査の概要

1 調査の経緯・経過

岡山南遺跡（遺跡番号 590016）は、愛知県西尾市吉良町岡山に所在する弥生時代から中世の複合遺跡である。昭和30年代初め頃、吉良用悪水の改修工事の際に初めて遺跡の存在が認められた。山ヶ田（岡山）、御手洗（寺島）、畑ヶ仲・祐言（木田）の各地点で弥生～古墳時代の遺跡が見つかったことから、分布調査の結果を元に岡山南遺跡としてまとめられた。

調査は、道路改良工事（県道路西尾幡豆線）に伴う事前調査として、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターが行った。調査期間は平成23, 24, 27, 28年度の4ヶ年にわたり、発掘調査が行われた総面積は6,905㎡である。

調査は工事計画域の東側から進められることになり、現況道路・地割等に配慮して11A・11B区、12A・12B・12C・12D区、15区、16A・16B・16C・16D・16E区に分割して行った（図2）。調査期間、面積等は表1の通りである。

現地での調査終了後、平成29年度に整理作業・報告書作成を行った。調査記録類（測量図・写真）等は（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターが、出土した遺物等は、愛知県埋蔵文化財調査センターが管理・保管している。

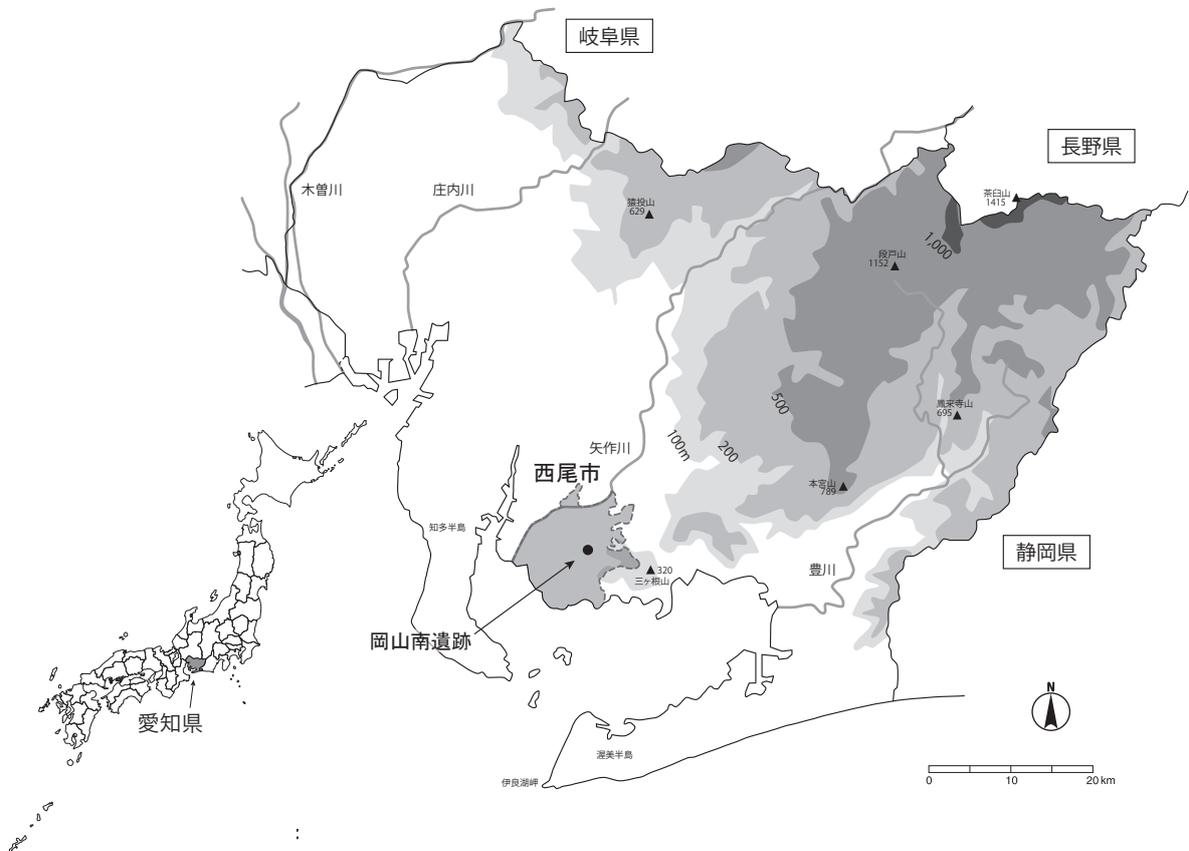


図1 愛知県西尾市・岡山南遺跡の位置

表 1 調査の経過

調査年（期間）	調査区（面積）	担当者	調査支援	説明会ほか
平成23年12月～平成24年2月	11A区, 11B区 (910㎡)	池本正明	(株) アート	1月28日開催, 参加者130名
平成24年4月～7月	12A区, 12B, 12C, 12D区 (1075㎡)	酒井俊彦	(株) アーキジオ	
平成27年6月～9月	15区 (850㎡) / 範囲確認調査 (100㎡)	池本正明	(株) 波多野組	8月22日開催, 参加者70名
平成28年8月～12月	16A区, 16B区, 16C区, 16D区, 16E区 (3970㎡)	鈴木正貴・武部真木	国際文化財 (株)	10月22日開催, 参加者90名

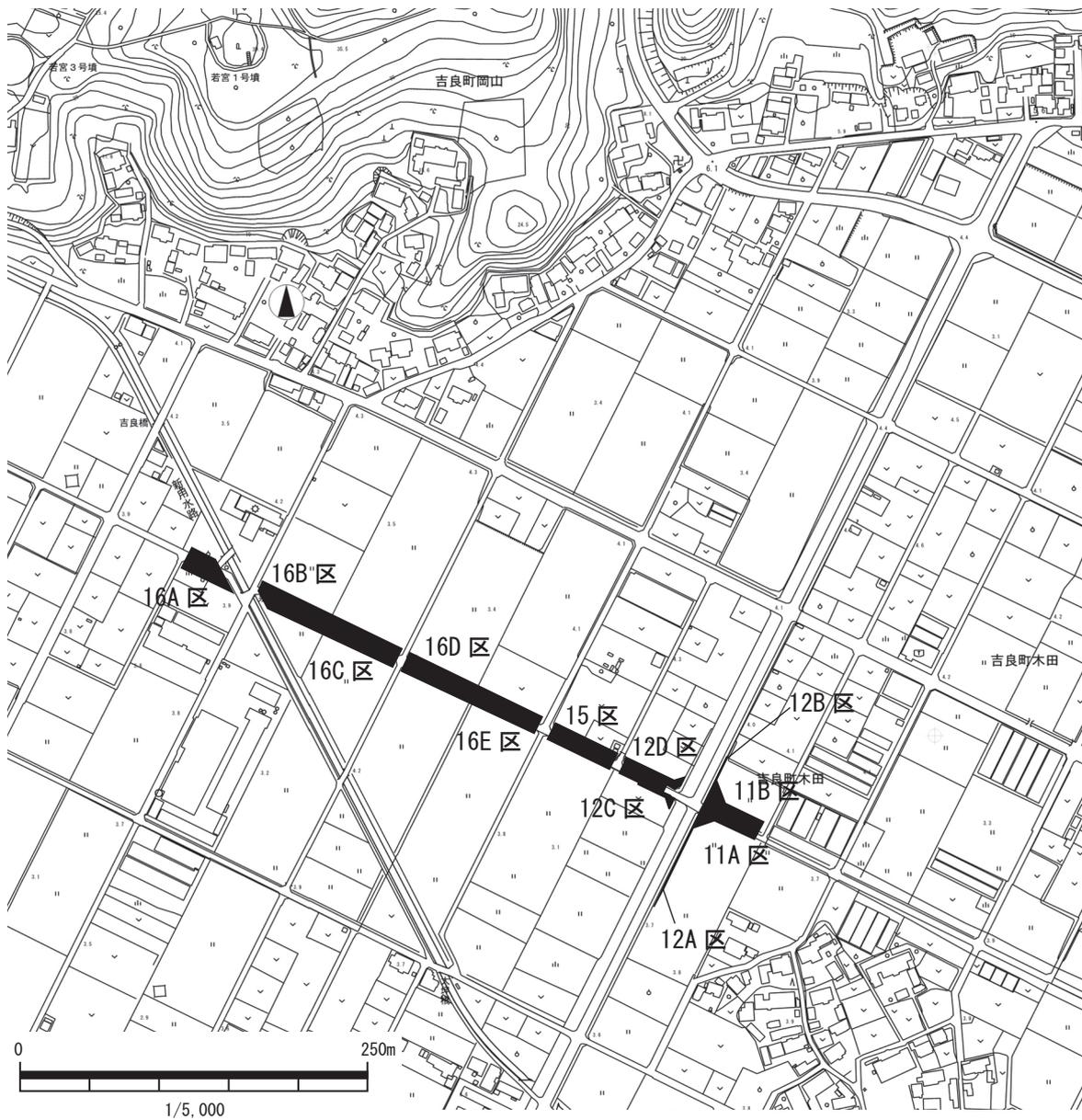


図 2 調査地点位置図 (1/5,000, 西尾市都市計画図に加筆)

2 地理的環境

遺跡の所在する西尾市は愛知県南部に位置し、三河湾の中央に面している。西側の碧海台地と東側の幡豆山塊に挟まれた岡崎平野の南部にあたり、矢作川の沖積平野が広がる。

岡山南遺跡は市域の北東部に位置し、三ヶ根山（標高 325.7m）を頂点とする幡豆山塊の分離丘陵、通称「岡山」の南麓に広がる沖積地（標高約 4m）に立地する。遺跡の西側には矢作川から分流する矢作古川が流れ、約 7km 下流の河口から三河湾に注いでいる。現在西尾・碧南市境をなす矢作川下流部は、慶長 10 年（1605）に付け替えが行われて以来の流路であり、それ以前の本流は矢作古川の北部から小焼野、一色町赤羽と巨海の間を流れる旧弓取川の付近であったと考えられている。

弥生時代中期から後期の集落遺跡が見つかった岡島遺跡の地下ボーリング調査において、内湾性の安

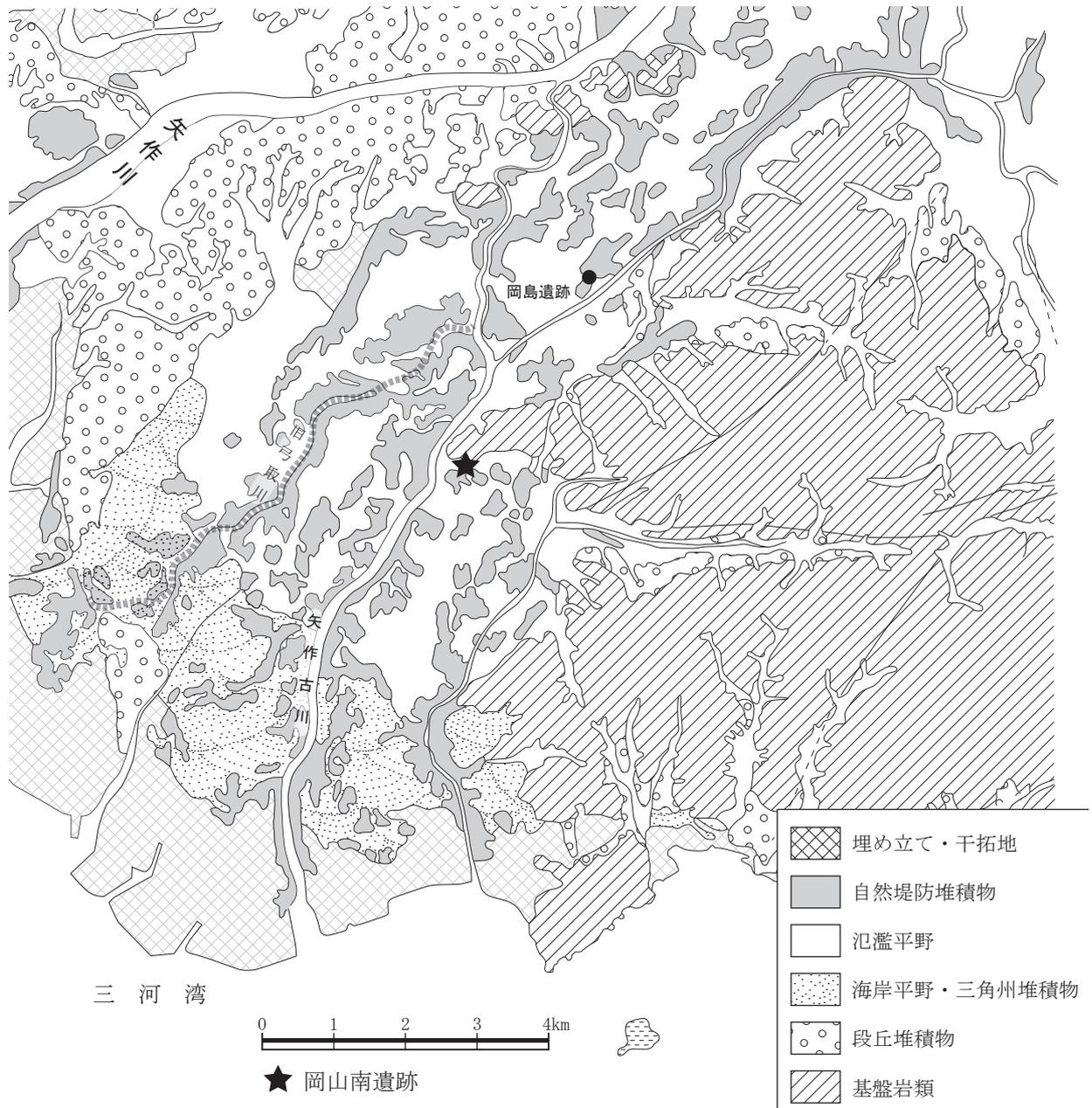


図3 岡山南遺跡の位置と周辺の地形（『岡島遺跡 II・不馬入遺跡』を元に作成）

定した海域に堆積したとみられる厚いシルト層が確認された。これにより最も三河湾が内陸側に入っていたとされる縄文時代前期頃には、岡島遺跡付近が最奥部あるいは旧矢作川河口付近であったと推定されている。その後急速に陸地化が進み、縄文時代後期から晩期には湿地帯が広がり、弥生時代前期にはさらに湿地が縮小していき集落が営まれる環境となっていた。また、弥生時代中期以降の遺物を多く含む複数の自然流路も確認されており、古墳時代初頭にかけて洪水が頻発した状況が堆積環境の分析から復元されている。

第4章-1(鬼頭)で解析されているように、本遺跡調査地点は埋積作用によりおよそ5000年から4000年前に低地化が急激に進んでおり、調査範囲内でも離水環境の出現の時期が若干異なることが明らかとなった。本遺跡付近の集落の成立は、土器が出土している弥生時代後期までさかのぼる可能性が考えられる。

3 歴史的環境

岡山南遺跡周辺(西尾市西部、旧吉良町付近)の遺跡分布を図4に示した。

この付近では旧石器時代・縄文時代の確実な遺跡は確認されていなかったが、平成17年に行われた寄名山遺跡の発掘調査において、旧石器時代のナイフ形石器、縄文時代石鏃、薄片石器等が採取され、これまで未確認であった時期の活動域が丘陵地域に認められた。

周辺域での人々の活動の始まりを示す集落遺跡は、弥生時代中期に出現するものが知られている。岡山南遺跡よりも上流域となる沖積地自然堤防上に岡島遺跡(50)の大集落が成立する。そして弥生時代中期後葉(瓜郷式)以降になると、善光寺沢遺跡(10)、大岩山遺跡(9)、石流遺跡、中根山遺跡(6)など本遺跡北側の岡山丘陵上にも集落が成立する。このうち昭和62,63年に発掘調査が行われた中根山遺跡では丘陵斜面に竪穴建物92棟を含む遺構群が検出された。濠で囲まれた環濠集落であり、古墳時代初期(古井式)まで継続して営まれたことなどが明らかとなった。沖積地に立地する岡山南遺跡でも弥生時代後期の土器が検出されているほか、近接する渡船場遺跡(45)、菱池遺跡(37)、山崎遺跡(32)、池端遺跡(44)、野添遺跡(39)、細畑遺跡、新井前遺跡などで弥生時代後期から古墳時代の遺物が採集されており、沖積地の自然堤防上または丘陵麓に立地する遺跡が増加している。

古墳時代の遺跡は、岡山丘陵上に若宮1号墳(3)、善光寺沢南古墳(11)、全長66mの前方後円墳であ

1 岡山南遺跡	弥生～室町	19 黄金堤	近世	37 菱池遺跡	古墳～室町
2 砦山遺跡	弥生～室町	20 別曾山遺跡	弥生	38 西畑遺跡	古墳～室町
3 若宮第1～3号墳	古墳(円墳2,方墳1)	21 汲迫第2号墳	古墳	39 野添遺跡	古墳
4 岡山砦跡	(城館跡)	22 汲迫第1号墳	古墳	40 須西遺跡	弥生～古墳
5 矢作古川河床B遺跡	弥生	23 郷迫遺跡	室町	41 七ツ山遺跡	古墳
6 中根山遺跡	弥生～古墳, 中世	24 東条城跡	鎌倉～室町	42 矢作古川河床D遺跡	古墳～中世
7 屋口遺跡	中世	25 万場遺跡	平安～室町	43 宮腰遺跡	室町
8 献上田廃寺	古代	26 宮西遺跡	室町	44 池端遺跡	弥生～室町
9 大岩山遺跡	弥生	27 小牧砦	安土桃山～近世 (のち小牧陣屋)	45 渡舟場遺跡	弥生～室町
10 善光寺沢遺跡	弥生, 鎌倉～室町	28 荒井山遺跡	弥生～室町	46 矢作古川河床C遺跡	古墳～中世
11 善光寺沢南古墳	古墳	29 荒井山古窠	室町	47 鶴ヶ池城	中世
12 善光寺沢南遺跡	鎌倉～室町	30 松下第2号墳	円墳	48 今川館跡	中世
13 山王山南遺跡	平安～室町	31 松下第1号墳	円墳	49 毘沙門遺跡	弥生～古墳
14 吉良八幡山古墳	前方後円墳 (県史跡, 全長66m)	32 山崎遺跡	古墳	50 岡島遺跡	弥生
15 八幡山遺跡	弥生～室町	33 梶洗後遺跡	古墳～室町	51 室遺跡	古代～中世
16 宮下古墳	古墳	34 郷前遺跡	室町	52 室城跡	中世
17 寄名山遺跡	古墳～中世	35 瀬田遺跡	弥生, 室町	53 寄名山1号墳	古墳
18 岡山陣屋跡	近世	36 青木遺跡	室町		



図4 岡山南遺跡位置および周辺の遺跡 (1/25,000)

る吉良八幡山古墳(14, 県指定史跡)があり、古墳時代前期から中期にかけての時期に築造されている。若宮1号墳は大正2年(1913)に調査が行われており、直径約30mの円墳から四獣形鏡、金環、鉄剣、鉄鏝、鉄鏃が出土し、築造は古墳時代前期末と考えられる。また寄名山第1号墳(53, 瀬門古墳)は葺石をもつ全長20m級の方墳(または造出付円墳)であり中期中葉の円筒埴輪、蓋形埴輪が出土している。第3号墳では中期後葉の円筒埴輪、家形埴輪が採集されている。沿岸部の丘陵上には正法寺古墳があり、全長94mの三河地域最大の前方後円墳が中期初頭にかけて造られた。こうした古墳の築造を支えた集落は、低地部を含む周辺にすでに広く展開していたと推測される。

低地部の開発が積極的に進められていた痕跡は室遺跡(51)で見つかっている。ここで検出された長さ8mにおよぶ大型の木樋は8世紀中頃に伐採されたヒノキ材を用いたものであり、導水施設は12世紀初めまで修復されつつ機能した。木樋の設置時期は特定されていないものの、古代から中世にかけてこのような導水施設が建造、維持・管理されるような規模での低地部開発が行われていた。本遺跡付近の調査事例では、丘陵部の寄名山遺跡(17)で斜面に営まれた平安時代の住居跡が多数検出されている。竪穴建物・掘立柱建物・平場遺構などからは須恵器、灰釉陶器をはじめ土師器・炊具、須恵器甕などの貯蔵具が出土し、9世紀前葉から10世紀前葉を中心とした時期に継続して生活域として利用されていた。加えて、ここでは祭祀に関わる特殊な遺物があり、通常の集落遺跡よりも多くの製塩土器、移動式竈が出土しており、一般の集落とは異なる遺跡の特異性が指摘されている。

本遺跡付近には吉良荘、饗庭御厨が比定されている。吉良荘を記す史料は平治元年(1159)の記事「三河国吉良荘法服送状」(『平安遺文』)に見られるが、荘園は平安時代の後期には既に成立していたと考えられている。承久の乱以降に足利義氏が地頭となり、以後は長氏、義継に引き継がれて吉良東条氏・西条氏がそれぞれ領有して戦国時代まで続いた。吉良東条氏の居城出会った東条城(24)は本遺跡の東方約1.3kmに位置する。饗庭御厨は平安時代後期の永久3年(1115)に伊勢神宮外宮の荘園として設けられたものであり、荘域内に比定される地域には12世紀後葉に操業した山茶碗窯である饗庭1号窯が存在する。また、室遺跡(51)では12世紀末から14世紀後葉にかけて展開した屋敷地区画が検出されており、こちらは近辺に比定される蘇美御厨との関連性が指摘されている。すぐ北側の岡山丘陵の南斜面では、多くの地点で灰釉陶器や中世山茶碗類が採集されているが、集落遺跡としては判然としない。丘陵上では中世墓群、善光寺沢遺跡で唯一調査が行われており、ここでは集石墓、円形、方形土壇、塚墓など80基が確認され、古瀬戸製品及び常滑窯製品の多数の蔵骨器が出土した。13世紀から15世紀後葉まで継続して造営が確認された墓域である。

近世にはこの流域にも洪水対策が施され、慶長10年(1605)徳川家康の命により矢作川下流の流路がほぼ現在の形に付け替えられた。旧流路であった弓取川は新田開発のため正保3年(1646)に締め切られ、その上流部は広田川と合流して矢作古川となった。利水・治水のための入樋や堤の建造、整備が行われたが、このうち吉良上野介義央により貞享3年(1686)に築かれたとされる「黄金堤」は史跡となっている。平成2年に発掘調査が行われ、近世の築堤工法の一事例が記録されることとなった。

(武部真木)

参考文献

- 森 勇一, 1990, 「第5章-2-② 岡島遺跡周辺の古環境の変遷」『岡島遺跡』
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第14集
- 服部俊之, 1993, 「第3節 地理的環境」『岡島遺跡II・不馬入遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第43集
- 加藤安信編, 1989, 『中根山遺跡発掘調査報告書』吉良町教育委員会
- 三田敦司編, 2008, 『寄名山遺跡発掘調査報告書』吉良町教育委員会
- 吉良町史編纂委員会編, H3, 『吉良町のあけぼの 原始・古代史編』吉良町
- 愛知県史編さん室, 2017, 『愛知県史 資料編5 鎌倉～江戸 考古5』愛知県

第2章 遺構

1 調査地点の概要

4次にわたる調査範囲は、南東から北西方向では距離して約450mあり、東から11(A, B)区・12(A, B, C, D)区・15区・16(E, D, D, B, A)区に分割して行った。調査区は現況道路部分にほぼ重複する。各調査区の中央付近は農水管等が埋設されていたため、地表面より1.3mの深さまでこれらの設置による攪乱を受けていた。砂質土壌を主とする周辺の堆積層は常時湧水をともなったため、作業上の安全を考慮し攪乱より下は調査不能として扱った。

調査地点の周辺は水田及び畑地の耕作地が混在する。調査範囲内の堆積層序においても時期の異なる微高地・後背湿地、自然流路が確認された。標高3.0m前後を検出面として各調査区で古代・中世・近世の遺構が、また一部で古墳時代の遺構が確認された。しかし、いずれの時期も地表面付近は失われており、溝などの大型の遺構と堅穴建物では床面付近が確認された。

以下は、調査年度ごとに遺構の記述を行う。

2 11A・11B区（平成23年度調査地点）

11区は今回の調査区のうち最も東側、12A・B区の東側に接する。なお、東西に伸びる水路を挟み、南側を11A区、北側を11B区と区分している。調査面積は910㎡となる。灰色系のシルトを挟み、上面・下面と区分して報告する。遺構検出面の標高は、2.9mとほぼ平坦となる。

(1) 11A・11B区下面

11A-088SD・11B-076SD (図7) 調査区中央付近で検出した。南側088SDは086SXを切り、089SDに切られ、北側の11B-076SDは連続する同一の溝と考えられる。両者で長さ約16.0mの範囲を検出した。幅は088SD部分で0.6m、076SD部分で1.1mあり、検出面からの深さは088SDで10cm程度、076SDは約30cmである。主軸はN-45°-E。出土遺物(2, 3, 32)は古墳時代土師器を図示した。

11A-041SD(上面)・089SD (図7) 調査区中央で検出した。041SD(上面)で西端は調査区内にあり、053SK(上面)・090NRに切られる。089SD(下面)では086SD・088SDを切る。全長14.4mを検出した。幅は約2.0mであり、検出面からの深さは約50cmをはかる。主軸はN-50°-W。出土遺物は古墳時代土師器(8, 9)、須恵器(191)を図示した。

11A・B-114NR (図6) 調査区中央から西部で検出した(調査時の090NRと091NRを含む)。南側は調査区外、南側は11B区に伸びる。089SDを切り、092NR(上面)に切られる。11A区では幅10m程度、11B区では幅15m程度である。出土遺物(11～15, 18～20, 268～273)は弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、製塩土器などがある。

11A-086SX (図7) 調査区中央で検出した。088SD・089SDに切られる不整形な落ち込みである。検出面からの深さは0.5mをはかる。出土遺物は古墳時代土師器(4, 5)を図示した。

(2) 11A・11B区上面

11A-027SK (図) 調査区中央で検出した。短径1.4mを計測できるが、南側は攪乱により消失する。平面形はやや歪む隅丸方形を呈するのか。検出面からの深さは約30cm。出土遺物は灰釉陶器(214)を図示した。

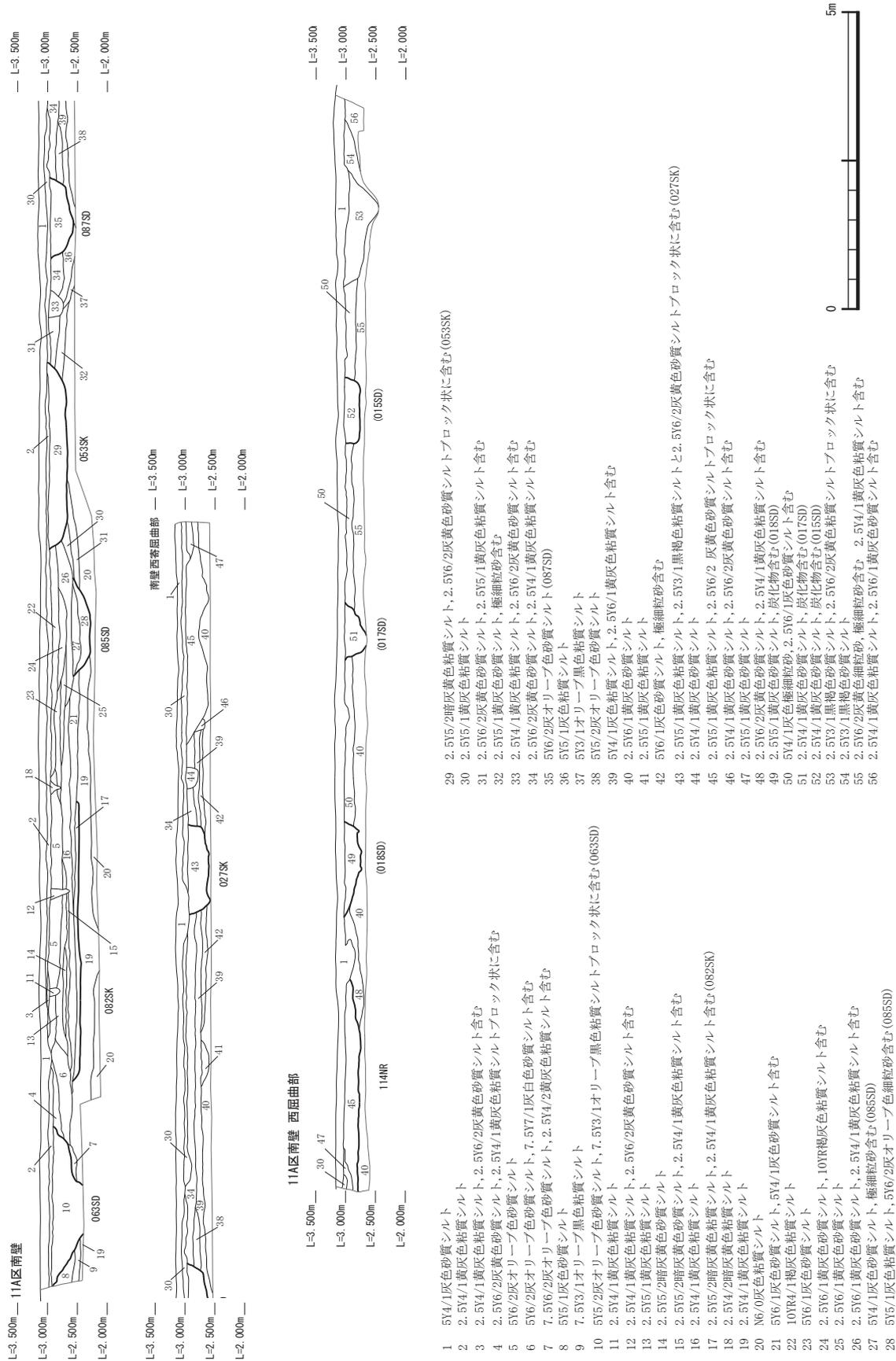


図5 11A区南壁面 土層断面図 (1/100)

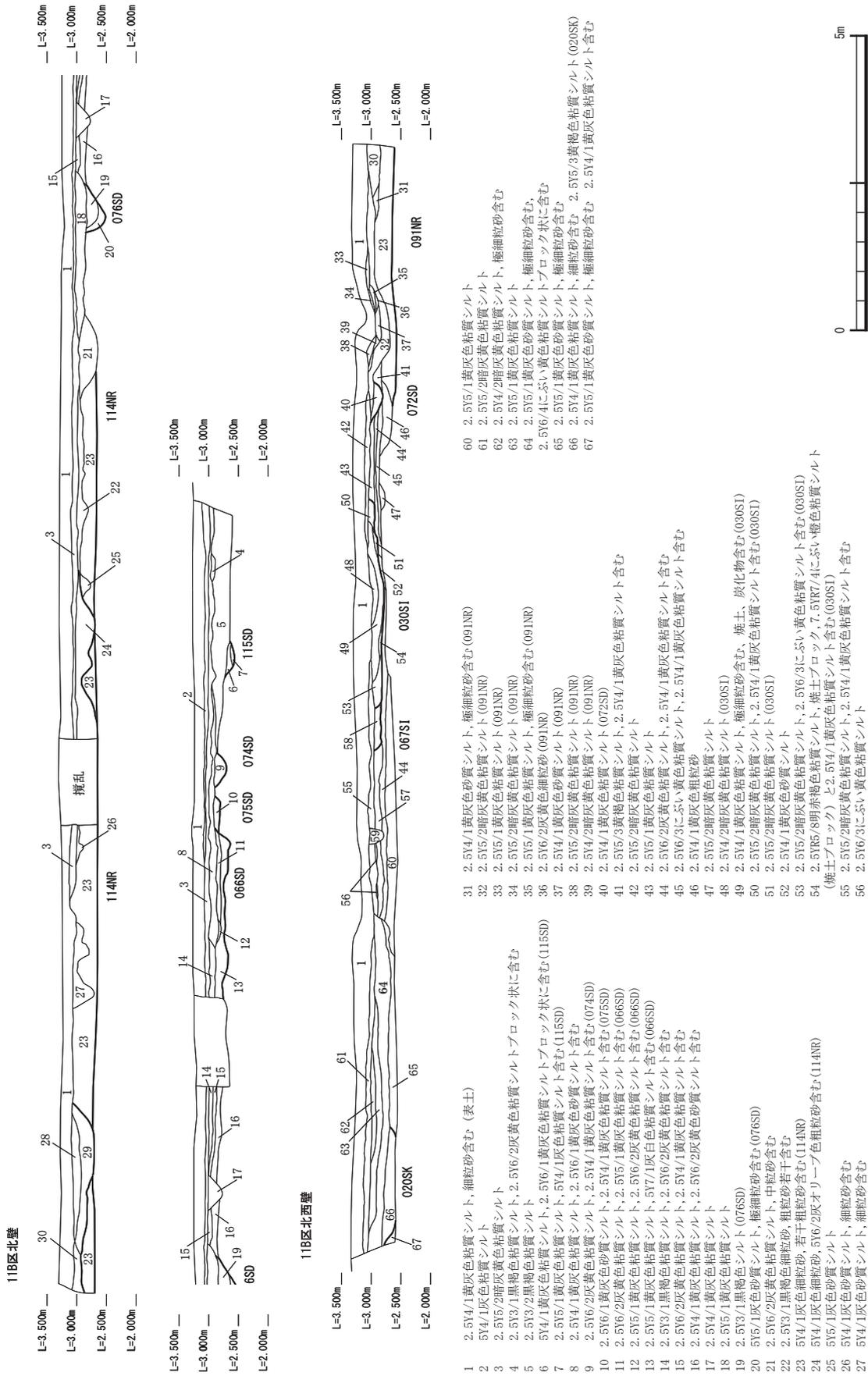
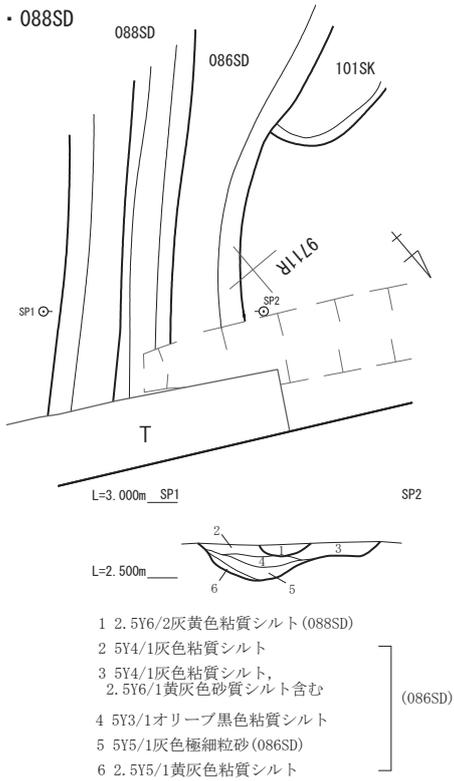
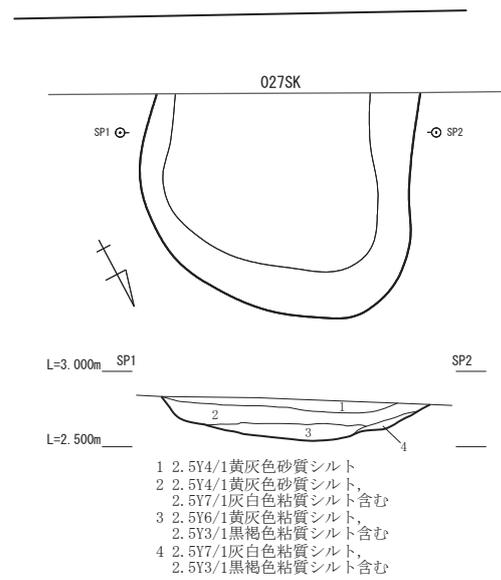


図 6 11B 区北壁面 土層断面図 (1/100)

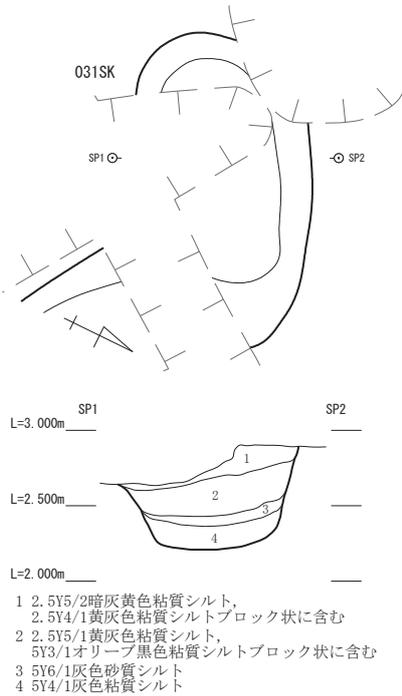
11A-086・088SD



11A-027SK



11A-031SK



11A-089SD

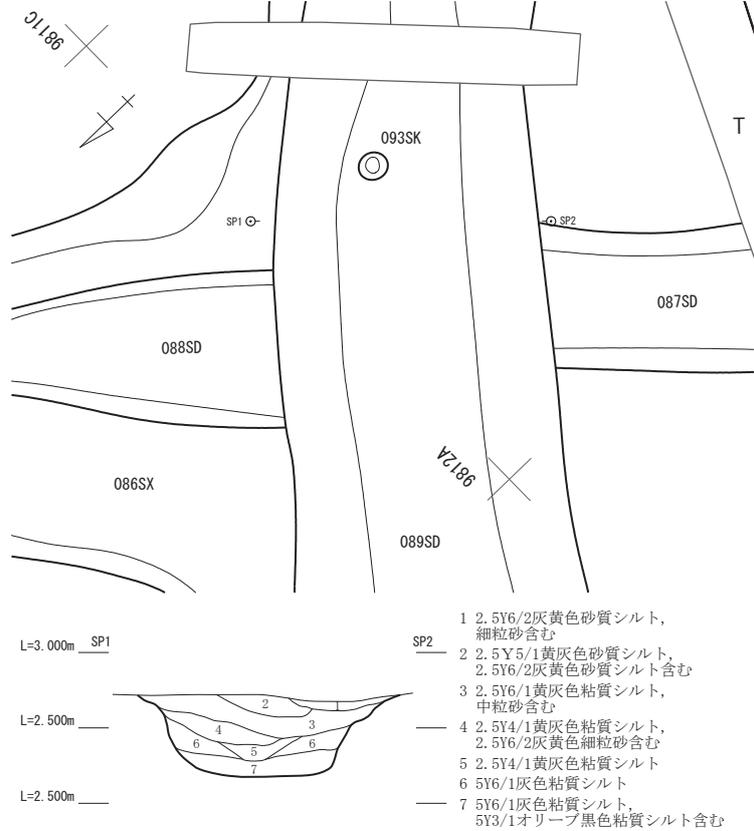


図7 11A区主要遺構平面・断面図 (1/50)

11A-031SK (図7) 調査区中央で検出した。長径 1.2 m を計測できるが、短径は攪乱により消失する。平面形は楕円形を呈する。検出面からの深さは約 70 cm。出土遺物は須恵器・灰釉陶器・土師器片を得た。

11A-053SK (図10) 調査区中央で検出した。029SD を切る。平面形はやや歪む隅丸方形を呈する。短径は 3.0 m。南側が調査区外となる。検出面からの深さは約 70 cm。出土遺物 (194 ~ 197) は須恵器、灰釉陶器を図示した。

11A-032SE (図8) 調査区中央で検出した。長径 2.0 m、短径 1.9 m、検出面からの深さは約 90 cm。井戸掘方の平面形はほぼ円形を呈する。内部構造は曲物で、最下段より三段が残存する。検出面付近には 20 cm 程度の角礫がほぼ同一面で確認された。出土遺物 (016, 017, 203 ~ 212, S-2 ~ 4) は灰釉陶器、土師器、石材を図示した。

11A・B-092NR 北側が 11B 区より続き、11A 区では南岸のみ検出し、11A・B 区に挟まれた現代の水路下と重複して西側に伸びる。11B 区では幅 6.0 m 程度、検出面からの深さは 0.5 m まで検出した。主軸は N-82° -E。出土遺物は古墳時代土師器 (7) を図示した。

11B-017SK (図8) 調査区西側で検出した。047SK を切り、010SE に切られる。平面形はやや歪む楕円形を呈する。長径 3.4 m、短径 2.7 m、検出面からの深さは約 40 cm。出土遺物 (262 ~ 266) は須恵器、灰釉陶器、土師器を図示した。

11B-041SK (図9) 調査区西側で検出した。平面形はほぼ円形を呈する。長径 0.5 m、短径 0.4 m、検出面からの深さは約 30 cm。中央に直径 5 cm 程度の柱と推定される木質が残存する。出土遺物は須恵器片を得た。

11B-042SK 調査区西側で検出した。平面形はほぼ円形を呈する。長径 2.2 m、短径 1.9 m、検出面からの深さは約 20 cm。出土遺物は確認されなかった。

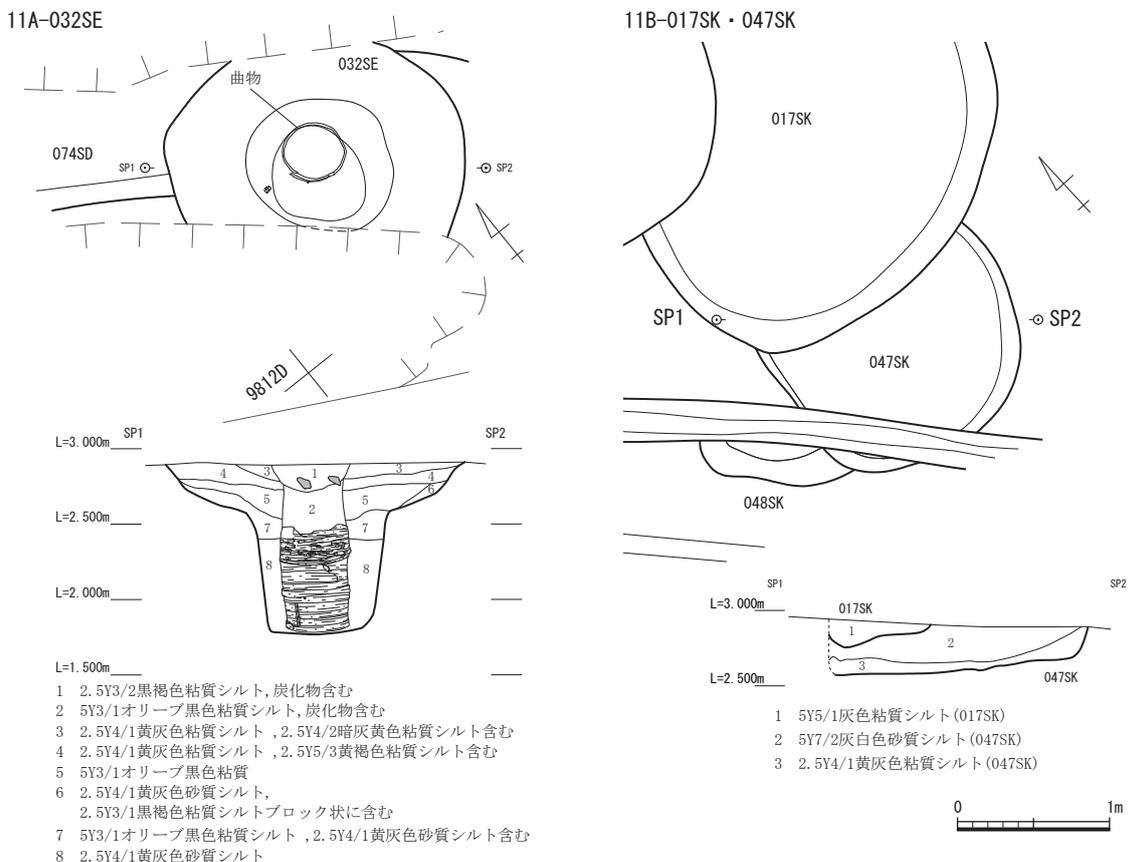
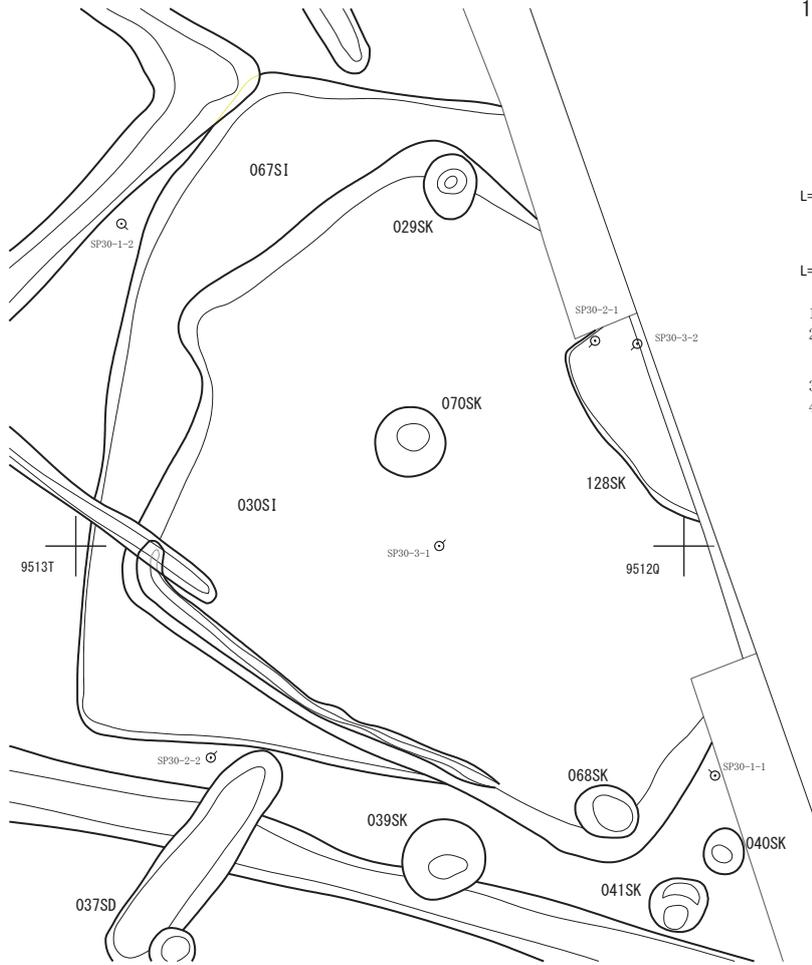
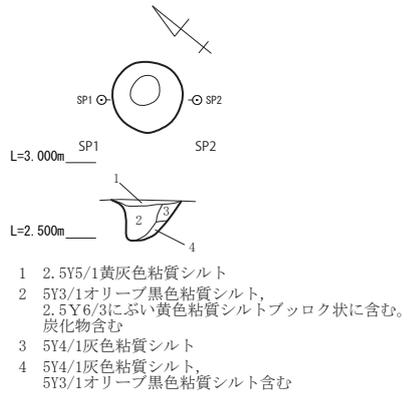


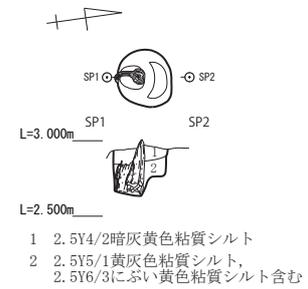
図8 11B 区主要遺構平面・断面図1 (1/50)



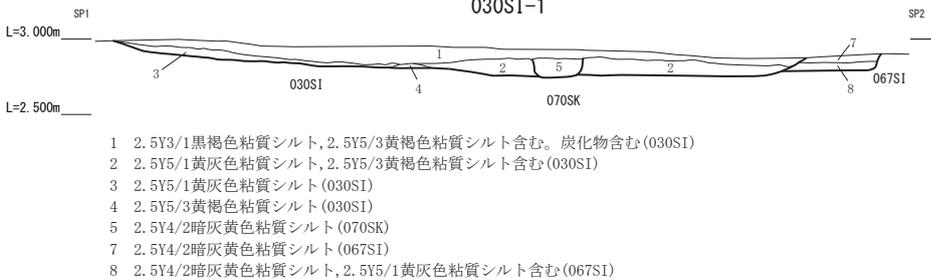
11B-070SK



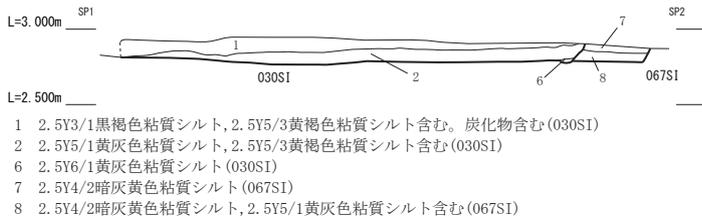
11B-041SK



030SI-1



030SI-2



030SI-3

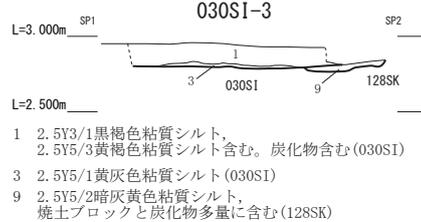
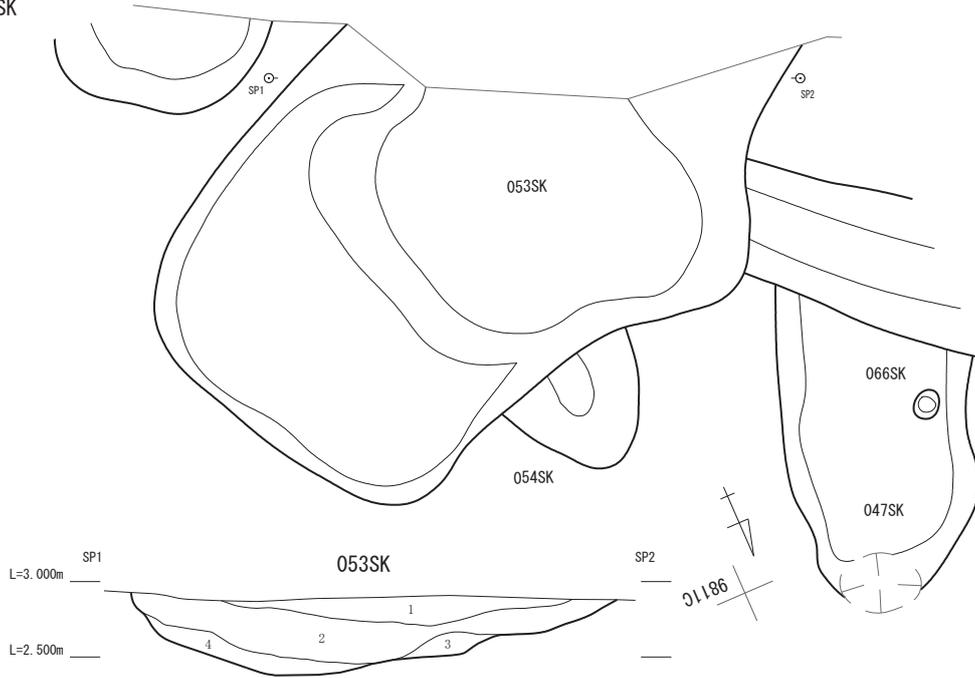


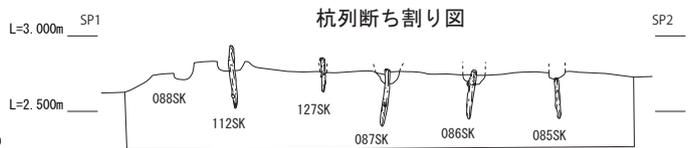
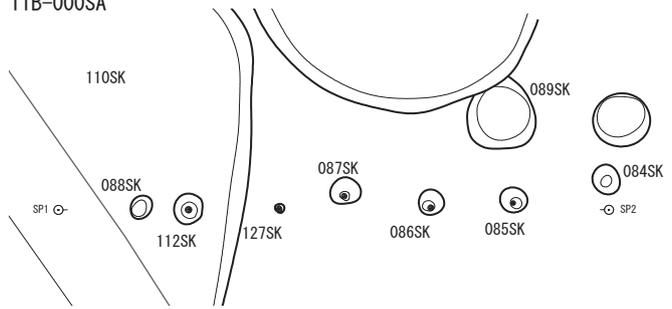
図9 11B区主要遺構平面・断面図2 (1/50)

11A-053SK



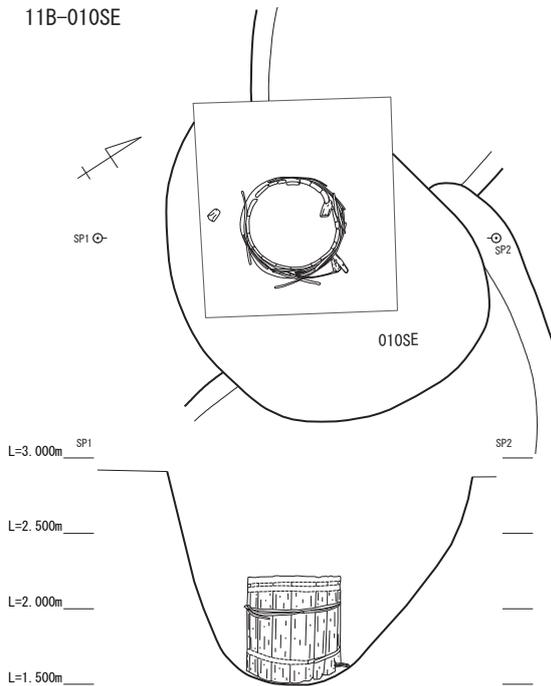
- 1 5Y5/2灰オリーブ色粘質シルト
- 2 2.5Y5/1黄灰色粘質シルト、N4/0灰色粘土ブロック状に含む
- 3 2.5Y6/1黄灰色砂質シルト

11B-000SA



2. 5Y5/1黄灰色粘質シルト (木杭あり) (086SK)
2. 5Y5/1黄灰色粘質シルト (木杭あり) (087SK)

11B-010SE



- 1 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト
- 2 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト
- 3 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト, 5Y5/1黄灰色粘質シルト含む
- 4 5Y5/1灰色粘質シルト
- 5 5Y4/1灰色粘質シルト
- 6 2.5Y5/1黄灰色粘質シルト, 2.5Y6/2暗灰黄色粘質シルトブロック状に含む



11B-012SE

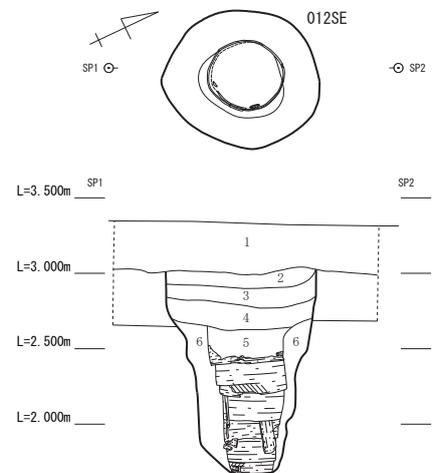


図 10 11A・B区主要遺構 平面・断面図 (1/50)

11B-047SK (図8) 調査区西側で検出した。017SK・035SDに切られる。平面形はやや歪む楕円形を呈する。短径2.0m、検出面からの深さは約30cm。灰釉陶器、土師器甕のほか中世陶磁器片が出土。

11B-070SK (図9) 調査区西側で検出した。030SIの床面で検出された土坑で、平面形は円形を呈する。一辺0.5m、検出面からの深さは約30cm。出土遺物は須恵器(257, 258)を図示した。

11B-030SI (図9) 調査区西側で検出した堅穴建物である。067SI・070SKを切る。平面形はやや歪む隅丸長方形を呈し、検出部分で長軸4.0m、短軸3.4m、検出面からの深さ約15cmを測る。北東隅が調査区外となる。西壁の一部がやや突出するが、この部分に被熱は確認できない。出土遺物(225～255)は須恵器、土師器、製塩土器を図示した。

11B-067SI (図9) 調査区西側で検出した。030SIに切られる。確認できた一辺は4.5m。検出面からの深さは約10cm。東側が調査区外となる。出土遺物は須恵器(256)を図示した。

11B-010SE (図10) 調査区西側で検出した。017SKを切る。長径1.4m、短径1.8m、検出面からの深さは1.4m。平面形はほぼ円形を呈する。内部構造は桶を最下段のみ確認した。出土遺物(555, 556, W-021～025)は山茶碗、古瀬戸盤類、曲物を図示した。

11B-012SE (図10) 調査区西側で検出した。井戸掘方は長径1.0m、短径0.9m、検出面からの深さは1.3m。平面形はほぼ円形を呈する。内部構造は曲物で、最下段より5段が残存する。出土遺物(557～559, S-5～7)は山茶碗、伊勢型鍋がある。曲物最下段上部にやや大型の石材がまとまってあり、さらに底面では小型のロクロ土師器皿1点(558)が出土した。

11B-000SA (SK088・SK112・SK127・SK087・SK086・SK85) (図10) 調査区西側で検出した柵である。014SDの北側に沿って伸びるSK088(長径0.1m、短径0.1m、検出面からの深さは0.1m)・SK112(長径0.2m、短径0.2m、検出面からの深さは0.3m)・SK127(長径0.1m、短径0.1m、検出面からの深さは0.1m)・SK087(長径0.2m、短径0.2m、検出面からの深さは0.4m)・SK086(長径0.1m、短径0.1m、検出面からの深さは0.1m)・SK085(長径0.2m、短径0.2m、検出面からの深さは0.4m)で構成される。主軸はN-32°-W。全長は2.5mを測るが、SK088から土坑の中心から順に東側に計測すると、0.4m、0.5m、0.4m、0.6m、0.6mとなる。088SKを除き、中央には直径5cm程度の木杭が打ち込まれている。出土遺物は確認されなかった。(池本正明)

3 12A・12B・12C・12D区(平成24年度調査地点)

(1) 12A区

調査区北端が11A区の西端に接続する位置にあたる。調査区は北東-南西方向の現況道路東側に沿う、幅2.0m前後のトレンチ状の範囲である。表土・耕作土を除去した標高3.0mを検出面とした。主な遺構は古墳時代に属すると考えられる。

12A-002SD ほぼ正方位の東西方向の溝であり、検出面で幅0.6m、深さ16cmを測る。炭化物、焼土を含む褐灰色粘土を埋土とする。

12A-004SI 調査区南端に位置する。断面は皿状を呈する落ち込みである。炭化物を含む褐灰色中粒砂・粘土を埋土とする。検出範囲で幅2.1m、深さ21cmを測る。堅穴建物の可能性も考えられる。出土遺物は土師器高杯(48)がある。

12A-005SE(SD) 検出面近くの上位は緩やかな傾斜で開き、深さ20cmほどで急傾斜となる土坑状の遺構である。土坑部分は径約1.2mを測る。深さ94cm、底面で湧水層である細粒砂層に達する。埋土は灰色

粘土を基本とし、上層は黄灰色シルト層である。構造物は確認されていないが井戸の可能性が考えられる。遺物には古墳時代土師器(41, 43)がある。

12A-010SD 幅0.5m、深さ9cmの溝である。古墳時代土師器甕(40)が出土した。

12A013SX 幅2.6m、深さ約40cmの溝状の遺構である。底面はやや平坦となる。埋土には炭化物を多く含み、黄灰色粘土と黒褐色粘土の斑土は011SXと共通する。古墳時代土師器(42)、灰釉陶器(296)、山茶碗(297)、が出土している。

12A-018SI(図11, 12) 調査区南側に位置し、019SIを切る。検出範囲で幅2.3m、深さ21cmを測る。底面がほぼ平坦の浅い落ち込みである。埋土は多量の炭化物を含む黒褐色粘土の斑土であり、竪穴建物の貼床と推定される。古墳時代土師器(49, 50)が出土している。

12A-019SI(図11, 12) 018SIに切られる浅い落ち込みである。検出面で幅2.8m、深さ24cmを測る。埋土の状況も018SIとほぼ同様であり、こちらも竪穴建物と推定される。古墳時代土師器(44～46)が出土している。

12A-020SD(図11, 12) 018SIに切られる北西から南東方向の溝である。幅約0.4m、深さ約6cmを測る。炭化物を含む灰色粘土とシルトの斑土を埋土とする。出土遺物に古墳時代土師器(47)がある。

(2) 12B区

12A区と同じく現況道路に沿うトレンチ状の調査範囲であり、南端が11B区に接続する。表土・耕作土を除去した標高約3.2mを検出面とし、遺構は調査区北端および南端で確認された。

12B-002SK・003SK(図13) 調査区北端に位置する。003SKは褐灰色シルト層を掘り込む深さ7cm程度の浅い落ち込みであり、炭化物を含む褐灰色粘土ブロックが混じる黄褐色シルトを埋土とする。竪穴建物の一部である可能性がある。すぐ西隣の002SKは径35cm、深さ35cm、最下層に柱根の一部が残る。

12B-001SD・004SD(図13) 調査区南端に位置する。001SDは検出面で幅約3m、深さ72cm、北東-南西方向の溝である。埋土の上層は灰黄褐色粘土・シルトであり、下層は炭化物を含む褐灰色砂質土が堆積する。須恵器・灰釉陶器(304～396, 320)、山茶碗(561)を含む。004SDは001SDの下層に確認された北東-南西方向の溝であり、炭化物を含む黄灰色粘土を埋土とする。幅1.8m、深さ14cmを測る。さらに005SKを切る。

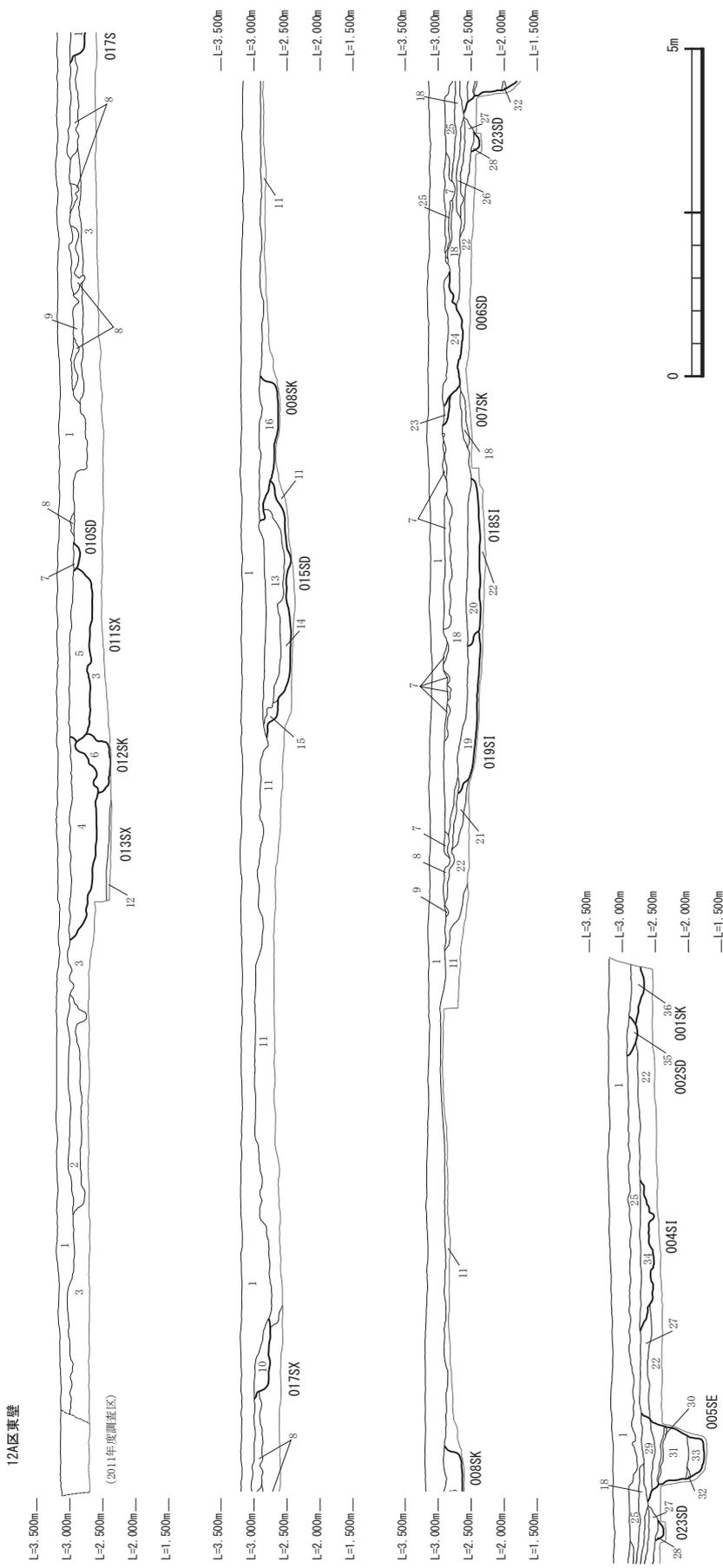
12B-005SK・006SK(図13) 005SKは001SDの下層で検出された落ち込みであり、褐灰色粘土を埋土とする。須恵器(307)、灰釉陶器が出土している。006SKは005SKに切られる落ち込み状の遺構である。須恵器、土師器片、土錘(308)が出土している。

(3) 12C・12D区

調査範囲は道路を隔てて11A・B区の西側に位置し、さらに西側には15区が接する。現況地表は盛土により標高4.0m前後となっていたが、攪乱等を除去した標高約3.0mを検出面として、古墳時代、古代、中世、各時期の溝を中心とした遺構が見つかった。

12C-001SD(図16)・12D-010SD(図17) 調査区東側に位置する。北東から南西方向の溝で規模は幅約1.8m、深さ55cm前後、C, D調査区で一連の遺構と確認できる。埋土は上下2層に分かれ、いずれにも炭化物を含む。上層は褐灰色粘土・シルト、下層は灰色、灰白色粘土が斑土状となり、遺物は主に上層から出土した。古墳時代土師器(114)、灰釉陶器(336)、土師器(321)がある。

12C-003SD(図14) 調査区の中ほどに位置する。北東から南西に伸びる溝で上位を004SDに切られる。



- 1 5Y4/1 灰色粘土 (現代耕作土)
- 2 10YR5/2 灰黄褐色粘土, 10YR4/1 褐灰色粘土および砂がブロック状に含まれる
- 3 5Y5/1 灰白色シルト
- 4 10YR5/1 褐灰色粘土と10YR7/1 灰白色シルトとの斑土, 炭化物多く含む (013SX)
- 5 10YR4/1 褐灰色粘土と10YR7/1 灰白色シルトとの斑土, 炭化物多く含む (011SX)
- 6 2.5Y4/1 黄灰色粘土と10YR3/1 黒褐色粘土との斑土, 炭化物多く含む (012SK)
- 7 10YR5/1 褐灰色粘土と10YR7/1 灰白色シルトとの斑土, 炭化物多く含む (010SD)
- 8 10YR3/1 黒褐色粘土
- 9 10YR7/2 にぶい黄褐色粘土, マンガン・マンガン粒子多く含む
- 10 10YR4/1 褐色粘土と10YR7/1 灰白色シルトとの斑土 (褐色土が主体), 粗粒砂を含む (017SX)
- 11 10YR8/1 灰白色粗粒砂 (田河道)
- 12 2.5Y3/1 黒褐色粘土
- 13 2.5Y5/1 黄灰色粘土, 砂粒多く含む, 遺物を含む (015SD)
- 14 2.5Y5/2 暗黄灰色粗粒砂, 黄灰色粘土をブロック状に含む, 遺物を含む (015SD)
- 15 2.5Y5/1 黄灰色粘土, 砂粒多く含む (008SK)
- 16 10YR4/2 暗黄褐色粘土, 砂粒多く含む (008SK)
- 17 2.5Y6/2 灰黄色シルト, マンガン粒子多く含む
- 18 10YR3/1 黒褐色粘土, 炭化物, 焼土を多く含む

- 19 10YR2/1 黒色粘土と10YR3/1 黒褐色粘土との斑土, 炭化物非常に多く含む (091S1)
- 20 10YR2/1 黒色粘土と10YR3/1 黒褐色粘土との斑土, 炭化物非常に多く含む (018S1)
- 21 10YR5/2 灰黄褐色粘土, マンガン粒子・炭化物を含む
- 22 10YR1/6 褐灰色粘土
- 23 2.5Y4/2 暗黄褐色シルトと10YR4/1 褐灰色シルトとの斑土, 炭化物多く含む (007SK)
- 24 10YR4/1 褐灰色シルトと10YR7/1 灰白色シルトとの斑土, 炭化物多く含む
- 25 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト
- 26 2.5Y6/1 黄灰色粘土, 炭化物・マンガン粒子多く含む, 粗粒砂多く含む
- 27 5Y6/1 灰白色粗粒砂
- 28 7.5Y4/1 灰白色シルト, 細粒砂多く含む (023SD)
- 29 2.5Y6/1 黄灰色シルト, 細粒砂多く含む (005SB)
- 30 2.5Y5/1 黄灰色粗粒砂, 下層に炭化物を非常に多く含む (005SB)
- 31 7.5Y6/1 灰白色シルト, 炭化物を含む (005SB)
- 32 7.5Y6/1 灰白色粗粒砂 (005SB)
- 33 8Y4/1 灰白色シルトとN暗灰色シルトとの斑土 (005SB)
- 34 10YR4/1 褐灰色粘土, 中粒砂・炭化物を含む (004S1)
- 35 10YR4/1 褐灰色粘土, 炭化物・焼土を含む (002SK)
- 36 10YR3/1 黒褐色粘土, 中粒砂多く含む (001SD)

図 11 12A 区東壁面土層断面図 (1/100)

12D 区では 003SD が重複するためか、対応する遺構は不明である。幅 2.7m、深さ 35cm を測る。埋土は褐灰色粘土を基本とし、中層の炭化物を多く含む層で古墳時代土師器 (66～109) がまとまって出土した。**12C-004SD・12D-003SD** (図 17) 調査区の中ほどに位置する。北東から南西に伸びる溝であり、12C 区で幅約 3.3m、深さ 76cm を測る。12C-003SD の北側を切り、12C-006SE に切られる。12D-001SD, 002SD に切られる。埋土の上層は褐灰色粘土・シルトの斑土、004SD 下層では流水性の堆積が明瞭にみられ、最下層である粘土層から須恵器が出土している。遺物は須恵器 (315, 316, 332～335)、灰釉陶器 (317～319) がある。

12C-006SE (図 17) 003SD・004SD 北側に重複する。掘方は径約 3.5m、深さ約 1.1m を測り、細粒砂層に達する下位に水溜めとしての曲物 (W-016) が遺存した。曲物は円形ではなく、隅丸長方形を呈する。掘り方の埋土は青灰色粘土・シルト・砂の斑土からなり、土師器甕 (323)、灰釉陶器 (322) が出土した。

12C-005SD (図 16) 北端を 006SE に切られる北東から南西方向の溝である。幅は約 0.5m、深さ約 9cm、褐灰色粘土を埋土とする。古墳時代土師器 (62, 63) がある。

12C-002SD (図 16) 調査区東端付近に位置する北東-南西方向の溝である。幅は約 2.8m、深さ 48cm 前後を測る。断面形は階段状となり、掘り直しが行われている。古い段階の溝の埋土は灰色～暗灰色粘土の斑土であり、上位では水平に堆積する粘土層がみられる。遺物は古墳時代土師器、須恵器 (313, 314) が出土している。

12C-007SD (図 16) 調査区中央やや西寄りに位置する。北側の 12D 区で対応する溝は不明である。北東から南西に伸びる部分と屈曲して南側では南北方向になる部分がある。規模は幅 1.3m 前後、深さ約

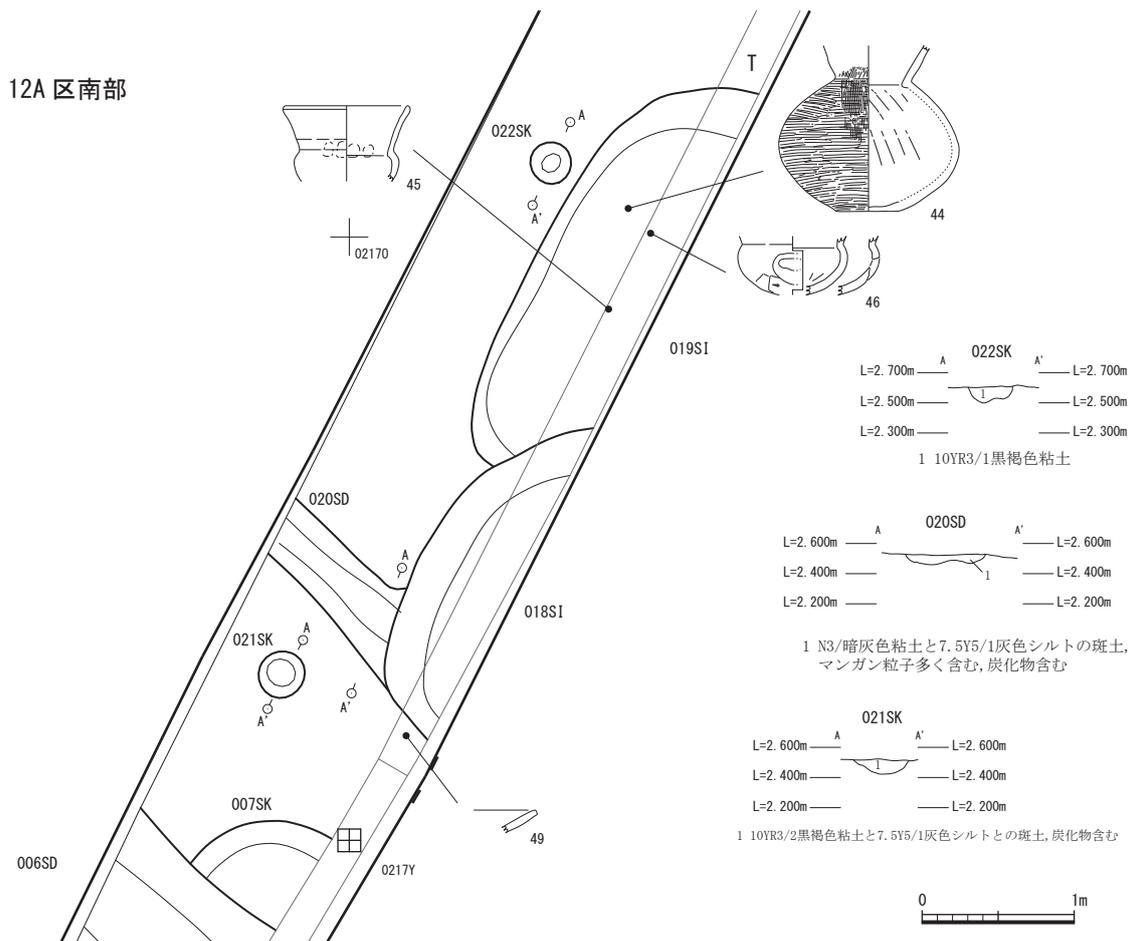


図 12 12A 区主要遺構 平面・断面図 (1/50)

10cm であり、溝底面は安定せず断面では凹凸がある。褐灰色シルト・灰黄褐色粘土の斑土を埋土とする。須恵器、土師器片が出土した。

その他 (図 17) 12C-007SD 付近に小土坑 6 基 (008 ~ 013SK) が分布する。概ね褐灰色粘土を埋土とし、013SK は 007SD に先行する。いくつかは建物柱穴の痕跡と推定される。

12D-001SD (図 18) 調査区中央やや西寄りに位置する。両端が終息する北西-南東方向の浅い溝であり、他の全ての溝と軸線方向が異なる。002SD・003SD・006SD・007SD を切る。長さ 9.8m、幅 1.2m を測り、褐灰色粘土を埋土とする。遺物に須恵器 (331)、土師器がある。

12D-002SD (図 18) 北西から南東方向の溝で 001SD に切られる。幅は約 0.9m、深さ約 20cm を測る。褐灰色粘土を埋土とする。

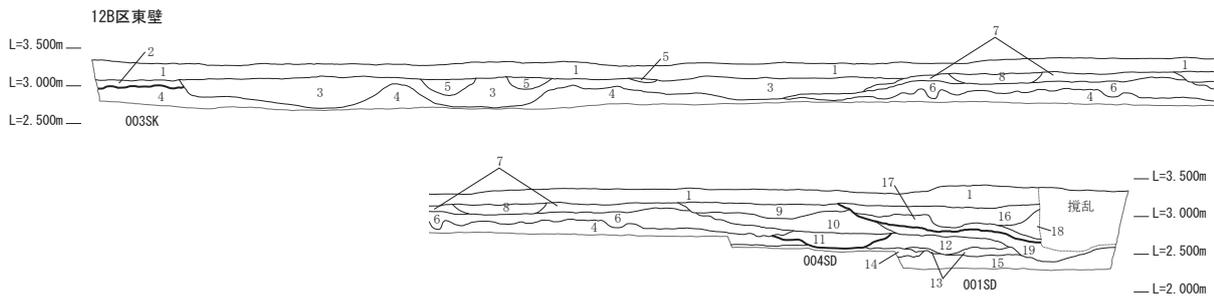
12D-006SD (図 18) 北西から南東方向の溝で 001SD に切られる。幅は約 0.8m、深さ約 10cm を測り、褐灰色粘土を埋土とする。遺物は出土していない。

12D-007SD (図 18) 北西から南東方向の溝で 001SD に切られる。幅は約 0.6m、深さ約 10cm を測り、褐灰色粘土を埋土とする。須恵器 (330) が出土した。

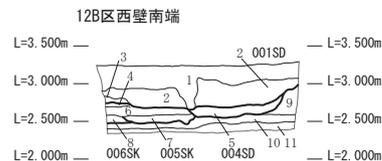
12D-008SD (図 18) 北西から南東方向の溝で 001SD に切られる。幅は約 0.6m、深さ 25cm 前後、褐灰色粘土を埋土とする。遺物は出土していない。

12D-009SD (図 18) 調査区北西端に位置する。北西から南東方向の溝であり、黒褐色粘土を埋土とする。幅は約 1.6m、深さ 15cm を測る。出土遺物は弥生土器 (113)、古墳時代土師器 (112) がある。

(武部真木)



- 1 5Y4/1 灰色粘土, 表土 (現代耕作土)
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 10YR4/1 褐灰色粘土のブロックがわずかに含まれる (7%程度), 炭化物含む (003SK)
- 3 10YR7/2 にぶい黄褐色シルトと 10YR5/1 褐灰色粘土との斑土, 近世以降の耕作等による攪乱土?
- 4 10YR6/1 褐灰色シルト
- 5 10YR4/1 褐灰色粘土, 中粒砂多く含む, 近代以降の耕作による攪乱土
- 6 10YR5/1 褐灰色シルトと 10YR7/2 にぶい黄褐色シルトとの斑土, 炭化物含む 遺物を含む包含層 (中世以降の耕作土?)
- 7 10YR6/3 にぶい黄褐色粘土, マンガン粒子多く含む
- 8 10YR5/1 褐灰色シルト, マンガン粒子・炭化物含む, 10YR7/2 にぶい黄褐色シルトをブロック状に 10%程度含む
- 9 10YR6/2 灰黄褐色シルト, 中粒砂多く含む, マンガン粒子含む
- 10 2.5Y5/1 黄灰色粘土, マンガン粒子・炭化物含む
- 11 2.5Y4/1 黄灰色粘土, マンガン粒子・炭化物含む (004SD)
- 12 10YR4/1 褐灰色粘土と 5B6/1 青灰色シルトとの斑土
- 13 5B6/1 青灰色シルト
- 14 2.5Y7/4 浅黄色砂質土
- 15 5B4/1 暗青灰色粘土
- 16 10YR5/2 灰黄褐色粘土, 中粒砂多く含む (001SD)
- 17 10YR4/1 褐灰色砂質土 (粗粒) と 10YR6/1 褐灰色砂質土 (細粒) との斑土, 下面にマンガンが多く付着 (001SD)
- 18 10YR5/1 褐灰色シルト, 炭化物含む (001SD)
- 19 2.5Y7/2 灰黄色シルトと 2.5Y5/1 黄灰色シルトとの斑土



- 1 5Y4/1 灰色粘土, 表土 (現代耕作土)
- 2 10YR5/2 灰黄褐色粘土, 砂粒多く含む (東壁16層と同一) (001SD)
- 3 10YR4/1 褐灰色中粒砂と 10YR6/1 褐灰色細粒砂との斑土, 下部にマンガン多く付着 (東壁17層と同一) (001SD)
- 4 2.5Y7/2 灰黄色シルトと 2.5Y5/1 黄灰色シルトとの斑土 (東壁19層と同一)
- 5 2.5Y4/1 黄灰色粘土, マンガン粒子・炭化物含む (東壁11層と同一) (004SD)
- 6 2.5Y6/1 黄灰色粘土
- 7 10YR4/1 褐灰色粘土 (005SK)
- 8 10YR4/1 褐灰色粘土と 10YR6/1 褐灰色シルトとの斑土 (006SK)
- 9 10YR6/1 褐灰色シルト (東壁4層と同一)
- 10 5Y6/1 灰色粘土
- 11 2.5Y7/4 浅黄色砂質土 (東壁14層と同一)

図 13 12B 区 東・西壁面 土層断面図 (1/100)

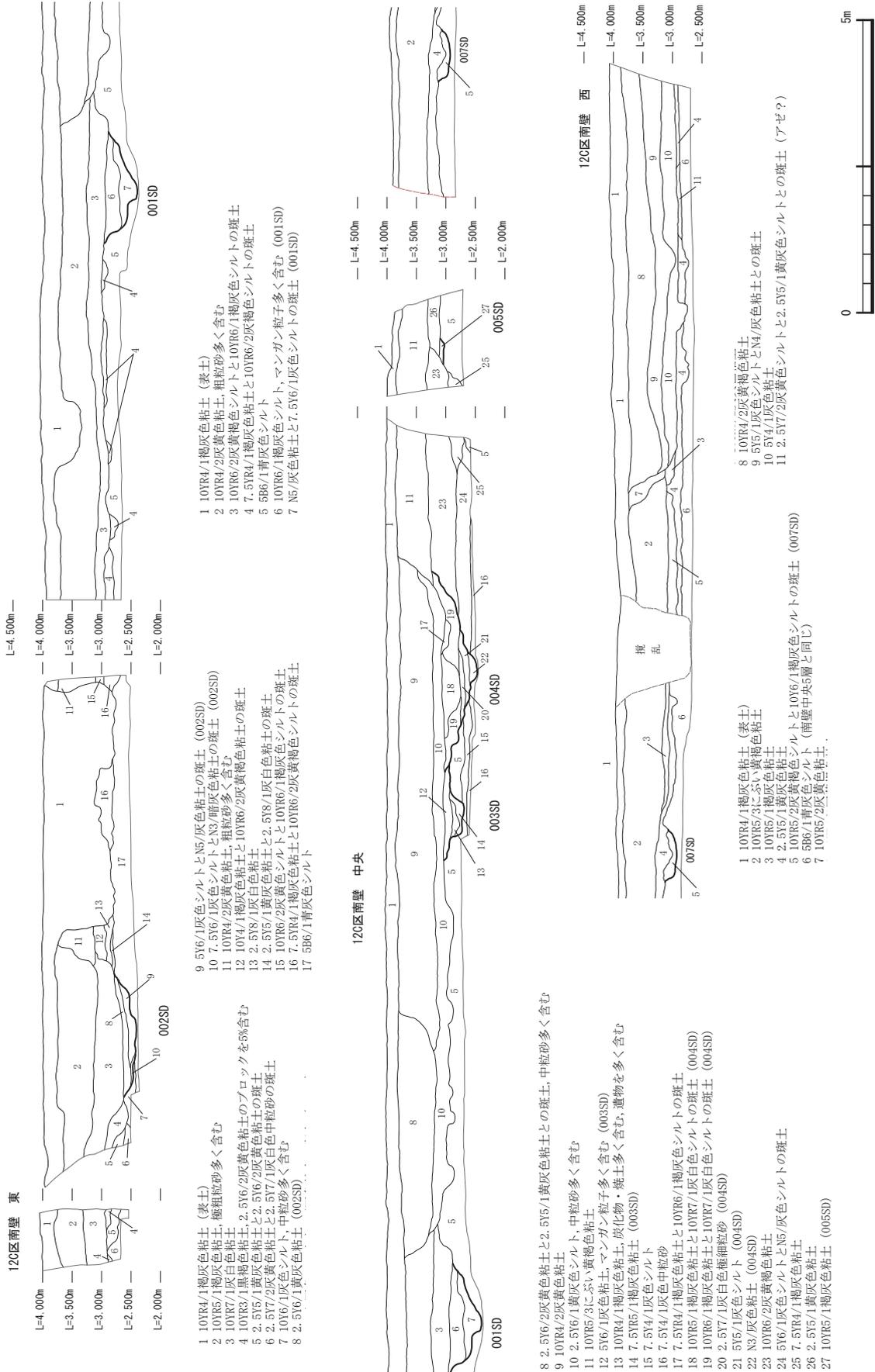


図 14 12C 区南壁面 土層断面図 (1/100)

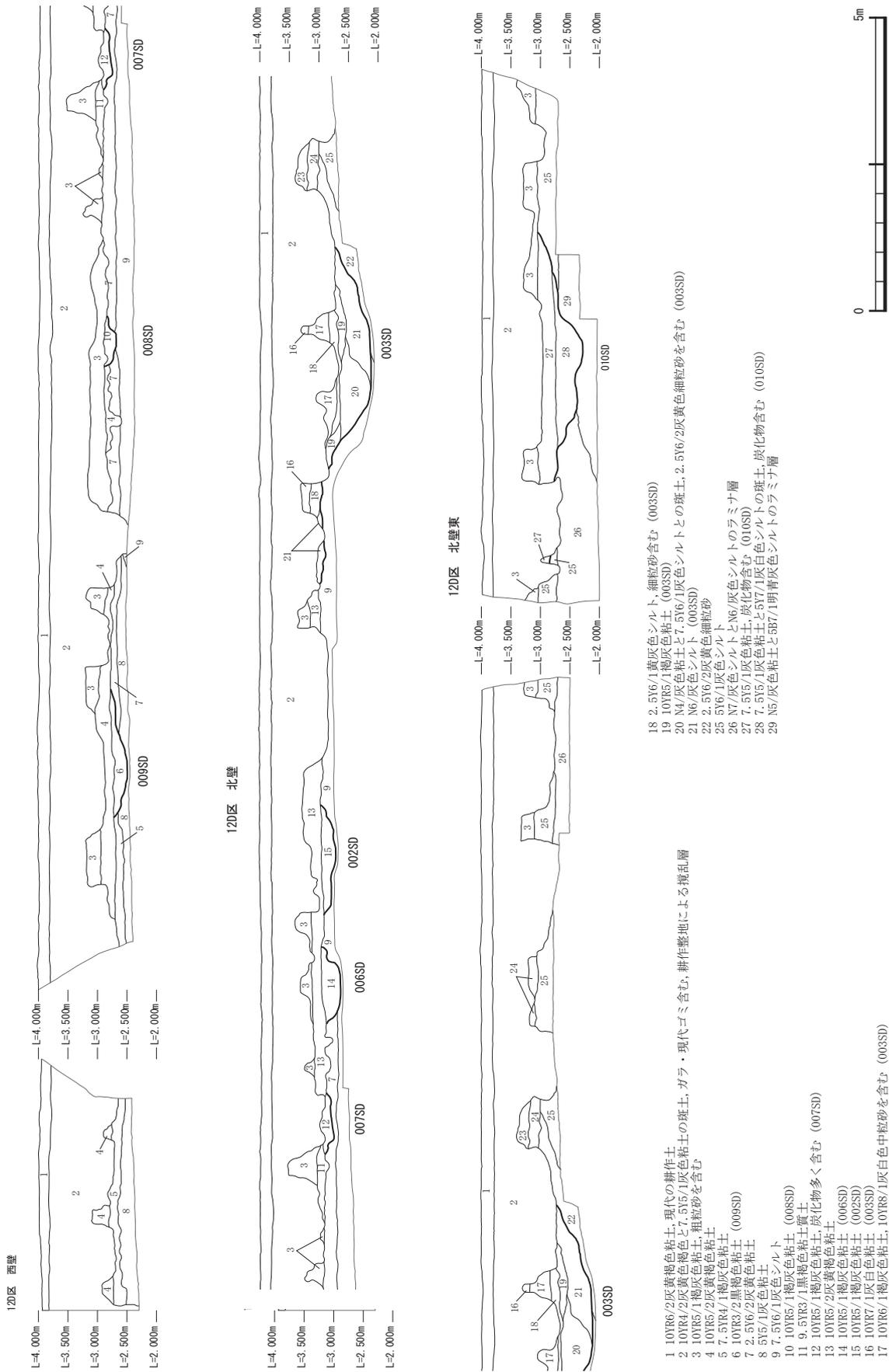
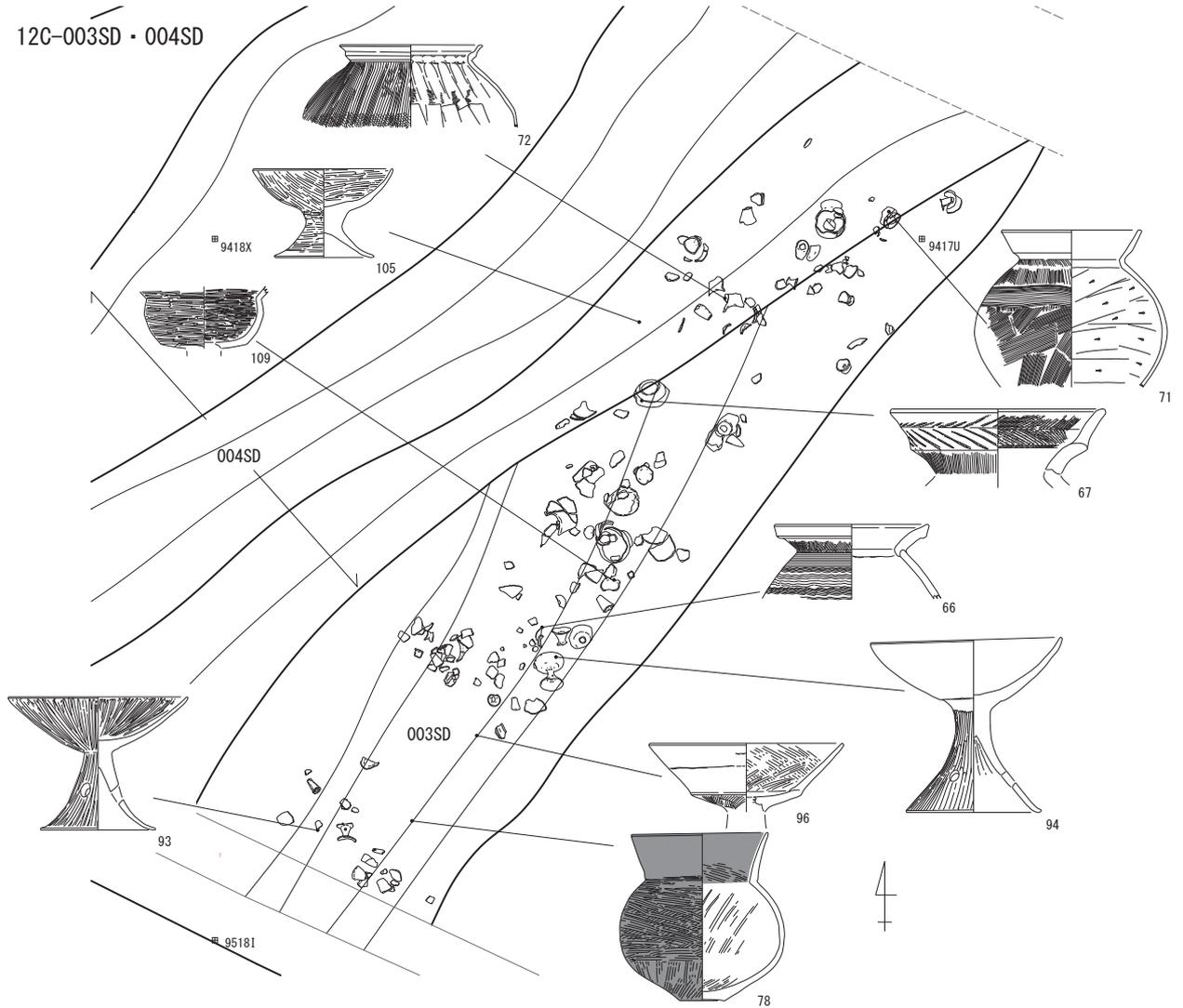
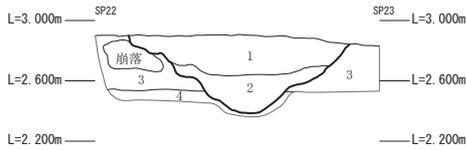


図 15 12D 区北壁面 土層断面図 (1/100)

12C-003SD・004SD

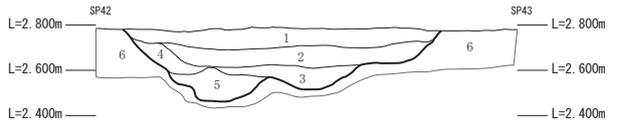


12C-001SD



- 1 10YR6/1褐色シルト、マンガン粒子多く含む(001SD)
- 2 N5/灰色粘土と7.5Y6/1灰色シルトの斑土(001SD)
- 3 5B6/1青灰色シルト
- 4 N5/灰色粘土と7.5Y6/2灰黄色砂質土との斑土

12C-002SD



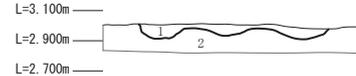
- 1 10YR7/1灰白色粘土(002SD)
- 2 2.5Y6/1黄灰色粘土(002SD)
- 3 5Y6/1灰色シルトとN5/灰色粘土の斑土(002SD)
- 4 7.5Y6/1灰色シルトとN3/暗灰色粘土との斑土(002SD)
- 5 N4/1灰色粘土(002SD)
- 6 10YR6/2灰黄褐色シルトと10YR6/1褐色シルトの斑土

12C-005SD



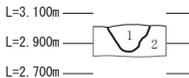
- 1 10YR5/1褐色粘土(005SD)
- 2 10YR6/2黄褐色シルトと10YR6/1褐色シルトとの斑土

12C-007SD



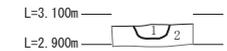
- 1 10YR5/2灰黄褐色粘土と10YR6/1褐色シルトの斑土(007SD)
- 2 10YR6/2灰黄褐色シルトと10YR6/1褐色シルトの斑土

12C-008SK



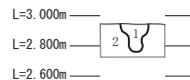
- 1 7.5YR4/1褐色粘土、マンガン粒子多く含む(008SK)
- 2 10YR6/2灰黄褐色シルトと10YR6/1褐色シルトの斑土

12C-009SK



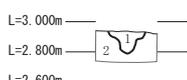
- 1 7.5YR4/1褐色粘土、マンガン粒子多く含む(009SK)
- 2 10YR6/2灰黄褐色シルトと10YR6/1褐色シルトの斑土

12C-010SK



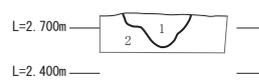
- 1 7.5YR4/1褐色粘土、マンガン粒子多く含む(010SK)
- 2 10YR6/2灰黄褐色シルトと10YR6/1褐色シルトの斑土

12C-011SK



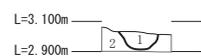
- 1 7.5YR4/1褐色粘土、マンガン粒子多く含む(011SK)
- 2 10YR6/2灰黄褐色シルトと10YR6/1褐色シルトの斑土

12C-012SK



- 1 7.5YR5/1褐色粘土、マンガン粒子多く含む(012SK)
- 2 10YR6/2灰黄褐色シルトと10YR6/1褐色シルトの斑土

12C-013SK

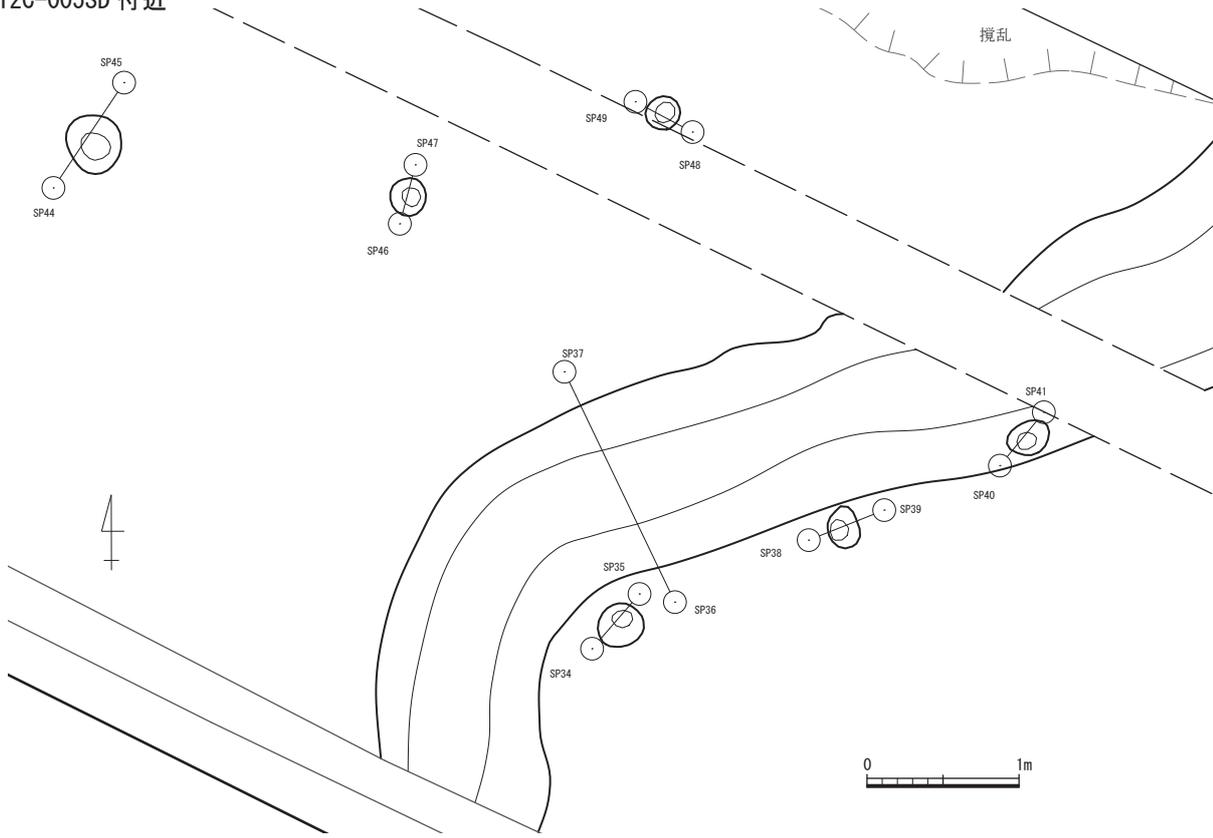


- 1 7.5YR4/1褐色粘土、マンガン粒子多く含む(013SK)
- 2 10YR6/2灰黄褐色シルトと10YR6/1褐色シルトの斑土



図16 12C区 主要遺構平面・断面図1 (1/50, 遺物1/6)

12C-005SD 付近



005SD

12C-006SE 付近

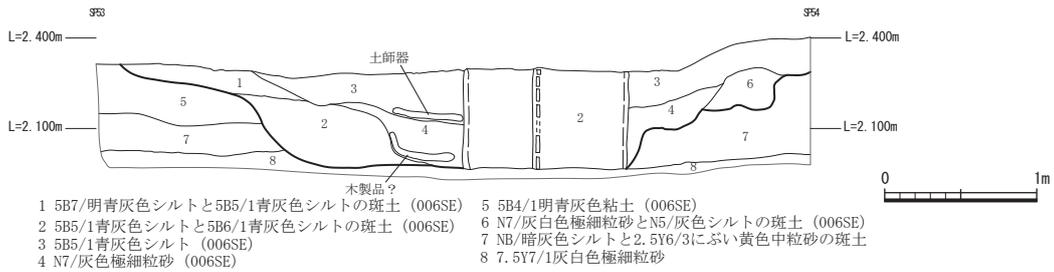
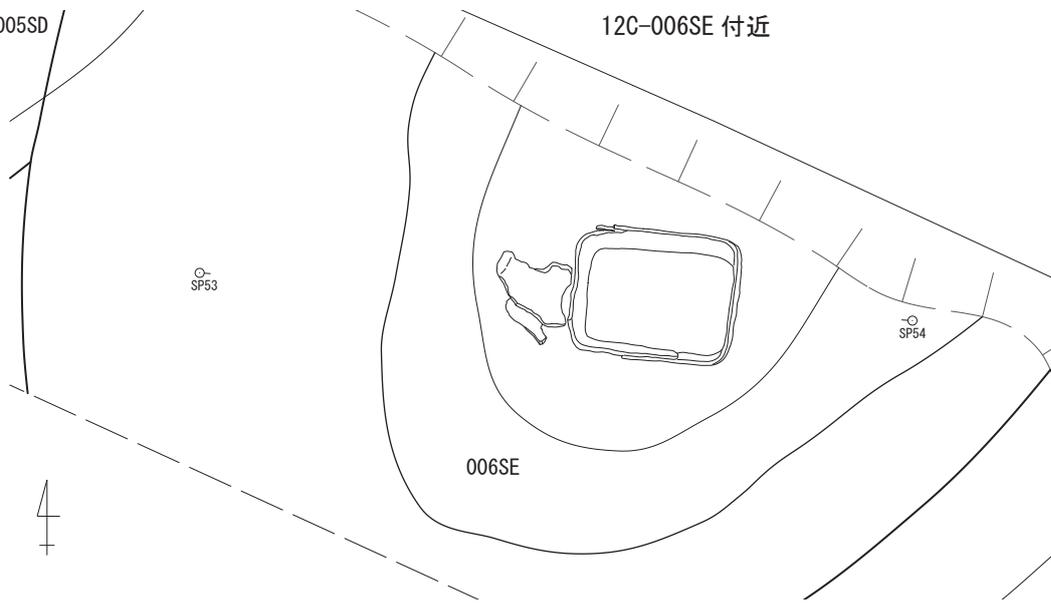


図17 12C区 主要遺構平面・断面図2 (1/50)

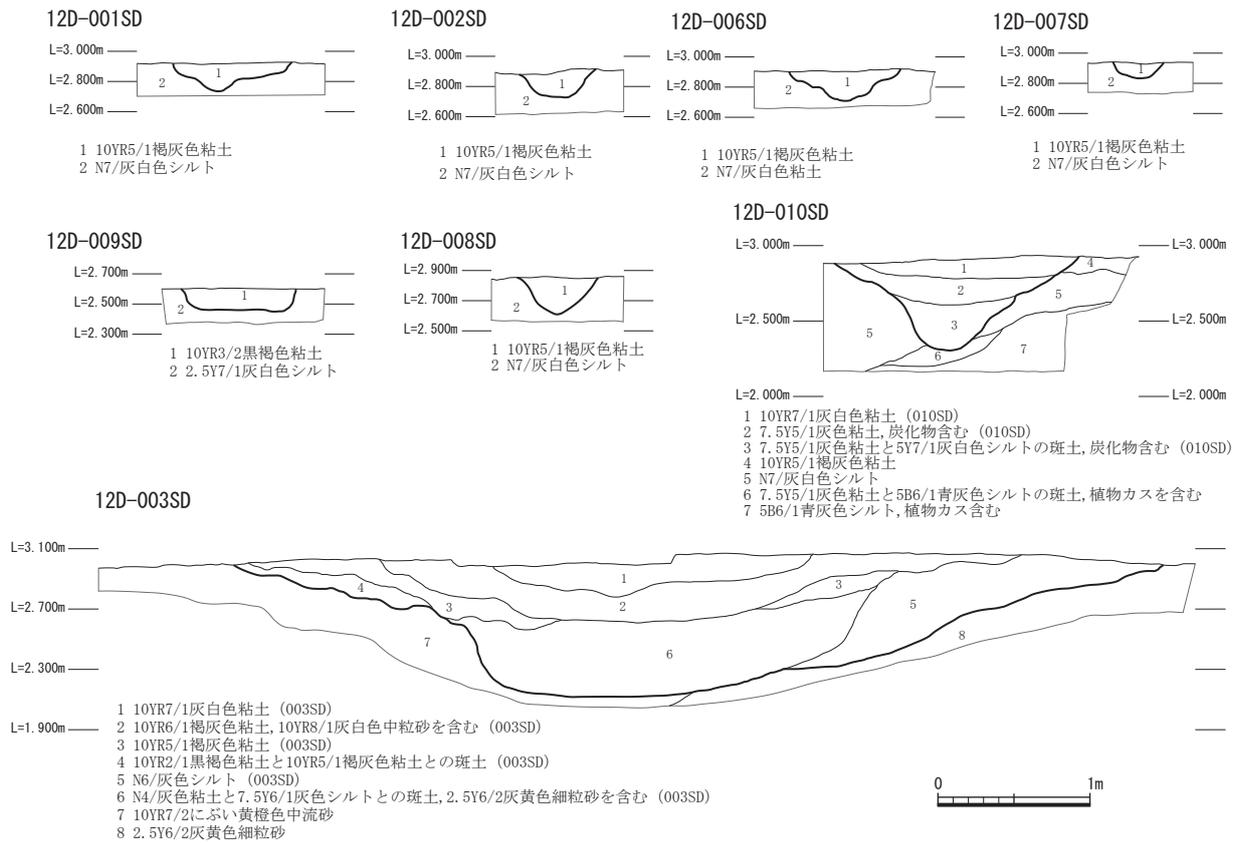


図 18 12D 区 主要遺構平面・断面図 (1/50)

4 15 区 (平成 27 年度調査地点)

15 区は 12C・D 区の西側と 15C 区の東側に挟まれる。調査面積は 850 m² となる。遺構検出面の標高は 2.7 m とほぼ平坦となる。

001・002SX・005～008SW (図 19) 上面で検出した遺構群で、畦畔あるいは凹みで確認できる水田区画である。多くがが現況道路に平行または直交する方位をとる。001・002SX 耕作土中から中・近世の遺物が出土した。002SX 出土遺物 (342～345) は須恵器礎、大型の土錘、加工円盤を図示した。005・006・007SW からは灰釉陶器を中心に比較的多くの遺物 (347～372) が得られた。

15-011SK (図 21) 調査区中央で検出した。031SK・0034SP を切る。平面形はやや歪む楕円形を呈する。長径 0.4 m、短径 0.2 m、検出面からの深さは約 20cm。出土遺物には山茶碗、常滑窯産陶器を含む。古代の土師器碗 (373) を図示した。

15-013SK 調査区東側で検出した。平面形はほぼ円形を呈する。一辺 1.7 m、検出面からの深さは約 20cm。平面形はほぼ円形を呈する。出土遺物は須恵器・土師器・灰釉陶器片を得た。

15-015SK (図 22) 調査区西側で検出した。平面形は円形を呈するの。一辺 0.8 m を計測できるが、西側は調査区外となる。検出面からの深さは約 20cm。出土遺物は山茶碗 (573) を図示した。

15-021SK (図 21) 調査区中央で検出した。平面形は楕円形を呈するの。短径 1.6 m を計測できるが、北側は調査区外となる。検出面からの深さは 75cm 前後。出土遺物は時期不明の土器片を得た。

15-022SK (図 22) 調査区東側で検出した。平面形はやや歪む隅丸長方形を呈する。長径 1.6 m、短径 1.3

m、検出面からの深さは44cm前後。出土遺物は確認されなかった。

15-030SK (図 22) 調査区南側で検出した。029SD と近接する。平面形は楕円形を呈する。長径 1.6 m、短径 1.3 m、検出面からの深さは約 50cm。出土遺物は確認されなかった。

15-050SK (図 21) 調査区西側で検出した。036SI を切る。平面形はやや歪む隅丸長方形を呈するののか。短径 1.2 mを計測できるが、北側は調査区外となる。検出面からの深さは 15cm 前後。出土遺物は土師器甕 (383) を図示した。

15-056SK 調査区中央で検出した。052SD を切る。平面形は円形を呈するののか。一辺 1.8 mを計測できるが、南側は攪乱により消失する。検出面からの深さは 34cm 前後。出土遺物 (388 ~ 390) は須恵器・土師器・灰釉陶器を図示した。

15-065SP 調査区中央で検出した。平面形は円形を呈する。一辺 0.5 m。検出面からの深さは 22cm 前後。須恵器、土器小片が出土した。

15-068SK 調査区中央で検出した。平面形は円形を呈する。一辺 0.6 m。検出面からの深さは 16cm 前後。出土遺物 (120) は古墳時代土師器を図示した。

15-010SD 調査区東側で検出した。059SK・032SX を切る。全長 2.8 mを検出したが、北側が調査区外、南側は攪乱により消失する。幅は 0.5 mで、検出面からの深さは約 9cmをはかる。主軸は N-33° -E。出土遺物は灰釉陶器・土師器片を得た。

15-016SD (図 20)・054SD 調査区中央部で検出した。北側を 054SD、南側を 016SD として調査したが、中央が攪乱によって消滅する同一の遺構として報告する。019SK を切り、053SE に切られる。全長 17.7 mを検出したが、南北が調査区外となる。幅は約 0.5 mで、検出面からの深さは約 20cmをはかる。主軸は中央の攪乱部分でやや屈曲し北側が N-55° -E、南側が N-64° -E。020SD とほぼ並走する。出土遺物 (376, 384) は土師器を図示した。

15-020SD・052SD (図 22) 調査区中央部で検出した。北側を 052SD、南側を 020SD として調査したが、中央が攪乱によって消滅する同一の遺構として報告する。018SK・061SD・062SX を切り、056SK に切られる。全長 17.0 mを検出したが、南北が調査区外となる。幅は 2.9 mで、検出面からの深さは 27 ~

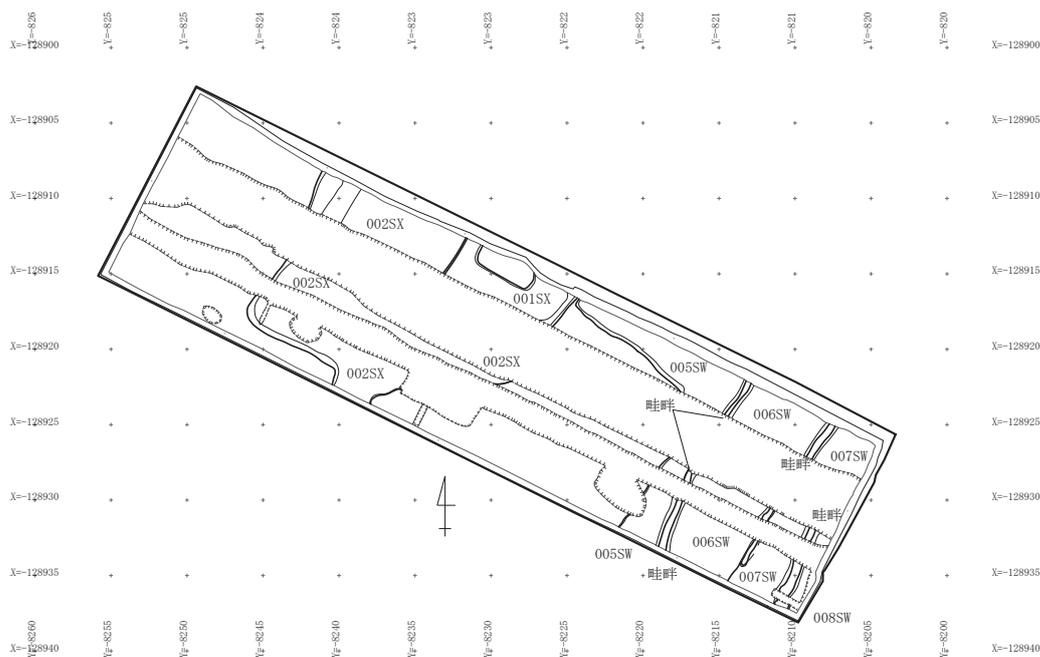


図 19 15 区上面 平面図 (1/500)

43cmをはかる。主軸は中央の攪乱部分でやや屈曲し北側がN-68° -E、南側がN-54° -E。016SDとほぼ並走する。出土遺物(374～377)は須恵器、土師器、土錘を図示した。

15-029SD 調査区東側で検出した。細長い土坑である可能性も否めないが、ここでは溝として報告する。028SK・027SKに切られる。全長2.7mを検出したが、南側が調査区外となる。幅は1.5mで、検出面からの深さは約12cmをはかる。主軸はN-7° -W。出土遺物は時期不明の土器片を得た。

15-037SD (図22) 調査区東側で検出した。全長2.8mを検出したが、北側は調査区外、南側は攪乱により消失する。幅は1.9mで、検出面からの深さは約20cmをはかる。主軸はN-31° -E。出土遺物は確認されなかった。

15-061SD (図22) 調査区中央部で検出した。020SD・062SXに切られる。全長2.5mを検出し、南側が調査区外となる。幅は1.2mで、検出面からの深さは約20cmをはかる。主軸はN-27° -E。出土遺物(391～393)は須恵器、土器を図示した。

15-074SD 調査区中央部で検出した。全長1.0mを検出したが、南側と北側が攪乱により消失する。幅は0.5mで、検出面からの深さは約10cmをはかる。主軸はN-26° -E。出土遺物は時期不明の土器片を得た。

15-035SI (図21) 調査区西側で検出した。036SI・069SDを切り、069SDに切られる。北側が調査区外、南側隅は攪乱により消失するため規模は不明となる。平面形は隅丸長方形を呈するののか。検出面からの深さは約19cm。SP071は西側の支柱穴かもしれない。出土遺物(379～381)は須恵器、土師器、灰釉陶器を図示した。

15-036SI (図21) 調査区西側で検出した。035SI・046SK・050SKに切られる。北側が調査区外で、東側が035SIにより切られるため規模は不明となる。平面形は隅丸長方形を呈するののか。検出できた一辺は3.7m、検出面からの深さは約7cmで、支柱穴は未確認となる。出土遺物は須恵器・土師器・灰釉陶器片を得た。

15-003SE (図21) 調査区中央部で検出した。平面形は楕円形を呈するが、やや南側が突出する。長径3.0m、短径2.7m、検出面からの深さは約1.0m。内部構造は確認できない。出土遺物は須恵器・土師器・灰釉陶器片を得た。

15-053SK (図22) 調査区中央部で検出した。一辺4.5mを計測できるが、南側は攪乱により消失する。平面形は円形を呈するののか。検出面からの深さは27cm前後。出土遺物は須恵器・土師器・灰釉陶器片を得た。

15-032SX 調査区東側で検出した不整形な落ち込み。溝として報告するが、北側が調査区外。東側を082SXに切れ、南側は攪乱により消失するため、規模等は不明。検出面からの深さは約40cmをはかる。主軸は計測できない。出土遺物は灰釉陶器(378)を図示した。

15-062SX 調査区中央部で検出した不整形な落ち込み。066SK・061SDを切り、021SDに切られる。検出面からの深さは約12cm。出土遺物は須恵器・土師器片を得た。

(池本正明)

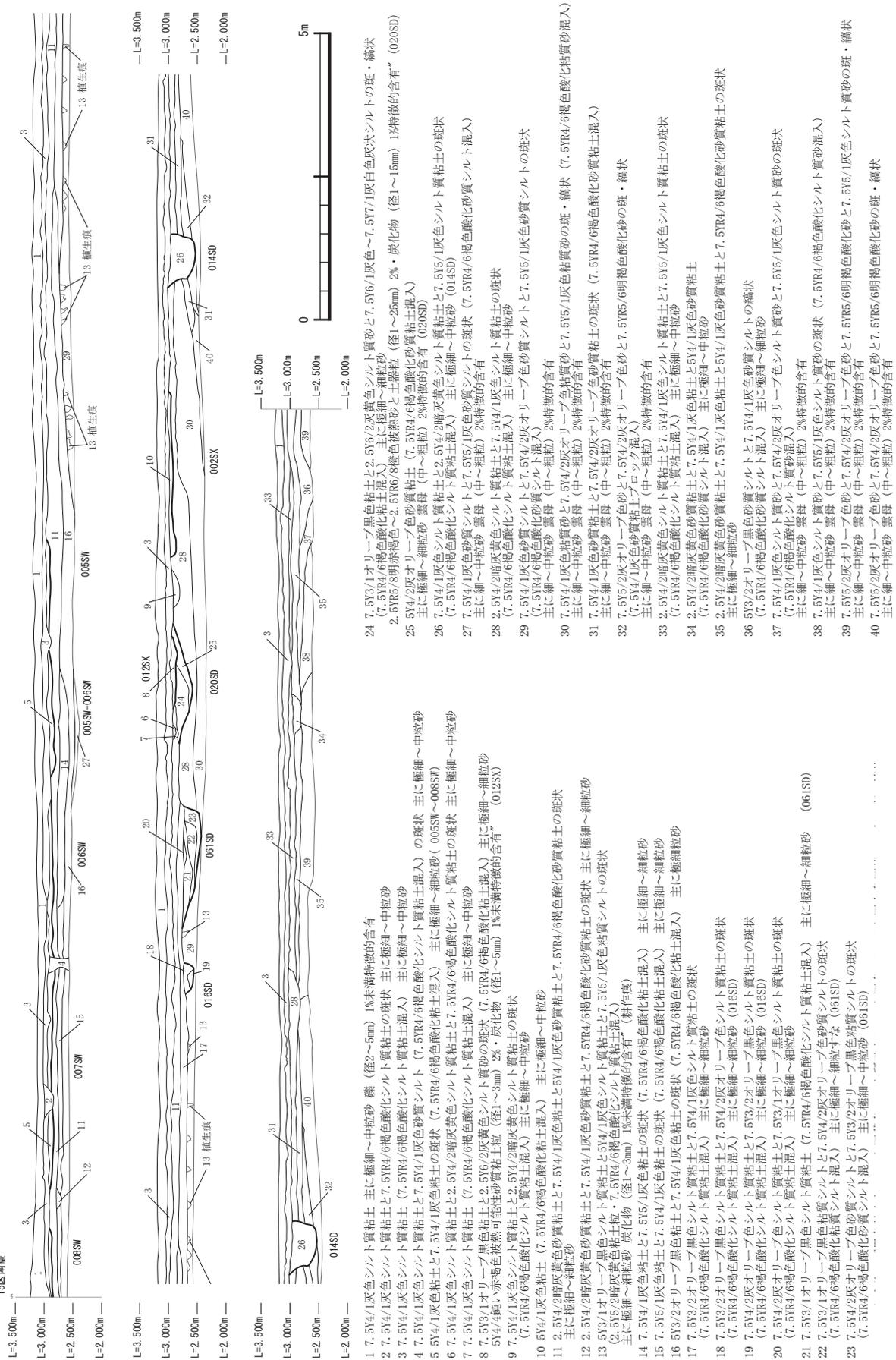
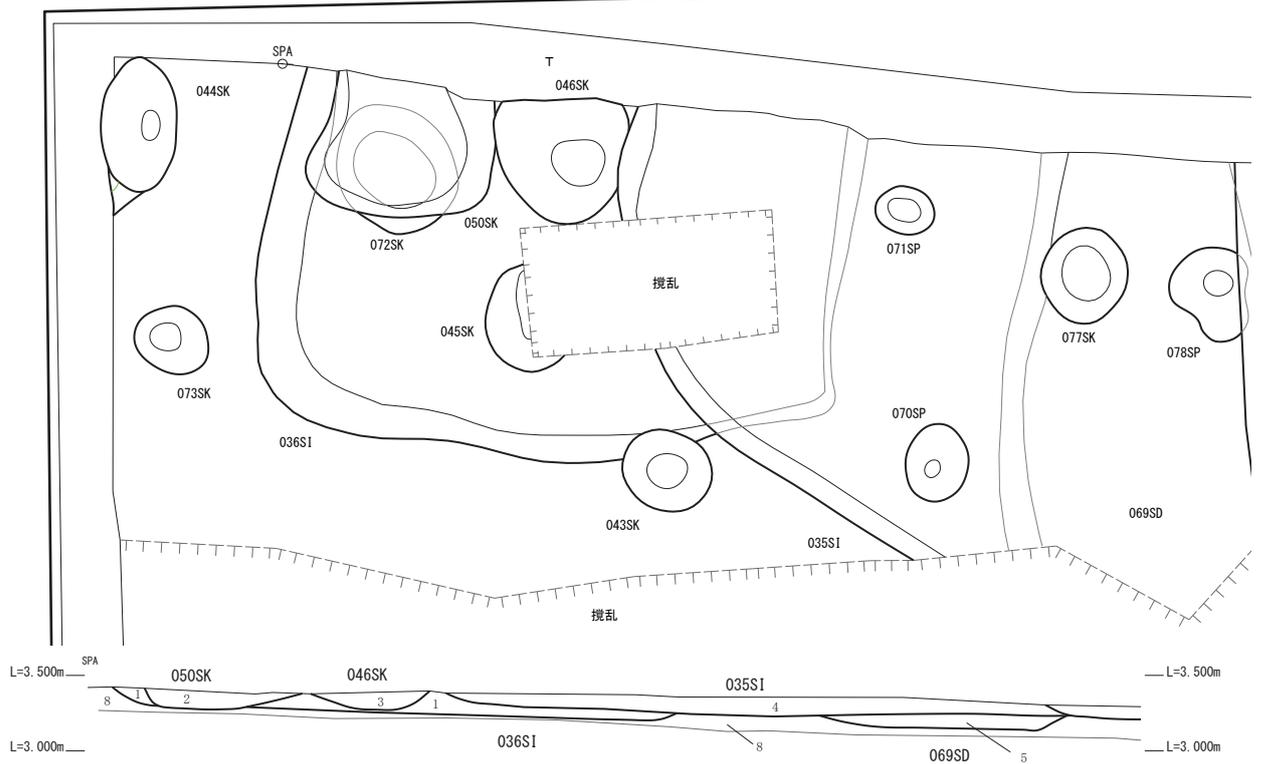


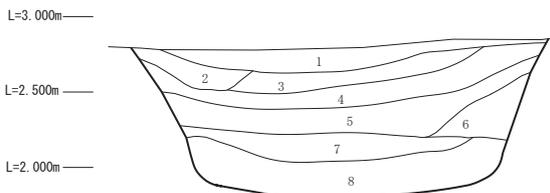
図 20 15 区壁面 土層断面図 (1/100)



- 1 2. 5Y4/2暗灰黄色粘質シルトと2. 5Y4/3オリブ褐色粘質シルトと2. 5Y4/1黄灰色粘質シルトの斑状 (7. 5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1~2mm) 1%未満特徴的含有 (036SI)
- 3 2. 5Y4/2暗灰黄色シルト質粘土と2. 5Y4/1黄灰色粘質シルトの斑状 (7. 5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1~3mm) 1%特徴的含有 (046SK)
- 2 2. 5Y4/2暗灰黄色粘質シルトと5Y4/1灰色粘質シルトの斑状 (2. 5Y3/2黒褐色シルト質粘土ブロック・7. 5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1~4mm) 1%特徴的含有 (050SK)
- 4 2. 5Y4/3オリブ褐色粘質シルトと5Y4/2灰オリブ色粘質シルトと5Y4/1灰色粘質シルトの斑状 (7. 5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1~3mm) 1%未満特徴的含有 (035SI)
- 5 2. 5Y4/1黄灰色砂質シルトと7. 5Y4/2灰オリブ色砂質シルトの斑状 (7. 5YR4/6褐色酸化砂質シルト混入) 主に極細～中粒砂 (069SD)
- 6 2. 5Y4/2暗灰黄色シルト質砂と2. 5Y4/1黄灰色シルト質砂の斑状 (7. 5YR4/6褐色酸化シルト質砂混入) 主に中～極粗粒砂 礫 (径2~3mm) 2%特徴的含有 (042SK)
- 7 5Y4/1灰色砂質粘土と5Y4/2灰オリブ色砂質粘土の斑状 (7. 5YR4/6褐色酸化砂質粘土・5Y3/1オリブ黒色砂質粘土混入) 主に細～中粒砂 炭化物 (径1~3mm) 1%未満特徴的含有 (037SD)
- 8 5Y5/3灰オリブ色シルト質砂と5Y4/2灰オリブ色シルト質砂と10YR4/4褐色シルト質砂の斑状 主に極細～中粒砂 礫 (径2~4mm) 1%未満・雲母 (中～粗粒) 2%特徴的含有



15-003SE



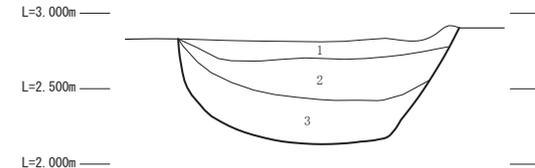
- 1 7. 5Y4/1灰色シルト質粘土と5Y4/1灰色シルト質粘土の斑状 (7. 5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～中粒砂
- 2 7. 5Y5/2灰オリブ色シルト質粘土と7. 5Y4/1灰色シルト質粘土の斑状 (7. 5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～中粒砂
- 3 7. 5Y4/1灰色シルト質粘土と5Y4/1灰色シルト質粘土と5Y5/2灰オリブ色シルト質粘土の斑状 (7. 5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～中粒砂
- 4 5Y5/2灰オリブ色シルト質粘土と7. 5Y4/1灰色シルト質粘土と5Y4/1灰色シルト質粘土の斑状 (7. 5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～中粒砂
- 5 7. 5Y4/1灰色シルト質粘土と5Y5/2灰オリブ色シルト質粘土と5Y4/1灰色シルト質粘土の斑状 (7. 5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～中粒砂
- 6 2. 50Y4/1暗オリブ灰色シルト質粘土 (7. 5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～中粒砂
- 7 5G4/1暗緑灰色シルト質粘土 (7. 5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～中粒砂
- 8 5Y3/1オリブ黒色粘土 (7. 5YR4/6褐色酸化粘土混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1~4mm) 1%未満特徴的含有

15-011SK



- 1 7. 5Y4/1灰色シルト質粘土 (7. 5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～中粒砂 炭化物 (径1~10mm) 1%特徴的含有 (011SK)

15-021SK

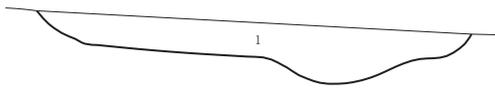


- 1 7. 5Y4/1灰色砂質シルトと5Y3/2オリブ黒色砂質シルトの斑状 (7. 5YR4/6褐色酸化砂質シルト混入) 主に極細～中粒砂 炭化物 (径1~4mm) 1%特徴的含有
- 2 2. 5Y3/2黒褐色砂質シルトと5Y4/2灰オリブ色砂質シルトの斑・縞状 (7. 5YR4/6褐色酸化砂質シルト混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1~3mm) 2%特徴的含有
- 3 7. 5Y3/2オリブ黒色シルト質粘土と7. 5Y4/1灰色シルト質粘土と5Y4/2灰オリブ色シルト質粘土の斑状 (5Y4/3暗オリブ色シルト質砂ブロック・7. 5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～中粒砂 炭化物 (径1~5mm) 3%・植物繊維特徴的含有

図 21 15 区 主要遺構平面・断面図 1 (1/50)

15-020SD

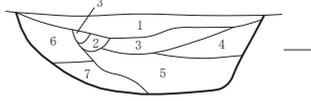
L=3.000m



- 1 5Y4/2灰オリブ色砂質粘土 (7.5YR4/6褐色酸化砂質粘土混入) 主に極細～細粒砂 雲母 (中～粗粒) 2%特徴的含有

15-030SK

L=3.000m



- 2.5Y3/2黒褐色砂質粘土 (7.5Y6/1灰色砂ブロック・7.5YR4/6褐色酸化砂質粘土混入) 主に極細～細粒砂
- 2.5Y4/1黄灰色砂質シルトと2.5Y3/2黒褐色砂質シルトの斑状 (7.5Y6/1灰色砂ブロック・7.5YR4/6褐色酸化砂質シルト混入) 主に極細～中粒砂
- 2.5Y4/1黄灰色砂質シルトと2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトの斑状 (7.5Y6/1灰色砂ブロック・7.5YR4/6褐色酸化砂質シルト混入) 主に極細～中粒砂
- 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト (7.5Y6/1灰色砂ブロック・7.5YR4/6褐色酸化砂質シルト混入) 主に極細～中粒砂
- 5Y3/1オリブ黒色砂質シルト (7.5Y6/1灰色砂ブロック・7.5YR4/6褐色酸化砂質シルト混入) 主に極細～中粒砂
- 10Y5/1灰色シルト質砂と10Y4/1灰色シルト質砂の斑状 (7.5Y6/1灰色砂ブロック・7.5YR4/6褐色酸化シルト質砂混入) 主に極細～中粒砂
- 7.5Y4/1灰色シルト質砂 (7.5Y6/1灰色砂ブロック・7.5YR4/6褐色酸化シルト質砂混入) 主に極細～中粒砂

15-053SK

L=3.000m



- 2.5Y3/2黒褐色シルト質粘土 (5Y5/2灰オリブ色粘質シルトブロック・7.5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1～4mm) 1%未満特徴的含有
- 5Y5/2灰オリブ色砂質シルトと2.5Y3/2黒褐色シルト質粘土の斑状 (5Y5/2灰オリブ色粘質シルトブロック・7.5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1～3mm) 1%未満特徴的含有
- 2.5Y3/2黒褐色シルト質粘土と2.5Y4/1黄灰色シルト質粘土の斑状 (5Y5/2灰オリブ色粘質シルトブロック・7.5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1～3mm) 1%未満特徴的含有
- 7.5Y3/2オリブ黒色シルト質粘土 (5Y5/2灰オリブ色粘質シルトブロック・7.5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1～2mm) 1%未満特徴的含有

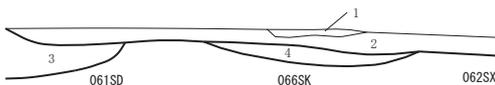
L=3.000m



L=2.000m

- 5Y4/2灰オリブ色砂質粘土 (7.5YR4/6褐色酸化砂質粘土混入) 主に極細～細粒砂 雲母 (中～粗粒) 2%特徴的含有 (020SD)
- 2.5Y3/2黒褐色シルト質粘土 (7.5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～細粒砂 (060SK)
- 7.5Y2/1オリブ黒色粘質シルトと7.5Y3/1オリブ黒色砂質シルトの斑状 (7.5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～細粒砂 (061SD)
- 5Y3/1オリブ黒色シルト質粘土 (7.5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1～5mm) 1%特徴的含有 (081SK)

L=2.500m



L=2.000m

- 2.5Y3/1黒褐色粘土 (7.5YR4/6褐色酸化粘土混入) 主に極細～細粒砂 (062SX)
- 5Y2/1黒色粘質シルトと5Y3/1オリブ黒色砂質シルトの斑状 (7.5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～細粒砂 (062SX)
- 7.5Y2/1オリブ黒色粘質シルトと7.5Y3/1オリブ黒色砂質シルトの斑状 (7.5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～細粒砂 (061SD)
- 5Y2/1黒色粘質シルトと5Y3/1オリブ黒色砂質シルトと7.5Y4/2灰オリブ色砂質シルトの斑状 (7.5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1～4mm) 1%未満特徴的含有 (066SK)

15-054SD

L=3.000m



- 1 2.5Y3/2黒褐色粘質シルトと5Y4/1灰色粘質シルトの斑状 (7.5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～細粒砂

15-015SK

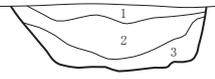
L=3.000m



- 1 5Y3/2オリブ褐色砂質粘土と5Y5/2灰オリブ色シルト質砂の斑状 (7.5YR4/6褐色酸化砂質粘土混入) 主に細～中粒砂 炭化物 (径1～2mm) 1%未満特徴的含有

15-022SK

L=2.500m



- 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質粘土と2.5Y3/2黒褐色シルト質粘土の斑状 (5Y5/2灰オリブ色粘質シルトブロック・7.5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～細粒砂
- 7.5Y4/1灰色粘質シルトと7.5Y3/1オリブ黒色粘質シルトの斑状 (5Y5/2灰オリブ色粘質シルトブロック・7.5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～中粒砂 炭化物 (径1～3mm) 1%未満特徴的含有
- 7.5Y4/1灰色砂質シルトと10Y3/1オリブ黒色砂質シルトの斑状 (5Y5/2灰オリブ色粘質シルトブロック・7.5YR4/6褐色酸化砂質シルト混入) 主に極細～中粒砂

15-037SD

L=3.000m

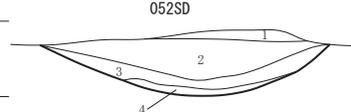


L=2.500m

- 1 5Y4/1灰色砂質粘土と5Y4/2灰オリブ色砂質粘土の斑状 (7.5YR4/6褐色酸化砂質粘土・5Y3/1オリブ黒色砂質粘土混入) 主に細～中粒砂 炭化物 (径1～3mm) 1%未満特徴的含有

15-052SD

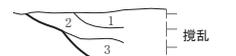
L=3.000m



- 5Y3/2オリブ黒色シルト質粘土 (7.5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1～2mm) 1%未満特徴的含有
- 2.5Y3/2黒褐色粘質シルト (2.5Y5/3黄褐色粘質シルトブロック・7.5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1～2mm) 1%未満特徴的含有 (052SD)
- 7.5Y3/1オリブ黒色粘質シルトと5Y4/1灰色粘質シルトの斑状 (7.5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1～2mm) 1%未満特徴的含有 (052SD)
- 7.5Y3/2オリブ黒色シルト質粘土 (7.5YR4/6褐色酸化シルト質粘土混入) 主に極細～細粒砂 (052SD)

15-056SK

L=3.000m



L=2.000m

- 7.5Y2/1オリブ黒色粘質シルトと7.5Y3/1オリブ黒色粘質シルトの斑状 (7.5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1～5mm) 1%特徴的含有
- 7.5Y3/1オリブ黒色粘質シルトと7.5Y2/1オリブ黒色粘質シルトの斑状 (7.5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1～5mm) 1%特徴的含有
- 7.5Y4/1灰色粘質シルトと7.5Y3/1オリブ黒色粘質シルトの斑状 (7.5YR4/6褐色酸化粘質シルト混入) 主に極細～細粒砂 炭化物 (径1～3mm) 1%特徴的含有

0 1m

図 22 15 区 主要遺構平面・断面図 2 (1/50)

5 16A・16B・16C・16D・16E 区（平成28年度調査地点）

（1）16A 区（図23）

範囲確認調査により画定された遺跡の西端付近に位置する。表土は標高約4.0mで調査範囲内では最も高い。表土以下標高3.0～4.0mの部分では細礫を含む粗粒砂～砂質シルトが堆積する（図21）。攪乱も広範囲に及び、遺構・遺物はともに希薄であった。標高3.5mの検出面では攪乱の北側で近世以降（あるいは現代）の溝を検出した。幅60～90cm、深さは約40cmの複数の溝が平行に接して並び、耕作に伴う痕跡と思われる。調査区壁面の一部の範囲では、さらに一段低い標高約2.8mにも溝群（底レベル）が確認できることから、同様の土地利用を行なった複数の地表面が存在したと考えられる。南西部分では長径1.0m前後の土坑4基（16A-001～004SK）を確認した。遺物は古墳時代土器、古代土師器、灰釉陶器、中世山茶碗が出土しているが、いずれも細片であり混入資料の可能性が高い。

（2）16B 区（図24）

表土以下に現代の水田耕作土、その下標高2.0mまでは主に中粒砂～砂質シルトがほぼ水平に堆積する。これより下は暗灰色～黒色の粘土質土と砂層が互層となり、層厚1.5m程度の砂層を挟み標高0.2m前後のところで黒色シルト層に達する（図22）。確実に中世以前に遡るといふ遺構は見られなかった。攪乱南側で確認された近世以降と思われる土坑群（16B-001～004SK, 006～114SK）の検出面は標高3.0mである。平面形は隅丸長方形か溝状に長くなるもので、長軸1.8m以上、幅0.6～1.4m、深さ40cm前後のものが側縁を接するかのようにならびに6～8基が並ぶ（図23）。遺物は中世山茶碗・土器、近世陶器などの小片が多く、混入資料である可能性が高い。

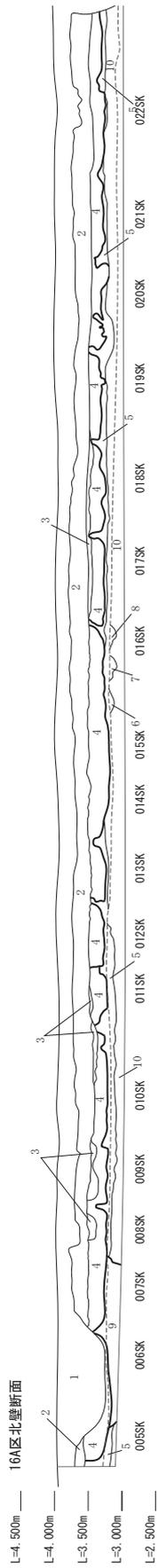
16B-015SK（図25）南壁付近で確認された。平面形が長軸2.0m以上、幅1.3m程度の浅い楕円形の凹みであり、北側の周縁付近には半円を描くように凹みに沿って杭列（W-075～086）丸杭16本を確認）がめぐる。底面には板材片が残る。細礫の残る凹み周縁には鉄分の沈着が認められ、流れのある湛水状態にあったと思われる。遺物は古代と中・近世の小片の土器・陶器（583～592）があり、ほか硯（S-15）や滑石製の銚帯（S-14）などの石製品がある。近世以降の導水施設の可能性が考えられる。

16B-016SK（図26）北半部分で確認された長軸3.2m、短軸1.6m、深さ0.5mの楕円形土坑である。数段階を経て人為的に埋められている。土器細片を含むが時期は特定できない。密集する一連の土坑群とは異なる方位であり、他にも土坑005SK, 019SKなど規模もこれと同様でやはり単独で分布するものがある。当時の地割（図99）の影響を受けた状況かもしれない。

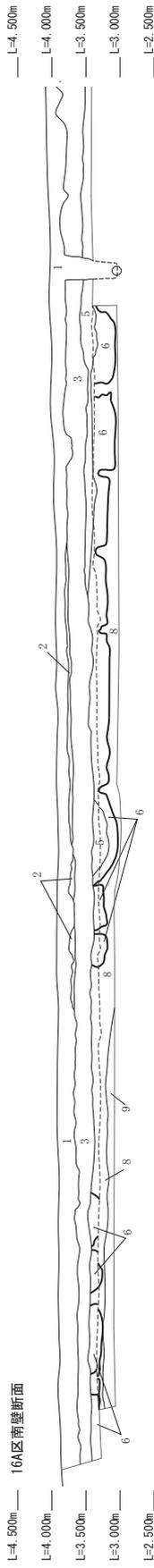
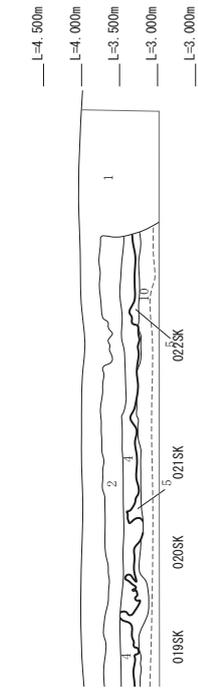
16B-021SK 直径約1.1mの円形の桶の底板部分（W-088～094）である。底面はほぼ水平であり、据えられた状態を保持していると考えられる。耕作に伴う水溜か肥溜であったと思われる。

（3）16C 区（図26～28）

表土以下、現代の水田耕作土及び床土層を除去すると検出面となり、ここでは標高3.0mで黄褐色の砂質シルトを掘り込む平安時代と古墳時代の遺構が検出された。遺構が展開する微高地は、少なくとも東側の16D区へも続くことが確認された。その下層には粘土と砂・シルト層が互層に堆積する複数の古い自然流路が確認でき、このうち16B区寄りの調査区西側の下層（標高1.7m前後）では古墳時代と推定される木製品等が出土した。



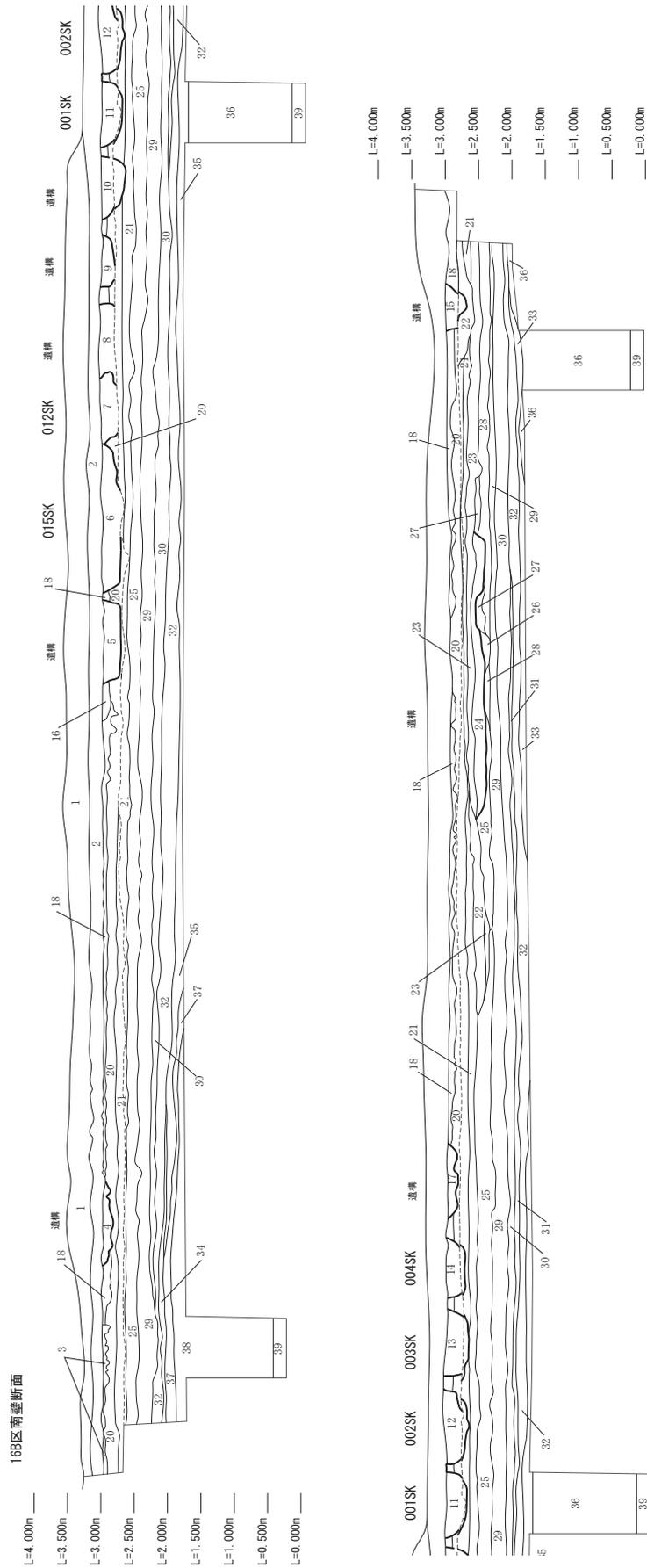
1. 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト 2. 5Y4/2 暗灰黄色砂質シルトブロック、極細～細粒砂、細礫
 2. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト
 3. 2.5Y5/4 黄褐色粗粒砂 細礫含む
 4. 10YR6/8 明黄褐色中粒砂～粗粒砂 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト、細礫含む
 5. 2.5YR4/6 オリーブ褐色中粒砂 細礫含む
 6. 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト 細礫含む
 7. 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト 細礫含む
 8. 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト 細礫含む
 9. 10YR5/3 にぶい黄褐色中粒砂～粗粒砂 細礫含む
 10. 10YR4/6 褐色砂質シルト



1. 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト 2. 5Y4/2 暗灰黄色砂質シルトブロック、極細～細粒砂、細礫
 2. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト
 3. 10YR6/8 明黄褐色中粒砂～粗粒砂 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト、細礫含む



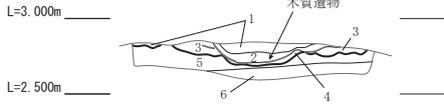
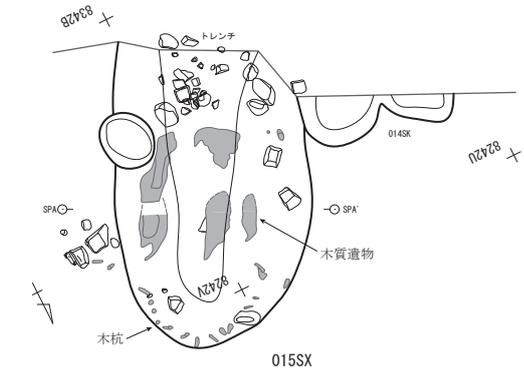
図 23 16A 区北・南壁面 土層断面図 (1/100)



1. 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトブロック、極細～細粒砂、細礫
 2. 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト 細礫少量
 3. 2.5Y6/3にぶい黄褐色粗粒砂との斑土 細礫多量(遺構)
 4. 2.5Y6/3にぶい黄褐色粗粒砂との斑土 細礫多量(遺構)
 5. 2.5Y6/3にぶい黄褐色粗粒砂との斑土 細礫多量(遺構)
 6. 2.5Y6/3にぶい黄褐色粗粒砂との斑土 細礫多量(遺構)
 7. 5Y5/3灰オリーブ色中粒砂と2.5Y4/1黄灰色粗粒砂との斑土 細礫 (015SK)
 8. 2.5Y6/3にぶい黄褐色粗粒砂との斑土 細礫多量(遺構)
 9. 2.5Y6/3にぶい黄褐色粗粒砂との斑土 細礫多量(遺構)
 10. 5Y5/3灰オリーブ色中粒砂と2.5Y4/1黄灰色粗粒砂との斑土 細礫(遺構)
 11. 5Y5/3灰オリーブ色中粒砂と2.5Y4/1黄灰色粗粒砂との斑土 細礫(001SK)
 12. 2.5Y6/3にぶい黄褐色粗粒砂との斑土 細礫(002SK)
 13. 5Y4/1灰色中粒砂と2.5Y6/2灰黄色粗粒砂 細礫多量(遺構)
 14. 5Y4/1灰色中粒砂と2.5Y4/1黄褐色粗粒砂との斑土、細礫多量(遺構)
 15. 2.5Y6/3にぶい黄褐色粗粒砂との斑土、細礫多量(遺構)
 16. 2.5Y4/1黄褐色粗粒砂 細礫多量
 17. 2.5Y6/3にぶい黄褐色粗粒砂との斑土 細礫多量(遺構)
 18. 2.5Y4/2暗灰黄色粘質シルトと2.5Y6/2灰黄色粗粒砂の斑土 細礫多量(遺構)
 19. 5Y5/1灰色シルト
 20. 5Y3/1オリーブ黒色シルト
21. 2.5Y4/1黄灰色シルト
 22. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト
 23. 2.5Y5/1黄灰色シルト質粘土
 24. 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと5Y5/1灰色細粒砂と2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂との斑土(遺構)
 25. 5Y3/1オリーブ黒褐色粘土
 26. 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト
 27. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質粘土
 28. 5Y5/1灰色シルト
 29. 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト 細礫微量 他層位に比べて雲母含有量が多い
 30. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト
 31. 5Y5/1灰色シルト 2.5Y3/1黒褐色粘質シルトの互層状
 32. 2.5Y4/1暗オリーブ灰色シルト
 33. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト
 34. 2.5Y4/1暗オリーブ灰褐色細粒砂
 35. 5Y3/1オリーブ黒色粘土
 36. 5Y5/1灰褐色細粒砂
 37. 5Y3/1オリーブ黒色粘土
 38. 2.5Y4/1暗オリーブ灰褐色細粒砂
 39. 7.5Y4/2灰オリーブ色細粒砂 5Y3/1オリーブ黒色シルト、雲母粒多量

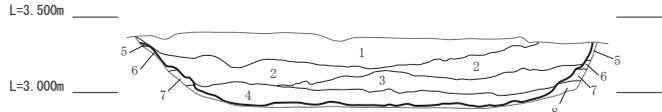
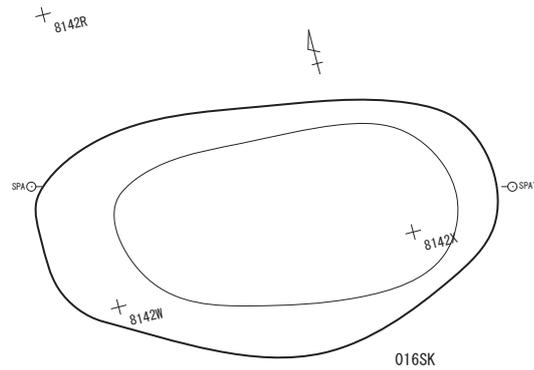
図 24 16B 区南壁面 土層断面図 (1/100)

16B-015SX



- 1. 2. 5Y6/3にぶい黄色中粒砂と 2. 5Y6/2灰黄色粗粒砂の斑土 細礫多量
- 2. 2. 5Y4/2暗灰黄色細粒砂と 2. 5Y6/2灰黄色粗粒砂の斑土 細礫少量
- 3. 2. 5Y4/1黄灰色シルトと 2. 5Y6/2灰黄色粗粒砂の斑土 細礫多量
- 4. 2. 5Y4/2暗灰黄色シルト 2. 5Y6/2灰黄色中粒砂の斑土 細礫少量
- 5. 2. 5Y3/1黒褐色粘質シルト
- 6. 5Y3/1オリーブ黒色粘土

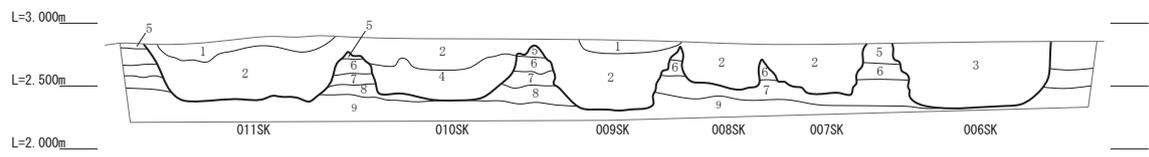
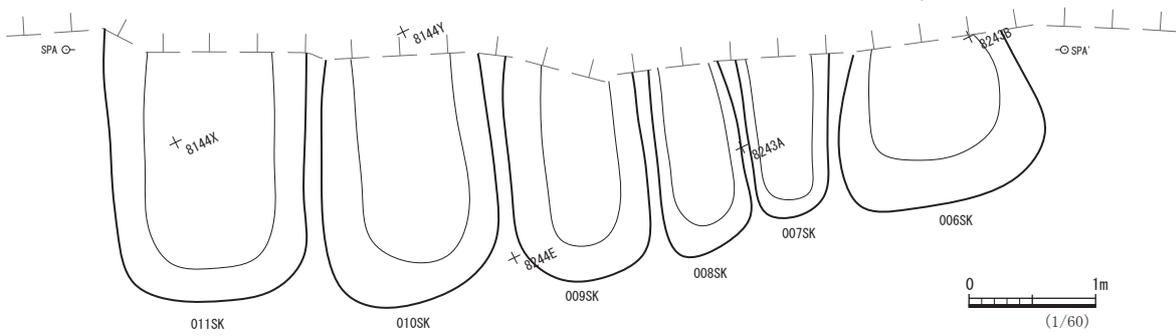
16B-016SK



- 1. 2. 5Y5/1黄灰色細粒砂 2. 5Y6/3にぶい黄色中粒砂との斑土
- 2. 2. 5Y4/1黄灰色細粒砂 2. 5Y6/3にぶい黄色中粒砂、2. 5Y3/2黒褐色シルトとの斑土
- 3. 2. 5Y4/2暗灰黄色シルト 2. 5Y6/3にぶい黄色中粒砂との斑土
- 4. 2. 5Y3/2黒褐色シルト 2. 5Y5/1黄灰色細粒砂との斑土
- 5. 5Y5/2灰色シルト
- 6. 5Y5/1灰色シルト
- 7. 5Y3/1オリーブ黒色粘土
- 8. 2. 5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト 細礫微量 他層位に比べて雲母含有量が多い



16B-006 ~ 011SK



- 1. 2. 5Y4/1黄灰色砂質シルト 細礫微量
- 2. 5Y5/3灰オリーブ色中粒砂 2. 5Y4/1黄灰色細粒砂との斑土 細礫 (007~011SK)
- 3. 5Y5/3灰オリーブ色中粒砂 2. 5Y4/1黄灰色細粒砂との斑土 細礫 (006SK)
- 4. 5Y4/1灰色中粒砂 2. 5Y4/1黄灰色細粒砂との斑土、細礫微量 (010SK)
- 5. 5Y5/1灰色シルト
- 6. 5Y3/1オリーブ黒色シルト
- 7. 2. 5Y4/1黄灰色シルト
- 8. 2. 5Y5/1黄灰色シルト質粘土
- 9. 5Y3/1オリーブ黒色粘土

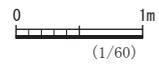
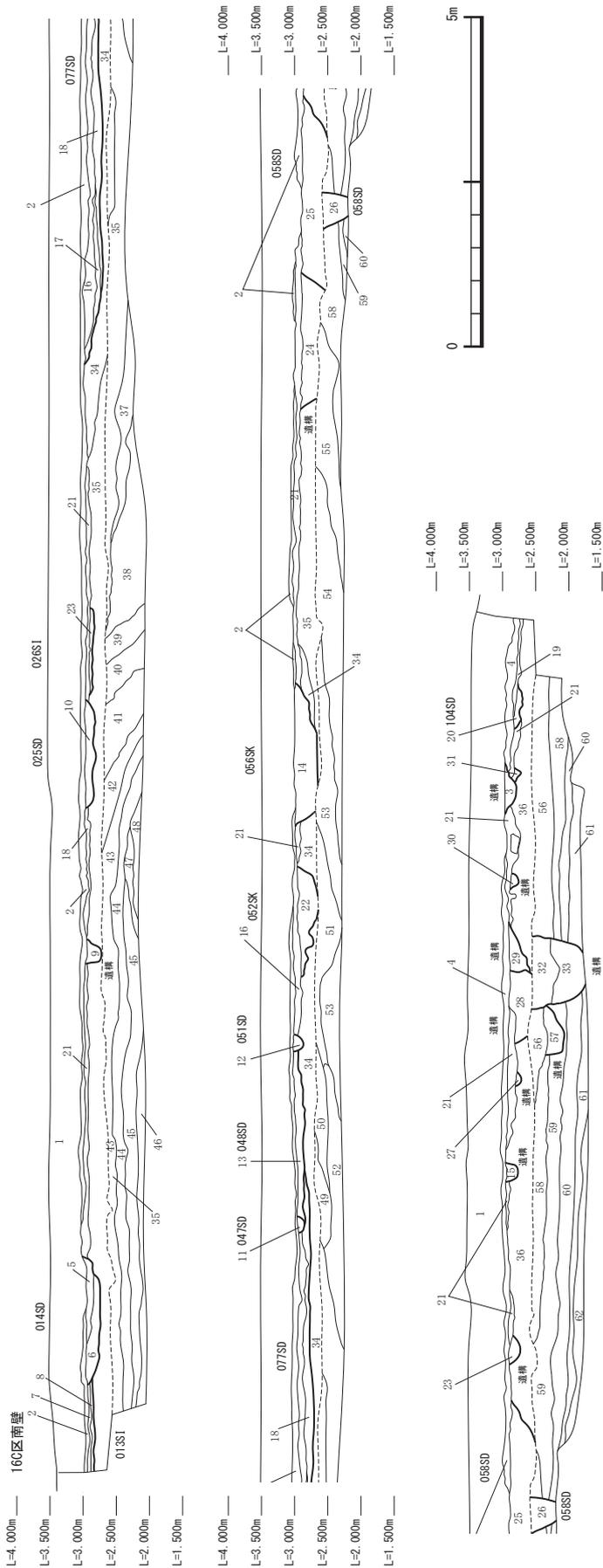


図 25 16B 区 主要遺構平面・断面図 (1/50 1/60)



1. 2. 5V3/2黒褐色砂質シルト 2. 5V4/2暗灰黄色砂質シルトブロック、極細～細粒砂、細礫
2. 2. 5V5/1黄灰色砂質シルト 細礫少量
3. 2. 5V4/2暗灰黄色砂質シルトブロック、極細～細粒砂、細礫 (遺構)
4. 2. 5V5/1黄灰色砂質シルト 細礫
5. 2. 5V4/6オリーブ褐色中粒砂層状に微量 (0145SD)
6. 2. 5V6/3にぶい黄褐色極細砂層状に含む (0145SD)
7. 10R4/2灰黄褐色シルトと2. 5V5/4黄褐色極細砂の斑土 (0138I)
8. 2. 5V4/2暗灰黄色砂質シルトと10R4/2灰黄褐色シルトの斑土 (0138I)
9. 2. 5V4/2暗灰黄色砂質シルト (遺構)
10. 2. 5V4/1黄灰色砂質シルト 2. 5V4/4オリーブ褐色中粒砂ブロック・炭化物粒少量 (025SD)
11. 2. 5V3/1黒褐色砂質シルト 細礫微量
12. 2. 5V5/2暗灰黄色中粒砂 2. 5V4/4オリーブ褐色シルトブロック中量 (051SD)
13. 2. 5V4/2暗灰黄色砂質シルト 2. 5V5/2暗灰黄色細粒砂ブロック
14. 5V4/2灰オリーブ色砂質シルト (050SK)
15. 2. 5V4/2暗灰黄色砂質シルト (遺構)
16. 2. 5V3/1黒褐色シルト質粘土
17. 2. 5V3/1黒褐色粘質シルト 炭化物粒少量 (077SD)
18. 2. 5V6/3にぶい黄褐色粘質シルト (077SD)
19. 2. 5V5/2暗灰黄色シルト (104SD)
20. 2. 5V3/2黒褐色砂質シルト
21. 2. 5V5/2暗灰黄色シルト 2. 5V5/2暗灰黄色中粒砂少量 (052SK)
22. 2. 5V4/4オリーブ褐色シルト 炭化物粒微量 (026S1)
23. 2. 5V4/2暗灰黄色砂質シルト
24. 2. 5V3/1黒褐色シルトと2. 5V4/4オリーブ褐色細粒砂の斑土 (遺構)
25. 2. 5V3/1黒褐色粘質シルト 炭化物粒・細礫微量含む (058SD)
26. 2. 5V3/2黒褐色シルト (058SD)
27. 2. 5V3/3暗オリーブ褐色粘質シルト (遺構)
28. 2. 5V4/2暗灰黄色砂質シルト 炭化物粒微量 (遺構)
29. 2. 5V3/1黒褐色粘質シルト 炭化物粒中量 (遺構)
30. 2. 5V3/1黒褐色シルト、細礫微量 (遺構)
31. 2. 5V4/2暗灰黄色砂質シルト (遺構)
32. 2. 5V4/4オリーブ褐色中粒砂と2. 5V4/1黄灰色シルトの斑土 (遺構)
33. 2. 5V3/1黒褐色粘質シルトと2. 5V4/1黄灰色シルトの斑土 (遺構)
34. 2. 5V3/1黒褐色粘質シルト 炭化物粒少量
35. 2. 5V4/4オリーブ褐色砂質シルト 細礫微量
36. 2. 5V4/2暗灰黄色砂質シルト
37. 2. 5V4/4オリーブ褐色砂質シルト
38. 5V3/1オリーブ褐色粘土と5V5/1灰中粒砂のラミナ状
39. 7. 5R5/8明褐色極粗粒砂と2. 5V3/2黒褐色細粒砂、5V5/1灰中粒砂のラミナ状
40. 5V4/1灰中粒砂のラミナ状
41. 2. 5V4/3オリーブ褐色砂質シルト
42. 2. 5V4/2暗灰黄色砂質シルト
43. 2. 5V4/2暗灰黄色砂質シルト 炭化物粒少量
44. 2. 5V4/4オリーブ褐色砂質シルト
45. 2. 5V3/1黒褐色粘質シルト
46. 2. 5V4/3オリーブ褐色砂質シルト 細礫微量
47. 5V3/1オリーブ褐色粘土と5V5/1灰中粒砂のラミナ状
48. 2. 5V3/2黒褐色細粒砂 2. 5V6/1黄灰色極細砂のラミナ状
2. 5V4/1黄灰色極細砂、5V5/1灰中粒砂のラミナ状
49. 5V3/1オリーブ褐色粘土と5V5/1灰中粒砂のラミナ状
50. 2. 5V6/1黄灰色極細粒砂 2. 5V4/1黄灰色極細粒砂、7. 5R5/6明褐色極粗粒砂のラミナ状
51. 5V4/1灰中粒砂 2. 5V3/2黒褐色細粒砂のラミナ状
52. 2. 5V4/2暗灰黄色砂質シルト
53. 7. 5R5/8明褐色極粗粒砂、5V5/2灰オリーブ中粒砂、5V4/1灰中粒砂のラミナ状
54. 7. 5R5/8明褐色極粗粒砂と2. 5V3/2黒褐色細粒砂、5V5/1灰中粒砂のラミナ状
55. 5V5/1灰中粒砂
56. 2. 5V4/4オリーブ褐色砂質シルト 細礫微量
57. 2. 5V3/1黒褐色粘質シルト 炭化物粒微量 細礫少量 (遺構)
58. 5V3/1オリーブ褐色粘土
59. 2. 5V3/1黒褐色中粒砂と2. 5V4/4オリーブ褐色砂質シルトのラミナ状
60. 2. 5V4/4オリーブ褐色砂質シルト 細礫微量
61. 2. 5V4/1暗オリーブ灰色細粒砂 10R4/6褐色シルトとの互層状堆積 細礫、木製品、自然木を含む (110NR)
62. 2. 5V4/1暗オリーブ灰色細粒砂 10R3/3暗褐色シルトとの互層状堆積 (110NR)

図 26 16C区 南壁面 土層断面図 (1/100)

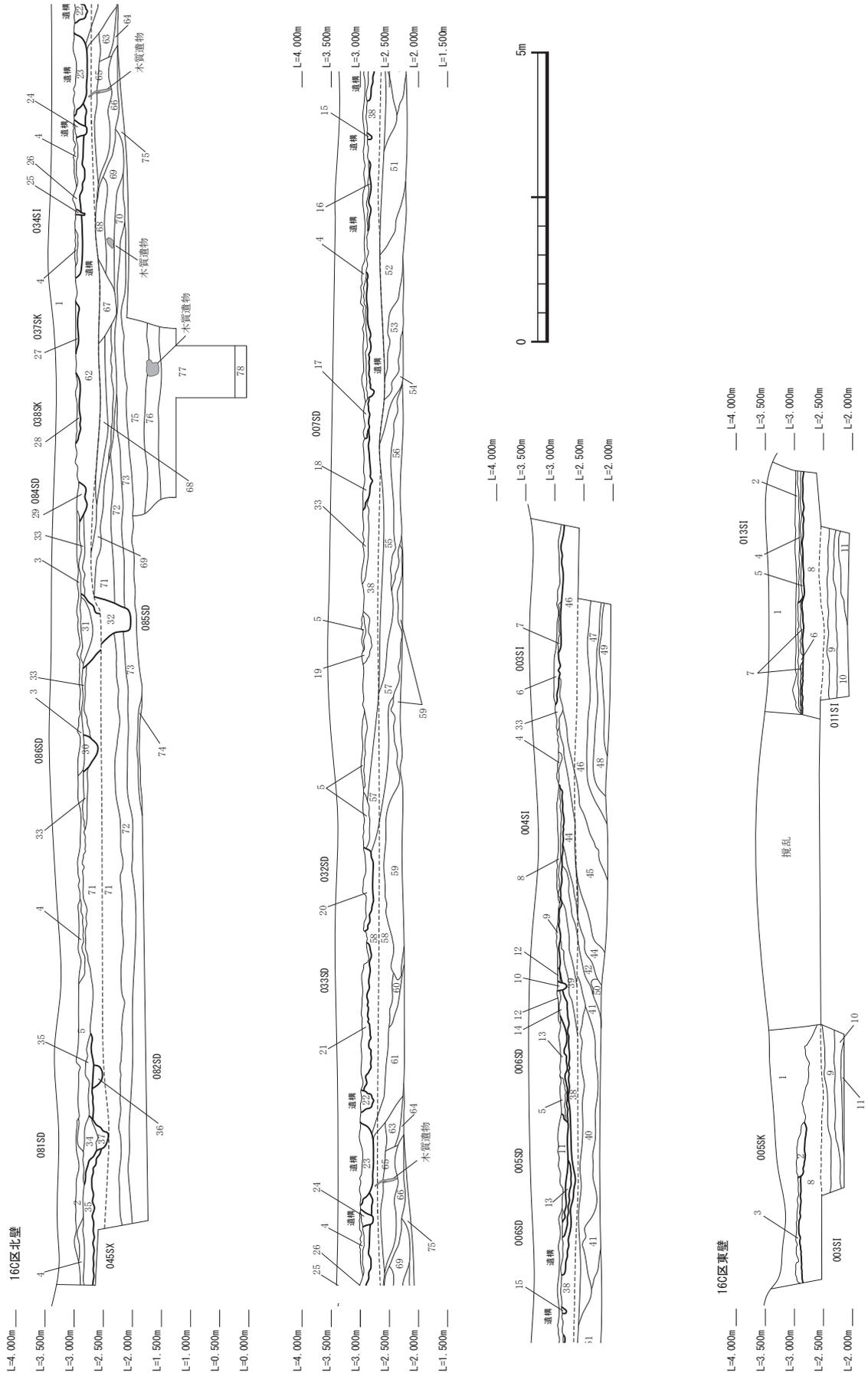


图 27 16C区北・東壁面 土層断面图 (1/100)

16C 区北壁

2. 5Y3/2黒褐色砂質シルト 2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルトブロック、極細～細粒砂、細礫
2. 5Y5/1黄灰色砂質シルト 細礫少量
2. 5Y3/1黒褐色砂質シルト 細礫微量
2. 5Y4/2灰オリブ褐色砂質シルト
2. 5Y3/1黒褐色シルト質粘土
2. 5Y4/1黄灰色シルト 細粒砂層状に少量(003SI)
2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト(003SI)
- 10YR4/2灰黄褐色シルト
2. 5Y5/4黄褐色極細粒砂を斑状に多量(004SI)
2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト 10YR4/2灰黄褐色シルトブロック状を含む炭化物粒微量(004SI)
2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト(遺構)
2. 5Y4/4オリブ褐色細粒砂ブロック・炭化物粒(005SD)
2. 5Y3/1黒褐色粘質シルト 炭化物粒少量(006SD)
2. 5Y6/3にぶい黄色粘質シルト(006SD)
2. 5Y3/2黒褐色砂質シルト 炭化物粒中量(006SD)
2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト(遺構)
2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト(遺構)
2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト 10YR4/2灰黄褐色シルトブロック状に微量(遺構)
2. 5Y4/4オリブ褐色中粒砂 2. 5Y4/1黄灰色シルトブロック多量含む(007SD)
2. 5Y4/4オリブ褐色中粒砂 2. 5Y4/1黄灰色シルトブロック多量含む(007SD)
2. 5Y5/4黄褐色シルト 2. 5Y3/2黒褐色シルトブロック多量(032SD)
2. 5Y3/1黒褐色シルト 細礫微量(033SD)
2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト(遺構)
2. 5Y4/4オリブ褐色中粒砂 2. 5Y4/1黄灰色シルトブロック微量(遺構)
2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト(遺構)
2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト 炭化物粒微量(遺構)
2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト 10YR4/2灰黄褐色シルトブロック状に微量炭化物粒微量(034SI)
2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト(037SK)
2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト(038SK)
2. 5Y3/3暗オリブ褐色シルト(084SD)
2. 5Y3/1黒褐色砂質シルト(086SD)
2. 5Y3/3暗オリブ褐色粘質シルト(085SD)
2. 5Y3/1黒褐色粘質シルト 炭化物粒・細礫微量含む(085SD)
2. 5Y3/1黒褐色粘質シルト 細礫微量
2. 5Y4/1黄灰色砂質シルト
2. 5Y4/1黄灰色シルト 細礫微量(045SX)
2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト(082SD)
2. 5Y5/2暗灰黄色シルト(081SD)
2. 5Y4/4オリブ褐色砂質シルト
2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト
2. 5Y6/1黄灰色極細粒砂 2. 5Y4/1黄灰色極細粒砂、7. 5YR5/8明褐色極粗粒砂のラミナ状

16C 区東壁

2. 5Y3/2黒褐色砂質シルト 2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルトブロック、極細～細粒砂、細礫
2. 5Y5/1黄灰色砂質シルト 細礫少量(005SK)
2. 5Y4/1黄灰色シルト 細粒砂層状に少量(003SI)
- 10YR4/2灰黄褐色シルトと2. 5Y5/4黄褐色極細粒砂を斑状に多量(013SI)
2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト 10YR4/2灰黄褐色シルトブロック微量(013SI)
- 10YR4/2灰黄褐色シルトと2. 5Y5/4黄褐色極細粒砂を斑状に多量(011SI)
2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト 10YR4/2灰黄褐色シルトブロック状を含む炭化物粒微量(011SI)
2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト 細礫微量
2. 5Y3/1黒褐色粘質シルト
2. 5Y3/1オリブ黒色粘土と5Y5/1灰色中粒砂のラミナ状
- 5Y4/1暗オリブ灰色 木製品を含む細粒砂(110NR)

図 28 16C 区 北・東壁面 土層断面注記

16C- 下層自然流路の調査(図 29) 調査区西寄の範囲下層で木製品(加工材)を検出した。一帯に遺物を含む自然流路堆積層の存在が想定されたため、改めて調査を行った。作業の安全等を考慮して、中央の攪乱の北側で幅 2.8m、長さ 16.7m、南側で幅 1.9m、長さ 11m のトレンチ状に調査範囲を設定した。木質遺物(木製品、加工材と自然木)は標高 1.79～2.23m で確認され、堆積層でも西側への傾斜が認められた。北側のトレンチ(図 27)に集中して見つかった遺物は、北東から南西へ流れる自然流路の左岸付近に流れ着いたものと考えられる。製品には曲柄鋏・膝柄・掘り棒、鎌柄、櫂が含まれ、柱、杭、板など加工材がある(第 3 章 6, 図 73, 74)。

16C-006SD・077SD(図 30) 検出面で幅 4.5～5.1m、深さ約 20cm を測る断面皿状を呈する大溝である。主軸方位は N-65° -E となる両者は連続する溝であり、攪乱北側を 006SD、同南側を 077SD として記録した。暗褐色～黒褐色粘土質土を埋土とし、少量の炭化物粒を含む。溝の底面に近いところで古墳時代中期の土師器台付甕、高杯、壺など(133～151)がややまとまって出土している。ほぼ正方位をとる溝 005SD に切られる。

16C-081～083SD(図 31) 攪乱北側の西端部分下層で検出された溝群であり、シルト～砂質土を埋土と

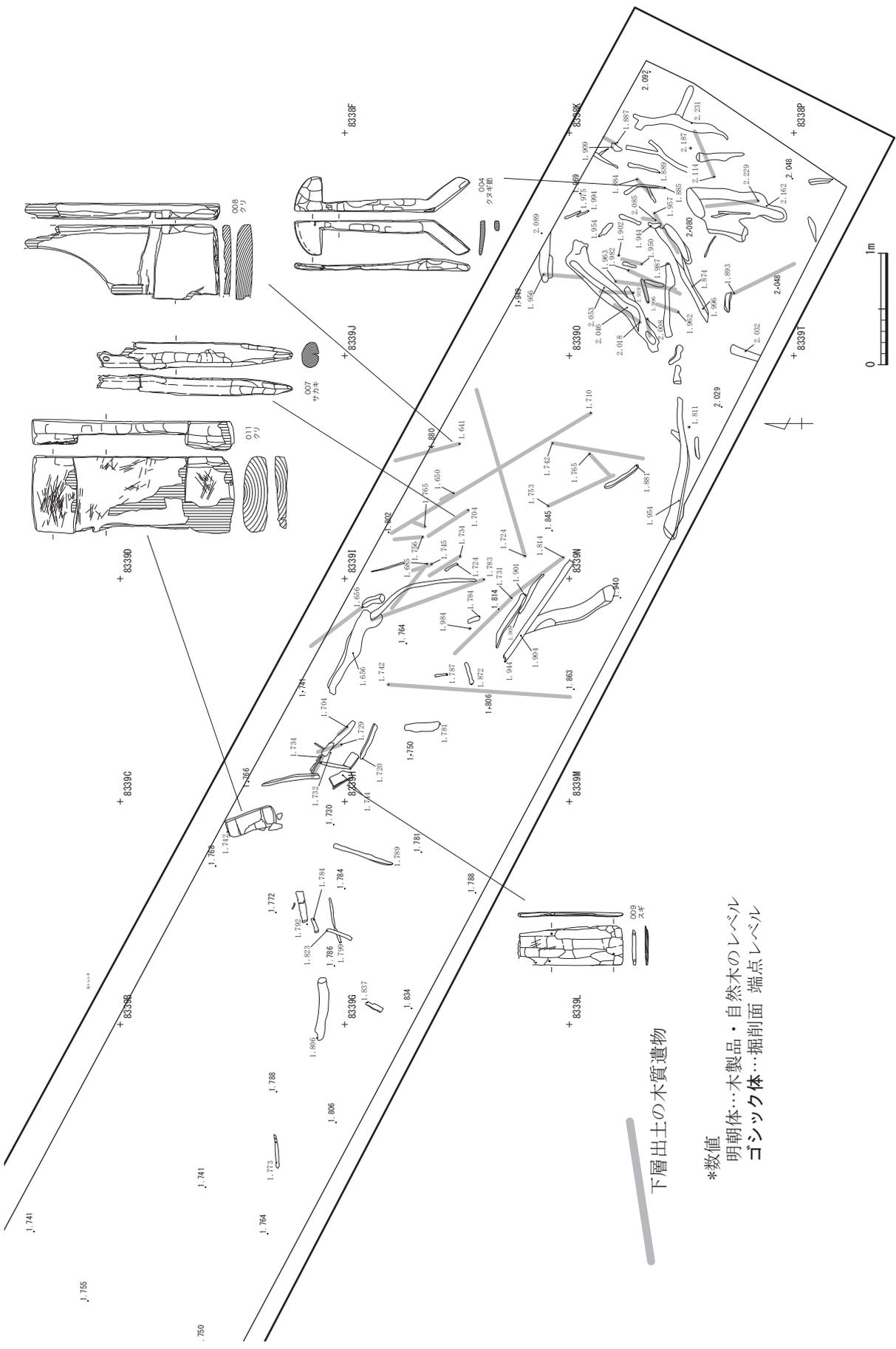


図 29 16C区 北トレンチ 下層自然流路木製品出土状況 (1/50)

下層出土の木質遺物

*数値
 明朝体…木製品・自然木のレベール
 ゴシック体…掘削面 端点レベール

する。上部を 044SK と須恵器・山茶碗片を含む 045SX に切られる。081SD は幅 48cm、深さ約 20cm で須恵器を含む。古代。082SD は幅 55cm、深さ約 20cm、083SD は幅 73cm、深さ約 25cm で 081SD に切られる。出土遺物に高台内に十字の線刻をもつ須恵器長頸瓶（476）がある。

16C-076SX・104 ~ 106SD（図 34）攪乱南側西端部の下層で検出された遺構群である。076SX は西に向かって深くなる浅い落ち込みであり、最深部で 26cm を測り、暗灰色～黒褐色粘土質土を埋土とする。埋土の様相は若干異なるが攪乱北側の 045SX に対応する遺構の可能性も考えられる。こちらでは須恵器横瓶、土師器高杯が出土した。104SD は 076SX が埋積する間に掘り込まれた幅 28cm、深さ 6cm 程度の溝で、105SD・106SD は 076SX に先行する幅 36cm、幅 8cm 前後の溝であり、一旦途切れる部分があるが、位置や形状から一連の溝と考えられる。104SD にほぼ平行する。ただし攪乱北側の溝 081 ~ 083SD との対応関係は確定できない。

16C-084SD・085SD（図 31）断面図は攪乱北側部分のもので、084SD は幅 43cm、深さ 7cm、中世の遺物を含む。上部を中世の溝 039SD に切られる。085SD は幅 1.1m、深さ 76cm、断面は上端が開く U 字状を呈し、攪乱南側 058SD に繋がる。方位は N-22° -E。埋土は暗褐色の粘土と砂質土の互層からなり、微量の炭化物を含む。須恵器・土器片を含む。084SD に切られる。

16C-003SI（図 32）位置は攪乱北側の調査区東端にあたる。竪穴建物と推定される浅い落ち込みであり、西辺を含む一部を確認した。残存部分で南北 2.7m、東西 2.9m を測る。細粒砂を層状に含む黄灰色シルトを埋土とし、標高 2.8m 前後の掘り方の底面付近でピット数基を検出した。このうち 087SP、088SP は断面の柱痕が確認できたもので、埋土に微量の炭化物を含む。003SI では灰釉陶器と土器小片が出土した。002SK に切られる。

16C-004SI（図 32）竪穴建物と推定される浅い落ち込みであり、東辺を含む一部を確認した。残存部分で東西 4.1m、南北 2.4m、深さ約 6cm を測る。掘方の底面標高は 2.8m 前後である。埋土には暗灰色砂質シルトに灰黄褐色シルトが斑に混じり、床面の残存である可能性がある。微量の炭化物粒、須恵器・土器片を含む。底面付近で数基のピットを検出した。

16C-011SI（図 33）攪乱南側の調査区東端に位置する。竪穴建物と推定される浅い落ち込みであり、西のコーナーを含む一部を確認した。残存部分で 2.3m、1.9m、深さ約 5cm を測る。灰黄褐色シルト、細粒砂の斑土を覆土とし、掘方の底面は標高 2.8m 前後、直上に微量の炭化物を含むシルト質の斑土が堆積する。灰釉陶器、土師器高杯・甕が出土した。013SI に切られる。

16C-013SI（図 33）竪穴建物と推定される浅い落ち込みであり、北辺を含む一部を確認した。011SI を切り、正方位に近い向きの溝 014SD に切られる。残存部分で南北 2.1m、東西 1.8m、深さ約 7cm を測る。須恵器・土器片、チャート礫が出土した。標高 2.9m 前後の掘方底面でピット 3 基を検出し、このうち 089SP は断面に柱痕を確認した。

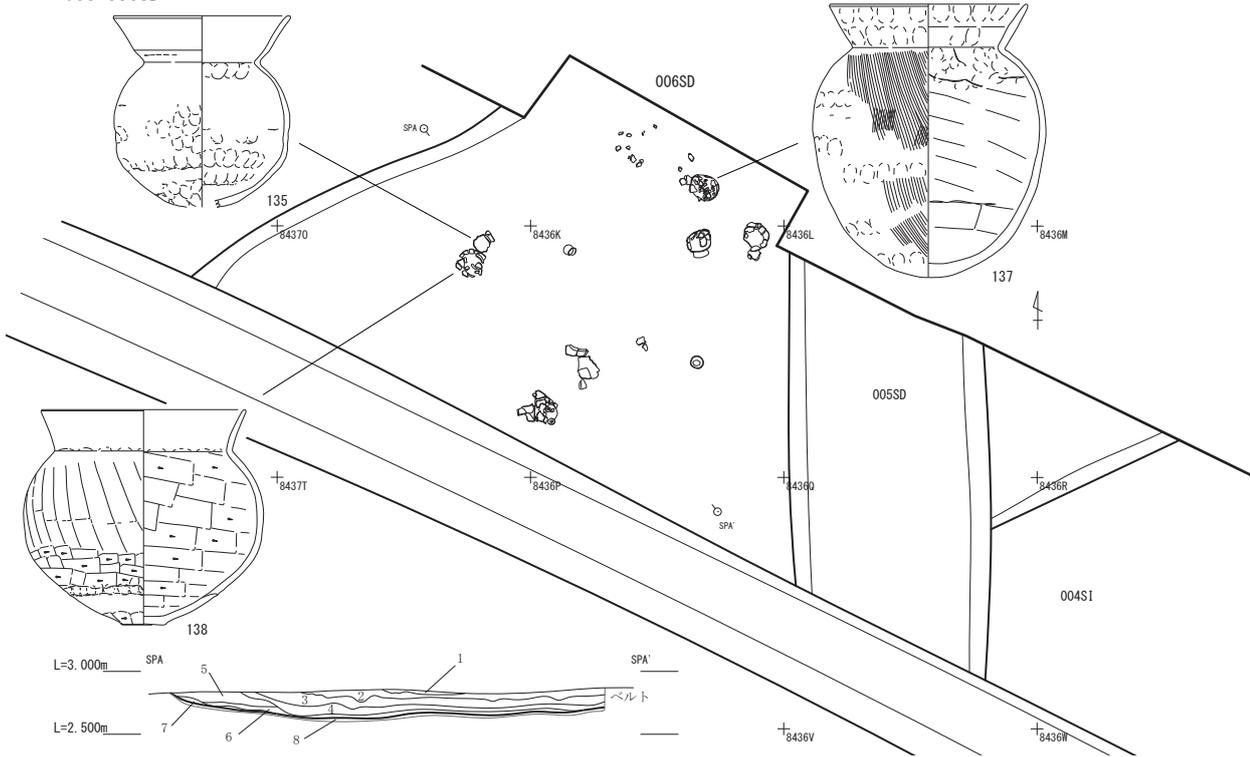
16C-026SI（図 33）攪乱南側で検出した浅い落ち込みである。ほぼ正方位の軸線方向をとる方形土坑と推定され、北西角の一部を確認した。残存部分で、2.7m、2.0m、深さ約 10cm を測る。覆土に微量の炭化物を含み、掘方底面は標高 2.75m 前後、正方位に近い南北方向の溝 025SD に切られる。

16C-030SK（図 34）攪乱北側で検出した長軸 1.8m、短軸 1.6m、深さ 35cm を測る楕円形の土坑であり、底部に平らな面をもつ。炭化物を少量含む黒褐色粘土質土を埋土とし、須恵器、土師器甕片が出土した。須恵器、土師器高杯を含む小土坑 029SK を切る。

16C-065SK（図 34）攪乱南側の西部で検出した隅丸方形の土坑で、北半が楕円形状に深くなり、平らな底面をもつ。南北 1.5m、東西 1.2m、北半で深さ 25cm を測り、砂質シルトと細粒砂の斑土を埋土とする。須恵器、土器の小片が出土した。

16C-005SD・014SD/007SD・025SD（図 34）平行する南北方向 2 条の溝であり、攪乱を挟んで 005・

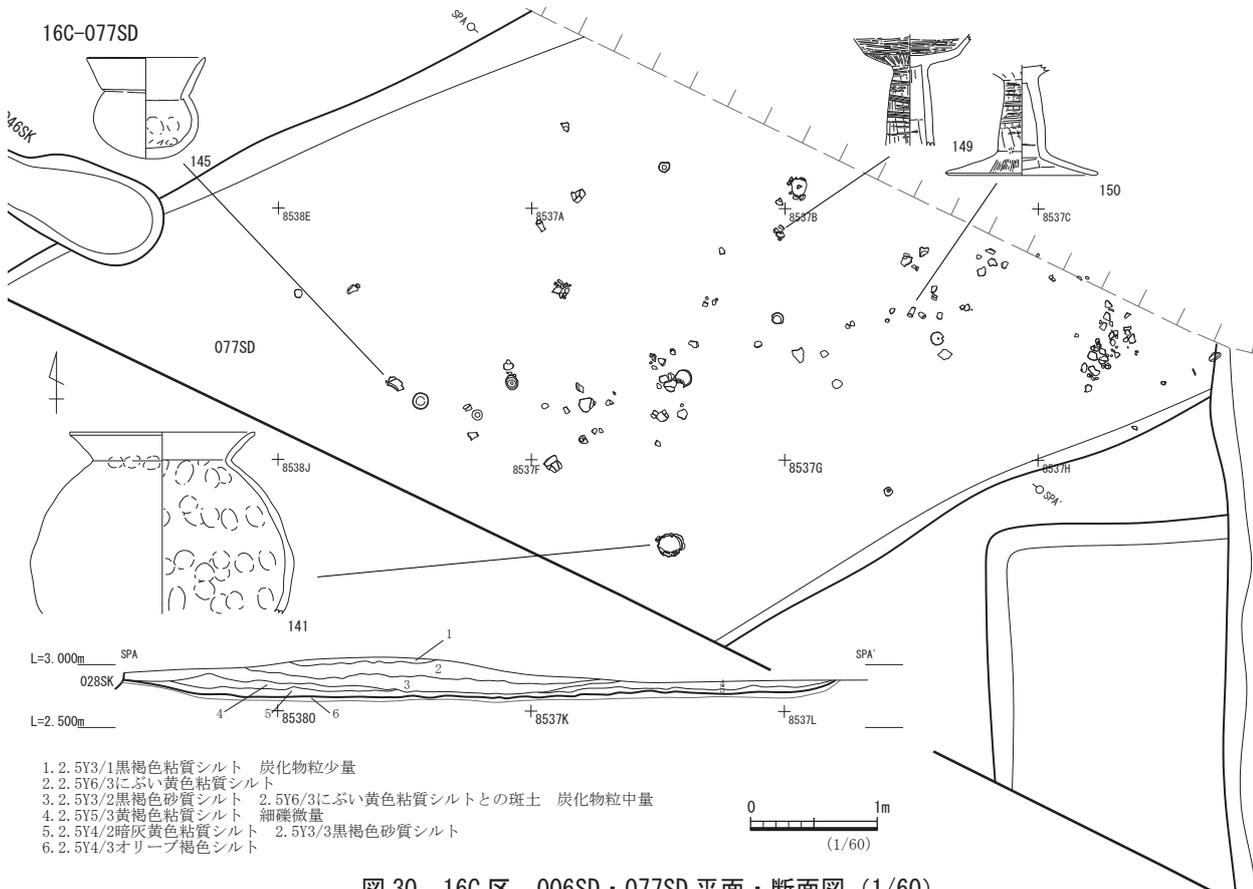
16C-006SD



1. 10YR3/4暗褐色砂質シルト (攪乱)
2. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト 炭化物粒少量
3. 2.5Y6/3こぶい黄色粘質シルト
4. 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト 2.5Y6/3にぶい黄色粘質シルトとの斑土 炭化物粒中量
5. 2.5Y4/2暗灰黄色粘質シルト
6. 2.5Y4/3オリブ褐色シルト
7. 2.5Y4/4オリブ褐色砂質シルト
8. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト



16C-077SD

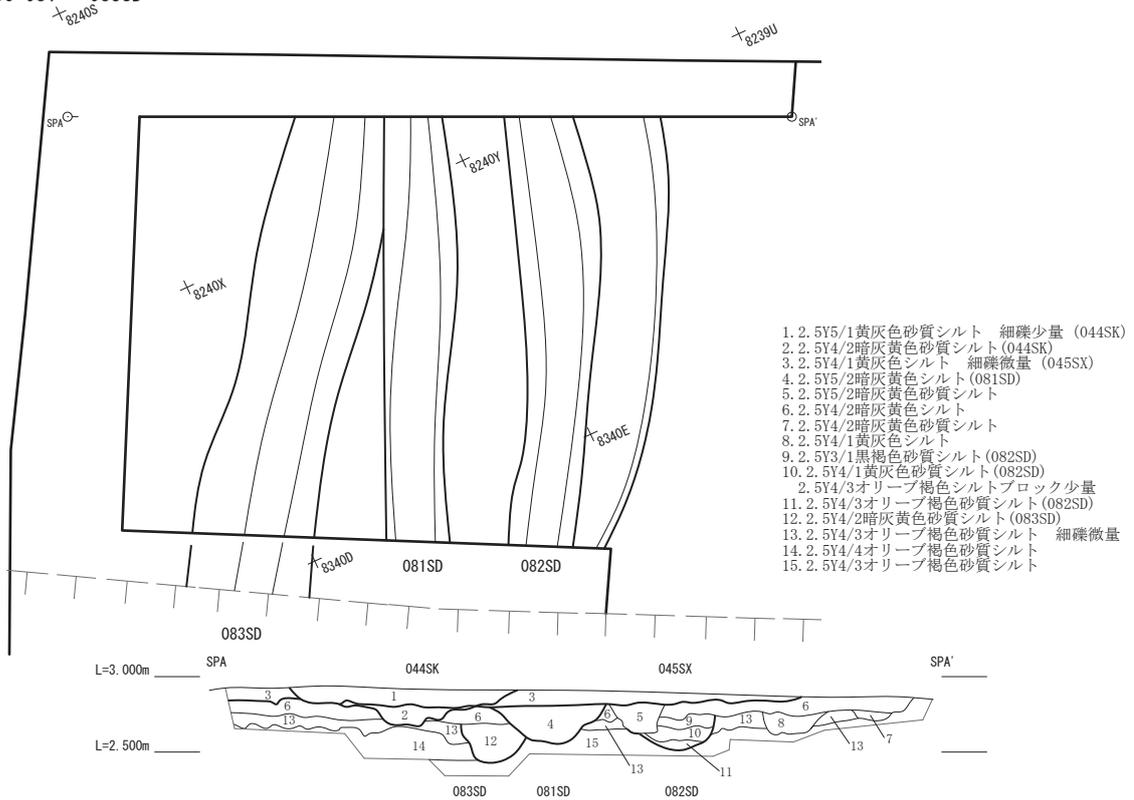


1. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト 炭化物粒少量
2. 2.5Y6/3こぶい黄色粘質シルト
3. 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト 2.5Y6/3にぶい黄色粘質シルトとの斑土 炭化物粒中量
4. 2.5Y5/3黄褐色粘質シルト 細礫微量
5. 2.5Y4/2暗灰黄色粘質シルト 2.5Y3/3黒褐色砂質シルト
6. 2.5Y4/3オリブ褐色シルト



図 30 16C 区 006SD・077SD 平面・断面図 (1/60)

16C-081 ~ 083SD



16C-084SD・085SD

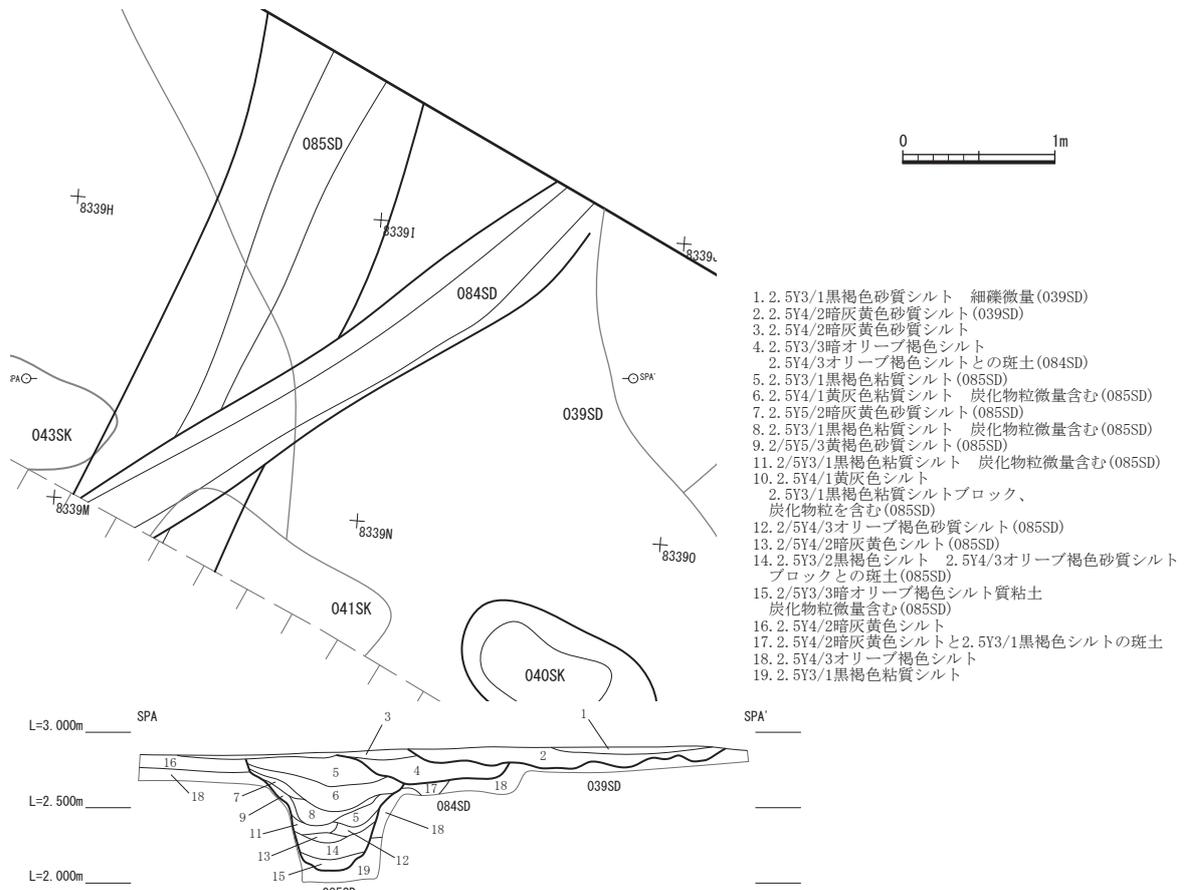
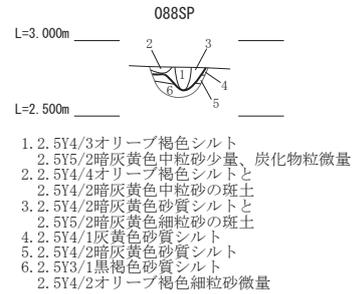
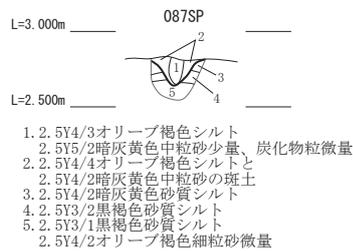
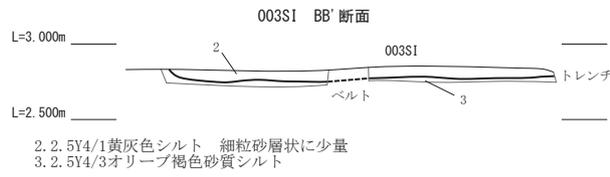
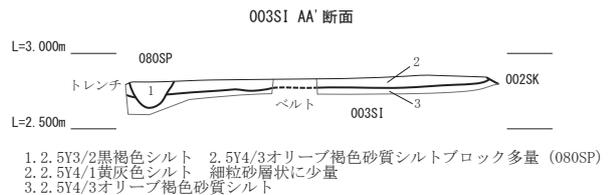
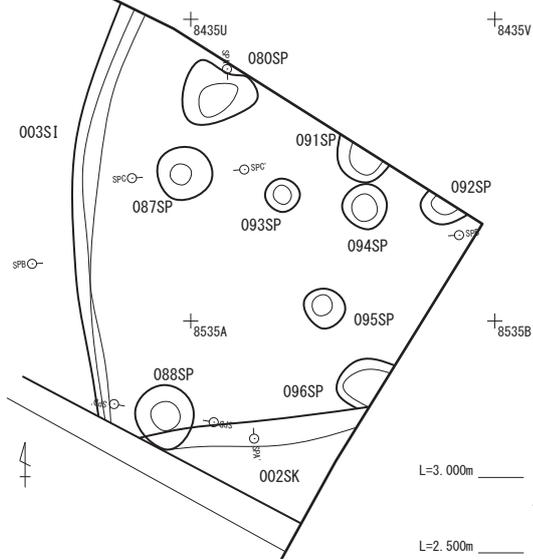


図31 16C区 主要遺構 平面・断面図1 (1/50)

16C-003SI



16C-004SI

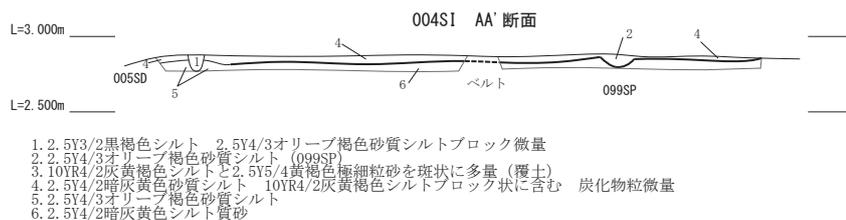
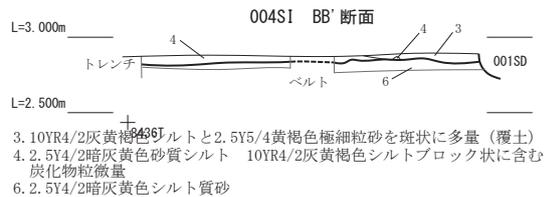
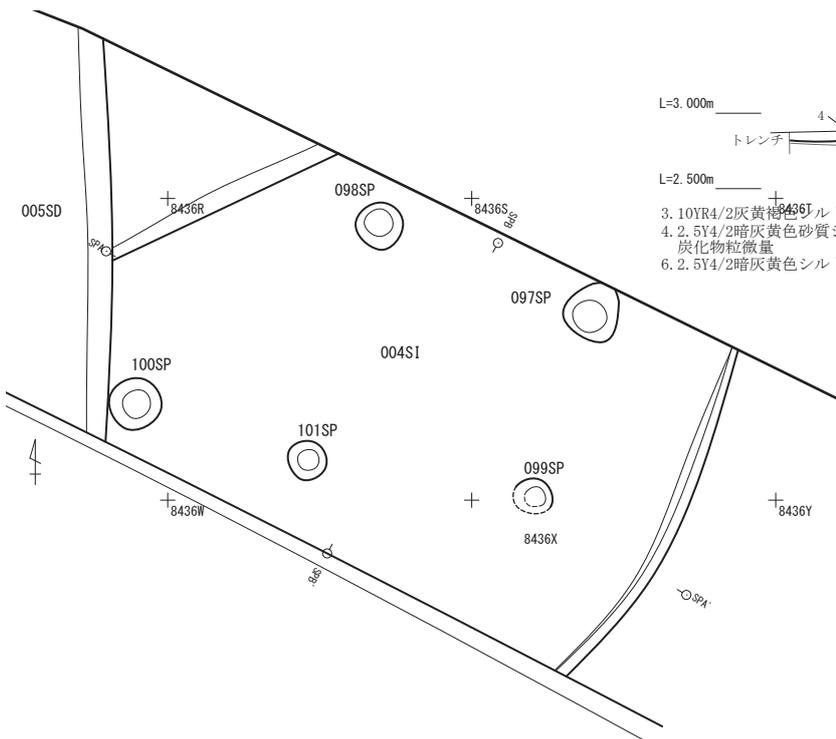
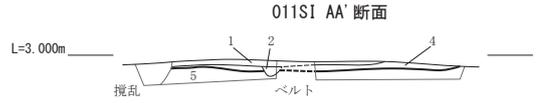
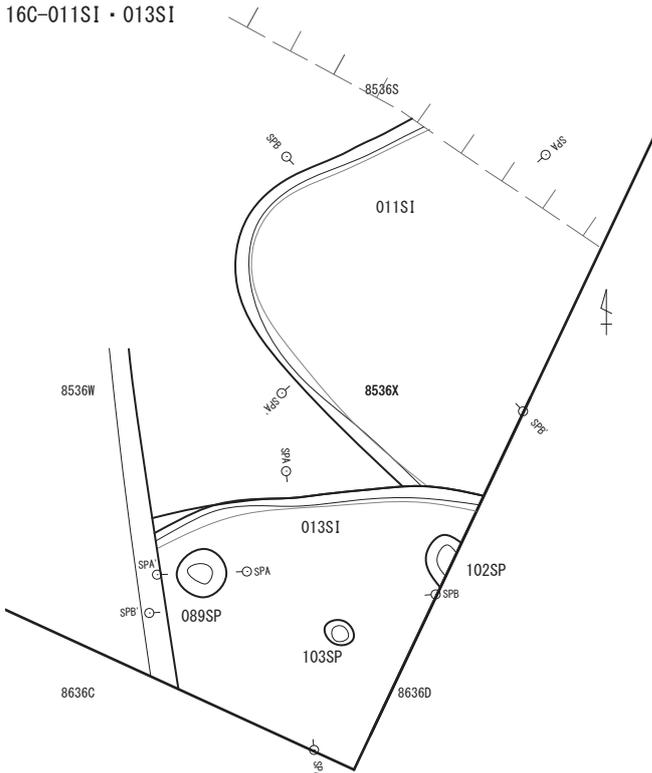
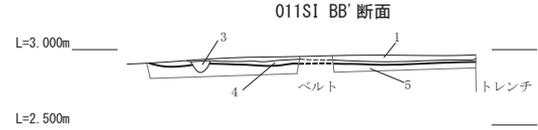


図 32 16C 区 003SI・004SI 平面・断面図 (1/50)

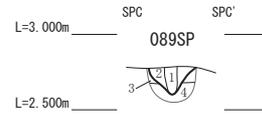
16C-011SI・013SI



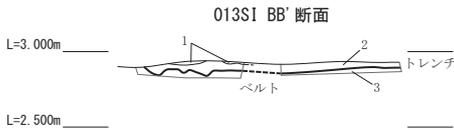
1. 10YR4/2灰黄褐色シルトと2. 5Y5/4黄褐色極細粒砂を斑状に多量（覆土）
2. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト
2. 5Y3/3暗オリブ褐色シルトブロック少量
4. 2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト
- 10YR4/2灰黄褐色シルトとの斑土 炭化物粒微量（掘方）
5. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト



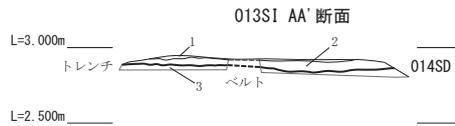
1. 10YR4/2灰黄褐色シルトと
2. 5Y5/4黄褐色極細粒砂を斑状に多量（覆土）
3. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト
4. 2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト
- 10YR4/2灰黄褐色シルトとの斑土 炭化物粒微量（掘方）
5. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト



1. 2. 5Y4/3オリブ褐色シルト
2. 5Y5/2暗灰黄色中粒砂少量、炭化物粒微量
2. 2. 5Y4/4オリブ褐色シルト
2. 5Y4/2暗灰黄色中粒砂少量、炭化物粒微量
3. 2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト
4. 2. 5Y4/1灰黄色砂質シルト



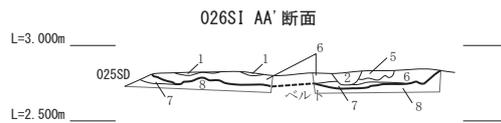
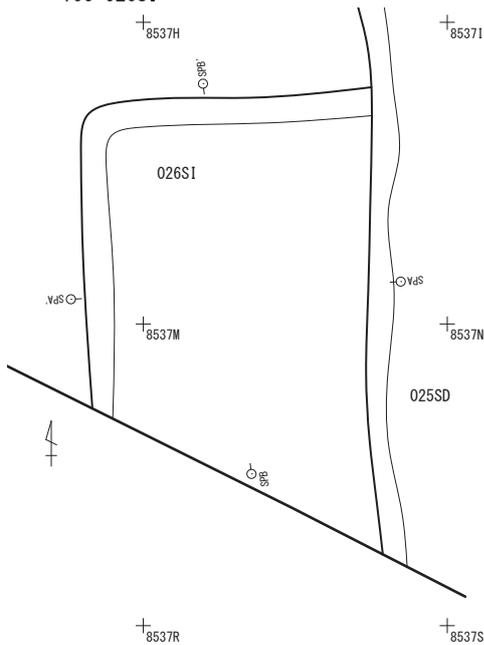
1. 10YR4/2灰黄褐色シルトと
2. 5Y5/4黄褐色極細粒砂を斑状に多量（覆土）
2. 2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト
- 10YR4/2灰黄褐色シルトブロック微量
3. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト



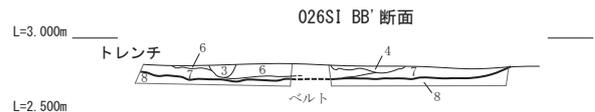
1. 10YR4/2灰黄褐色シルトと
2. 5Y5/4黄褐色極細粒砂を斑状に多量（覆土）
2. 2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト
- 10YR4/2灰黄褐色シルトブロック微量
3. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト



16C-026SI



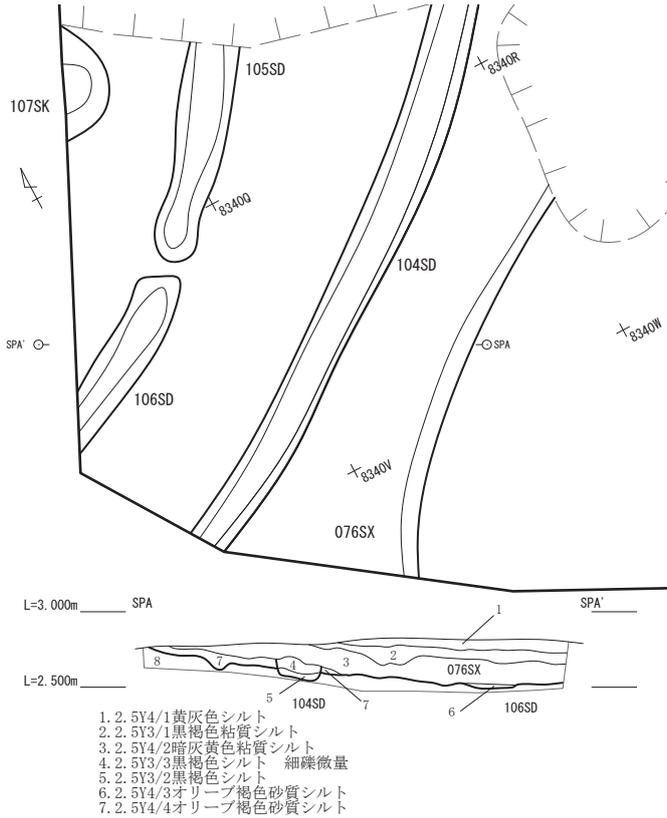
1. 2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト 炭化物粒微量（覆土）
2. 2. 5Y4/1黄灰色シルト
2. 5Y4/4オリブ褐色細粒砂ブロック（住居内遺構）
3. 2. 5Y4/1黄灰色シルト 2. 5Y4/4オリブ褐色細粒砂ブロック
- 細礫・炭化物粒微量（住居内遺構）
4. 2. 5Y3/1黒褐色シルト 2. 5Y4/4オリブ褐色細粒砂ブロック少量
- 細礫・炭化物粒微量（住居内遺構）
5. 2. 5Y3/1黒褐色シルト 2. 5Y4/4オリブ褐色細粒砂ブロック（掘方）
6. 2. 5Y4/3オリブ褐色シルト
2. 5Y3/1黒褐色砂質シルトブロック（掘方）
7. 2. 5Y4/3オリブ褐色シルト
2. 5Y3/1黒褐色砂質シルトブロック少量（掘方）
8. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト



3. 2. 5Y4/1黄灰色シルト 2. 5Y4/4オリブ褐色細粒砂ブロック
- 細礫・炭化物粒微量（住居内遺構）
4. 2. 5Y3/1黒褐色シルト 2. 5Y4/4オリブ褐色細粒砂ブロック少量
- 細礫・炭化物粒微量（住居内遺構）
6. 2. 5Y4/3オリブ褐色シルト 2. 5Y3/1黒褐色砂質シルトブロック（掘方）
7. 2. 5Y4/3オリブ褐色シルト 2. 5Y3/1黒褐色砂質シルトブロック少量（掘方）
8. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト

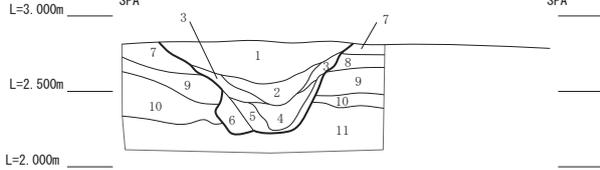
図 33 16C 区 011SI・013SI・026SI 平面・断面図 (1/50)

16C-104 ~ 106SD, 107SK



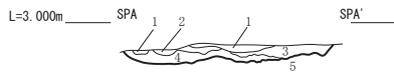
1. 2. 5Y4/1黄灰色シルト
2. 2. 5Y3/1黒褐色粘質シルト
3. 2. 5Y4/2暗灰黄色粘質シルト
4. 2. 5Y3/3黒褐色シルト 細礫微量
5. 2. 5Y3/2黒褐色シルト
6. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト
7. 2. 5Y4/4オリブ褐色砂質シルト

16C-058SD



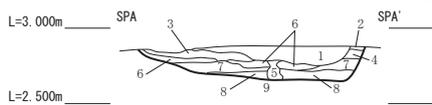
1. 2. 5Y3/1黒褐色粘質シルト 炭化物粒・細礫微量含む
2. 2. 5Y3/3暗オリブ褐色粘質シルト
3. 2. 5Y4/3オリブ褐色粘質シルト 2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルトとの斑土
4. 2. 5Y3/1黒褐色シルト質粘土 2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルトとの斑土 炭化物微量含む
5. 2. 5Y4/2暗灰黄色シルト質粘土
6. 2. 5Y3/1黒褐色シルト 2. 5Y4/4オリブ褐色砂質シルトとの斑土 炭化物粒・細礫微量含む
7. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト
8. 2. 5Y4/4オリブ褐色砂質シルト
9. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト
10. 2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト
11. 2. 5Y3/1黒褐色粘質シルト

16C-025SD



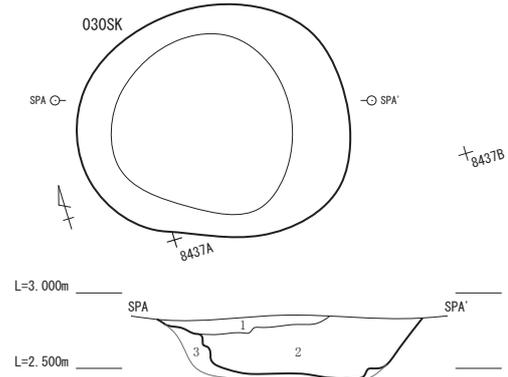
1. 2. 5Y4/1黄灰色砂質シルト
2. 5Y4/4オリブ褐色細粒砂ブロック・炭化物粒少量
3. 2. 5Y3/1黒褐色シルト 2. 5Y6/3にぶい黄色粗粒砂
4. 2. 5Y4/3オリブ褐色極細粒砂
5. 2. 5Y4/1黄灰色シルトブロック多量
6. 2. 5Y4/2暗灰黄色細粒砂
7. 2. 5Y4/1黄灰色シルトブロック少量
8. 2. 5Y4/4オリブ褐色砂質シルト

16C-32SD



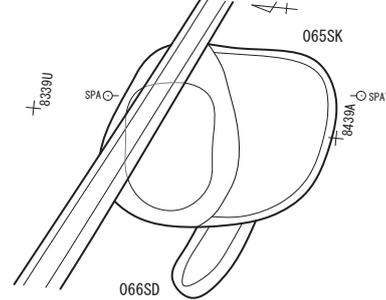
1. 2. 5Y5/4黄褐色シルト 2. 5Y3/2黒褐色シルトブロック多量
2. 2. 5Y3/2黒褐色シルト 2. 5Y5/1黄灰色中粒砂との互層状堆積
3. 2. 5Y4/1黄灰色細粒砂
4. 2. 5Y5/2暗灰黄色細粒砂
5. 2. 5Y4/4オリブ褐色砂質シルト
6. 2. 5Y4/4オリブ褐色砂質シルト
7. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト
8. 2. 5Y4/4オリブ褐色砂質シルト
9. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト

16C-030SK



1. 2. 5Y3/2黒褐色粘質シルト
2. 2. 5Y3/2黒褐色粘質シルトと 2. 5Y5/2暗灰黄色砂質シルトの斑土 炭化物粒少量
3. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト

16C-065SK



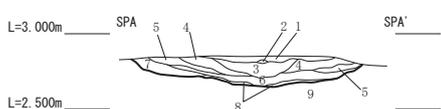
1. 2. 5Y5/4黄褐色細粒砂 細礫微量
2. 2. 5Y4/2暗灰黄色砂質シルト
2. 5Y4/4オリブ褐色中粒砂との斑土
3. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト

16C-005SI



1. 2. 5Y4/2暗灰黄色粘質シルト
2. 5Y4/4オリブ褐色細粒砂ブロック・炭化物粒
2. 2. 5Y4/1黄灰色シルト 細粒砂層状に少量
3. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト
4. 2. 5Y6/3にぶい黄色粗粒砂 (噴砂か?)

16C-014SD



1. 2. 5Y4/4オリブ褐色砂質シルト
2. 5Y4/6オリブ褐色中粒砂層状に微量
2. 2. 5Y5/3黄褐色中粒砂
3. 2. 5Y5/2暗灰黄色シルト
2. 5Y6/3にぶい黄色細粒砂層状に含む
4. 2. 5Y5/2暗灰黄色シルト
2. 5Y6/3にぶい黄色細粒砂を斑状に多量
5. 2. 5Y4/2暗灰黄色細粒砂 ラミナ状
6. 2. 5Y4/6黄褐色シルト
2. 5Y5/2暗灰黄色細粒砂多量
7. 2. 5Y6/3にぶい黄褐色粗粒砂
8. 2. 5Y4/3オリブ褐色砂質シルト
9. 2. 5Y4/4オリブ褐色砂質シルト



図34 16C区 主要遺構 平面・断面図2 (1/50)

014SD、007・025SD がそれぞれ対応して連続する溝である。幅は前者が約 1.7m、深さ 12cm 前後、後者の幅は約 1.4m、深さ 12cm 前後の規模である。時期を確定する出土資料に乏しく、005SD より土器高杯片が出土しているが重複する 006SD 遺物の混入と思われる。

16C-032SD (図 34) 攪乱北側で検出した幅 1.7m、深さ 23cm の溝である。埋土は砂質シルトと細粒砂の互層となる。位置、埋土等より攪乱南側の 049SX と対応する可能性がある。出土遺物は土器小片のみで、時期は確定できない。

16C-033SD・039SD (図 35) 攪乱北側で検出した。033SD は幅 1.7m、深さ 13cm を測る北東-南西方向の溝で、黒褐色～暗灰色シルト、灰黄色砂質土を埋土とする。灰釉陶器、山茶碗が出土した。攪乱南側ではこれに対応する遺構がなく、033SD の西端付近には直交する向きの 039SD が北西へのびる。こちらは幅 1.3m、深さ約 15cm、底面の標高は 2.8m 前後であり、埋土の状況も大きく異なるものではない。もし両者が繋がるとすれば L 字状の区画を形成すると考えられる。

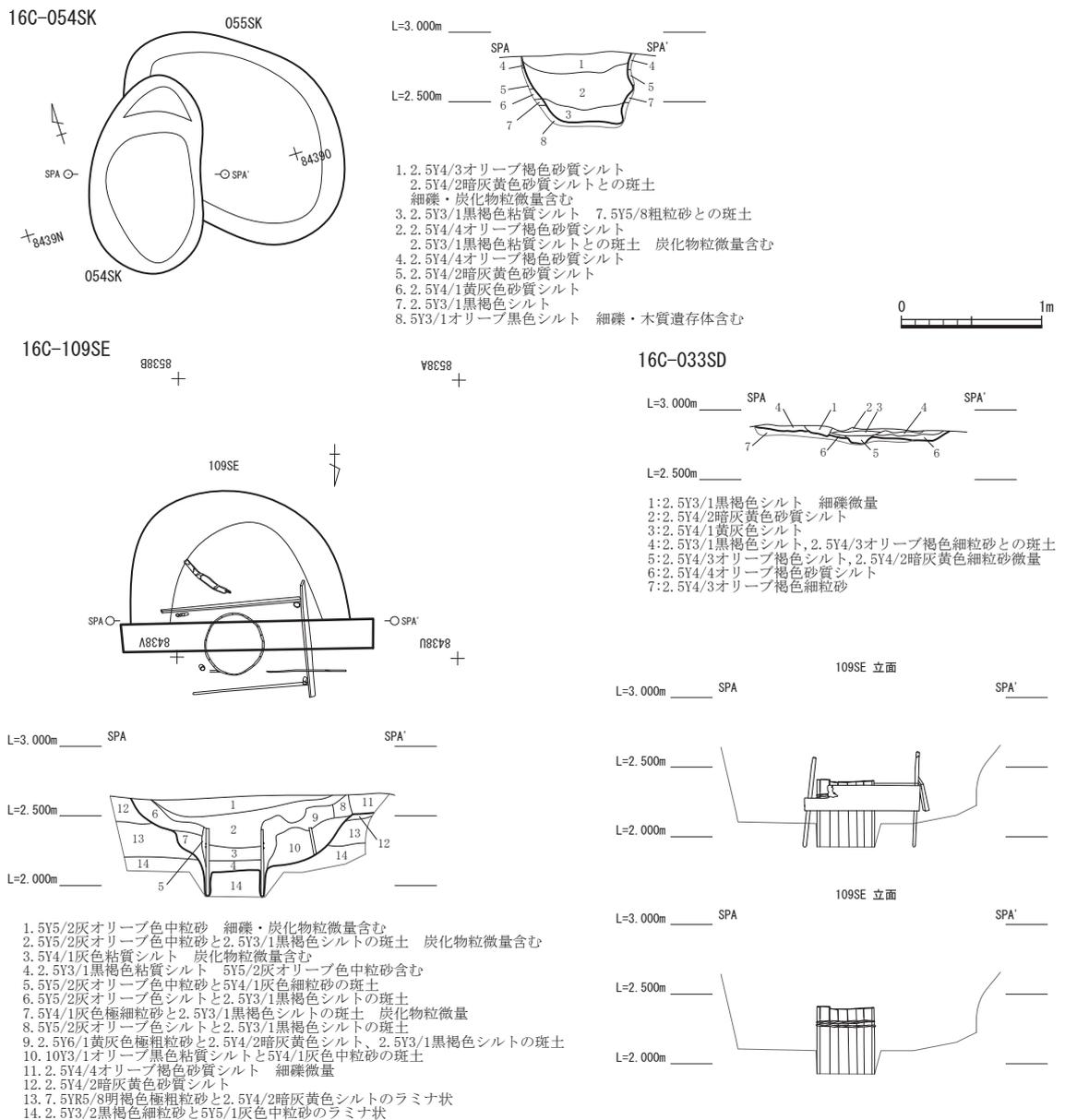


図 35 16C 区 主要遺構 平面・断面図 3 (1/50)

16C-054SK・055SK (図 35) 攪乱南側で検出した楕円形土坑である。054SK は長軸 1.4m、短軸 0.8m、深さ 53cm を測り、埋土は微量の炭化物を含む黒褐色粘土質土と褐色砂質土の斑土からなる 3 層が認められた。054SK に先行する 055SK は長軸 1.8m、短軸 1.3m、深さ 13cm を測り、微量の炭化物を含む灰黄色砂質土を埋土とする。山茶碗、土器鍋片が出土した。

16C-109SE (図 35) 攪乱南側で検出した井戸である。掘方は直径約 1.6m の円形を呈する。井戸側は一辺 1.6 ～ 2.0m の板材を横に用いた方形横板式で 3 方の下位の板材と隅柱が遺存していた。東側が若干移動している可能性もあるが、隅柱間の距離は 1.2m、1.6m と正方形とはなっていない。内部には円形結物桶 1 段が据えられていた。桶は 19 枚の板を組み合わせた直径 40 ～ 45cm、高さ約 50cm、底板が抜かれたもので、竹製の箍は上位のみが残る。桶の表面に屋号を示す焼印と墨書*があり、近世以降の資料と思われる。(※なお横位にして書かれていた墨書は、整理作業の段階には退色が進み判読不能の状態であった。)

(4) 16D 区 (図 36, 37)

表土以下水田耕作土(上下 2 層)と床土層を除去して検出面となる。西側の 16C 区から続く微高地であり、標高約 3.0m で黄灰色シルト～粘土質土を掘り込む中世と奈良・平安時代の遺構を検出した。また調査区中央やや西寄りの範囲に広く灰黄色粘土～シルトが堆積し、その下の標高 2.7m でも古墳時代の溝を確認した。

16D-100SD・117SD (図 38) 両者は下層調査で確認できた北東-南西方向の溝である。攪乱北側の 117SD と南側の 100SD が連続する溝と考えられる。検出面で幅 1.2 ～ 1.5m、深さ 14 ～ 28cm であり、断面は皿状を呈する。溝底面のレベルは南側が深くなっている。少量の炭化物を含み、シルトを含む粘土質土を埋土とする。出土遺物(480 ～ 483, S-19)は須恵器、土師器甕、緑泥片岩の小片などがある。

16D-090SK (図 39) 攪乱北側の西端で当初上端では 079SI として検出した不整円形の土坑である。長軸 3.1m、短軸 2.6m、深さ 56cm を測る。埋土は灰褐色シルトを主にした斑土であり、埋積の途中で西側から炭化物をやや多く含む土が入りその後は一気に埋められている。遺構の重複状況は明確に掴めなかったが、出土遺物(490 ～ 507)には時期幅が認められる。7 世紀代を中心とした須恵器、土師器、凝灰岩礫(S-20)などが下層から上層まで含まれる。

16D-034SD・026SD (図 39) 攪乱北側の 026SD と南側の 034SD は北東-南西方向の溝であり、連続すると思われる。検出面で幅は 1.3 ～ 2.0m、深さ 34 ～ 41cm を測る。断面形状は上部が開き底面にかけて途中から幅が狭い U 字状となる。褐灰色粘土、シルトなどの斑土を埋土とする。034SD 出土遺物には古墳時代須恵器、土師器壺・甕、片麻岩礫がある。026SD では須恵器(512 ～ 515)の他に灰釉陶器、中世土器があるが、上部に重複する中世の溝 052SD 資料の混入と思われる。

16D-071SD・077SD (図 40) 攪乱北側の 077SD と南側の 071SD は北東-南西方向の溝であり、連続すると思われる。検出面で幅は 1.5 ～ 2.0m、深さ 11 ～ 34cm を測る。炭化物を少量含み、褐灰色砂質シルトを埋土とする。灰釉陶器、土師器甕片が出土した。

16D-011SI (図 38) 攪乱北側の東端で検出した竪穴建物と推定される浅い落ち込みであり、西辺と南辺を含む一部を確認した。検出面で、南北約 2.2m、東西約 0.8m、深さ 8cm を測り、黄灰色シルトを埋土とする。床面及びピット等は確認できなかった。出土遺物に土師器甕小片がある。

16D-051SI (図 39) 攪乱北側の調査区中央付近で検出した竪穴建物と推定される浅い落ち込みである。026SD・052SD に切られる形となり、不明瞭ながらもその東西の両側で検出した部分を合わせて 051SI とした。北辺を含む一部を確認し、検出面で東西 7.1m、南北 1.8m、深さ 7cm を測る。褐灰色砂質シルトを覆土、その下に灰黄褐色シルトの斑土が堆積する。須恵器、土師器甕が出土した。

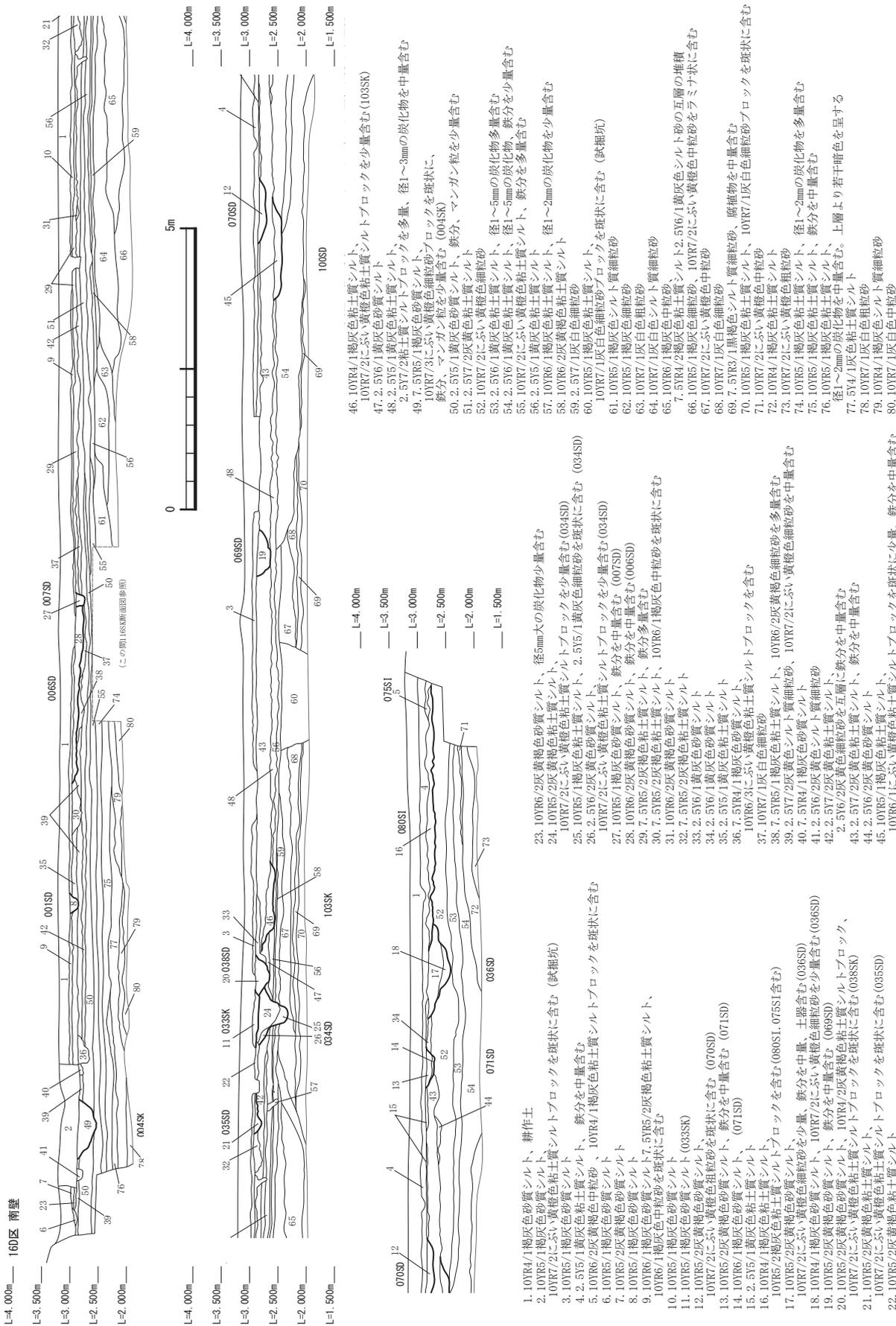


図 36 160 区 南壁面 土層断面図 (1/100)

16D区北壁

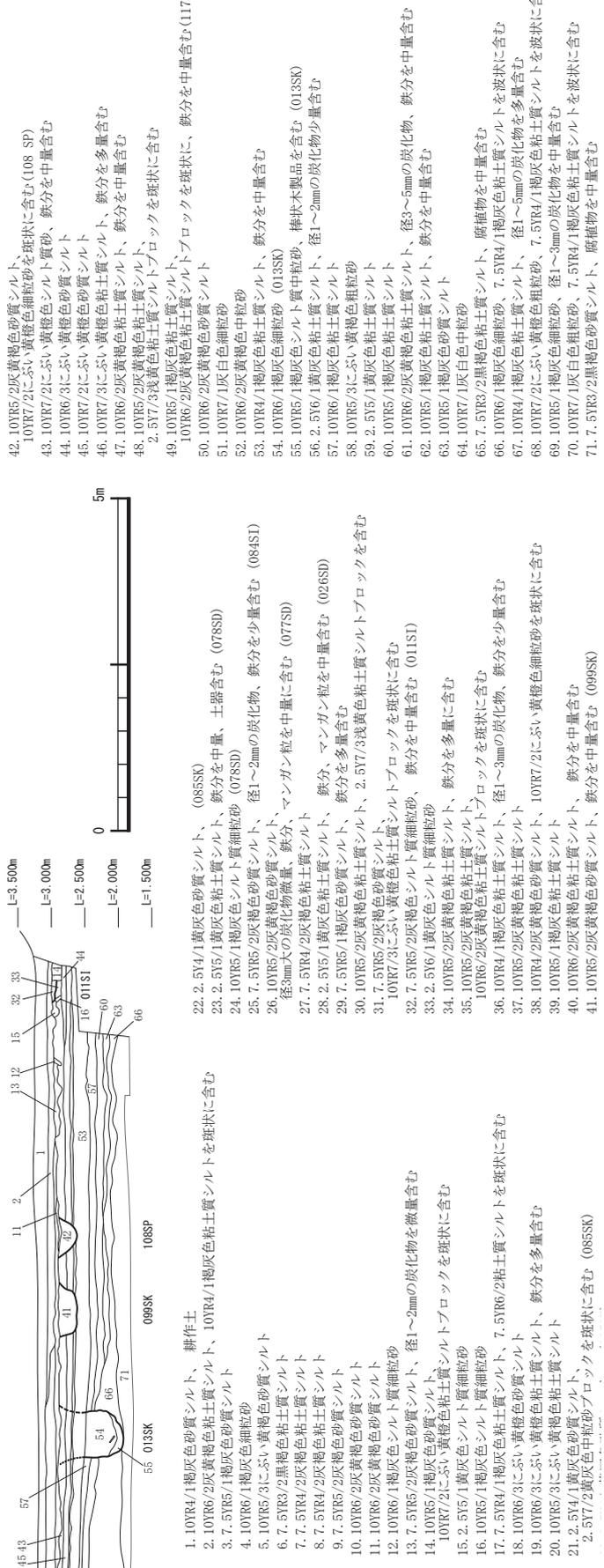
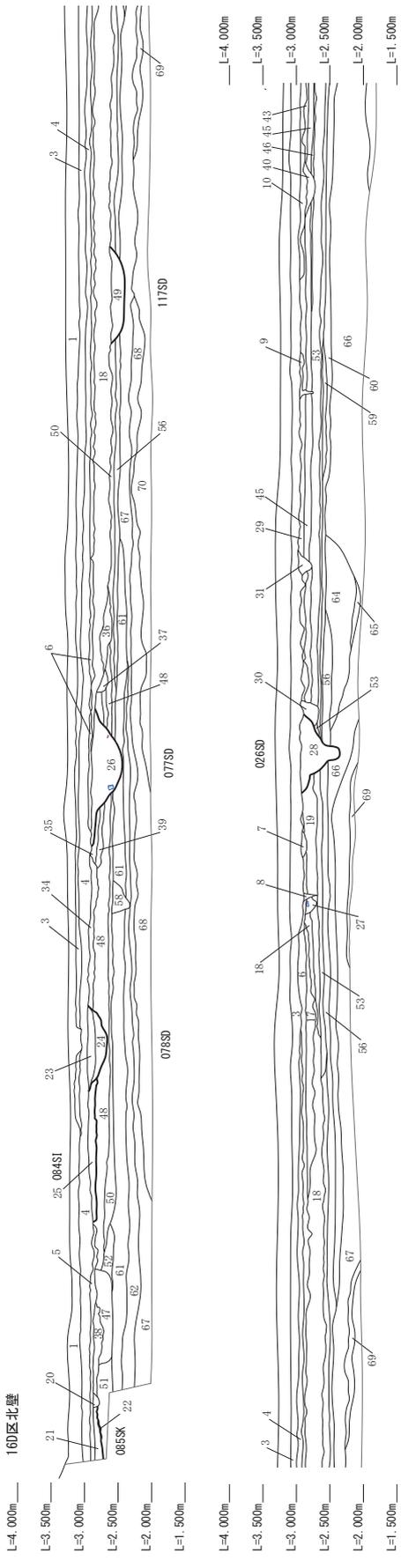


図 37 16D 区 北壁面 土層断面図 (1/100)

- 1. 10YR4/1 褐灰色砂質シルト、耕作土
- 2. 10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルト、10YR4/1 褐灰色粘土質シルトを斑状に含む
- 3. 7.5YR5/1 褐灰色砂質シルト
- 4. 10YR6/1 褐灰色細粒砂
- 5. 10YR5/3 黄褐色砂質シルト
- 6. 7.5YR3/2 黒褐色粘土質シルト
- 7. 7.5YR4/2 灰褐色粘土質シルト
- 8. 7.5YR4/2 灰褐色粘土質シルト
- 9. 7.5YR5/2 灰褐色砂質シルト
- 10. 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト
- 11. 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト
- 12. 10YR6/1 褐灰色シルト質細粒砂
- 13. 7.5YR5/2 灰褐色砂質シルト、径1~2mmの炭化物を微量含む
- 14. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト、10YR7/2 黄褐色粘土質シルトを斑状に含む
- 15. 2.5Y5/1 黄褐色粘土質シルト
- 16. 10YR5/1 褐灰色シルト質細粒砂
- 17. 7.5YR4/1 褐灰色粘土質シルト、7.5YR6/2 粘土質シルトを斑状に含む
- 18. 10YR6/3 黄褐色砂質シルト
- 19. 10YR6/3 黄褐色粘土質シルト、鉄分を多量含む
- 20. 10YR5/3 黄褐色砂質シルト
- 21. 2.5Y4/1 黄褐色砂質シルト、2.5Y7/2 黄褐色中粒砂ブロックを斑状に含む (085SK)
- 22. 2.5Y4/1 黄褐色砂質シルト、(085SK)
- 23. 2.5Y5/1 黄褐色粘土質シルト、鉄分を中量、土器含む (078SD)
- 24. 10YR5/1 褐灰色シルト質細粒砂 (078SD)
- 25. 7.5YR5/2 灰褐色砂質シルト、径1~2mmの炭化物、鉄分を少量含む (084S1)
- 26. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、径3mmの炭化物微量、鉄分、マンガング粒を中量に含む (077SD)
- 27. 7.5YR4/2 灰褐色粘土質シルト、鉄分、マンガング粒を中量含む (026SD)
- 28. 2.5Y5/1 黄褐色粘土質シルト、鉄分を多量含む
- 29. 7.5YR5/1 褐灰色粘土質シルト、鉄分を少量含む (084S1)
- 30. 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト、鉄分を多量含む
- 31. 7.5YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト、鉄分、マンガング粒を中量含む
- 32. 7.5YR5/2 灰褐色粘土質シルト、鉄分を中量含む (011S1)
- 33. 2.5Y6/1 黄褐色シルト質細粒砂
- 34. 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト、鉄分を多量に含む
- 35. 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト、10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルトブロックを斑状に含む
- 36. 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト、径1~3mmの炭化物、鉄分を少量含む
- 37. 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト
- 38. 10YR4/2 灰褐色砂質シルト、10YR7/2 黄褐色細粒砂を斑状に含む
- 39. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト、鉄分を中量含む
- 40. 10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルト、鉄分を中量含む
- 41. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、鉄分を中量含む (099SK)
- 42. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、10YR7/2 黄褐色細粒砂を斑状に含む(108 SP)
- 43. 10YR7/2 黄褐色細粒砂を斑状に含む(108 SP)
- 44. 10YR6/3 黄褐色砂質シルト
- 45. 10YR7/2 黄褐色砂質シルト
- 46. 10YR7/3 黄褐色粘土質シルト、鉄分を多量含む
- 47. 10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルト、鉄分を中量含む
- 48. 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト、2.5Y7/3 黄褐色粘土質シルトブロックを斑状に含む
- 49. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト、10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルトブロックを斑状に含む(117SD)
- 50. 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト
- 51. 10YR7/1 灰黄褐色中粒砂
- 52. 10YR6/2 灰黄褐色中粒砂
- 53. 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト、鉄分を中量含む
- 54. 10YR6/1 褐灰色細粒砂 (013SK)
- 55. 10YR5/1 褐灰色シルト質中粒砂、棒状木製品を含む (013SK)
- 56. 2.5Y6/1 黄褐色粘土質シルト、径1~2mmの炭化物少量含む
- 57. 10YR6/1 褐灰色粘土質シルト
- 58. 10YR5/3 黄褐色細粒砂
- 59. 2.5Y5/1 黄褐色粘土質シルト
- 60. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト
- 61. 10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルト、径3~5mmの炭化物、鉄分を中量含む
- 62. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト
- 63. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト
- 64. 10YR7/1 灰白色中粒砂
- 65. 7.5YR3/2 黒褐色粘土質シルト、腐植物を中量含む
- 66. 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト、7.5YR4/1 褐灰色粘土質シルトを波状に含む
- 67. 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト、径1~5mmの炭化物を多量含む
- 68. 10YR7/2 黄褐色細粒砂、7.5YR4/1 褐灰色粘土質シルトを波状に含む
- 69. 10YR5/1 褐灰色細粒砂、径1~3mmの炭化物を中量含む
- 70. 10YR7/1 灰白色粗粒砂、7.5YR4/1 褐灰色粘土質シルトを波状に含む
- 71. 7.5YR3/2 黒褐色砂質シルト、腐植物を中量含む

16D-200SB (063SP・081SP・021SP・050SP) (図40) 攪乱北側ので検出したピットのうち、ほぼ正方形でL字状に4基のピットが並ぶ。掘立柱建物を想定したが、柱間の間隔は1.3～2.7mと一定しない。

16D-097SP 攪乱南側の東寄り部分で検出した。097SP平面形は長軸0.8m、短軸0.4mの楕円形を呈し、深さは44cmを測る。ピット底面標高は約2.4m、断面で柱痕が確認できた。土師器甕片が出土した。

16D-116SK (図40) 116SKは097SPに切られるやや大型の楕円形土坑であり、検出面で長軸1.8m、短軸1.4m、深さ75cmを測る。底面は粘土層の間の滞水する砂層まで達しているため、井戸の可能性が考えられる。遺物は出土していない。

16D-079SX・080SX 調査区西側で当初竪穴建物を想定して検出した包含層である。明確なプランや柱穴は掴めなかったが、遺物の出土状況等より竪穴建物の床面付近であった可能性が考えられる。079SXを精査した結果、出土遺物は土坑090SKに併せて取り扱っている。

16D-053SX 攪乱北側の中央寄りで方形の落ち込みとして検出した。当初竪穴建物を想定して調査を進めたが、粘土質土に残る沈鉄の濃淡の差を埋土と認識した。埋土には山茶碗片も含まれる。同様の基準でプランを検出した攪乱北側の054SX, 076SX, 083SX、攪乱南側の082SXも竪穴建物「SI」と確定できないものとして「SX」に変更した。

(5) 16E区 (図42, 43)

現況で畑地となる範囲が含まれており、やや高い位置から調査を開始した。大部分が盛土と判明したが、北西端部に古代の包含層を含む堆積層が認められた。表土耕作土と床土を除去した面、標高2.9～3.0mの褐灰色シルト～砂層を掘り込む古墳時代中期、古代、中世～近世の遺構を検出した。南・北の壁面では調査区東側に向かって砂層の新しい堆積が順次重なっているのが観察できる。本調査区は微高地の縁辺部にあたると考えられ、中世～近世の遺構の分布は東半部分に限られる。本来の地形は近世まで西半部分が高いまま土地利用が行われていたと考えられる。

16E-033SU (図44) 攪乱南側の調査区中程で確認された古墳時代土師器類の集積範囲である。当初溝への廃棄を想定して調査を行なったが、明瞭な人為的な掘り込みは認められなかった。調査区南壁では東

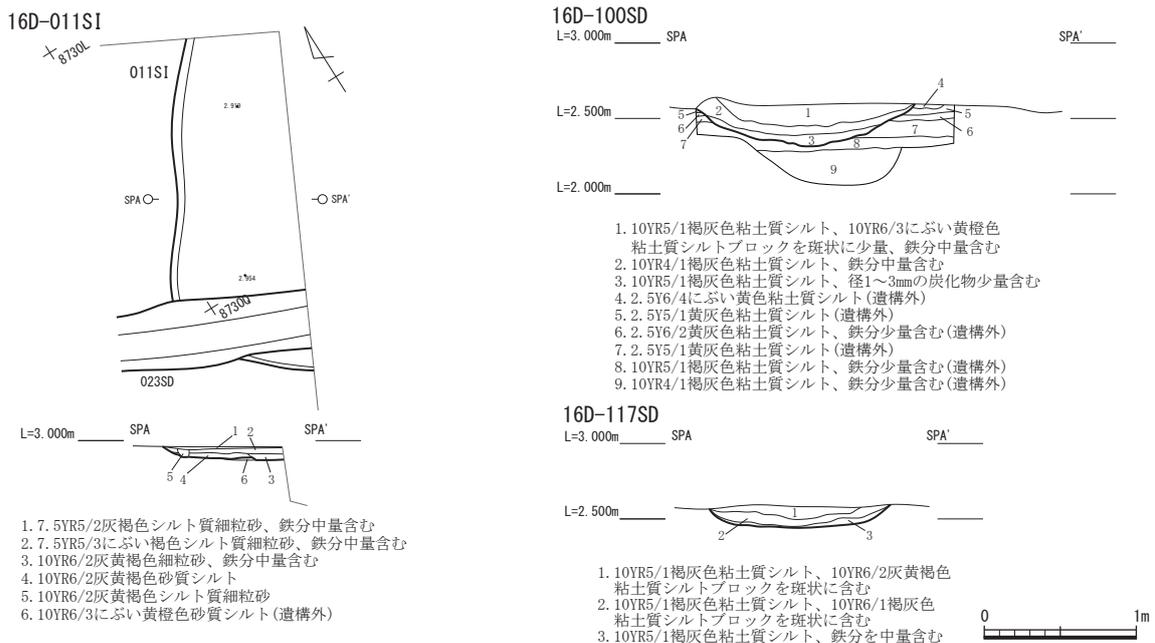
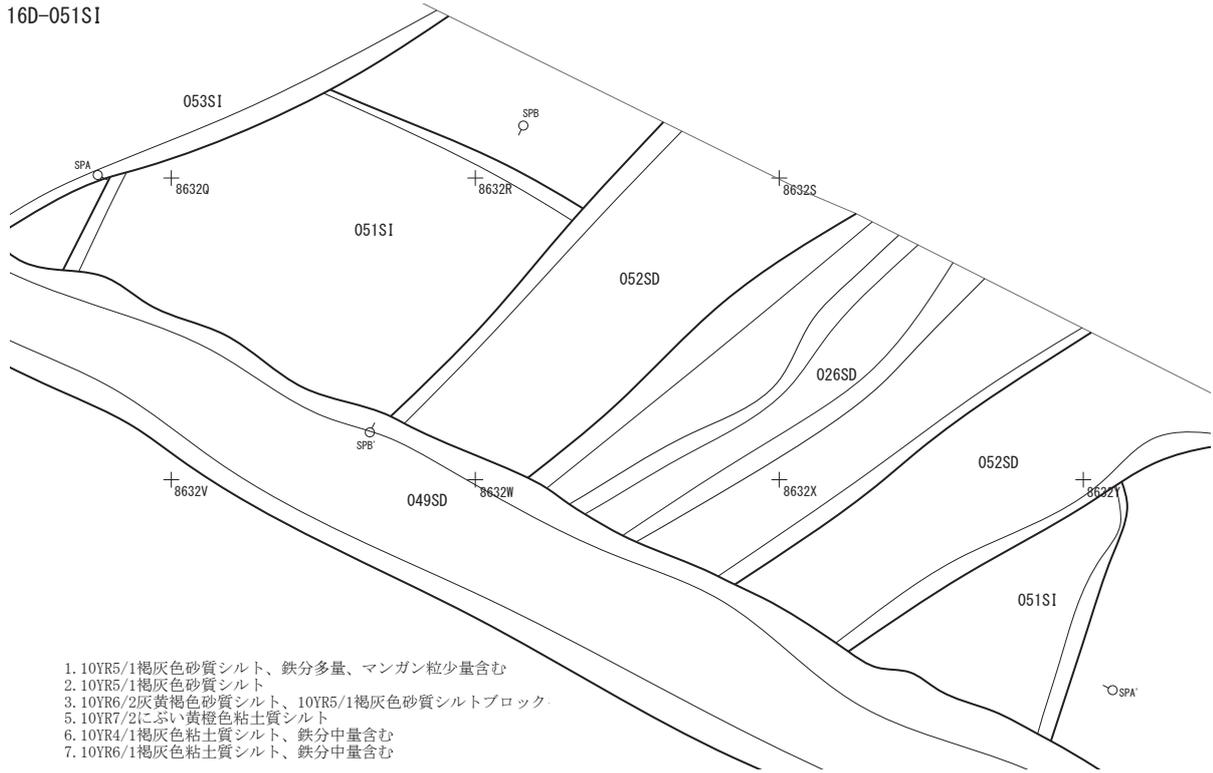
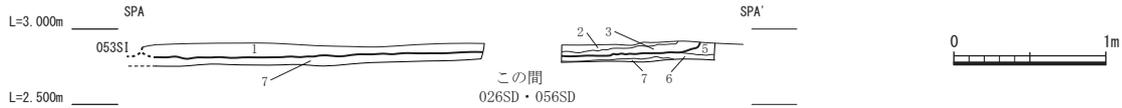


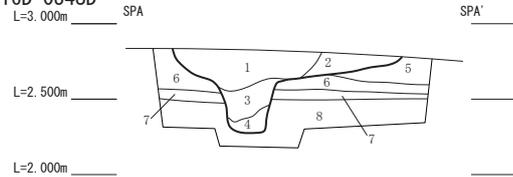
図38 16D区 主要遺構 平面・断面図1 (1/50)



1. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト、鉄分多量、マンガン粒少量含む
2. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト
3. 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト、10YR5/1 褐灰色砂質シルトブロック
5. 10YR7/2 にぶい黄褐色粘土質シルト
6. 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト、鉄分中量含む
7. 10YR6/1 褐灰色粘土質シルト、鉄分中量含む

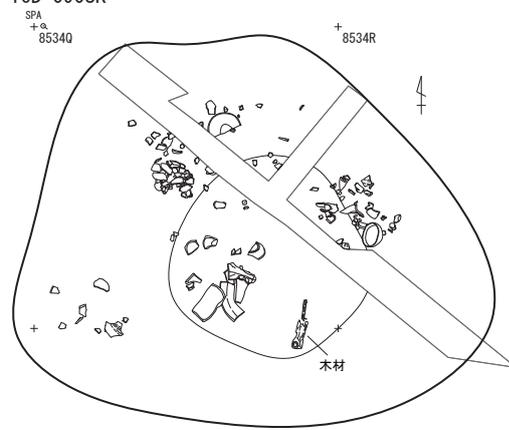


16D-034SD

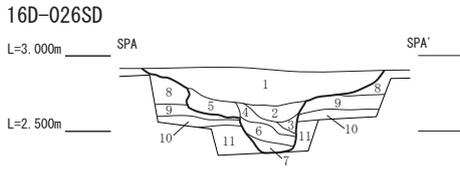


1. 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト、10YR7/2 にぶい黄褐色粘質シルトブロックを少量含む
2. 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト、10YR7/2 にぶい黄褐色粘質シルトブロックを少量含む
3. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト、2.5Y6/2 灰黄色粘質シルトブロックを斑状に中量含む
4. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト、2.5Y5/1 黄灰色細粒砂を斑状に含む
6. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト
5. 10YR7/2 にぶい黄褐色粘土質シルト、中に10YR5/1 褐灰色粘土質シルトを帯状に含む
7. 10YR6/1 褐灰色粘土質シルト
8. 10YR4/1 褐灰色細粒砂

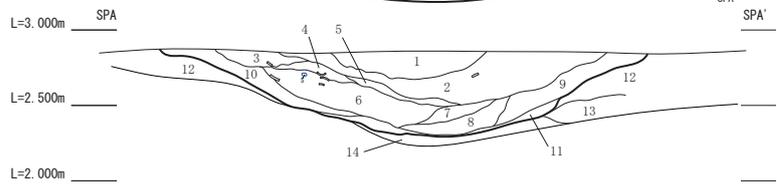
16D-090SK



16D-026SD



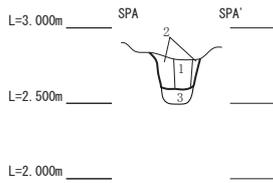
1. 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト 鉄分多量、マンガン粒中量含む
2. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト、鉄分中量含む
3. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト
4. 10YR5/1 褐灰色粘土質細粒砂、10YR6/3 にぶい黄褐色粘質シルトブロックを斑状に含む
5. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト、10YR6/3 にぶい黄褐色粘質シルトブロックを斑状に多量含む
6. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト、径2~3mmの炭化物少量含む
7. 10YR6/1 褐灰色粘土質シルト
8. 10YR7/2 にぶい黄褐色粘土質シルト、鉄分を中量含む
9. 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト、鉄分を少量含む
10. 2.5Y5/2 暗黄褐色粘土質シルト
11. 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂



1. 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト、鉄分中量含む
2. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト、土器、鉄分、マンガン粒中量含む
3. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、焼土ブロック多量、土器含む
4. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、径1~3mmの炭化物を少量含む
5. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト、径1~3mmの炭化物を少量含む
6. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト、径3~5mmの小円礫多量、径3~5mmの炭化物中量、土器含む
7. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト、鉄分中量含む
8. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト、径1~3mmの炭化物を少量、鉄分中量含む
9. 2.5Y6/2 灰黄褐色砂質シルト、10YR7/2 黄褐色細粒砂ブロックを斑状に含む
10. 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト、径1~2mmの炭化物、鉄分を少量含む
11. 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト、鉄分中量含む
12. 2.5Y7/2 灰黄色細粒砂、鉄分中量含む
13. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト、径1~3mmの炭化物を中量含む
14. 10YR7/2 にぶい黄褐色粗粒砂

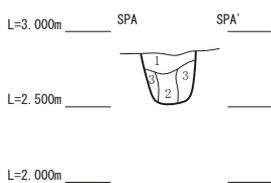
図 39 16D 区 主要遺構 平面・断面図 2 (1/50)

16D-063SP



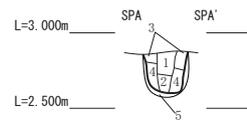
1. 7.5YR4/1 褐灰色砂質シルト、鉄分中量含む
2. 7.5YR5/1 褐灰色砂質シルト、10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルトブロックを斑状に多量含む
3. 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト (遺構外)

16D-081SP



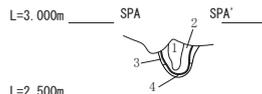
1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト質細粒砂、10YR7/2にぶい黄橙色細粒砂を斑状に含む
2. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト、10YR7/2にぶい黄橙色粘土質シルトを斑状に少量含む
3. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト、10YR7/2にぶい黄橙色粘土質シルトブロックを多量含む

16D-021SP



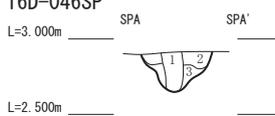
1. 2.5YR5/2 黄灰色シルト質細粒砂、鉄分を少量含む (柱痕跡)
2. 2.5YR5/1 黄灰色シルト質細粒砂、10YR7/2にぶい黄橙色シルト質細粒砂ブロックを斑状に含む (柱痕跡)
3. 2.5Y6/1 黄灰色シルト質細粒砂鉄分、マンガン粒を少量含む
4. 2.5YR5/1 黄灰色シルト質細粒砂、10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルトを斑状に含む
5. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト、10YR7/2にぶい黄橙色シルト質細粒砂、鉄分を含む

16D-050SD



1. 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト、鉄分少量含む
2. 10YR6/1 褐灰色砂質シルト、10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルトブロックを斑状に含む
3. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト、質細粒砂鉄分少量含む (遺構外)
4. 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト、鉄分を中量含む (遺構外)

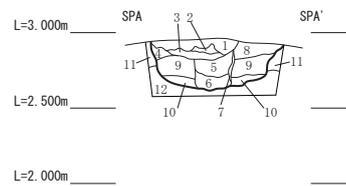
16D-046SP



1. 7.5YR5/1 褐灰色砂質シルト、10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルトブロックを斑状に、径1~2mmの炭化物微量含む
2. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、鉄分中量含む
3. 10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルト、鉄分多量含む

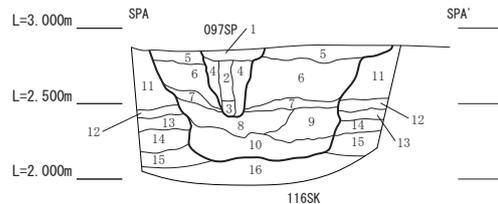
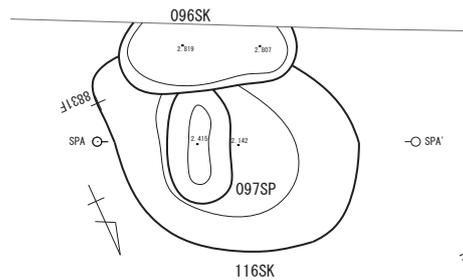


16D-091SP



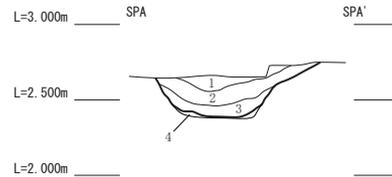
1. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト、鉄分中量含む
2. 10YR6/1 褐灰色シルト質細粒砂
3. 10YR6/2 灰黄褐色シルト質細粒砂、鉄分少量含む
4. 10YR6/2 灰黄褐色シルト質細粒砂、鉄分少量含む
5. 10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルト、10YR6/1 褐灰色シルト質細粒砂ブロックを少量、鉄分を少量含む
6. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト、鉄分少量含む
7. 2.5Y5/1 黄灰色シルト質細粒砂
8. 2.5Y7/2 灰黄色細粒砂を少量含む
9. 10YR7/2にぶい黄橙色細粒砂、鉄分中量含む
10. 10YR6/2 灰黄褐色シルト質細粒砂、鉄分中量含む
11. 2.5Y5/1 黄灰色シルト質細粒砂
12. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト (遺構外)

16D-097SP・116SK



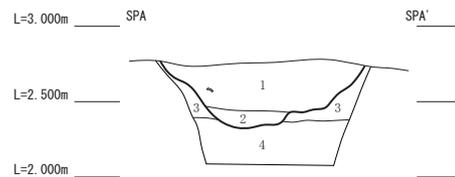
1. 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト、
- 7.5YR5/1 褐灰色粘土質シルトブロックを斑状に含む (097SP)
2. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト
2. 5Y7/3 浅黄色細粒砂ブロックを含む (097SP)
3. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト (097SP)
4. 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト、
- 2.5Y5/1 黄灰色シルトブロックを斑状に含む (097SP)
5. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト、10YR7/2にぶい黄橙色粘土質シルトブロックを斑状に、鉄分を中量含む (116SK)
6. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト、10YR7/2にぶい黄橙色粘土質シルトブロックを多量含む (116SK)
7. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト、
- 2.5Y6/2 灰黄色粘土質シルトブロックを斑状に含む (116SK)
8. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト、
- 2.5Y6/1 黄灰色中粒砂を中量、鉄分を少量含む (116SK)
9. 2.5Y6/1 黄灰色粘土質シルト、10YR7/1 灰白色粘土質シルトブロックを斑状に含む (116SK)
10. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト、10YR6/1 褐灰色中粒砂をラミナ状に含む (116SK)
11. 10YR7/3にぶい黄橙色粘土質シルト、10YR7/1 灰白色細粒砂を少量含む (地山)
12. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト、径1~3mmの炭化物を少量含む (地山)
13. 2.5Y6/1 黄灰色粘土質シルト (地山)
14. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト (地山)
15. 10YR6/1 褐灰色中粒砂鉄分を中量含む (地山)
16. 7.5YR4/1 褐灰色粘土質シルト (地山)

16D-077SD



1. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、径3mm大の炭化物少量、鉄分、マンガン粒を中量含む
2. 10YR4/1 褐灰色砂質シルト、径1~2mmの炭化物微量、鉄分、マンガン粒を中量含む
3. 10YR4/1 褐灰色砂質シルト、10YR6/1 褐灰色粘土質シルトブロックを斑状に含む
4. 10YR6/1 褐灰色粘土質シルト (遺構外)

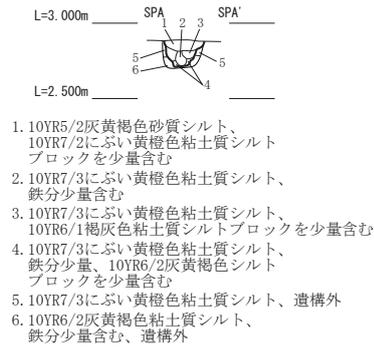
16D-036SD



1. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、10YR7/2にぶい黄橙色細粒砂を少量、鉄分を中量、土器含む
2. 10YR4/1 褐灰色砂質シルト、10YR7/2にぶい黄橙色細粒砂を少量含む
3. 10YR7/2にぶい黄橙色中粒砂 (遺構外)
4. 10YR5/1 褐灰色粘土、炭化物を薄く板状に多量含む (遺構外)

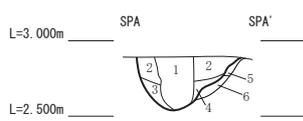
図 40 16D 区 主要遺構 平面・断面図 3 (1/50)

16D-028SP



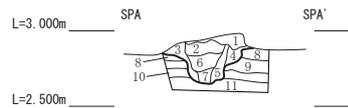
1. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、10YR7/2 にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む
2. 10YR7/3 にぶい黄褐色粘土質シルト、鉄分少量含む
3. 10YR7/3 にぶい黄褐色粘土質シルト、10YR6/1 褐灰色粘土質シルトブロックを少量含む
4. 10YR7/3 にぶい黄褐色粘土質シルト、鉄分少量、10YR6/2 灰黄褐色シルトブロックを少量含む
5. 10YR7/3 にぶい黄褐色粘土質シルト、遺構外
6. 10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルト、鉄分少量含む、遺構外

16D-041SP



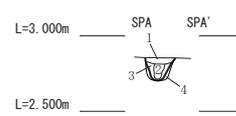
1. 10YR6/2 灰黄褐色シルト質細粒砂、径1mmの炭化物微量、鉄分微量含む（柱痕跡）
2. 10YR6/1 褐灰色砂質シルト、10YR7/2 にぶい黄褐色細粒砂ブロックを少量含む
3. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト
4. 10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルト 径1~2mmの炭化物少量含む
5. 10YR7/2 にぶい黄褐色砂質シルト（遺構外）
6. 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト（遺構外）

16D-093SP



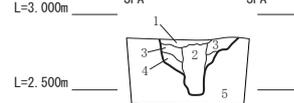
1. 2. 5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト、鉄分中量含む
2. 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト、鉄分少量含む
3. 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト、2層より粘性強い
4. 10YR6/2 灰黄褐色シルト質細粒砂
5. 2. 5Y6/1 黄灰色シルト質細粒砂
6. 2. 5Y6/2 灰黄色シルト質細粒砂
7. 2. 5Y5/1 黄灰色シルト質細粒砂
8. 10YR7/2 にぶい黄褐色細粒砂
9. 2. 5Y5/1 黄灰色細粒砂、鉄分中量
10. 2. 5Y5/1 黄灰色細粒砂、鉄分少量
11. 2. 5Y6/1 黄灰色シルト質細粒砂

16D-039SP



1. 2. 5Y5/1 黄灰色シルト質細粒砂、2. 5Y7/2 灰黄色細粒砂を少量含む
2. 2. 5Y5/1 黄灰色シルト質細粒砂、2. 5Y7/2 灰黄色細粒砂ブロックを多量含む（柱痕跡）
3. 10YR5/1 褐灰色シルト質細粒砂、10YR7/2 にぶい黄褐色細粒砂ブロックを中量、鉄分を少量含む
4. 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト質細粒砂、鉄分少量含む（遺構外）

16D-095SP



1. 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト、10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルトブロックを斑状に含む
2. 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト、鉄分、マンガン粒を少量含む
3. 10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルト、10YR7/2 にぶい黄褐色細粒砂を中量含む
4. 2. 5Y6/2 灰黄褐色粘土質シルト、鉄分、マンガン粒を中量含む
5. 2. 5Y6/1 黄灰色粘土質シルト、10YR7/2 にぶい黄褐色シルトブロックを斑状に、鉄分中量含む

図 41 16D 区 主要遺構 平面・断面図 4 (1/50)

側に向かって傾斜する堆積が確認でき、遺物の集中する北東-南西に 2.5 × 2.0m 程度の範囲は、傾斜の縁に沿う方向にほぼ一致する。出土した土師器類 (161 ~ 174) は摩滅も比較的少なく、ここは集落にごく近い微高地の縁辺部であったと考えられる。

16E-042SK (図 44) 攪乱北側で検出した砂層を掘り込んで造られた土坑である。標高 3.0m より高い位置の検出面で長軸 0.9m、短軸 0.7m、深さ 36cm を測る。中世以降と思われるが、時期は確定できない。

16E-055SK (図 44) 調査区中央付近攪乱北側で検出した楕円形土坑であり、規模は長軸 2.6m、短軸 1.7m、深さ 24cm、断面は皿状を呈する。褐灰色中粒砂～砂質シルトを埋土として、最下層に炭化物を多く含む。出土物 (175 ~ 178, 546 ~ 550) は須恵器、土師器、チャート円礫などがある。059SD に切られる。

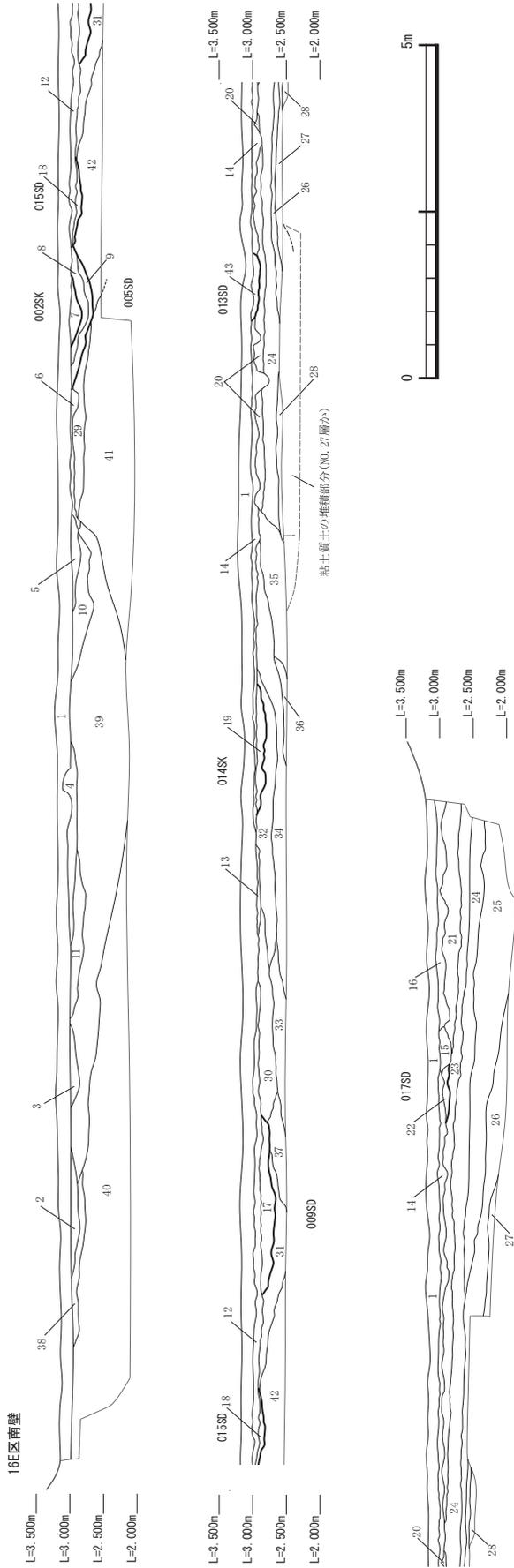
16E-010SD・059SD (図 44) 059SD は幅 0.9m、深さ 11cm、対応する攪乱南側の 010SD は幅 0.6m、深さ 15cm を測り、009SD を切る。遺物 (180, 541, 542, S-24) は土師器、須恵器、凝灰岩礫などが出土している。

16E-009SD (図 45) 攪乱南側の調査区中央付近で検出した。009SD は黄褐色シルト～砂質シルトを埋土とする溝で、幅 1.9m、深さ 17cm を測る。019SK に先行する。底面付近で須恵器を中心とした遺物 (528 ~ 536) が出土した。この部分では南北のほぼ直線方向を示すが、攪乱北側の 056SD が対応する溝とすると、少し曲がることになる。こちらの規模は幅 2.4m、深さ 22cm を測り、遺物を全く含まない。

16E-019SK (図 45) 009SD の上に重複する検出面で径 0.8m、深さ 26cm を測る円形の土坑である。褐灰色粘土質～砂質シルトを埋土とし、上層に少量の炭化物を含む。遺物 (179, 537, 538) は須恵器、土師器、花崗岩礫などがあり上・下両層に含まれる。

16E-034 ~ 037SP (調査区北西部ピット群) (図 45) 杭列 061SA の西側では畑地として利用された盛土の下に古代の包含層が残存していた。ただ平面では捉えられず、北壁断面 (図 43, No. 23 ~ 31 層, 標高 2.8 ~ 2.9m) に堅穴建物と推定される床面等が認められた。図示したのはその範囲で検出されたピット群であり、堅穴建物等の柱穴の可能性が考えられる。

16E-061SA 攪乱北側で検出した 8 本の杭列である。丸杭が用いられている。現況道路に直交する方位であり、攪乱の南側杭列の延長上には溝 013SD が続いており、ある時期の境界を示していると思われる。これより西側には削平を免れた堆積層 (古代包含層) が認められた。 (武部真木)



- 1. 10YR4/1 褐灰色砂質シルト
- 2. 10YR7/6 明黄褐色中粒砂、10YR7/1 灰白色粗粒砂ブロックを斑状に含む
- 3. 10YR7/6 明黄褐色中粒砂、10YR7/1 灰白色粗粒砂ブロックを少量含む
- 4. 10YR6/2 灰黄褐色中粒砂、10YR5/1 褐灰色シルトブロックを斑状に含む
- 5. 10YR4/1 褐灰色シルト質中粒砂、10YR7/2 にぶい黄褐色粗粒砂ブロックを少量含む
- 6. 10YR6/2 灰黄褐色細粒砂、10YR5/2 灰黄褐色シルトブロックを少量含む
- 7. 10YR4/1 褐灰色シルト質中粒砂、(土器含む) (002SK)
- 8. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト、径1~2mmの炭化物少量含む (005SD)
- 9. 10YR4/1 褐灰色シルト質細粒砂 (006SD)
- 10. 10YR6/2 灰黄褐色粗粒砂、10YR5/1 褐灰色細粒砂ブロックを斑状に含む
- 11. 10YR6/2 灰黄褐色粗粒砂、10YR7/1 灰白色粗粒砂ブロックを少量含む
- 12. 2. 5Y6/2 灰黄色砂質シルト、鉄分多量含む (007SK、010SD埋土含む)
- 13. 2. 5Y6/2 灰黄色砂質シルト
- 14. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト、10YR6/4 にぶい黄褐色粘土質シルトを斑状に含む (005SD)
- 15. 2. 5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト、コンクリート片含む
- 16. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト、径5mm大の炭化物少量含む。
- 17. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト、鉄分を中量 (土器含む) (009SD)
- 18. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト、径3~5mmの炭化物含む (015SD)
- 19. 2. 5Y5/1 黄褐色砂質シルト、径1~3mmの炭化物少量含む (014SK)
- 20. 2. 5Y6/1 黄褐色砂質シルト、鉄分を中量含む
- 21. 10YR6/3 にぶい黄褐色中粒砂、鉄分を少量含む (径1~2mmの炭化物微量含む)
- 22. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト 10YR7/4 にぶい黄褐色粘土質シルトブロックを少量含む (017SD)
- 23. 10YR7/4 にぶい黄褐色粘土質シルト、鉄分を中量含む
- 24. 2. 5Y5/1 黄褐色粘土質シルト、鉄分多量、径1~10mmの炭化物中量含む
- 25. 10Y5/1 灰白色粘土、径2~5mmの炭化物中量、鉄分を少量含む
- 26. 2. 5Y6/1 黄褐色シルト質中粒砂、径3~5mmの炭化物中量含む
- 27. 10YR4/1 褐灰色中粒砂
- 28. 2. 5Y6/1 灰黄色粘土
- 29. 10YR7/2 にぶい黄褐色中粒砂、鉄分を多量含む
- 30. 2. 5Y6/2 灰黄色細粒砂、径3~5mmの炭化物中量含む
- 31. 2. 5Y6/1 黄褐色細粒砂、10YR7/1 灰白色粗粒砂ブロックを斑状に含む鉄分を多量含む
- 32. 2. 5Y6/2 灰黄色細粒砂
- 33. 2. 5Y5/1 黄褐色シルト質中粒砂、径5~10mmの炭化物を多量含む
- 34. 2. 5Y6/1 黄褐色細粒砂、鉄分を多量含む。(土器多量含む) (033SU)
- 35. 7. 5Y6/1 灰黄色中粒砂、鉄分を中量含む。
- 36. 10YR5/1 褐灰色シルト質砂、径1~3mmの炭化物少量含む
- 37. 10YR6/1 褐灰色シルト質粗粒砂、鉄分を中量含む
- 38. 10YR7/2 にぶい黄褐色中粒砂、ラミナ状に堆積
- 39. 10YR7/2 にぶい黄褐色中粒砂、ラミナ状に堆積、d-022 (土師器)
- 40. 10YR7/3 にぶい黄褐色粗粒砂、ラミナ状に堆積。下部は10YR7/1 灰白色粗粒砂を含む
- 41. 2. 5Y6/1 灰黄色細粒砂、鉄分多量含む
- 42. 2. 5Y6/1 灰白色シルト質細粒砂、10YR7/1 灰白色粗粒砂ブロックを含む
- 43. 2. 5Y5/1 黄褐色シルト質中粒砂、径1~2mmの炭化物少量含む (013SD)

図 42 16E 区 南壁面 土層断面図 (1/100)

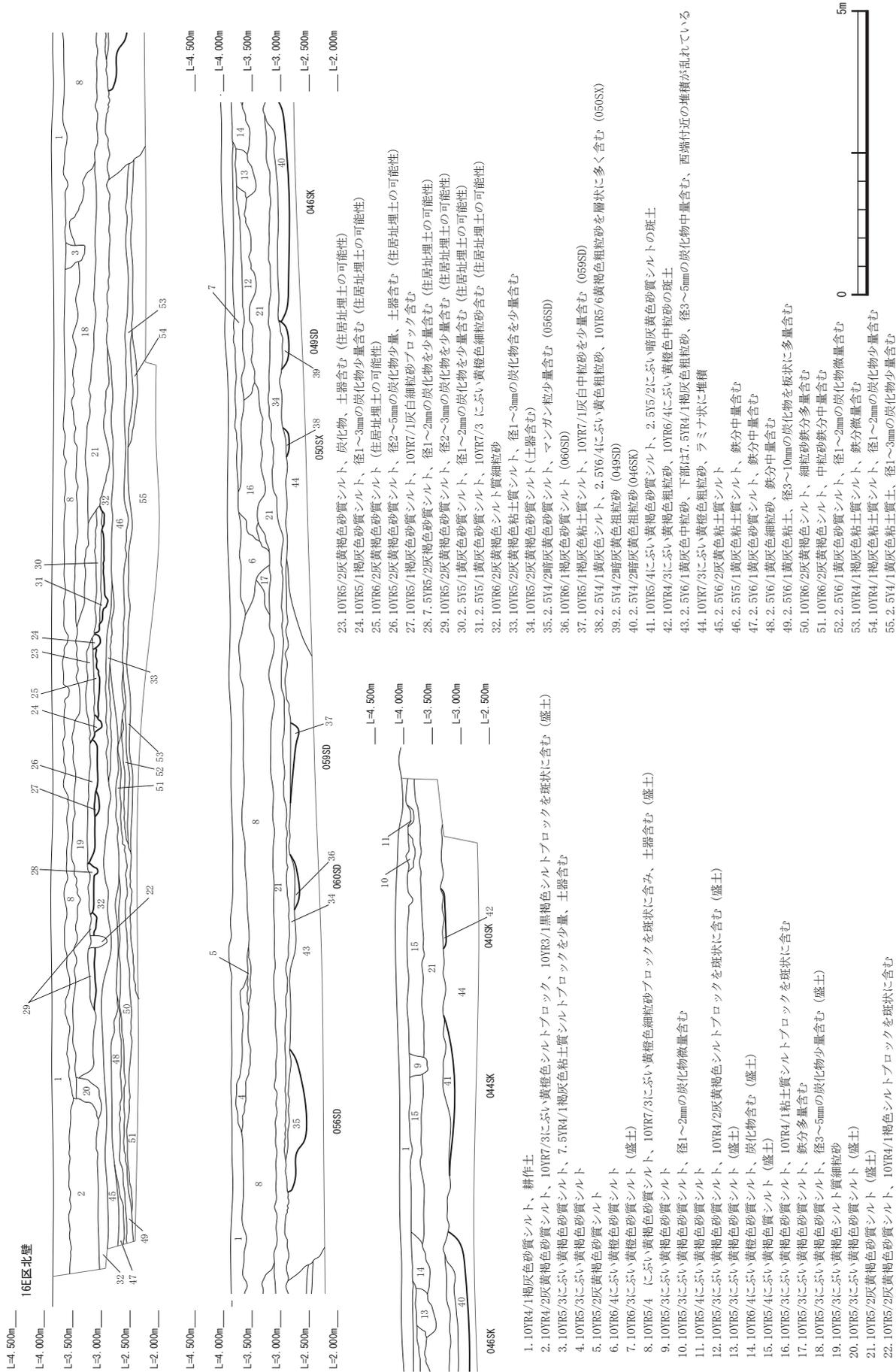
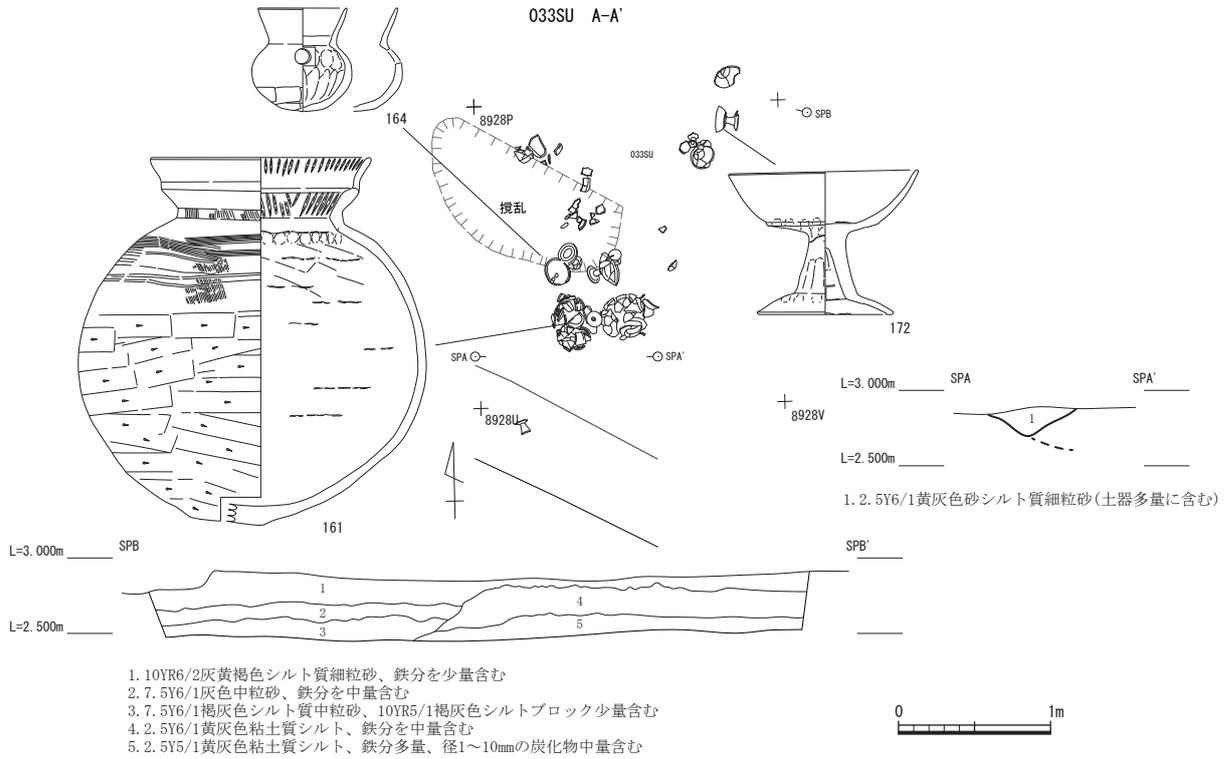


図43 16E区 北壁面 土層断面図 (1/100)

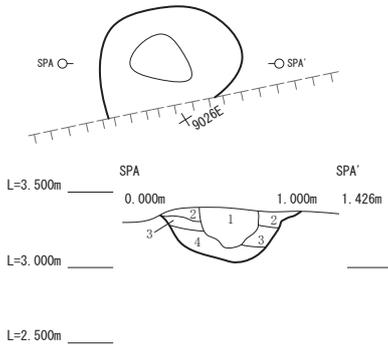
16E-033SU

SPB' O

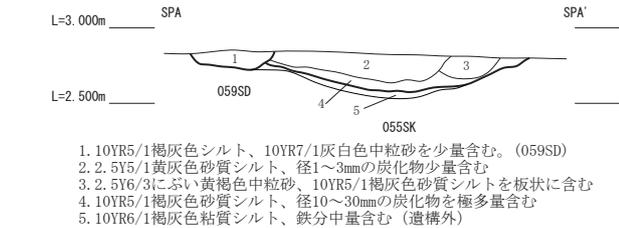


16E-055SK・059SD

16E-042SK



- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂
- 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを少量含む
- 2 10YR4/4 褐色中粒砂
- 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂を斑状に多く含む
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色中粒砂
- 2.5Y4/3オリブ褐色砂質シルトをブロック状少量含む
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト
- 2.5Y5/2灰黄色砂質シルトをブロック状に少量含む



1. 10YR5/1褐灰色シルト、10YR7/1灰白色中粒砂を少量含む。(059SD)
2. 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト、径1~3mmの炭化物少量含む
3. 2.5Y6/3にぶい黄褐色中粒砂、10YR5/1褐灰色砂質シルトを板状に含む
4. 10YR5/1褐灰色砂質シルト、径10~30mmの炭化物を極多量含む
5. 10YR6/1黄灰色粘質シルト、鉄分中量含む(遺構外)

図44 16E区 主要遺構平面・断面図1 (1/50, 遺物1/6)

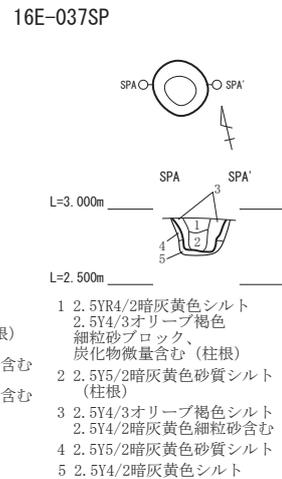
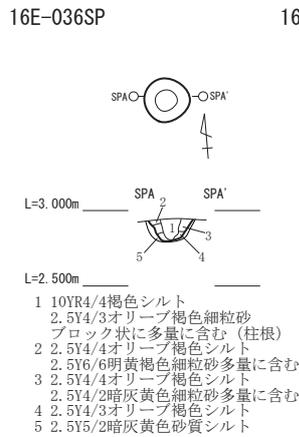
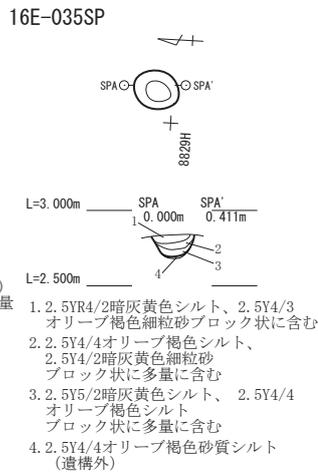
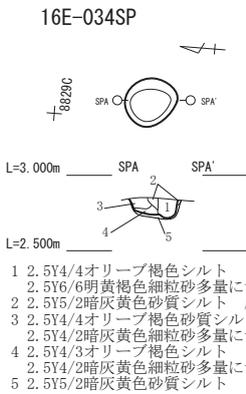
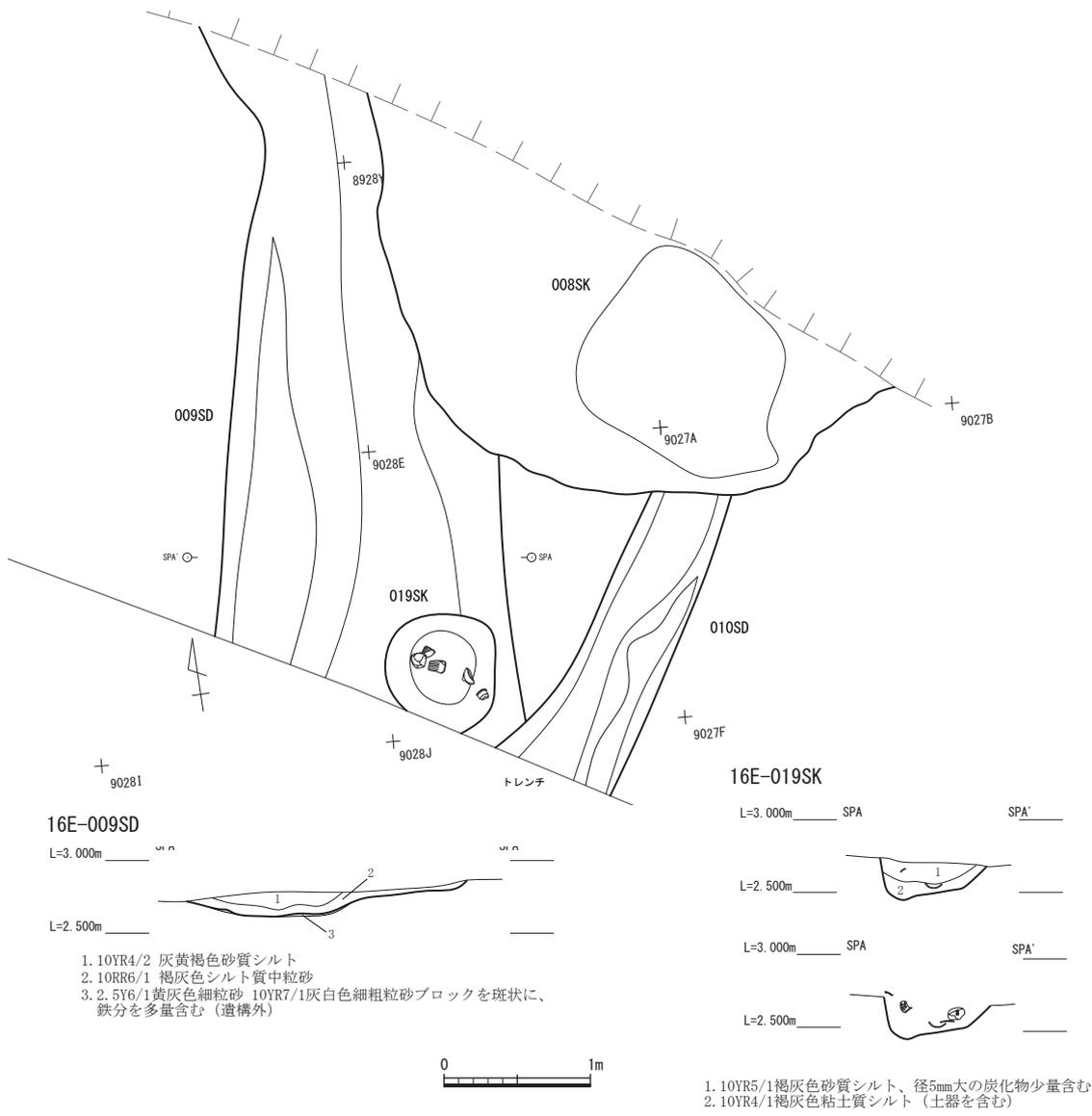


図 45 16E 区 主要遺構平面・断面図 2 (1/50)

第3章 遺物

遺物は土器・須恵器・灰釉陶器・山茶碗・施釉陶器・磁器・石製品・金属製品・木製品などコンテナで約90箱が出土した。出土遺物の時期は、(1)古墳時代前期～中期 (2)古墳時代後期～平安時代 (3)鎌倉・室町時代、江戸時代に大きく区分できる。以下ではこの区分ごとに調査年度順、出土遺構のまとまりで記述を行う。(そのため図版は混入品も含めた配置となっており、古墳時代については必ずしも遺構の年代を示す資料ではない場合もあり注意されたい。)

1 古墳時代

(1) 11A区・11B区

11A-039SK 1は逆ハ字状のわずかに外反する短い口縁部をもつく字状口縁甕で、ハケ・ヨコナデ調整される。

11A-088SD 2のく字状口縁甕の口縁部はゆるやかに外反し、ハケ・ヨコナデ・イタナデ調整がなされる。外面には薄くスス・炭化物が付着する。3の脚台部は、外面にミガキ調整がなされる。体部は接合面で剥がれており、破面も磨滅している。遺構は11B-076SDに接続する。

11A-086SX 4は甕体部下半から脚台部で、内面にスス・炭化物がやや厚く付着する。調整はハケ・ナデ調整。5の鉢は全体が磨滅しているが、体部外面にはわずかに横位のミガキ調整が確認できる。

11A-069SK 6は甕体部上半から脚台部で、ハケ・イタナデ調整される。内面底部は、粘土充填部で剥離する。

11A-092NR 7は壺口縁部で、わずかに内湾しながら垂直に延びる。ハケ調整・ケズリ成形がなされる。

11A-089SD 8は上下が短いやや扁平な甕で、全体に磨滅している。遺構は11A-041SDの下層にあたる。

11A-041SD 9は脚台が付く鉢で、全体にナデ・イタナデ調整が施され、接合面で脚部が剥離する。体部下半と上半の接合部において段がみられる。この遺構は11A-089SD上層部分である。

11A-058SK 10は壺体部で、ナデ・イタナデ調整される。(遺構は奈良時代)

11A-091NR 11の甕口縁部はく字状にやや強く屈曲し、端部は面をなしてイタによる連続刺突が施される。12～15は屈折脚高杯。12の杯部は口縁端部がわずかに外反する。4点ともナデ・イタナデ調整がなされ、13内面にはケズリ成形がみられる。時期は11が弥生時代後期～古墳時代初頭、12～15が松河戸I式期～宇田I式期に比定される。

11B-114NR 19は外面に条痕調整がなされる。色調は淡黄色を呈する。18・20はナデ・イタナデ調整される甕口縁部で、外面は淡灰黒色を呈する。20の端面にイタによる連続刺突が施される。時期は18・20の甕が弥生時代中期後半の古井式期、19は中期以前に比定される。

11A-027SK 21はS字状口縁台付甕の脚台部と考えられる。内面端部は折り返されて、段状となる。

11B-039SK 22は外面に縦位の太いヘラ沈線が施される壺口縁部で、外面は淡灰黒色を呈する。時期は弥生時代中期。

11A-053SK 23は屈折脚高杯で、ナデ・イタナデ調整がなされる。

11A- 包含層 24・25はく字状口縁甕で、ハケ・ヨコナデ・イタナデ調整がなされる。26は受口状口縁甕で、口縁部端面はヨコナデによって、凹んだ斜位の面をなす。また口縁部外面には斜位のイタ連続刺突が、体部外面には斜位・横位のハケ調整が施される。色調は橙色を呈している。27の太頸壺は頸部から口縁部にかけてほぼ直角に屈曲し、口縁端部が折り返される。口縁部内面には2～3段の羽状の、外面には斜位のイタ連続刺突が施される。28～30は壺の体部から底部で、ハケ・ナデ・イタナデ調整される。30の体部外面上半は磨滅し、あばた状に剥離する。31の直口壺は、全体がナデ・イタナデで調整され

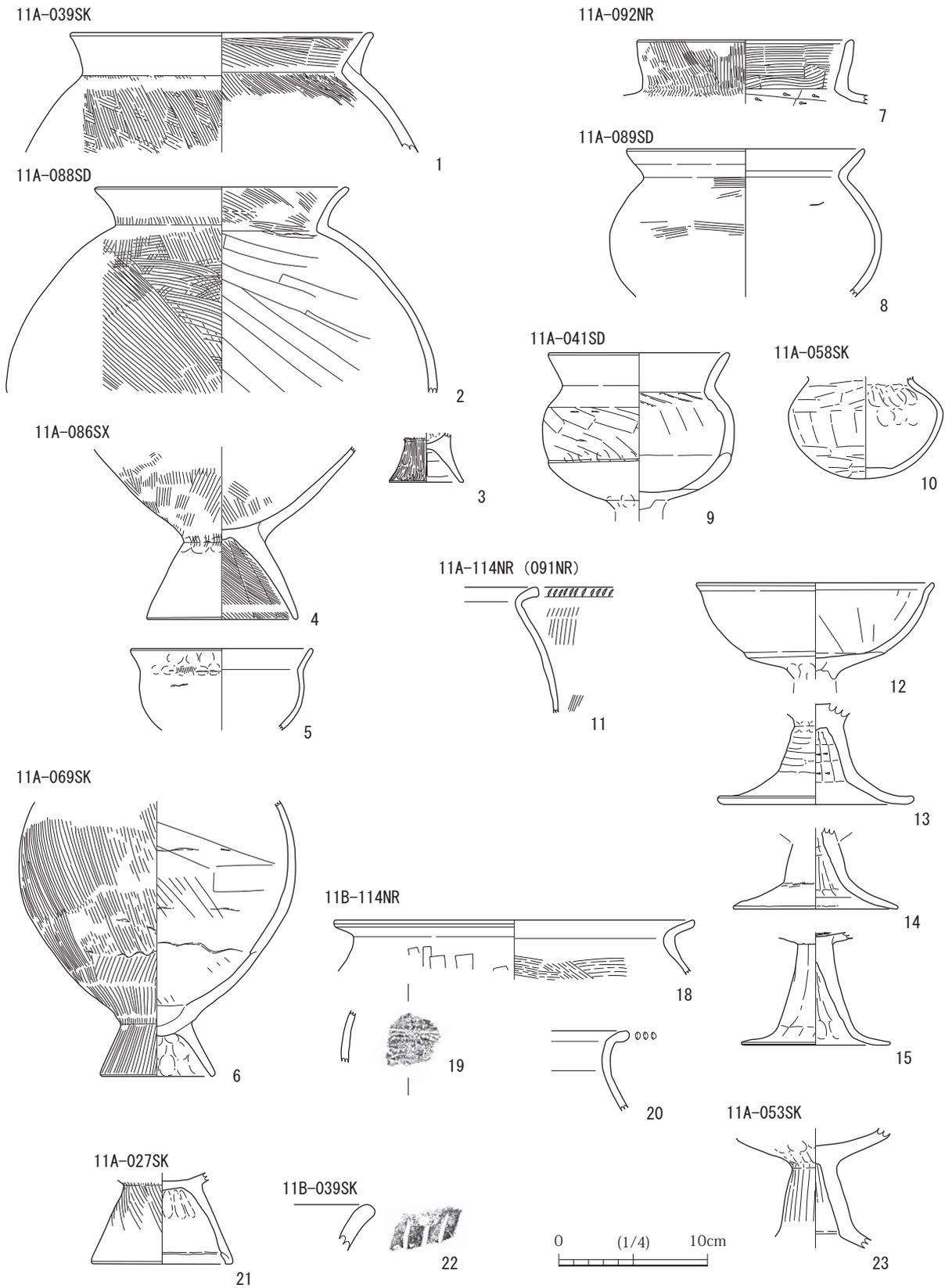


图 46 土師器実測图 1 (1/4)

ており、丸底を呈する底部外面はケズリ成形がなされる。体部上半には焼成前に描かれた矢印状の線刻がみられる。線刻順は山形を描いた後に縦位の線刻が施される。その後、この矢印状の線刻下端から底部にかけて正円状に線刻が施される。この線刻は1本ではなく、幾本もの沈線が重なるようにつけられているのが特徴である。施文方向は概ね右廻りである。この円状の線刻については、粘土の乾燥がかなり進んだ状態か、焼成後に行われたと考えられる。

11B-076SD 32 はほぼ垂直に延びる口縁部をもつ字状口縁甕。遺構は溝 11A-088SD に繋がる。

11B-089SK 33 は口縁部がわずかに内湾する受口状口縁甕。

11B-069SK 34 の直口壺は、外面は磨滅しており調整は不明で、内面はハケ・イタナデ調整がなされる。

11A- 包含層

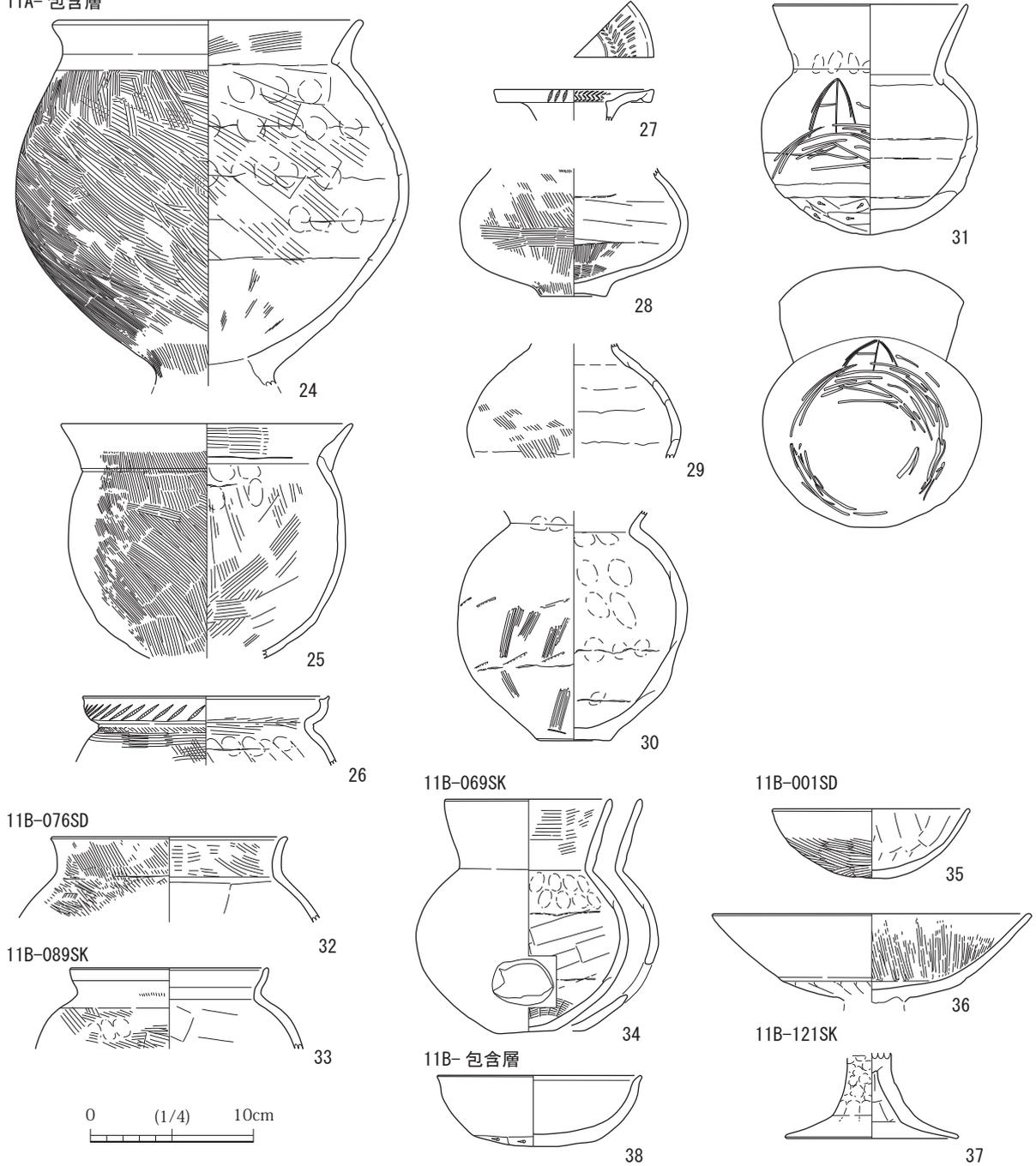


図 47 土師器実測図 2 (1/4)

体部下半に焼成後の穿孔がみられる。

11B-001SD 35の鉢は、底部がわずかに平底となる。36の高杯の杯部は、外面がナデ調整、内面がミガキ調整され、接合部で脚部が剥離する。

11B-121SK 37は屈折脚高杯の脚部で、外面にはユビ押圧痕が残存し、ナデ・イタナデ調整がなされる。

11B- 包含層 38の鉢は、ヨコナデによって口縁端部がわずかに外反する。底部外面にはケズリ成形がみられる。

(2) 12A区・12B区・12C区・12D区

12A-010SD 39のく字状口縁甕は逆ハ字状に開く口縁部と円い体部をもつ。外面は横位・斜位のハケ調整、内面は口縁部がハケ、体部はナデ・イタナデ調整が施される。体部外面の下半はパッチ状に剥離する。40は台付甕の脚台部で、ハケ・ナデ調整される。

12A-005SE 41はく字状口縁甕で、ハケ・ナデ調整される。

12A-013SX 42は受口状口縁甕の口縁部。ハケ・ナデ調整される。

12A-005SD 43は台付甕の脚台部で、外面は縦位のナデ調整、内面はハケ調整がなされる。

12A-019SI 44の直口壺は、体部外面に縦位のハケかミガキ調整後横位のミガキ調整がなされる。45・46は小型壺で、46は体部に焼成後穿孔がみられる。時期は廻間 III 式期から松河戸 I 式期か。

12A-020SD 47の鉢は器厚が薄く、硬く焼き締まる。ハケ調整がなされる。

12A-004SI 48の高杯の杯部は全体に磨滅しており、特に外面下半はあばた状に剥離する。時期は廻間 III 式期に比定される。

12A-018SI 49は小片であるが、器台の口縁部か。突帯が巡る 50は、手焙り形土器または鉢と考えられ、ハケ・ナデ調整がなされる。

12B- 包含層 51の高杯は全体に磨滅しており、1孔×3方向の透し孔をもつ。

12A- 包含層 52の甕は、口縁部端面にイタによる刺突が施される。ナデ調整され、胎土には砂粒が多く含まれる。時期は弥生時代中期後半に比定される。53～55はく字状口縁甕の口縁部で、58は脚台部。56は壺の底部で、輪状底を呈する。57・59は高杯で、57はミガキ調整される杯部、59は1孔×3方向の透し孔をもつ脚部である。

12C-004SD 60・61はく字状口縁甕の口縁部であるが、60は横に張り出す円い体部、61の体部径は口縁部径より小さくなる。61の色調は暗赤橙色を呈する。12D-003SDに繋がると考えられる。

12C-005SD 62は縦位のハケ調整によって口縁部がわずかな段をなす。器厚はかなり厚い。63は壺の底部か。

12C-012SK 64は小型壺の体部で、ナデ・イタナデ調整、ケズリ成形がなされる。

12C- 包含層 65はS字状口縁台付甕で、体部外面にクシ状のハケが施される。

12C-003SD 66は加飾太頸壺で、口縁端部がわずかに外上方に延びて斜めの面をなす。体部外面には直線と波状文が交互に施文される。67は柳ヶ坪型土器で、口縁部外面に2段、内面に3段のイタ連続刺突が施される。68は頸部にやや太い突帯が巡る。69はイタナデ、70はハケ・イタナデ調整されたく字状口縁甕で、体部は円い。71は布留系の甕で、口縁部は段をもつ。体部外面はやや不整なハケ調整がなされ、内面はケズリ成形が施される。72はS字状口縁台付甕のC類になる。体部外面にはやや粗い鋭いハケが施されている。73～76は台付甕の脚台部で、76はS字状口縁台付甕の脚台部と考えられる。また75は体部が打ち欠かれた可能性があり、破面が水平となる。78～83は直口壺。78は外面と口縁部内面に赤彩が施される。体部外面はハケ後ミガキ調整、内面もハケの後一部ミガキ調整がなされる。体部下半から底部にかけてスス・炭化物が付着する。また口縁部外面には多くの剥離がみられる。81

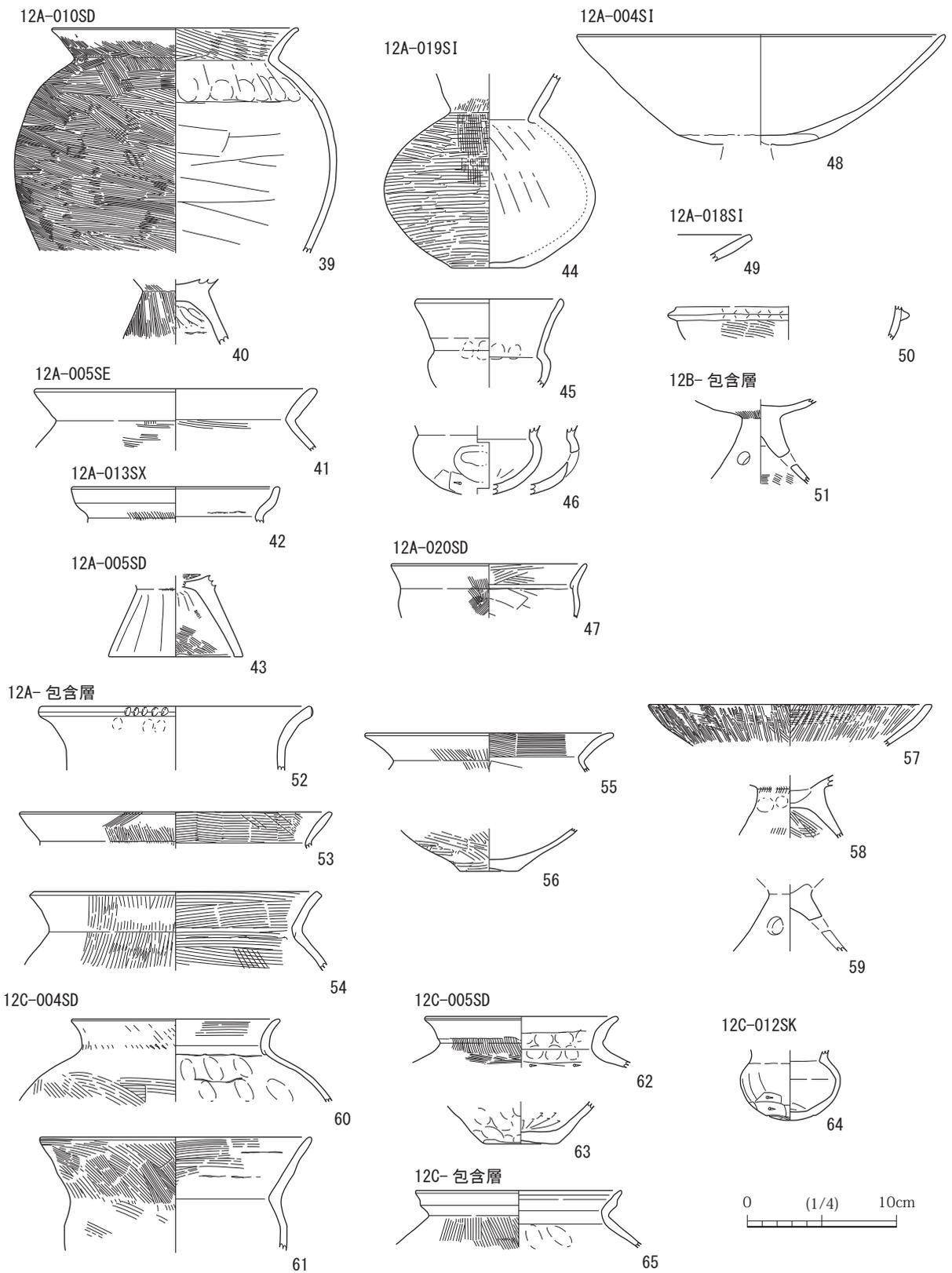


图 48 土師器実測図 3 (1/4)

12C-003SD

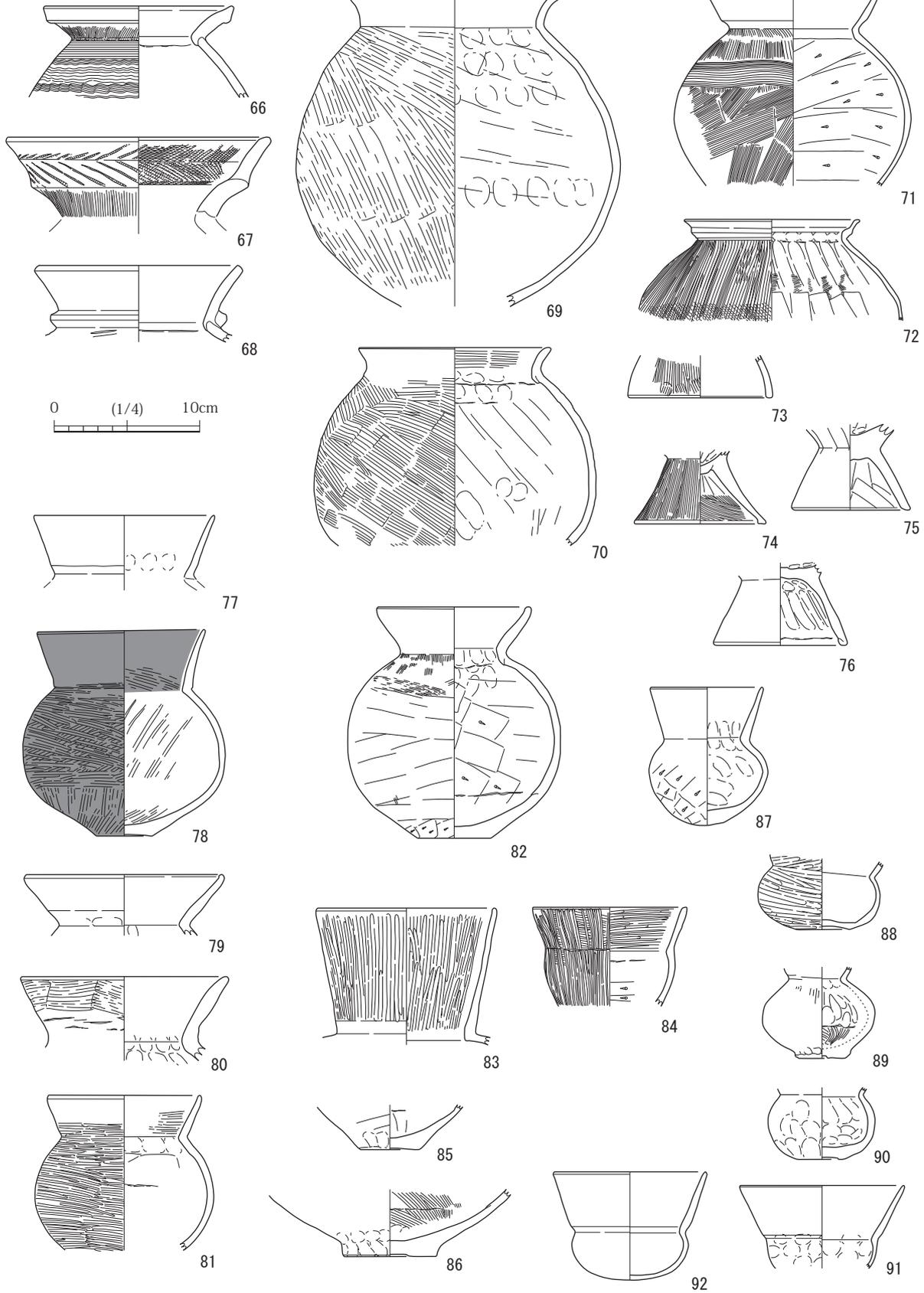


图 49 土師器実測图 4 (1/4)

は細かい横位のミガキ調整がなされる。82はハケ後イタナデ調整されており、口縁部がヨコナデによってわずかに内湾する。体部中央に向かい合うように2孔、体部下端から底部に1孔、大きめの穿孔が存在するが、新しく生じたものと考えられる。83は逆ハ字状に長く伸びる口縁部で、内外面とも縦位のミガキ調整がなされる。85・86は壺底部で、86は輪状底となる。87～92は小型壺で、87はナデ調整・ケズリ成形、88はミガキ調整、89・90はナデ調整がなされる。91・92は口縁部が長く伸び、ナデ・イタナデ調整される。84の鉢は、横位・縦位のミガキ調整と内面にケズリ成形がなされる。93～109は高杯。93・94は杯部が半球から皿状を呈し、脚部に1孔×3方向の透し孔をもつ。両者ともミガキ調整がなされる。96～104は屈折脚高杯で、96～99の杯部は、ナデ・イタナデ調整、ケズリ成形がなされる。脚部の100～102は外面にミガキ調整、103・104は外面にナデ調整が施される。105～108は小型の高杯になる。109は有段高杯か。杯部内外面には、やや不整な横位のミガキ調整が施される。以上により12C-003SDの時期は、廻間III式期から松河戸I式期にあたる。

12D-003SD 110はく字状の口縁をもつ壺、111は台付甕の脚台部で、両者ともナデ・イタナデ調整がなされる。

12D-009SD 112はS字状口縁台付甕C類。113は弥生時代中期の甕の口縁部。

12D-010SD 114はく字状口縁甕で、ナデ・ハケ調整、ケズリ成形される。

12D- 包含層 115は加飾太頸壺で、口縁部がやや外上方に延びて面をなして、凹線が巡る。口縁部外面のみ赤彩が確認されるが、それもほとんどが剥落している。116はく字状口縁甕、117はS字状口縁台付甕になる。118は柱状をなす高杯脚部で、縦位のミガキ調整がなされる。119はナデ調整される壺底部。

(3) 15区

15-068SK 120のく字状口縁甕は、外面がハケ・イタナデ調整、内面がハケ・イタナデ調整、ケズリ成形される。

15- 包含層 121はユビ押圧とナデで成形・調整される壺。122の高杯または器台の杯部は、ミガキ調整される。

15- 攪乱 123は受口状口縁甕か。肩部はヨコナデによってやや段をなし、外面には粗いハケが施される。124は鉢の口縁部。

15-TT25 4～5層 125は口縁部の外面にわずかに段をもつ甕で、ヨコナデ・イタナデ調整される。

(4) 16A区・16B区・16C区・16D区・16E区

16A- 攪乱 126はナデ調整される壺の底部で、灰黒色を呈する。

16B-006SK 127の壺体部は、クシによる横位の直線帯と無文帯を交互に上下に配置し、直線帯部に縦位のクシ直線文が施される。色調は淡灰黄色を呈する。128は壺体部屈曲部にあたり、外面には斜格子文が施される。色調は灰黒色を呈する。時期は弥生時代中期中葉から後葉の瓜郷式期から古井式期に比定される。

16B-011SK 129は壺の口縁部で、端部が折り返されて丸くなり、イタによる連続刺突が施される。130はナデ調整される台付甕の脚部で、上半が長く柱状となる。時期は弥生時代中期後半の古井式期に比定される。

16B- 包含層 131は内傾口縁鉢の口縁部で、外面が完全に剥離する。時期は弥生時代中期前半か。

16C-005SD 132は屈折脚高杯の脚裾部で、ナデ調整、ケズリ成形される。

16C-006SD 134・136・137はく字状口縁をもつ甕で、137は丸底となる。134はナデ・イタナデ調整、ケズリ成形、136・137はハケ・イタナデ調整が施されている。133はゆるやかに湾曲して上外方に延び

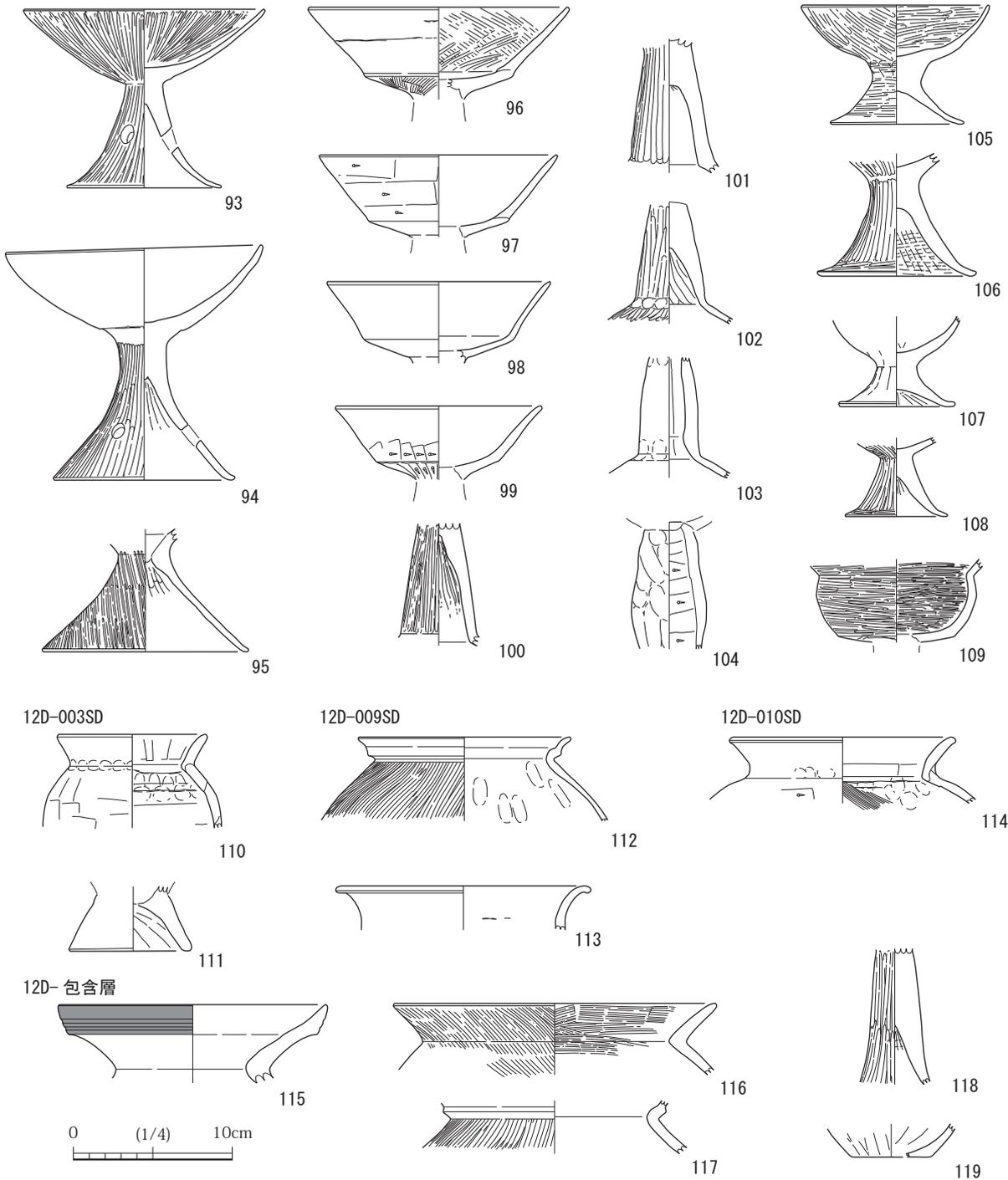


図 50 土師器実測図 5 (1/4)

る口縁をもつ甕で、ナデ・イタナデ調整がなされる。135の壺は口縁部がわずかに内湾して段をなすもので、ナデ・ユビナデ調整がなされる。器厚は薄く甕の可能性もある。138はナデ・イタナデ調整、ケズリ成形がなされる鉢で、平底となる底部外面もケズリ成形がみられる。139はナデ・ユビナデ調整、ケズリ成形がなされる小型壺。140は屈折脚高杯の脚部上半で、やや外湾して外に膨れる。以上により16C-006SDの時期は、松河戸Ⅱ式期から宇田Ⅰ式期に比定される。

16C-077SD

141はく字状口縁甕で、ナデ・ユビナデ調整される。142も直線的に上方に延びる口縁部をもつく字状口縁甕で、端面にはイタによる連続刺突がみられるが、個数・箇所は不明である。144はゆるやかに

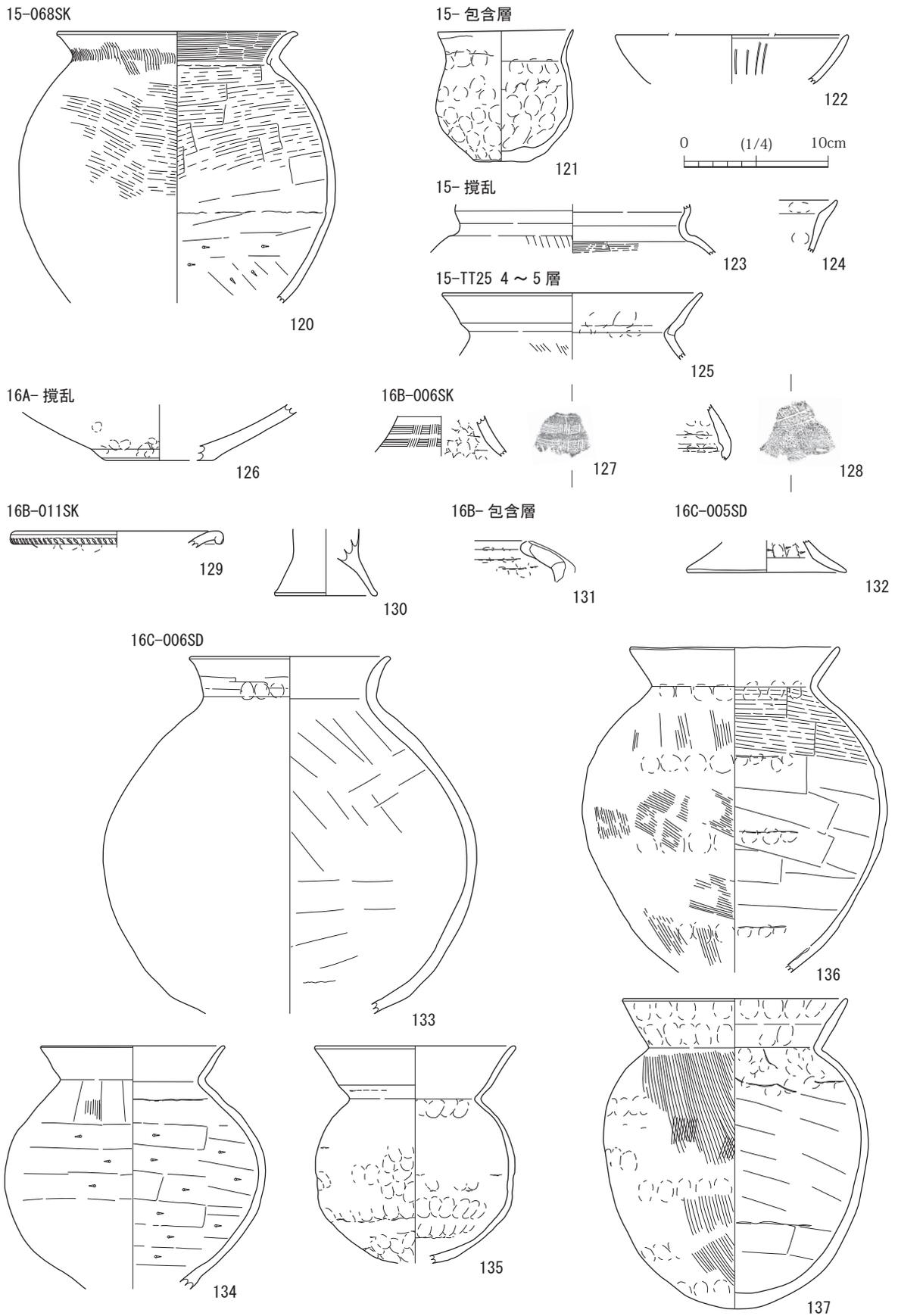


图 51 土師器実測图 6 (S=1/4)

屈曲する口縁部をもつ甕で、口縁部がハケ調整、体部がナデ・イタナデ調整、ケズリ成形される。143の壺底部は輪状底をなし、木葉痕が残る。145の小型壺は全体に磨滅しており、調整は不明である。146の器台は、イタナデ調整がなされる。147～151は屈折脚高杯。149・150の外面には、縦位のナデ・イタナデ調整後に横位のミガキ調整が施されている。149の横位のミガキは細く、工具を束ねたように連続する部分もある。150のミガキは149に比べやや太く・深い。149は杯部にも横位のミガキがみられる。151はハ字状に脚部が開き、ナデ・イタナデ調整がなされる。以上により、16C-077SDは、廻間III式期から松河戸I式期に比定される。

16D-023SD 口縁部がゆるやかに屈曲する152のく字状口縁甕は、ナデ・イタナデ調整がなされる。

16D-026SD 153は口縁部が短く上方に延びる壺で、色調が灰白色を呈し、胎土も精良である。

16D-052SD 154の高杯脚部はイタナデまたはミガキ調整、ケズリ成形がなされる。

16D-085SK 155のく字状口縁甕は、ハケ調整がなされる。

16D-090SK 156はユビ押圧・ナデによって成形された鉢で、ハケ調整された後に底部外面がケズリ成形によって整えられる。全体に被熱している。157はナデ・イタナデ調整される小型壺で、158は手握ね状の壺になる。

16D-19層 159は外面がハケ・イタナデ調整される鉢で、内面全体と外面下半はあばた状の剥離がみられる。器厚は薄い。

16D- 包含層 160はく字状口縁甕の口縁部。

16E-033SU 161・162は有段口縁をもつ太頸壺。161は口縁内面に2段のイタによる連続刺突が施されるが、羽状ではなくほぼ同方向を向く。体部外面の上半には、不整なクシによる横位の直線文が2段施文される。外面にはハケ調整、ケズリ成形、内面はナデ・イタナデ調整がなされる。また体部外面下半にはスス・炭化物が付着する。162は磨滅が激しい。163は直立してゆるやかに外湾する口縁部をもつ甕で、ナデ・イタナデ調整がなされる。体部外面下半にはスス・炭化物が付着する。168はゆるやかに屈曲する口縁部もつく字状口縁甕で、ハケ・ナデ調整される。164の小型壺はナデ・イタナデ調整されており、体部上半部に焼成後穿孔がなされる。穿孔部の破面は磨滅する。

165～167・169～174は屈折脚高杯と考えられる。169・170は杯部の口縁端部が外上方に延びるもので、169は外面が赤橙色を呈しており、赤彩の可能性もある。杯部をみると、170・171・172では稜線が明瞭であるが、173・174はかろうじて確認できる程度であり、167はみられない。また脚部では、172のみ裾部が内湾するが、167・173・174は外湾する。以上により、16E-033SUの時期は、松河戸II式期から宇田I式期に比定される。

16E-055SK 175の甕は口縁部端が上方にわずかにつまみ上げられており、ヨコナデ・ハケ調整される。

176はヨコナデ・ナデ調整される壺の口縁部。177・178は屈折脚高杯の脚部で、178の脚裾部内面はユビ押圧のみで調整されており、内面には凹凸が残る。

時期は175が古墳時代後期、他は松河戸期に比定される。

16E-019SK 179の甕はゆるやかに屈曲する口縁部をもち、細かいハケ調整がなされる。

16E-059SD 180は体部が横に広がらない甕で、ハケ・ナデ調整される。

16E- 包含層 181は体部が円球を呈するく字状口縁の甕で、ナデ・イタナデ調整され、外面下端から底部にかけてケズリ成形されて整えられている。182の甕は口縁部端が面をなす。183は台付甕の脚台部。184～186・188・189は屈折脚高杯で、ナデ・イタナデ調整される。187の鉢は口縁端部が内傾する面をなす。ナデ・ヨコナデ調整される。

(宮腰健司)

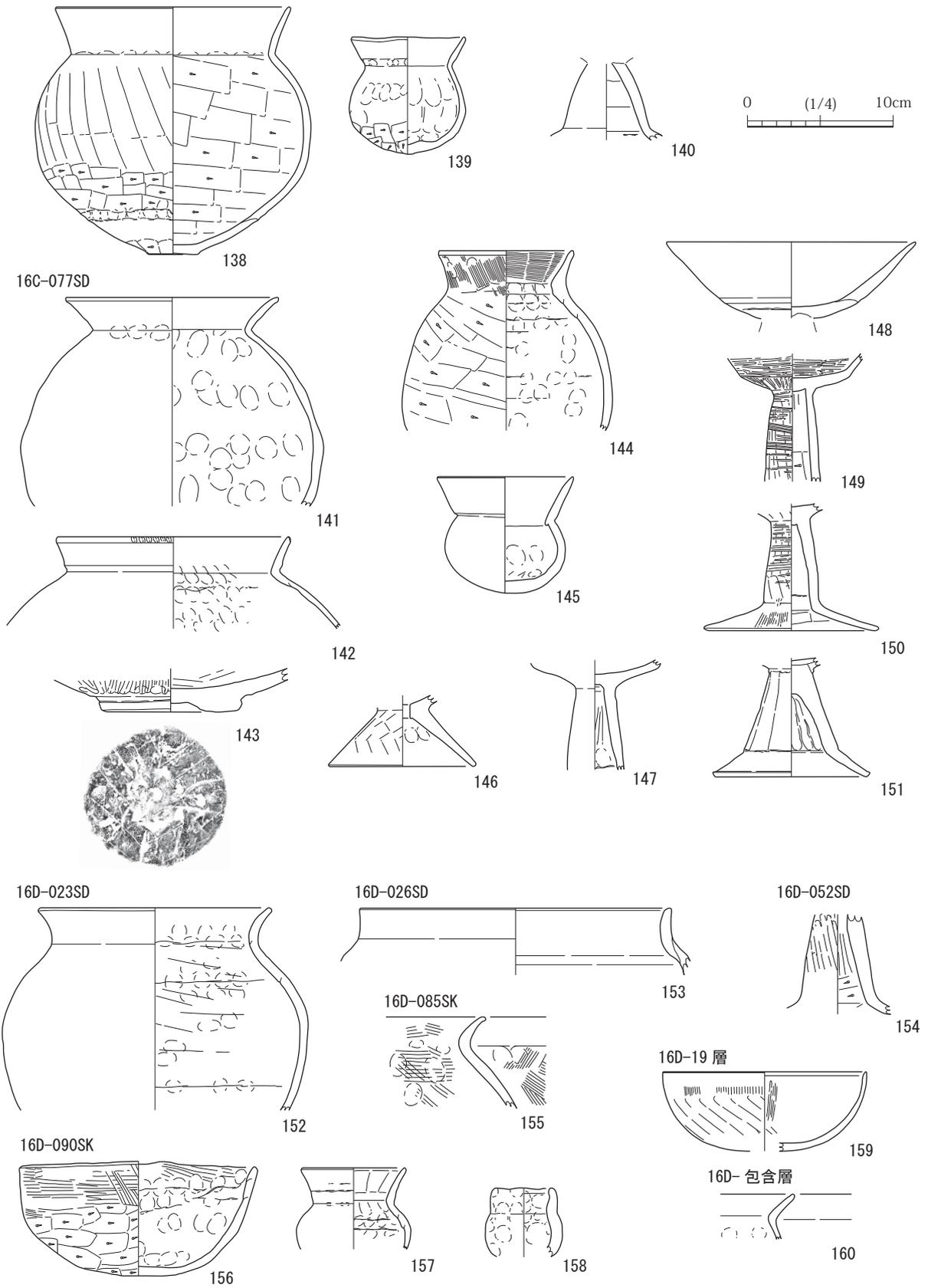


图 52 土師器実測图 7 (1/4)

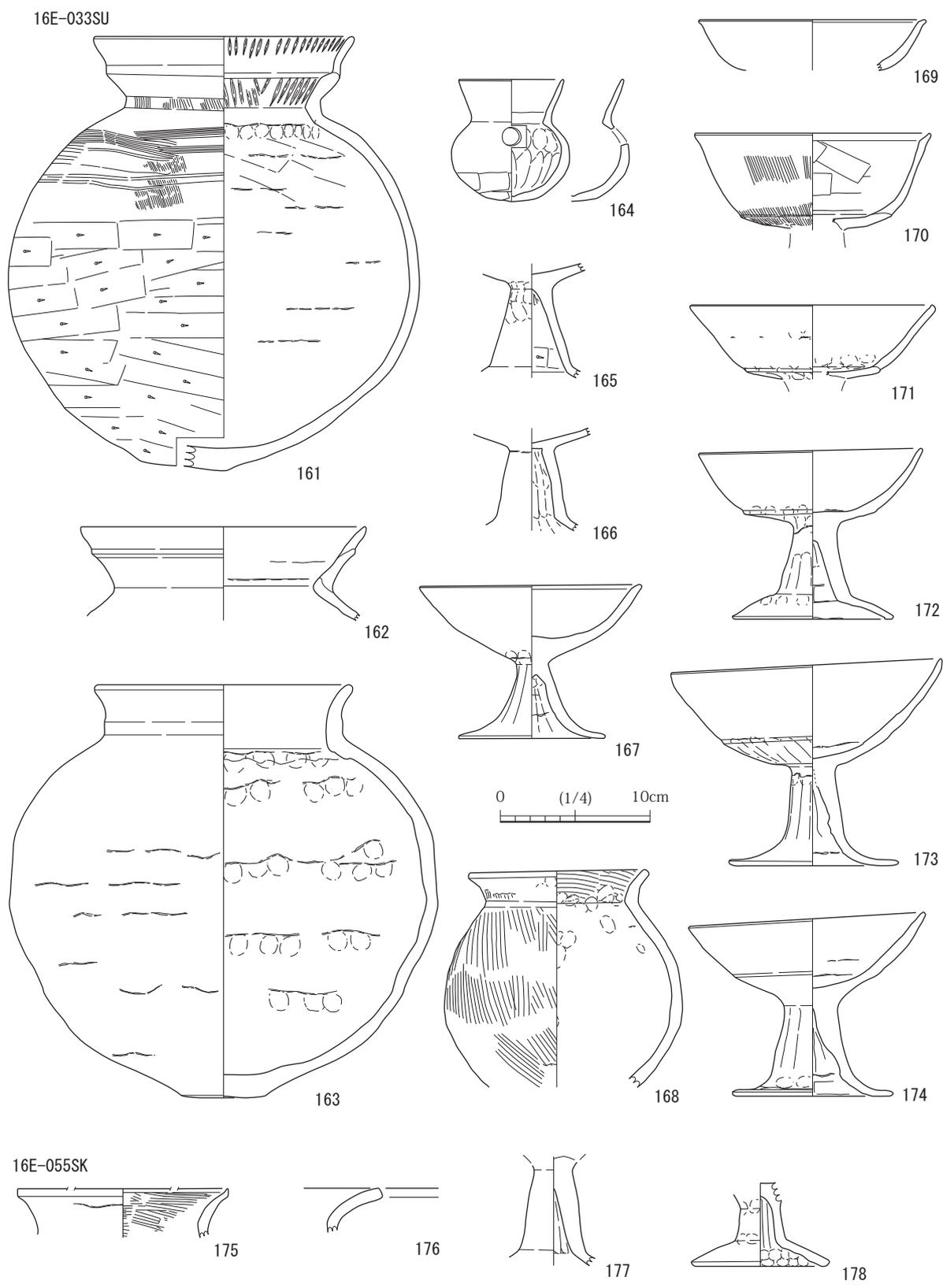


图 53 土師器実測图 8 (1/4)

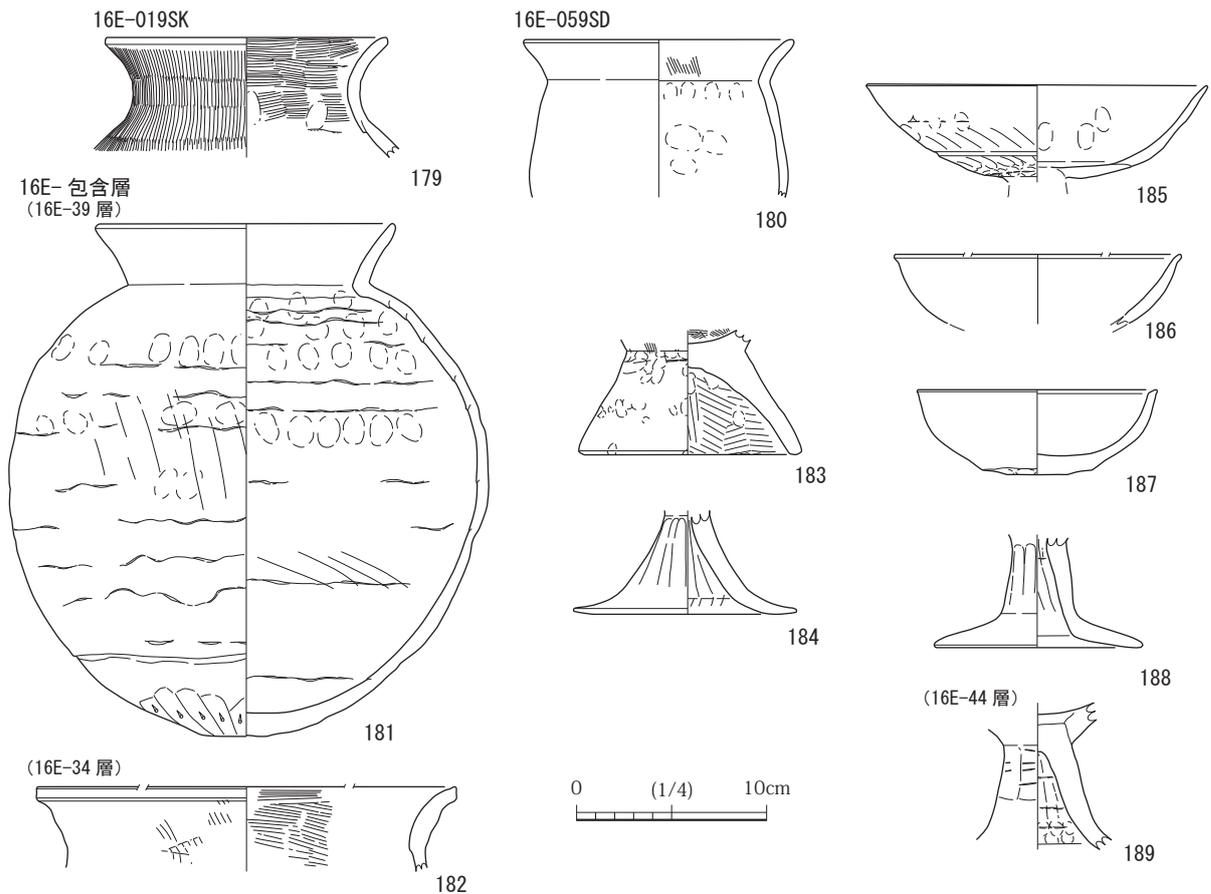


図 54 土師器実測図 9 (1/4)

2 古代

(1) 11A・11B 区

須恵器では 6 世紀代の資料から認められ、8 世紀後半代（鳴海 32 号窯式、折戸 10 号窯式）が中心となる。灰釉陶器は 9 世紀後半（黒笹 90 号窯式期）の時期を中心に 10 世紀後半（東山 72 号窯式）までの資料がある。平安時代土師器煮沸具は、「伊勢型鍋」（「伊勢系鍋」永井, 1996）、内外面ナデ調整を基本とする「三河型甕」、「三河型鍋」、「清郷型」甕（鍋）* と呼称されるタイプがみられる。

*（吉良町）『寄名山遺跡 発掘調査報告書』（三田, 2008）に整理されている平安時代の土器甕・鍋の名称等を参考にした。

11A-033SD 190 は須恵器盤の高台部分、0-10 号窯式。

11A-041SD 191 は須恵器短頸壺、0-10 号窯式。

11A-058SK 192 は須恵器蓋、外面上部は回転ケズリ調整、鈕部分を欠く。8 世紀後半。

11A-059SD 193 は三河型甕、内外面にイタナデ調整が認められる。

11A-053SK 194 は須恵器蓋で 0-10 号窯式、195 は須恵器盤で K-7 号窯式。196 は灰釉陶器碗、K-90 号窯式。197 は灰釉陶器皿、0-53 号窯式。出土遺物はみな小片であり、ほかに古墳時代土器（23）や山茶碗が混じる。遺構の時期は中世以降と考えられる。

11A-029SD 198 は土師器把手付甕である。内外面ナデ調整で、口径は不明ながらも把手部分はやや長く大型であり、径は中～大型となる個体と推定される。

11A-057SK 199 は須恵器無台杯であり外面体部はナデ調整、下位はケズリ調整、0-10 号窯式。200 は須恵器有台杯で高台内は回転ケズリ調整、8 世紀後半。201 は灰釉陶器碗、0-53 号窯式。202 は土師器甕の把手部分である。ただし、遺構の時期は中世以降と考えられる。

11A-032SE 平安時代の井戸出土資料である。灰釉陶器は 203 碗は灰釉ハケ塗り、208 皿と共に K-90 号

窯式に比定される。204～206 碗、209 皿は 0-53 号窯式。207 皿は図化できないが高台内に墨書が認められる。H-72 号窯式。210～212 は土師器甕の口縁部で、内外面ナデ調整の三河型甕である。16・17 は伊勢型鍋口縁部で、ハケ・ナデ・イタナデ調整される。両者とも端部が横・斜位に肥厚する。11 世紀初頭までに井戸は廃絶したと考えられる。

11A-017SD 213 は灰釉陶器皿、H-72 号窯式。ただし、遺構の時期は中世以降と考えられる。

11A-027SK 214 は灰釉陶器皿、H-72 号窯式。

11A-009SD ほかに出土遺物に須恵器、灰釉陶器小片がある。215 は小型の紡錘形を呈する管状土錘。胎土緻密残存部で長さ 2.7cm、幅 0.9cm、重量は 1.5g である。

11A- 包含層 216 は大型の須恵器蓋、扁平な鈕をもつ。218 は須恵器壺、0-10 号窯式期前後。217 は灰釉陶器の平瓶と思われる。9 世紀代。灰釉陶器碗 219 は 0-53 号窯式期、220 は H-72 号窯式期。

11B-066SD 図化資料はいずれも須恵器である。221 壺頸部は突帯で上下 2 段に区画され、それぞれに波状文がめぐる。H-11 号窯式に比定される。222 甕は 8 世紀代。223 は金属器写しの鉢形、無台碗であり、ナデ調整を基本として丸底気味の外面底部付近のみ手持ちケズリ調整を施す。C-2 号窯式、7 世紀代資料。224 有台杯は 0-10 号窯式。

11B-030SI 堅穴建物の資料であり、須恵器 (225～248) と三河型甕 (249～252)、225 製塩土器の脚部片がある。225, 226 の高杯脚部が古く 7 世紀後半代、227 は無台杯、228～238 は有台杯 0-10 号窯式。複数の資料で高台端部と内面口縁部周辺に摩滅が認められる。239 は盤、NN-32 号窯式。249 は高脚盤で 0-10 号窯式。蓋 241～244 は NN-32 号窯式、245, 246 は 0-10 号窯式。247 碗、248 は平底の鉢、0-10 号窯式。249～251 は中～大型の甕で外折する口縁部の幅が広く端部を丸く収めるものが多い。254 は小型のもの、253 は口縁部の屈曲が小さく短い。

11B-067SI 030SI に切られる堅穴建物の資料であり、ほか土師器甕片がある。256 は須恵器有台杯、高台端部に顕著な摩滅が認められる。0-10 号窯式。

11B-070SK 堅穴建物柱穴の可能性がある。257 は須恵器蓋、NN-32 号窯式。258 は須恵器盤、8 世紀後半。

11B-022SD 259 は須恵器の大型の壺・甕で、8 世紀後半の資料である。260 は灰釉陶器皿、内面に摩滅が認められる。K-90 号窯式。

11B-119SK 261 は土師器三河型甕。

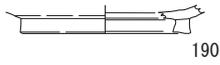
11B-017SK 262 須恵器坏身は I-17 号窯式に比定される。混入と思われる。263, 264 は灰釉陶器碗、内面に摩滅が認められる。0-53 号窯式。265, 266 は土師器三河型甕である。口縁部は短く折れ、屈曲部に稜をもち、口縁端部を面に作る。

11B-063SK 267 は須恵器無台碗、外面底面周囲は手持ちケズリ調整。8 世紀後半の資料。

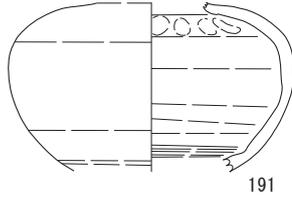
11B-114NR 下層で検出された自然流路であり、埋没後の遺構に 119SK がある。須恵器蓋 268 は 8 世紀後半、269 それより古く 7 世紀後半か。270 は須恵器有台杯、0-10 号窯式。271 は灰釉陶器碗、K-90 号窯式。272 は製塩土器の脚部。273 は土師器鍋、口縁部が短く折れ、屈曲部の器壁は厚い。

11B- 包含層 274～276, 293, 294, 295 は土師器甕または鍋である。274, 275, 276, 294 は口縁部が短く折れ、屈曲部の器壁が厚くなる。清郷型鍋のような粗い胎土である。277 は製塩土器の脚部。紡錘形を呈する管状土錘 278 は残存長 4.4cm、幅 1.0cm、重量 4.4g、292 は残存長 3.5cm、幅 1.0cm、3.8g。須恵器 279～291 では、279 は金属器写し、無台碗で外面底面周囲を手持ちケズリ調整する。280～283 は有台杯、0-10 号窯式。281 は高台内に墨痕が認められる。284, 285 蓋、286 盤、287 長脚盤は 0-10 号窯式など 8 世紀後半の資料。288 は平底の鉢。289 は全面施釉の灰釉陶器碗、K-14 号窯式。290 は灰釉陶器短頸壺、K-14～K-90 号窯式に比定される。291 は灰釉陶器長頸瓶か、高台内に墨痕が認められる。

11A-033SD



11A-041SD



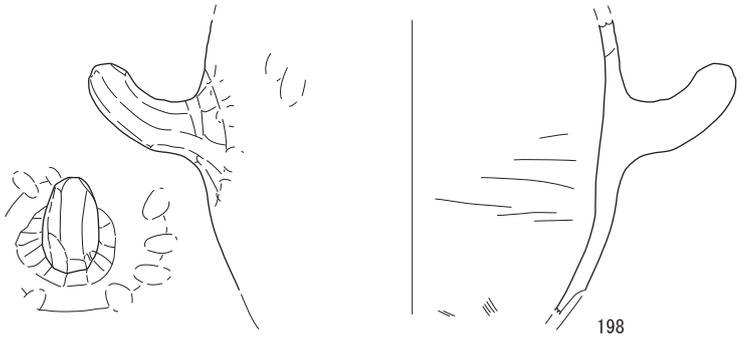
11A-059SD



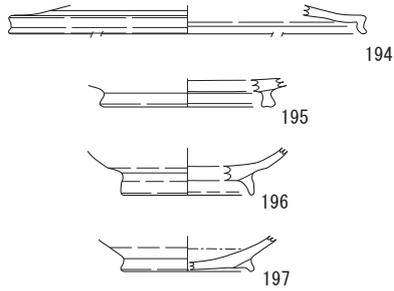
11A-058SK



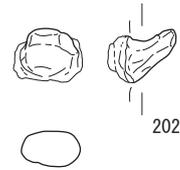
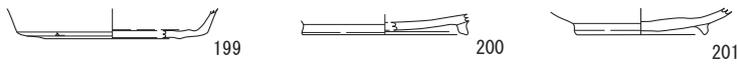
11A-029SD



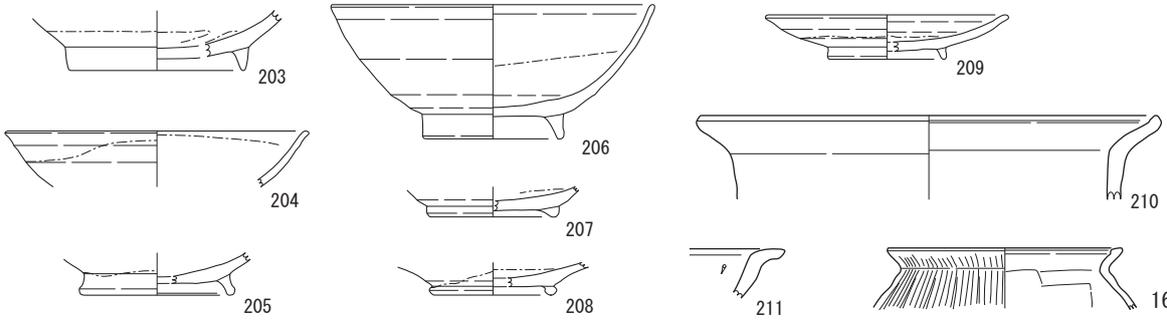
11A-053SK



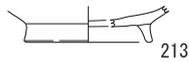
11A-057SK



11A-032SE



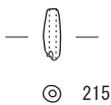
11A-017SD



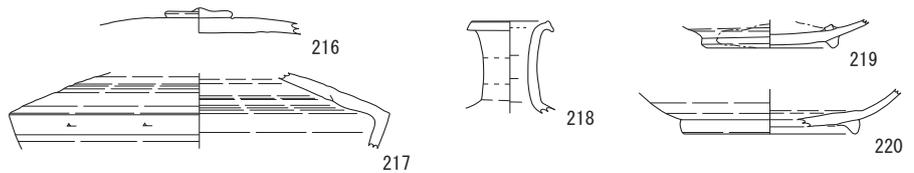
11A-027SK



11A-009SD



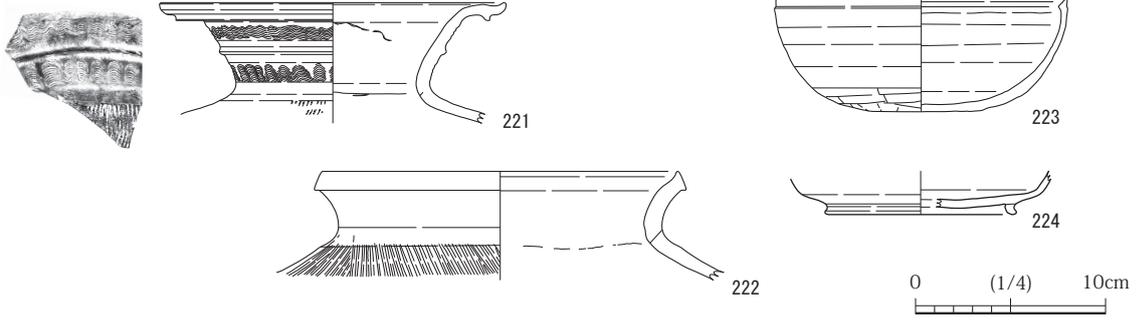
11A 区包含層



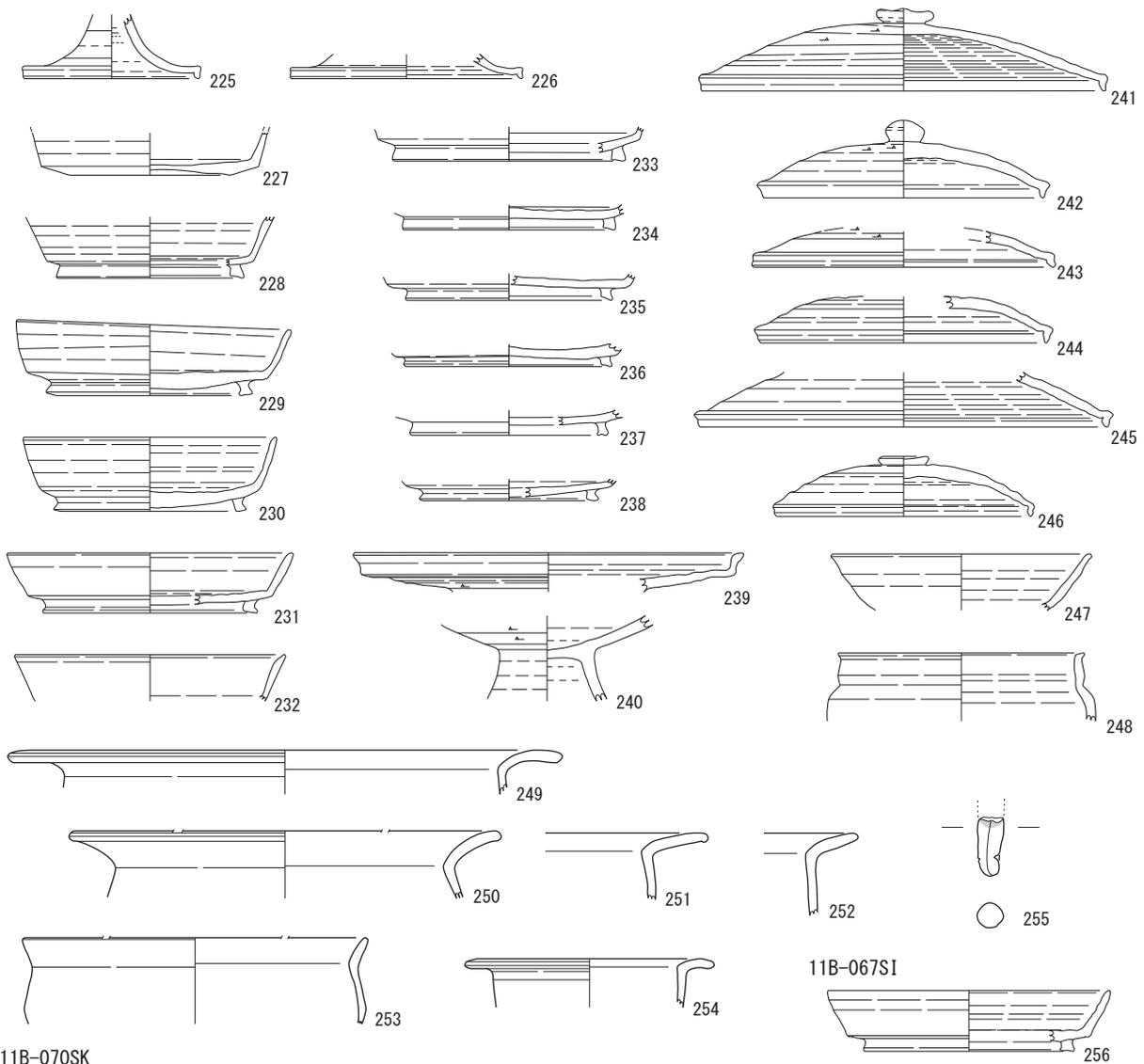
0 (1/4) 10cm

图 55 古代 土器・陶器実測图 1 (1/4)

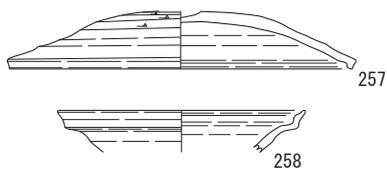
11B-066SD



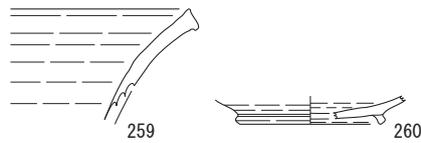
11B-030SI



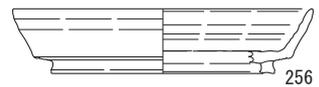
11B-070SK



11B-022SD



11B-067SI



11B-119SK



图 56 古代 土器・陶器実測图 2 (1/4)

(2) 12A・12B・12C・12D 区

12A-013SX 296 は灰釉陶器碗、0-53 号窯式。遺構の時期は中世と考えられる。

12A- 包含層 須恵器 298 蓋は 0-10 号窯式、299 有台杯は 8 世紀後半の資料。灰釉陶器 300 段皿は全面施釉で K-90 号窯式。301, 302 碗と 303 皿は高台端部に摩滅が認められる。0-53 号窯式。

12B-001SD 304 は須恵器盤、0-10 号窯式。灰釉陶器碗 305, 306, 皿 320 は 0-53 号窯式。306, 320 は高台内に墨痕が認められる。ただし、遺構の時期は中世と考えられる。

12B-005SK 307 は須恵器有台杯、8 世紀代。このほか灰釉陶器片が出土している。

12B-006SK 308 は紡錘形を呈する管状土錘、残存長 5.1cm、幅 1.5cm、重量 9.2g。

12B- 包含層 須恵器では 309 は短頸壺、肩にかけて厚く自然釉が掛かる。310 は長脚盤、以上は 8 世紀後半代の資料。311 は長頸瓶。312 は土師器、三河型甕。幅のある口縁部が外に折れ、湾曲しつつ端部は丸く収める。

12C-002SD 須恵器 313 無台杯、底部脇から底面ケズリ調整。0-10 号窯式。314 は無台碗。

12C-004SD 須恵器有台杯 315, 316 は 0-10 号窯式。灰釉陶器碗は 317, 318 は K-90 号窯式、319 は 0-53 号窯式。

12C-001SD 321 は土師器の煮炊具と思われるが底部形状など全体像は不明である。口縁端部がほんの少し内傾する以外は体部が直線的に開く形状であり、外面はタテ斜め方向、内面はヨコ方向に非常に緻密なハケメ調整が認められる。

12C-006SE 322 は灰釉陶器輪花碗で H-72 号窯式。323 は遺存状況の良い土師器三河型甕であり、口径 22.7cm、残存高 27.5cm を測る。ナデ調整、口縁部は比較的短く、折れの角度は小さく、端部に面をつくる。外面に煤が付着する。

12C-003SD 324 は管状土錘で、筒状でやや大型である。長さ 6.1cm、幅 2.1cm、重量 24.4g。ほか出土遺物との関係から古墳時代資料の可能性が考えられる。

12C- 包含層 須恵器 325 蓋、326 盤は 8 世紀後半の資料。328 水瓶は猿投窯 NN-32 号窯の製品と思われる。329 は壺で腰部下位、底面はケズリ調整。327 は畿内産（系）土師器皿であり、外面に部分的にミガキ調整の痕跡が認められる。

12D-001SD 331 は須恵器有台杯、0-10 号窯式。ほかに土師器甕片が出土している。

12D-003SD 332 は須恵器蓋杯の蓋で I-17 号窯式期資料で、混入と思われる。外面上位に顕著な摩滅痕が認められる。須恵器 333 は無台杯、334, 335 は有台杯とともに 0-10 号窯式。

12D-007SE 330 は須恵器有台杯、高台径は約 14cm（復元径）とやや大型のものである。0-10 号窯式。

12D-010SD 336 は灰釉陶器碗。

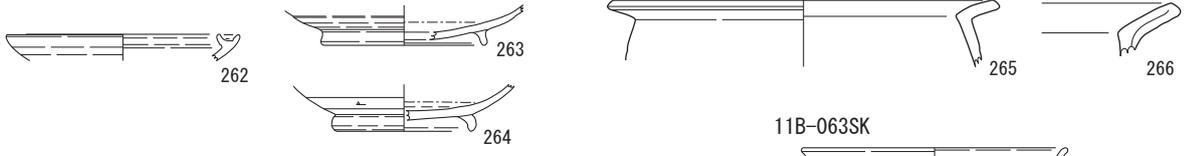
12D- 包含層 須恵器有台杯 337, 338 は 0-10 号窯式。339 は盤、8 世紀後半資料。灰釉陶器 340 は浄瓶、0-10 号窯式または K-7 号窯式期の資料。341 碗は内面に摩滅が認められる。H-72 号窯式。

(3) 15 区

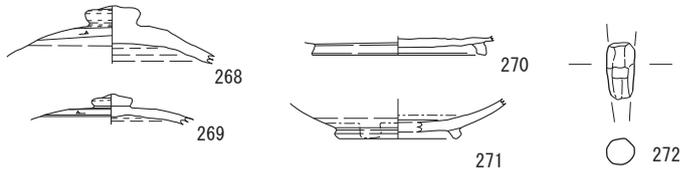
15-002SX 342 は須恵器壺、I-17 号窯式。343～345 は特大型の陶錘であり、345 は長さ 11.0cm、幅 3.9cm、孔径 1.4cm、重量 181.1g である。端部は使用による欠損、摩滅が認められる。343 は 44.0g、344 は 58.7g。ほかに近世の遺物も含まれる。

15-005SW 水田耕作土の混入資料。須恵器有台杯 347 は 0-10 号窯式。350 は緑釉陶器碗、鳴海窯製品の可能性が高い。K-90 号窯式。灰釉陶器は碗 348, 349, 351, 352、皿 353 が K-90 号窯式。碗 354～358 は 0-53 号窯式、359 が H-72 号窯式、366 は長頸瓶。土師器甕 360～365 は三河型甕を中心に外折する口縁部の幅の短いタイプが多い。367 はフイゴ羽口。

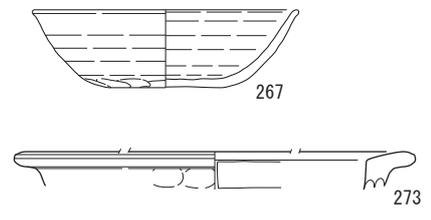
11B-017SK



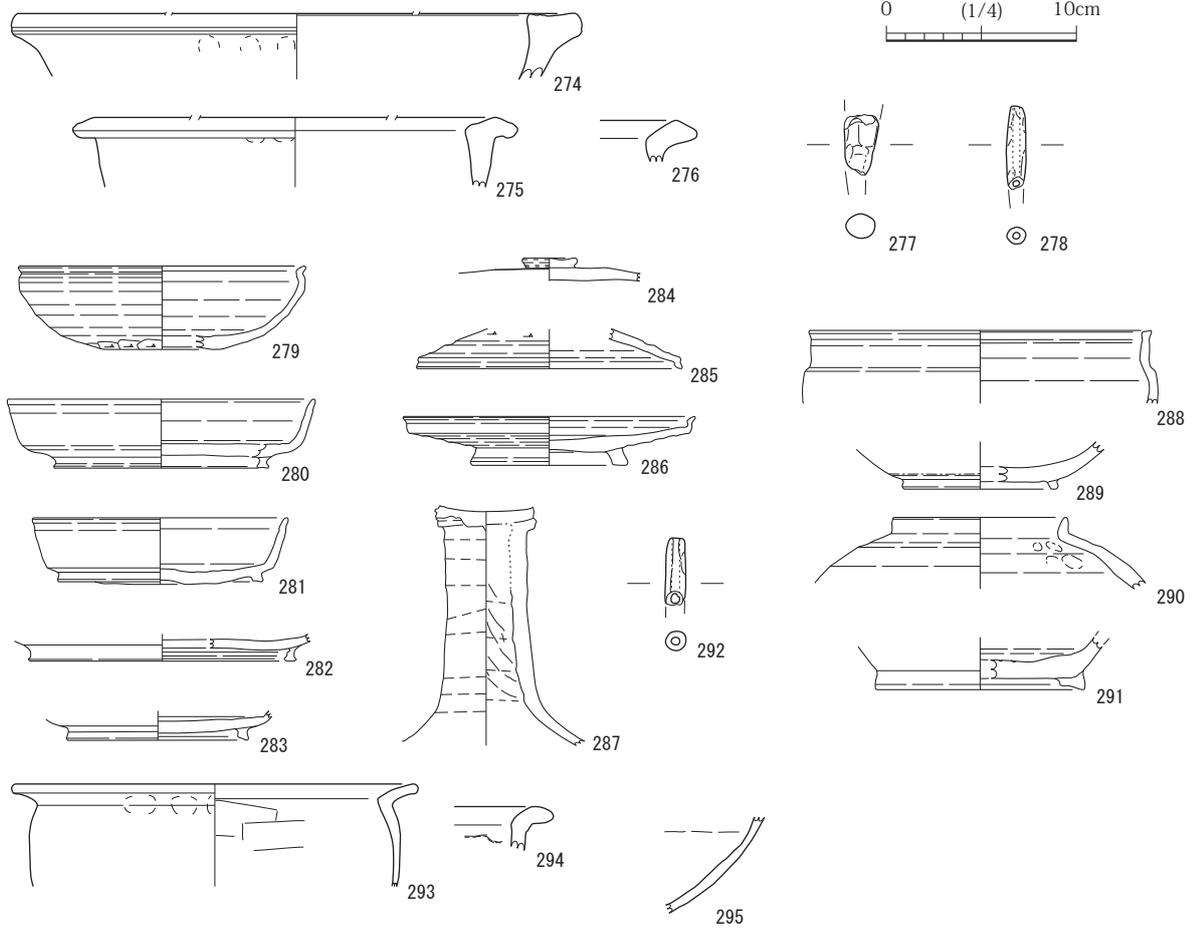
11B-114NR



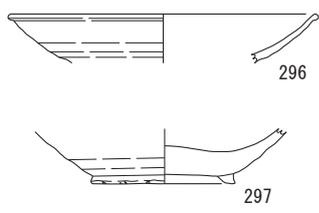
11B-063SK



11B 区包含層



12A-013SX



12A 区包含層

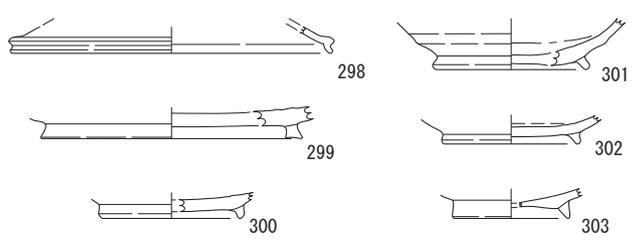


图 57 古代 土器・陶器実測图 3 (1/4)

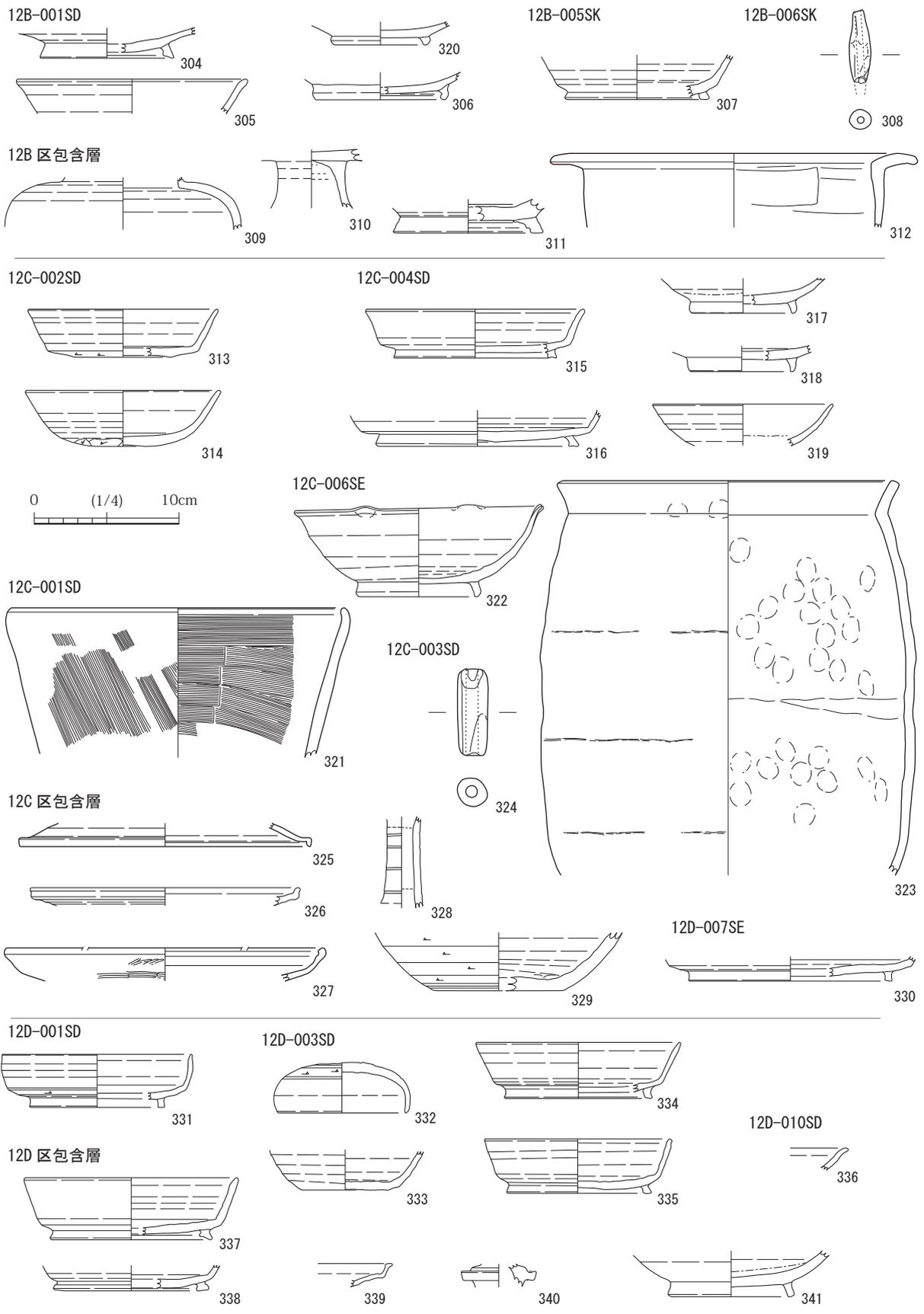
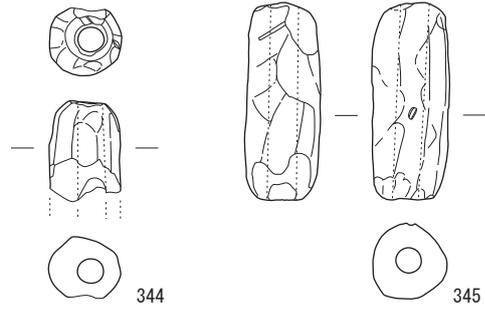
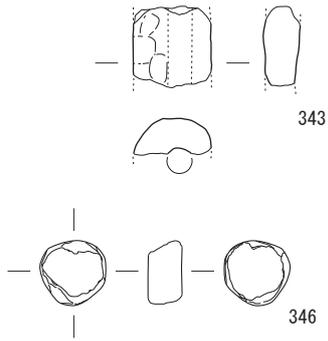
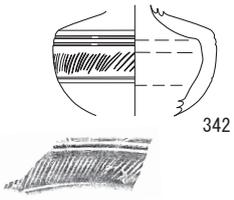
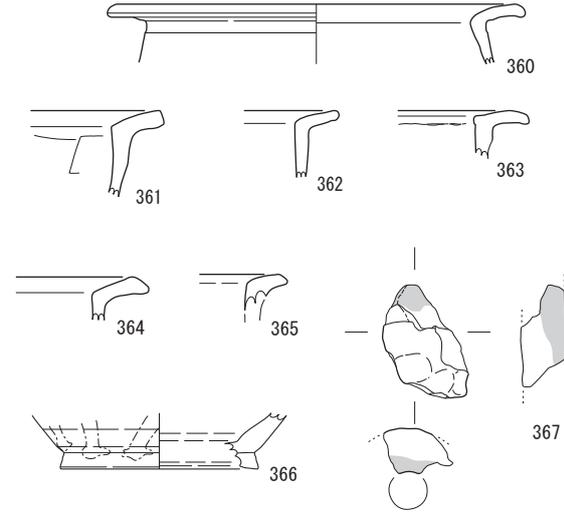
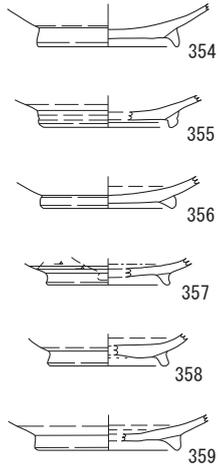
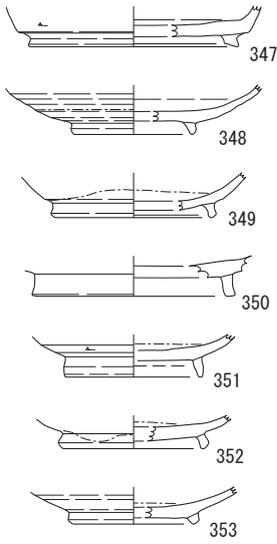


图 58 古代 土器・陶器実測图 4 (1/4)

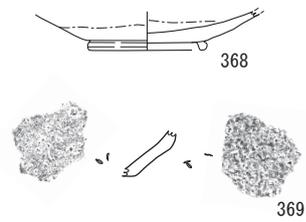
15-002SX



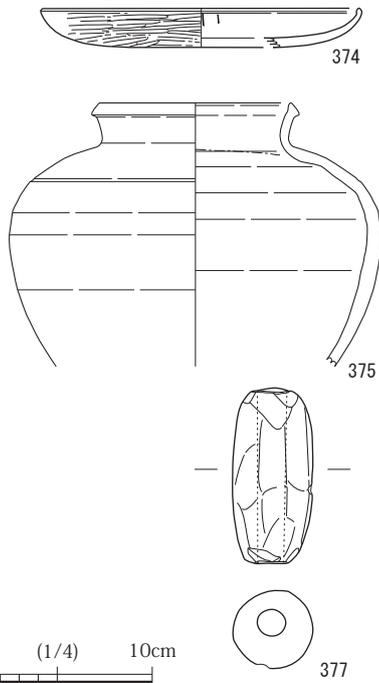
15-005SW



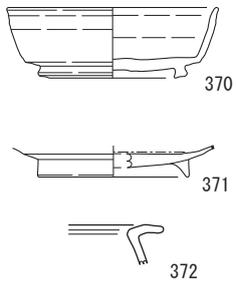
15-006SW



15-020SD



15-007 SW



15-011SK

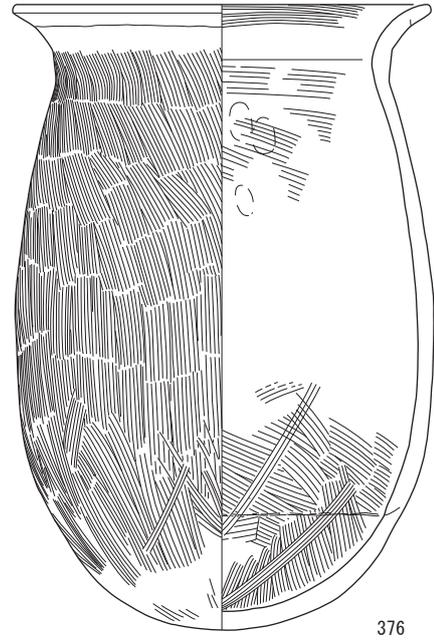
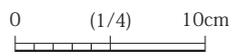
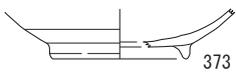


图 59 古代 土器・陶器实测图 5 (1/4)

15-006SW 近世の遺物を含む水田耕作土の混入資料。368は灰釉陶器碗、内面に摩滅が認められる。K-90号窯式。369は土師器甕片（圧痕分析資料）。

15-007SW 水田耕作土の混入資料。370は須恵器有台杯、0-10号窯式。371は灰釉陶器皿、内面に摩滅が認められる。K-90号窯式。372は三河型土師器甕。

15-011SK 373は土器有台碗。内面全体が黒色を呈する。形状は灰釉陶器碗に類似する。ほかに近世遺物を含む。

15-020SD 374は畿内産土師器皿、外面のミガキ調整が明瞭である。C-2号窯式期、8世紀前葉以降か。376は須恵器短頸壺、肩部に圈線1条がめぐる。8世紀代か。376は土師器甕、三河系の丸底の長胴甕で、口径21.6cm、器高33.2cm。口縁部は緩やかに大きく外反し、端部を丸く収める。外面は斜め方向のハケメ、

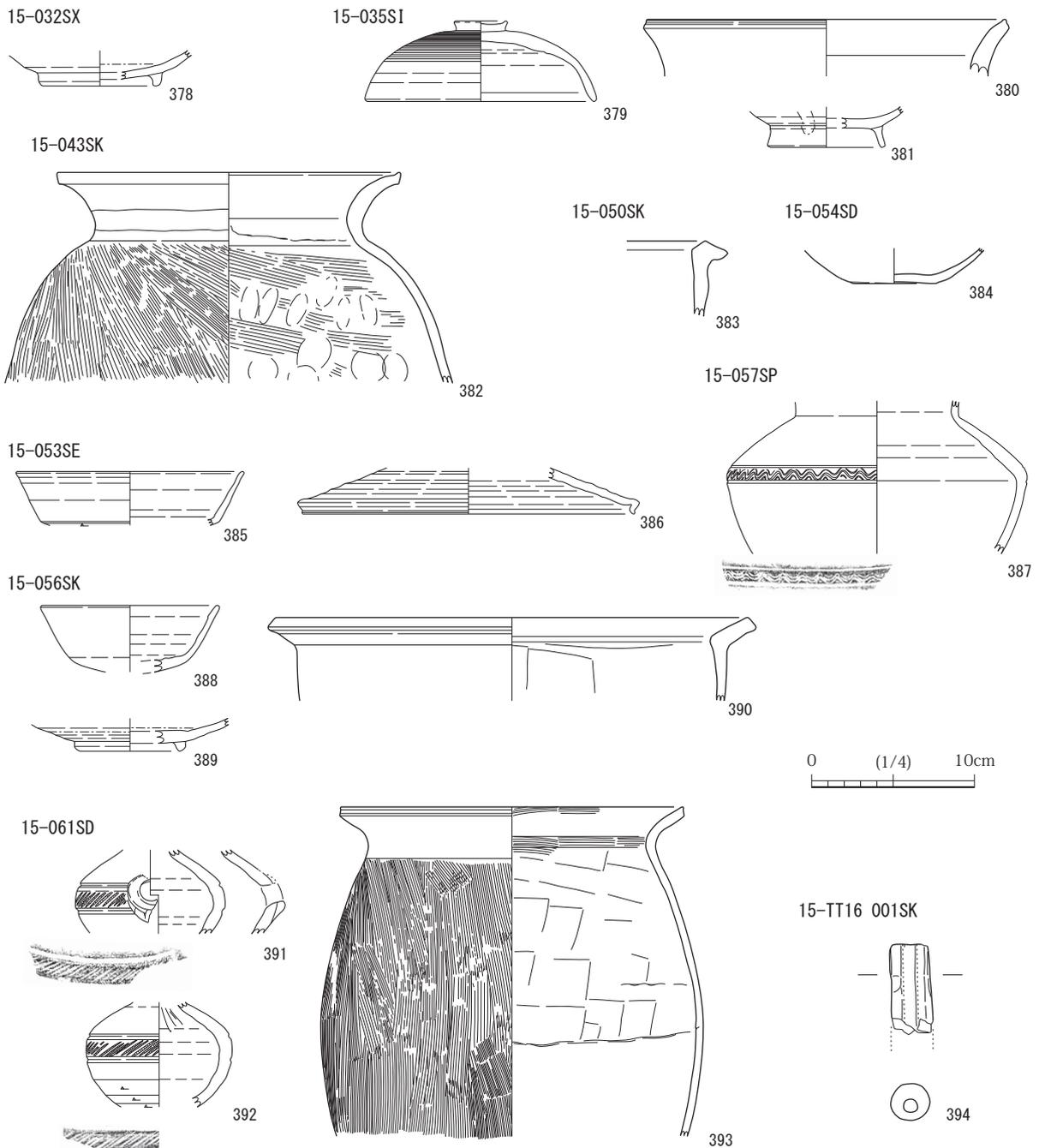


図60 古代 土器・陶器実測図6 (1/4)

内面は横方向を主体としたハケメ調整。6～7世紀資料と推定され、下層に重複する061SD資料と接合関係にある。377は特大型の管状土錘。長さ9.3cm、幅4.2cm、孔径1.5cm、重量160gである。

15-032SD 378は灰釉陶器碗、高台端部に摩滅が認められる。0-53号窯式。

15-035SI 堅穴建物の資料である。379は須恵器蓋、上位は多数の条線がめぐる。口径は推定で14.0cm、器高5.0cm。暗青灰色を呈し、猿投窯以外の製品と思われる。6世紀代。380は土師器甕口縁部片であり、内・外面ヨコナデ調整、外反する口縁の上端部を少し摘み上げる。6世紀代か。381は灰釉陶器碗、0-53号窯式。

15-043SK 382は土師器甕は、口縁端部を摘み上げ、内・外面をハケメ調整する「伊勢系」丸底長胴甕。

15-050SK 383は土師器口縁部で、短く外折する口縁部の屈曲部が厚みをもつ。

15-054SD 384は土器無台碗である。瓦器のような軟質の焼成である。

15-053SK 須恵器無台杯385、蓋386は0-10号窯式。8世紀末～9世紀初めの時期と思われる。

15-057SP 387は須恵器短頸壺でI-41号窯式、8世紀初めに位置付けられる。

15-056SK 388は須恵器無台杯、I-17号窯式、7世紀後半に位置付けられる。混入資料。389は灰釉陶器皿、内面及び高台端部に摩滅が認められる。K-90号窯式。390は土師器三河型甕。そのほか緑釉陶器小片、被熱した片麻岩礫が出土している。

15-061SD 020SDに切られる。須恵器甕391はH-15号窯式、392はI-17号窯式に比定される。393は土師器甕、「伊勢系」長胴甕である。

15-TT16 001SK (16D 南側中央付近) 394は管状土錘、残存長5.5cm、幅2.5cm、重量35.8g。

15- 包含層 須恵器(395～420, 444)、緑釉陶器(422～424)、灰釉陶器(421, 425～443, 447～450)、土器(445, 446)、土師器甕(451～464)、管状土錘(465～469)がある。0-10号窯式に位置付けられる資料が多いが、無台杯395はI-17号窯式、無台碗396, 398、無台杯397、盤404などNN-32号窯式に比定される資料がある。また壺・瓶類では長頸瓶410がI-41号窯式に比定され、その他は8世紀後半に位置付けられる。緑釉陶器はK-90号窯式に比定されるもので、猿投窯産製品と思われる。421は灰釉陶器長頸瓶。碗・皿類は9世紀後半～10世紀前半に位置付けられるものであり、425～431段皿はK-90号窯式、ほかは0-53号窯式に比定される。447～450は図化できなかつたが、高台内に墨痕が認められる。土器445は低い輪高台が付き体部は筒状に立ち上がる。全体の器形は不明。446は瓦質軟質の焼成で内面が黒色を呈する。灰釉陶器碗の形状とよく似る。土師器は452は外反する口縁の端部を少し内側に折り返し丸く収める。外面に縦方向ハケメ調整を施す丸底の甕。451, 453, 454は伊勢型鍋で内外面をハケメ調整する。455は把手付甕、456～464は三河型甕と「清郷型」鍋に繋がる形態が含まれる。465は不明土製品。466はフイゴ羽口。管状土錘467は筒状で特大型、重量52.7g、468は重量3.3g、469は重量3.7g小型のもので紡錘形を呈する。

(4) 16A・16B・16C・16D・16E区

16A- 包含層 (南トレンチ) 470は総釉の灰釉陶器碗、K-14号窯式に位置付けられる。

16B-011SK 471は土器碗か。ほかに弥生時代土器(129, 130)、中世・近世陶器の小片が混じる。遺構は性格不明の大型土坑群のうちの一つ。

16B- 包含層 (南トレンチ) 472は須恵器托、0-10号窯式。

16C-006SD 473は土師器把手付甕の把手部分。古墳時代中期の大溝への混入品か。

16C-076SX 475は須恵器提瓶、肩部に環状の耳が付く。7世紀後半の資料。ほかに須恵器横瓶、土師器高杯片が出土している。

16C-083SD 476は須恵器長頸瓶の底部であり、高台内に十字の線刻がある。

15 区包含層

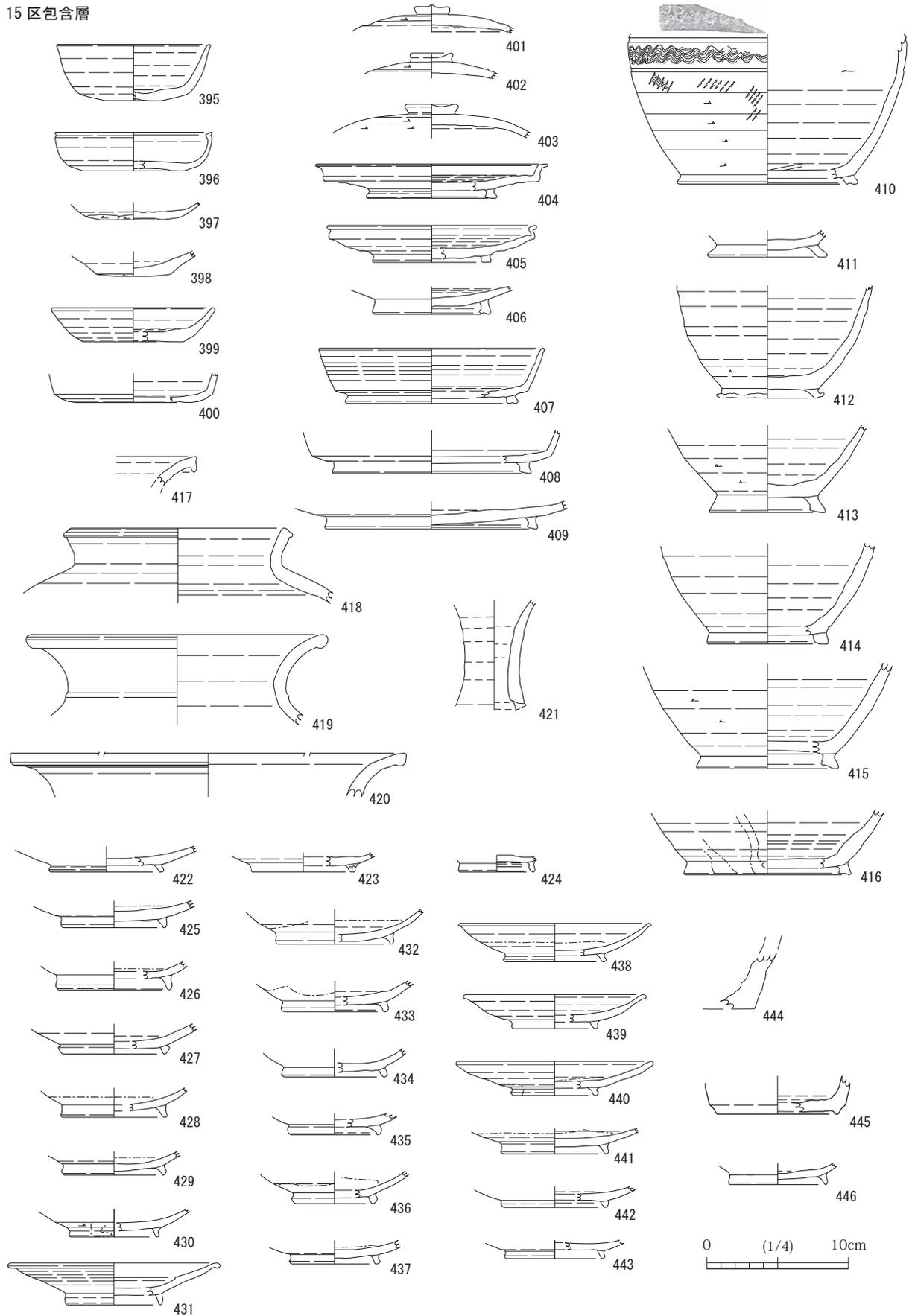


图 61 古代 土器・陶器実測图 7 (1/4)

16C-011SI 477 は灰釉陶器碗、0-53 号窯式。そのほかに土師器甕、土器高杯などの小片が出土している。10 世紀前半に位置づけられる。堅穴建物と推定される遺構である。

16C-001SD 478 は復元で口径 24.5cm を測る、土師器三河型甕である。

16C- 包含層 479 は製塩土器脚部である。

16D-023SD 474 は土師器把手付甕の把手部分である。ほかに須恵器片が出土している。

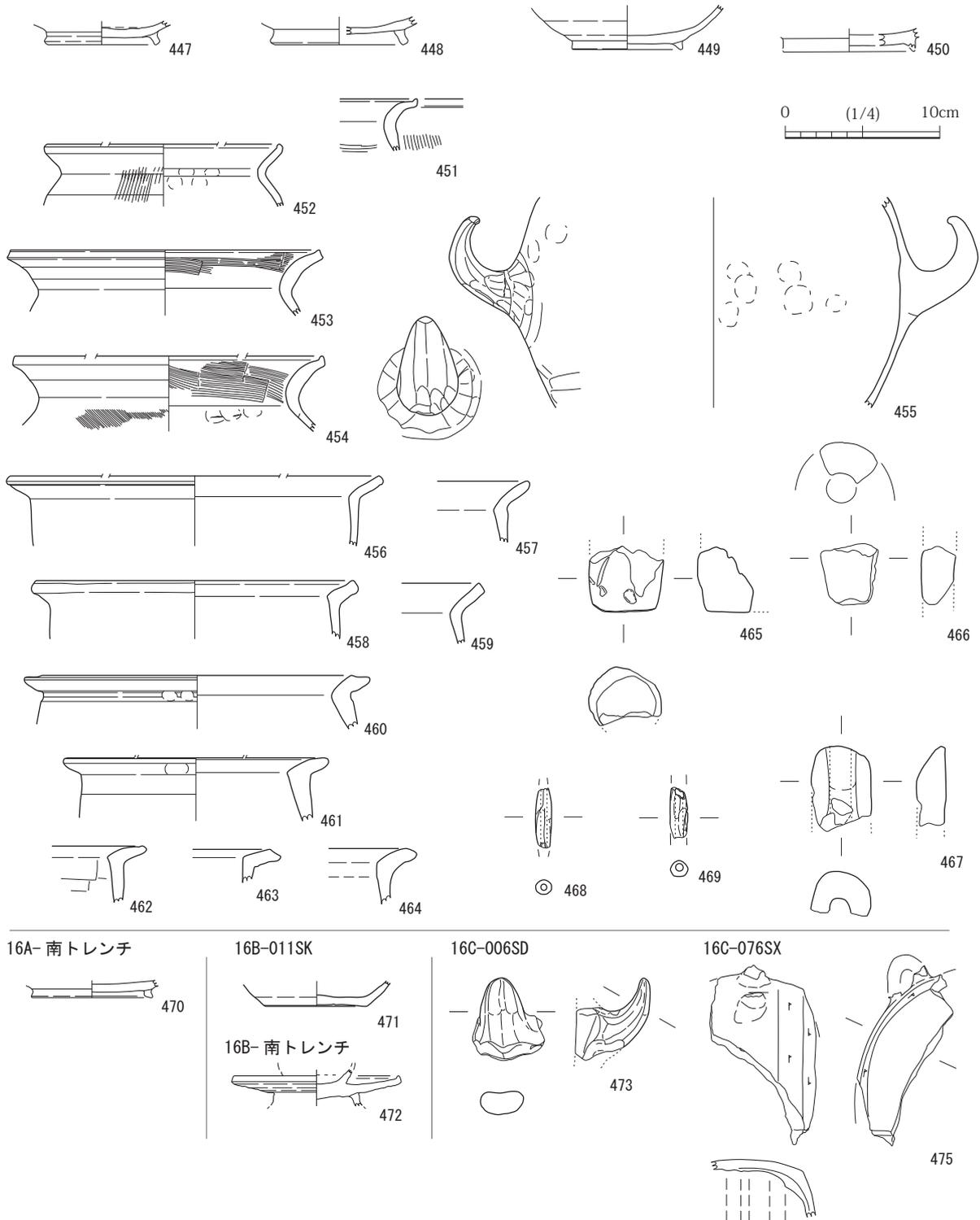


図 62 古代 土器・陶器実測図 8 (1/4)

16D-117SD 須恵器坏蓋 480, 481、坏身 482 は I-17 号窯式。土師器高杯 483 と共に 7 世紀後半を中心とした時期に位置付けられる。

16D-079SX 484 須恵器蓋は 7 世紀前半の資料。485 は須恵器高杯か、7 世紀後半と思われる。当初堅穴建物を想定して調査を行った 090SK の上位で検出した遺構である。

16D-051SI 486 は須恵器壺である。堅穴建物と推定される遺構であり、026SD・052SD に切られる。

16D-080SX 須恵器高杯 487 は 7 世紀前半、短頸壺 488 は I-41 号窯式。遺構は堅穴建物の可能性がある。

16D-082SX 489 は土師器把手付甕の把手部分である。ほかに須恵器片が出土している。

16D-090SK 須恵器と土師器甕がある。須恵器坏身 490, 491、甕 494 は I-17 号窯式。496 細頸瓶は I-41 号窯式、497 横瓶は 7 世紀代と思われる。498 は壺、499 は甕の底部。492 有台碗は猿投窯以外の産地の製品と思われる。493 は須恵器有台杯は 8 世紀後半に位置付けられる。500, 501 は製塩土器の脚部。土師器類は 502 の小型丸底甕のタイプ、504 伊勢系の口縁部をもつハケメ甕、503 三河型甕、大小の把手付甕（または鍋）505, 507 などが含まれる。505 は復元径で口縁部 21.0cm、器高 13.8cm、507 は同じく 31.6cm、残存高 22.6cm を測る。7 世紀後半と 8 世紀後半の資料が含まれる。

16D-008SX 出土遺物はいずれも小片である。須恵器有台杯 508、甕 509 は 8 世紀後半の資料。510 は土師器甕、511 は把手付甕の把手部分である。

16D-026SD 遺構は 051SI と重複する。須恵器蓋 512、長頸瓶 513、壺 515 は 8 世紀後半の資料と思われる。514 土師器は伊勢型甕。

16D-065SD 516 は灰釉陶器碗、0-53 号窯式。

16D-002SD 517 は灰釉陶器碗、0-53 号窯式。ほかに須恵器、山茶碗、近世陶器片が出土している。

16D-100SD 518 は土師器、伊勢系のハケメ調整甕である。これは 117SD に繋がる遺構と思われる。

16D-055SK 519 は土師器、伊勢系のハケメ調整甕である。

16D-包含層 須恵器（520～522）、灰釉陶器（523～526）、管状土錘 527 がある。重量 14.0g。蓋 520 は I-17 号窯式、521 高杯と 7 世紀代の資料、522 は有台杯で高台内に墨痕が認められる。皿 525 は K-90 号窯式、碗 526 は 0-53 号窯式、523, 524 は 10 世紀末以降か。

16E-009SD 須恵器（528～532）、土師器甕（533～536）がある。坏身 528, 529 は H-44 号窯式。532 壺は肩部に沈線 2 条がめぐる。外面はナデ調整で下位はケズリ調整。7 世紀後半代。以上により、7 世紀初頭から後半の資料が含まれる。533, 534 は三河系の長胴甕で、外面にハケメ調整を施す。535 は甕の丸底部分。580 は把手付甕の把手部分である。

16E-019SK 537, 538 は須恵器平瓶、538 は I-17 号窯式に比定される。ほかに磨石（S-21）が出土している。009SD に重複する土坑の資料。

16E-070SP 539 は土師器、伊勢型のハケメ調整甕である。

16E-013SD 540 は全体の形状が不明の土製品である。移動式竈の一部である可能性がある。

16E-059SD 須恵器の 541 は蓋、542 は長頸瓶で 8 世紀後半代の猿投窯の製品と思われる。

16E-016SK 灰釉陶器碗 543 は 0-53 号窯式、皿 544 は H-72 号窯式。

16E-017SD 545 土師器は「清郷型」鍋の口縁部。

16E-055SK 須恵器の 548 高杯が 6 世紀代の資料か。坏蓋 546 は H-44 号窯式、547 横瓶は 7 世紀、549 は無台杯。550, 175 土師器甕は伊勢型のハケメ調整の長胴甕である。敲打痕のある磨石（S-22, 23）も出土している。

(武部真木)

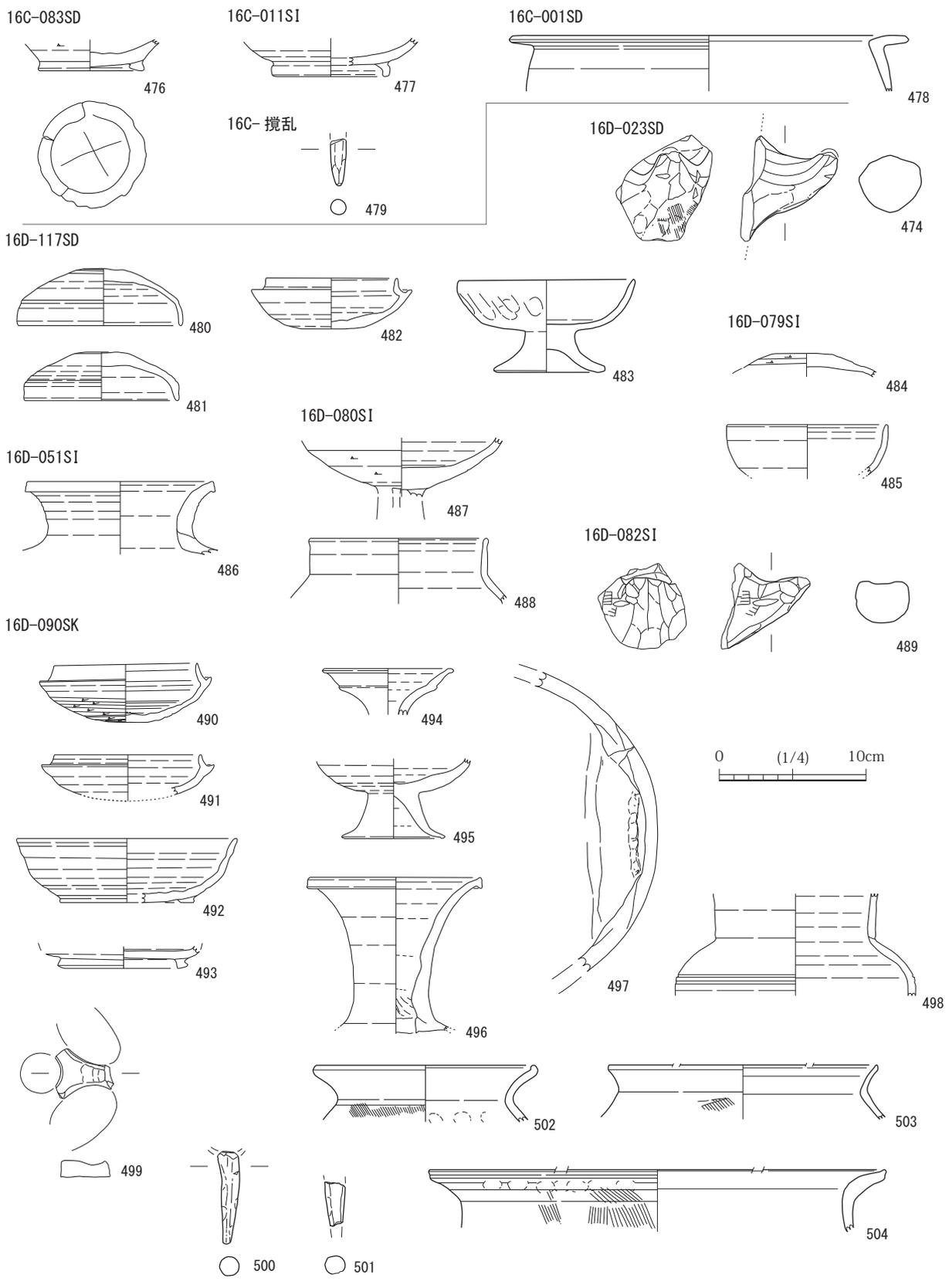


图 63 古代 土器・陶器実測図 9 (1/4)

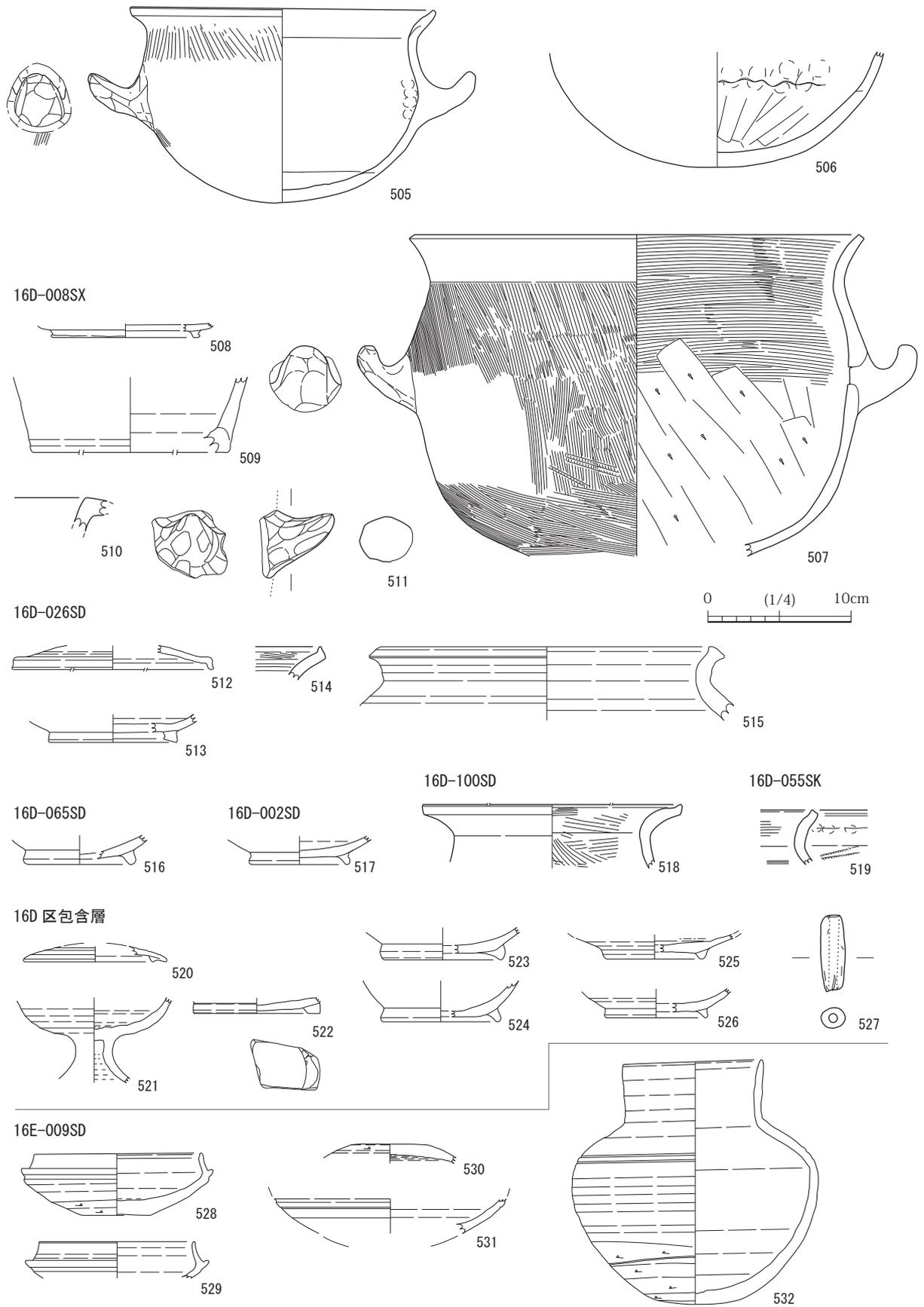


图 64 古代 土器・陶器実測图 10 (1/4)

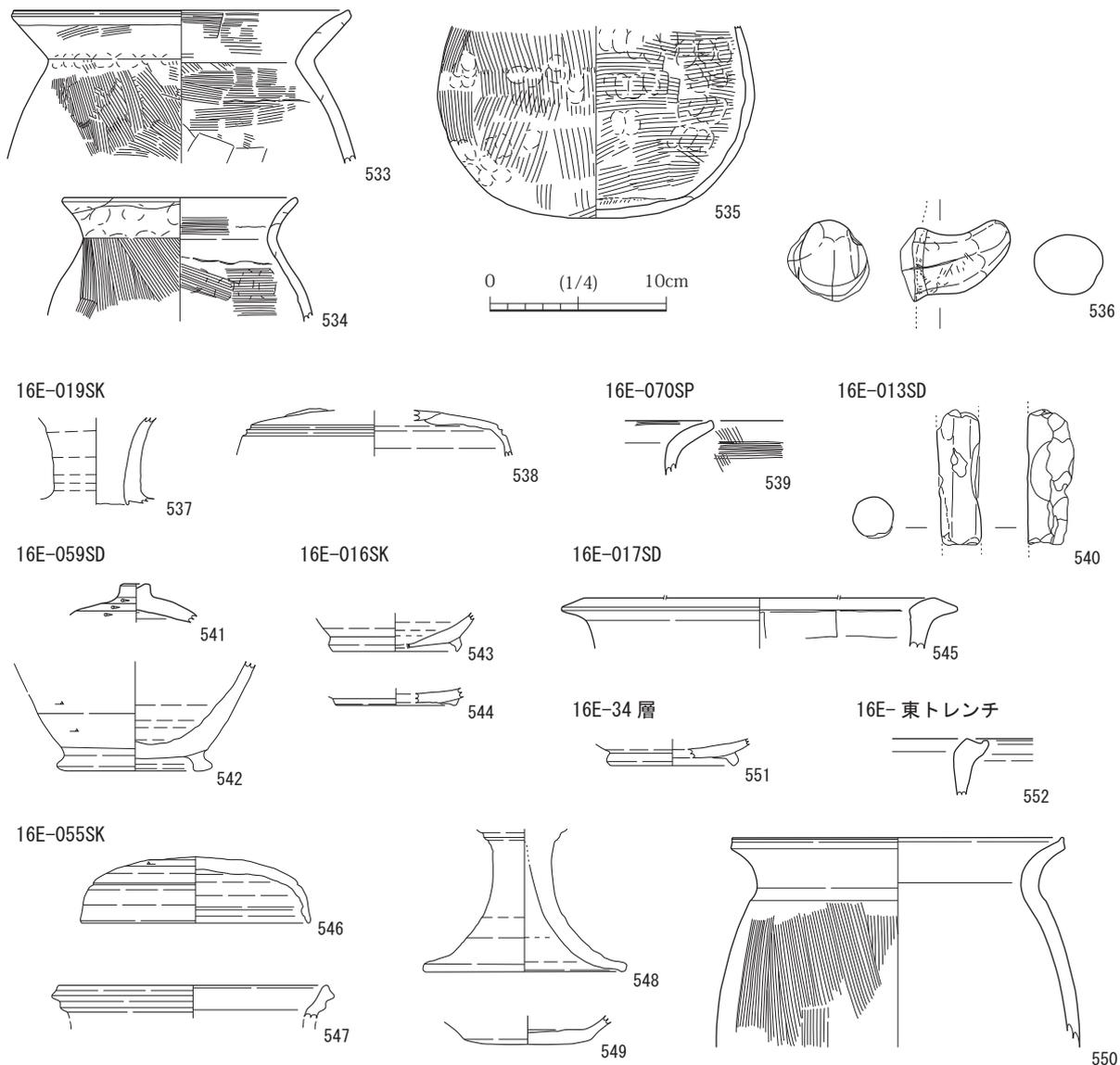


図 65 古代 土器・陶器実測図 11 (1/4)

3 中世・近世

中世の遺物は調査範囲内に広く分布するものの、非常に疎らである。山茶碗類は小片であることが多く、攪拌された耕作土等から出土することが多い。山茶碗は尾張型第4型式～第9型式までみられ、図化資料の範囲では12世紀、14世紀の資料がやや目立つ。常滑窯産の壺・甕類も少量であり、図化資料は15世紀前半資料と思われる(586)のみである。古瀬戸製品も大窯製品もやはり少なく小片で、この一帯での中世段階の活動は全体に低調であったと思われる。中国産磁器も非常に少なく、小片となった青磁碗(600, 601)少量がみられる程度である。土師器では井戸廃絶儀礼に用いられたと考えられるロクロ調整皿(558)のほか、少量の伊勢型鍋(559)、近世の資料と思われるくの字状口縁をもつ内耳鍋(593, 594, 603, 605)が出土している。

近世の陶磁器資料も耕作土に含まれて小片が出土する。18世紀以降の瀬戸・美濃窯陶器と磁器小片が散見されるのみである。

(武部真木)

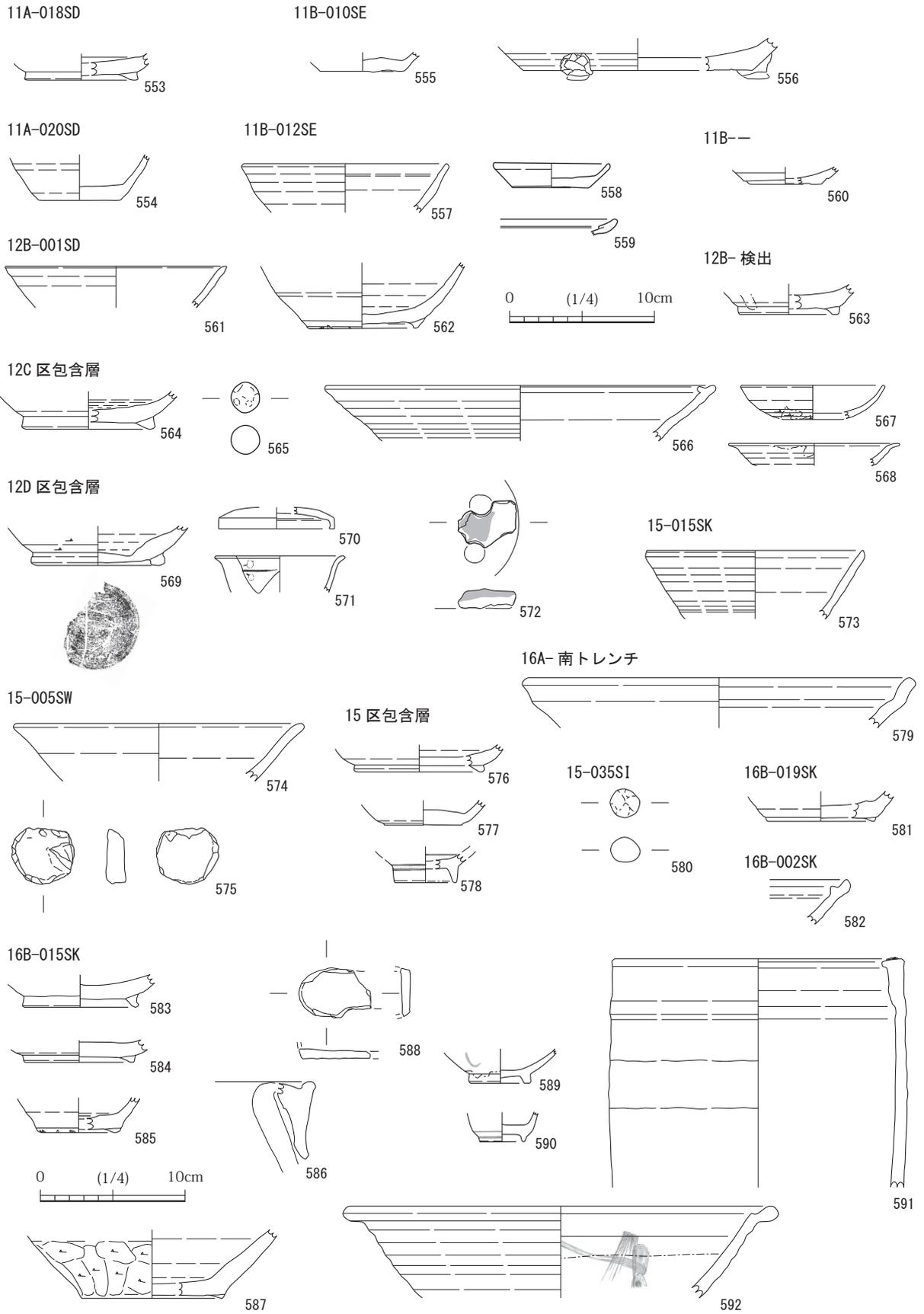


図 66 中・近世以降 陶磁器実測図 1 (1/4)

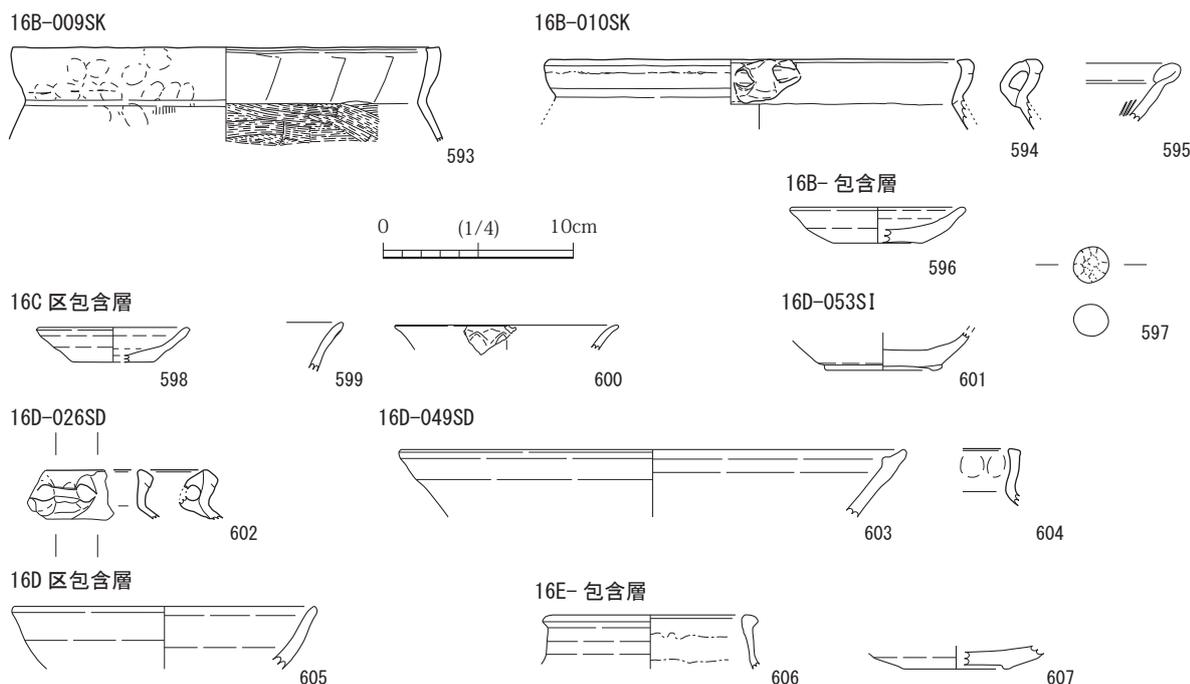


図 67 中・近世以降 陶磁器実測図 2 (1/4)

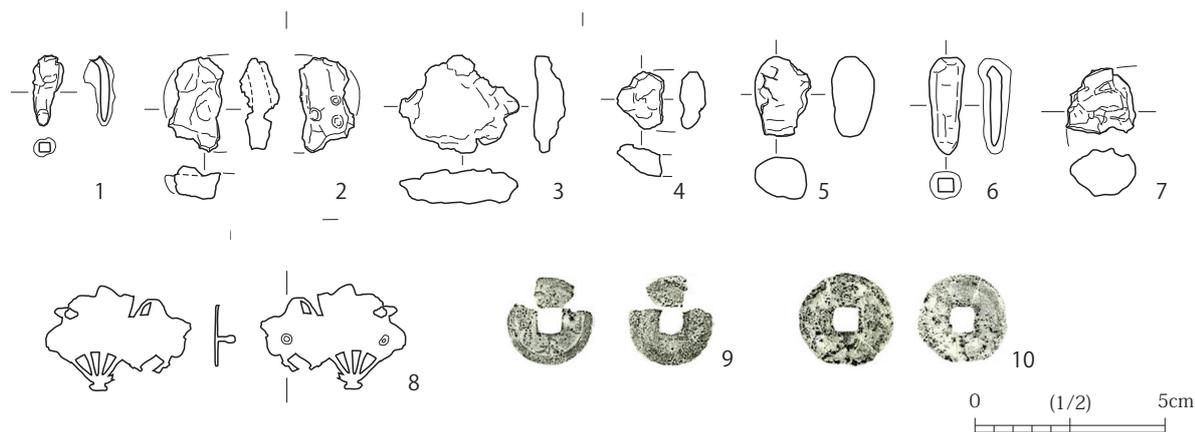


図 68 金属製品実測図 (M-1 ~ 8は縮尺 1/4 9, 10は縮尺 1/2)

4 金属製品・金属関連遺物

今回の調査で出土した金属製品・金属関連遺物には、鉄製品、銅製品、鉄滓などがある。

鉄製品には鉄釘と推定される棒状の含鉄遺物(1・6)が存在する。1は11B区サブトレンチから出土したもので、出土地点は自然流路の影響を繰り返し受けており、時期を特定できない。6は16D区049SDから出土しており、古代以降と思われる。両者とも頭部がわずかに屈曲するが、釘と断定することは難しい。5は16D区049SDから出土した鉄塊系遺物で、錆膨れしてヒビが入っている。2～4と7は椀型鉄滓で、2～4は15区から出土した。2は1/2分割椀型鉄滓で気泡が少なく一部で重複が認められる。0-53を伴う035SIを切る土坑042SKから出土しており、古代末から中世に属するものと推察される。3は長軸6.3cm、短軸5.2cmの規模を持つやや小型の椀型鉄滓で、ほぼ完形である。気泡は少なく上下とも表面は比較的平滑であり、近世の水田005SWから出土したが、古代から中世に属すると思わ

れる。4は小型の1/2分割碗型鉄滓で、気泡が少ない。7は16E区3,4層から出土した1/4分割碗型鉄滓で、厚さが2.5cmを測り、他のものと比べ厚い。中央にやや大きな気泡が認められるが、土砂の固着が多く詳細は不明である。

銅製品には銚金具と銭貨があり、近世の導水施設16B区015SKから出土した。8は目貫の銚金具と思われ、扇子紋が表現されている。9と10は寛永通寶で、残存状態は不良である。

(鈴木正貴)

5 石器・石製品

調査地点の一带は、基本的に基盤層に大きな礫が含まれない場所である。遺跡に持ち込まれた石材について、ここでは特に使用痕が認められたものを遺物として取り扱った。製品が特定できる形状のもの、加工痕、使用による摩滅、研磨面を持つもの、被熱痕やススが付着した礫などが含まれる。製品では、S-8は火打石で石材はチャート。S-15は方形の硯であり、背面に「牛岡」と読める刻書がある。近世の資料と思われる。S-14は滑石製の石帯の一部であり、加工途中の穿孔の痕跡がある。

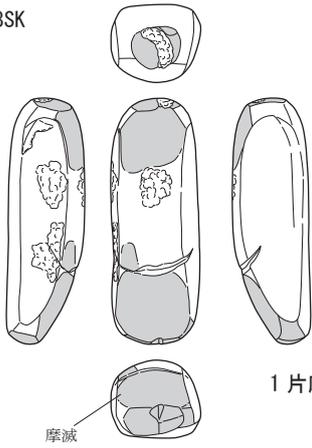
表2はその他の資料を含めて遺構の時期を元に配置したものである。ただし、中世の井戸から出土しているS-5は、S-17と同タイプの属性をもつ資料として古墳時代に含めた。古墳時代は自然礫(円礫)をその形状のまま使用したものが多く、厚みのある円盤状の砂岩礫は周縁部分が著しく摩滅しており、板状の花崗岩は平坦面が利用されこちらも明瞭な摩滅痕が認められる。古代・中世の遺構には古墳時代資料も混入するため時期の特定は難しいが、古代以降は片麻岩の自然礫が多くなる傾向が認められる。アブライトのやや大型の礫(S-2, S-18)は被熱痕やススが付着するものがあり、堅穴建物などのカマドで使用された可能性も考えられる。なお、凝灰岩の産出地として、近辺では佐久島が知られている。

(武部真木)

表2 石器・石製品と石材

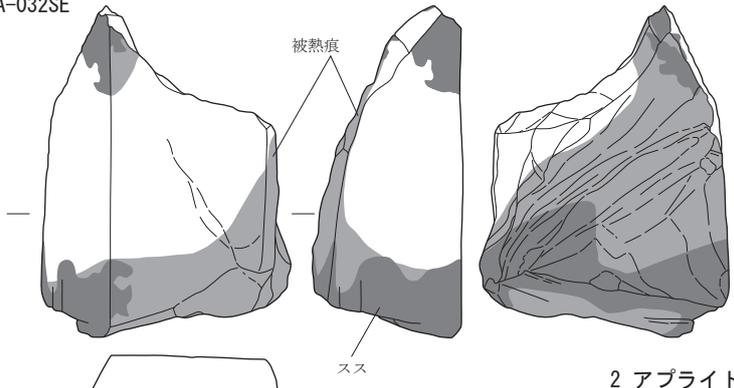
時期	登録番号 S-no.	石材	器種・形状	摩滅	敲打	被熱	スス付着	その他
古墳前期	16	花崗岩	磨石 円礫	●	●			
	17	砂岩	磨石 円礫	●				
	19	緑泥片岩	薄片					
	5	砂岩	磨石 円礫	●				
6世紀末～ 7世紀初	22	チャート	磨石 円礫	●				
	23	片麻岩	敲石 円礫	●	●			
7世紀後半	20	砂質凝灰岩	台石 角礫	●	●			
	21	アブライト	磨石 円礫	●		●		
8世紀後半	1	片麻岩	磨石敲石 円礫	●	●			
	9	片麻岩	磨石 円礫	●				
	14	滑石	石帯(鈎帯装飾)					研磨・穿孔
	24	砂質凝灰岩	台石 角礫	●	●			
9世紀後半 ～10世紀 初め	25	花崗岩	磨石敲石 円礫	●	●			
	2	アブライト	竈支柱? 角礫			●	●	
中世	3	片麻岩	角礫(加工)					
	4	片麻岩	磨石 角礫	●			●	
	6	片麻岩	磨石敲石 円礫	●	●	●	●	
近世	7	片麻岩	角礫(加工)			●	●	
	8	チャート	火打石 角礫		◎			
	13	はんれい岩	角礫(加工)					
時期不明	15	凝灰質泥岩	硯					線刻
	10	凝灰質砂岩	磨石 板状	●				
	11	花崗岩	角礫(加工)	●				
	12	花崗岩	台石 円礫	●				
	18	アブライト	竈支柱? 角礫			●		

11A-058SK



摩滅

11A-032SE

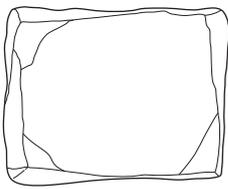


被熱痕

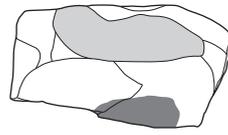
スス

1 片麻岩

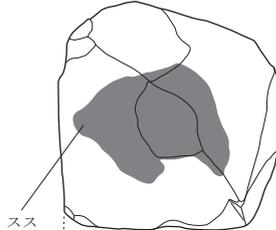
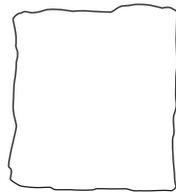
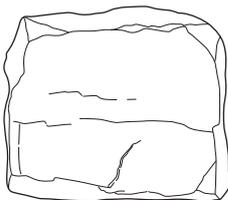
2 アプライト



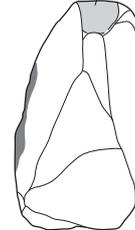
0 (1/4) 10cm



摩滅



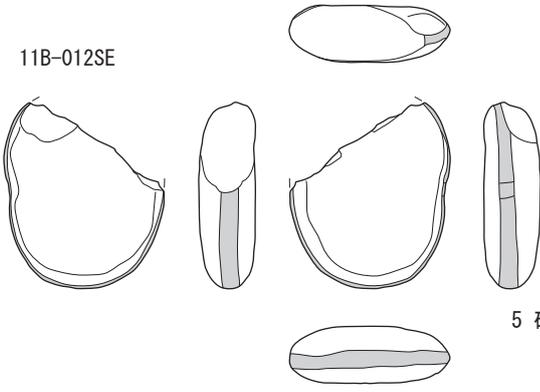
スス



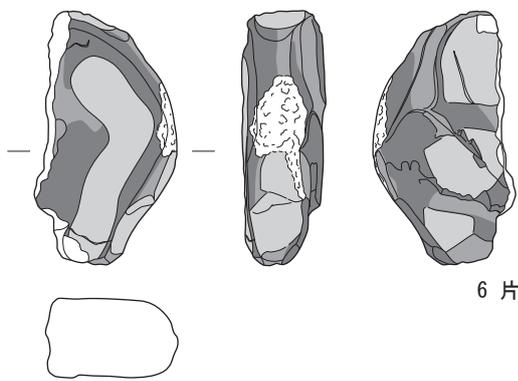
3 片麻岩

4 片麻岩

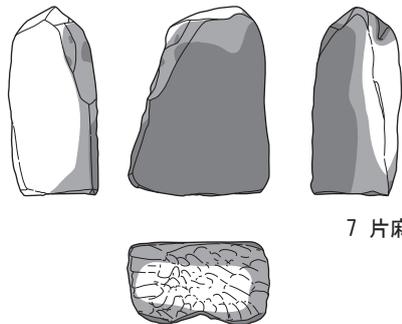
11B-012SE



5 砂岩

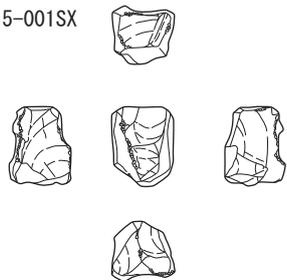


6 片麻岩



7 片麻岩

15-001SX

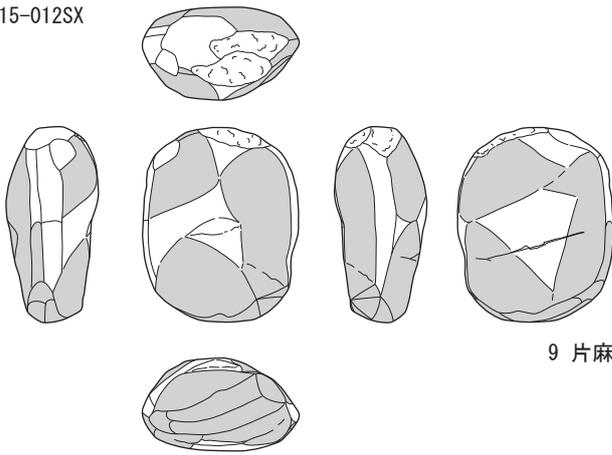


8 チャート

0 (1/2) 5cm

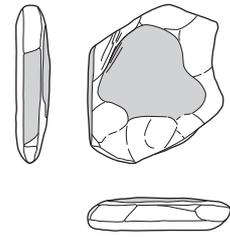
図 69 石器・石製品実測図 1 (1/4)

15-012SX



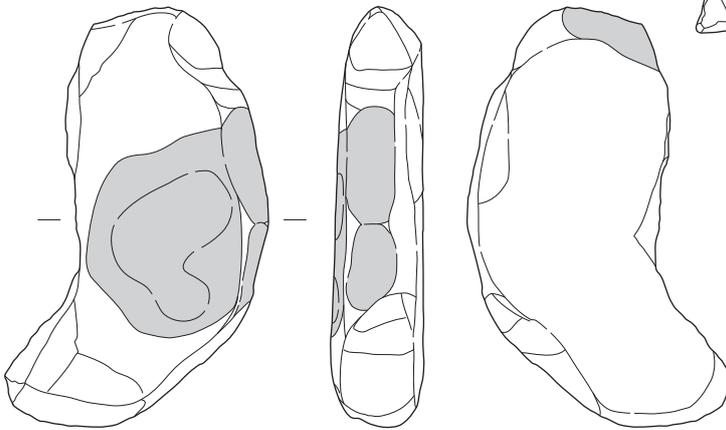
9 片麻岩

15-033SK



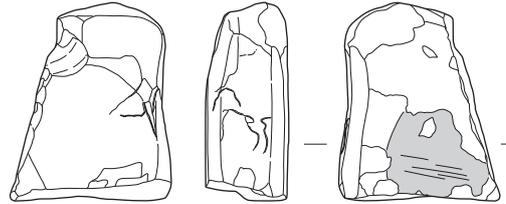
10 凝灰質砂岩

15 区遺構外



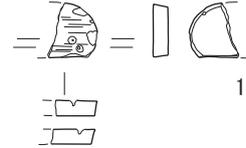
12 花崗岩

15-TT15



11 花崗岩

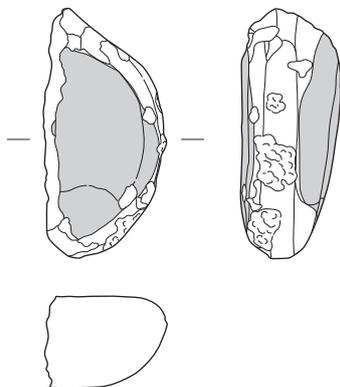
16B-015SK



14 滑石

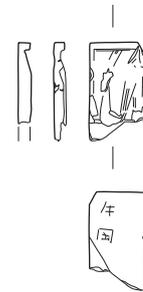
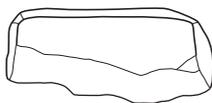
0 (1/4) 10cm

16C-077SD



16 花崗岩

13 はんれい岩



15 凝灰質泥岩

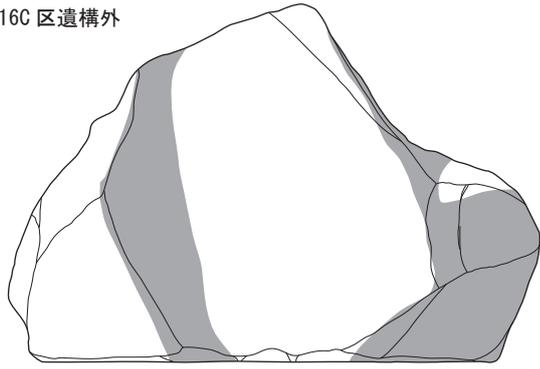
(拓本 S=1/2)



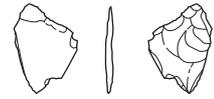
17 砂岩

图 70 石器・石製品実測图 2 (1/4)

16C 区遺構外

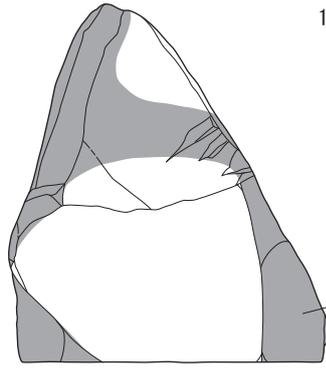


16D-100SD

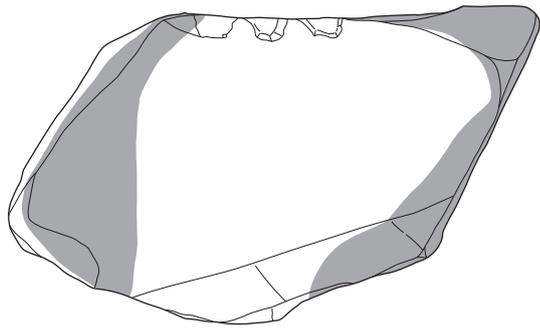


19 緑泥片岩

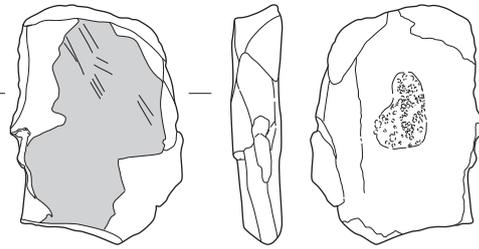
被熱痕跡



18 アプライト

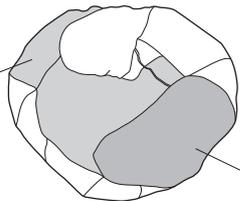


16D-090SK



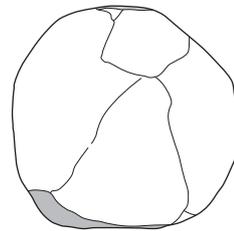
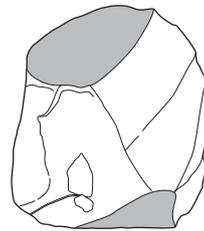
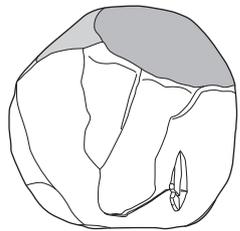
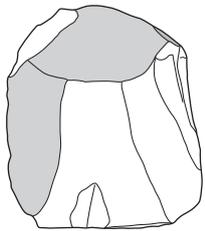
20 砂質凝灰岩

摩滅

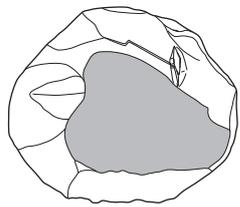


被熱痕

16E-019SK



21 アプライト

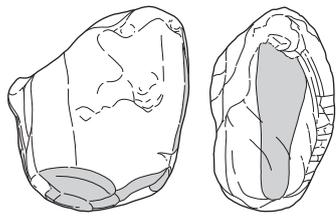


0 (1/4) 10cm

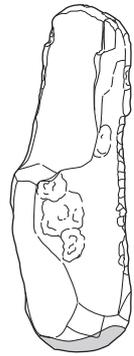
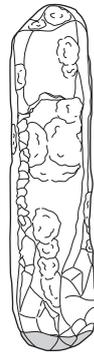
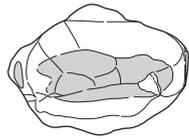


図 71 石器・石製品実測図 3 (1/4)

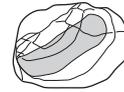
16E-055SK



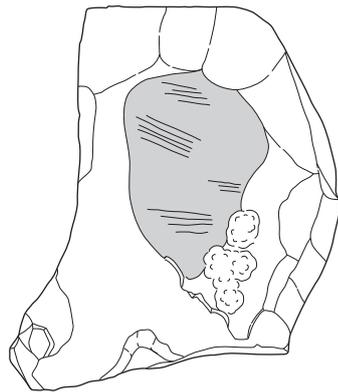
22 チャート



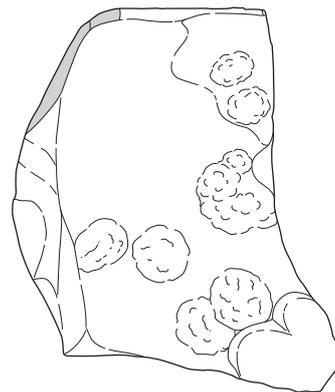
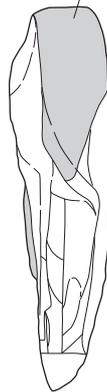
23 片麻岩



16E-059SD

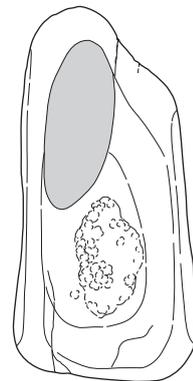
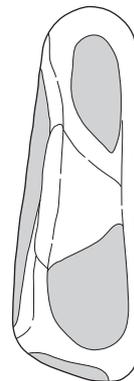
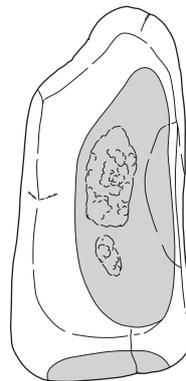
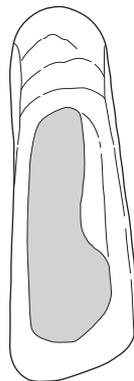


摩滅



24 砂質凝灰岩

16E 区遺構外



25 花崗岩

0 (1/4) 10cm

図 72 石器・石製品実測図 4 (1/4)

6 木製品

この岡山南遺跡の報告書では、合計 95 点の木製品を掲載した。所属時期は古墳時代前期、古代（飛鳥～平安時代）、中世（鎌倉～室町時代）、近世（江戸時代およびそれ以降）の大きく 4 時期に分けられる。以下、時期ごとに記述をおこなう。

(1) 古墳時代前期

古墳時代前期の木製品は、全て 16C 区から出土している。出土地点（遺構）は、2 面北トレンチ（W-001～011）・2 面南トレンチ（W-012）・033SK（W-013）である（図 73・74）。

16C-2 面北トレンチ 掘削具として曲柄鋏・膝柄・掘り棒、農具として鎌柄、運搬・漁撈具として櫂、建築材として柱、土木材として杭、その他に板などがある。

W-001 は伊勢湾型曲柄鋏の軸部で、刃部も上端部も欠損している。樹種はアカガシ亜属の柾目材。

W-002 はその膝柄で、台部の上半部分のみ残る。樹種はサカキの芯持ち材。

W-003 は刃部の長い掘り棒。軸部を欠損するため、一木作りなのか柄を別に装着するタイプなのかの班別ができない。樹種はアカガシ亜属の柾目材。

W-004 は鎌柄で、上端部に突出部を設ける。通常このタイプの鎌柄では、突出部の下にスリット状の穿孔をほどこし、そこに鉄刃を挿入するために、未穿孔のものは未成品に分類される。しかし、今回の出土例はその穿孔すべき箇所の厚みが極端に薄く、とうてい孔を開けて鉄刃を挿入することはできない。それゆえ、突出部の直下に鉄刃の一方を折り曲げて柄に装着し、鉄刃の上部を突出部に当てることによって、使用時に刃部が動かないようにしていたとも考えられる。本例と同様に鉄刃を装着すべき箇所の厚みが極端に薄い例は春日井市勝川遺跡などにもあるため（愛知県埋蔵文化財センター 1992）、これまで未穿孔ゆえに「未成品」として報告されてきたものについても、鉄刃の装着方法に再検討が必要であろう。樹種はクスギ節の柾目材。

W-005 は一木作りの櫂で、把手部分が整形されていないことから、未成品と考えられる。樹種はヒノキの板目材。

W-006 は掘立柱建物の柱で、樹種はブナ属の芯持ち材。

W-007 は杭で、サカキの芯持ち材を使用。

W-008 は半円形の挟り込みをほどこした厚板で、面の片側のみに別材と結合するための蟻溝を彫り込む。挟り込み部分の円の復元直径はおよそ 50cm。これと同形の板は安城市鹿乗川流域遺跡群の下懸遺跡・姫下遺跡・宮下遺跡のほか、岐阜県大垣市の荒尾南遺跡などからも出土している（樋上 2018）。便宜上、「不明台輪状木製品」と呼称しているが、台輪であるとすれば掘立柱建物の柱位置に相当する削り込み部分の直径がいずれも 50cm 以上もあることから、掘立柱建物の床板を保持するための「台輪」ではない可能性が高い。

W-009・010 は穿孔板で、樹種はそれぞれスギとアスナロの板目材。W-011 は片面に下駄の歯状の突出部を設けた厚板で、刃物傷が多数残る。クリの板目材を用いる。

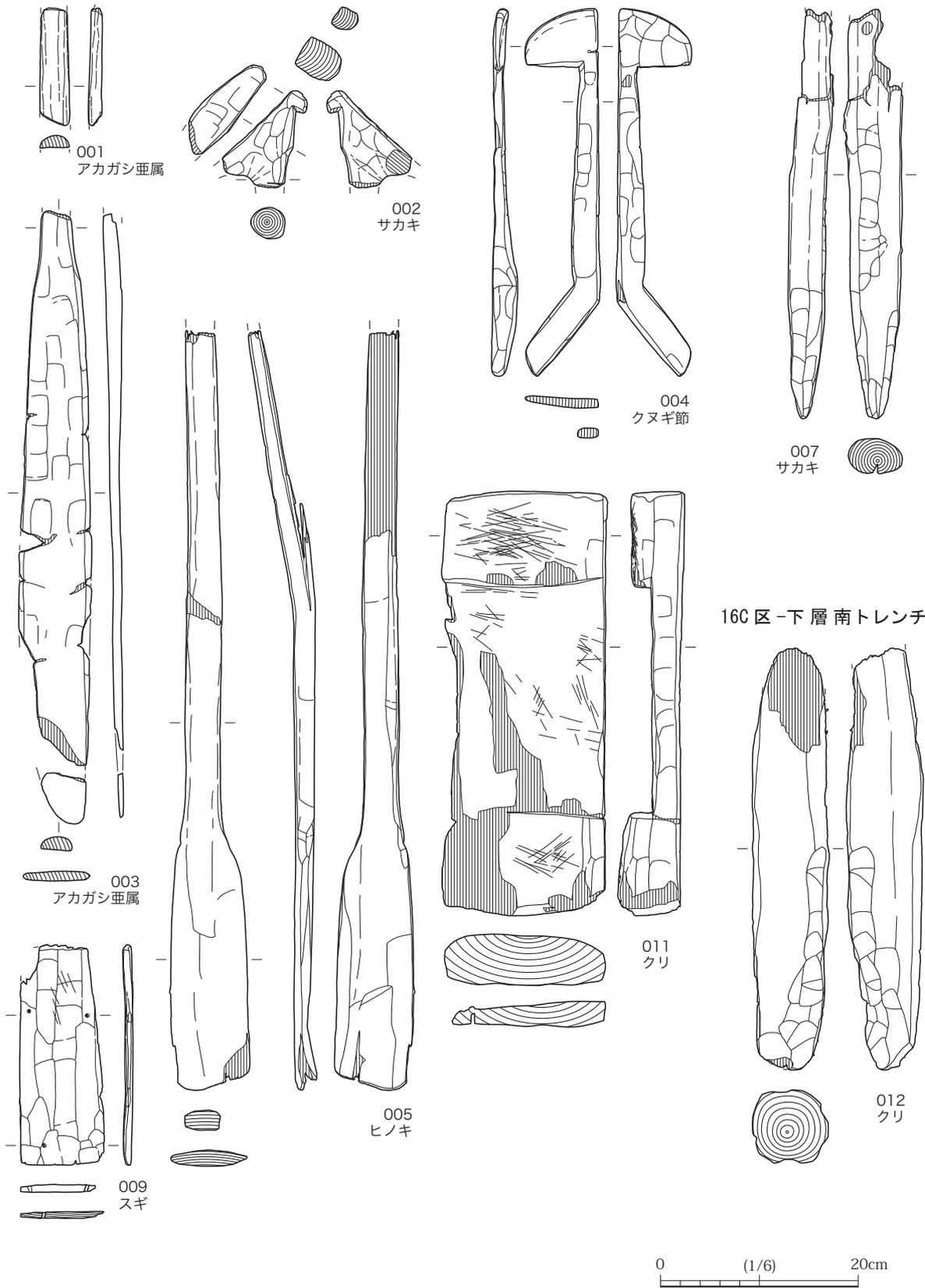
16C-2 面南トレンチ W-012 は杭で、樹種はクリの芯持ち材。

16C-033SK W-013 は柱で、樹種はクリの 1/4 分割材を用いている。

(2) 古代（飛鳥～平安時代）

飛鳥時代の木製品は 16D 区の 050SK（W-014）から、平安時代の木製品は 11A 区 032SE（W-015）、12C 区 006SE（W-016）、11B 区 041SK（W-017）・086SK（W-018）・087SK（W-019）・127SK（W-020）から出土

16C区-下層北トレンチ-1



16C区-下層南トレンチ

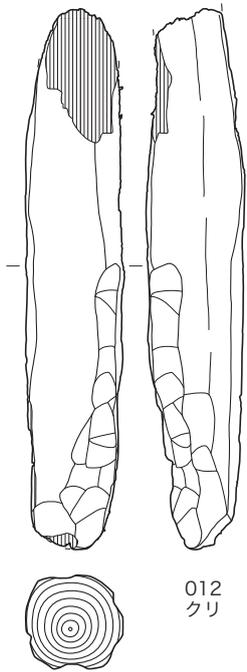


図 73 木製品実測図 1 (1/6)

16C区-下層北トレンチ2

16C区-033SK

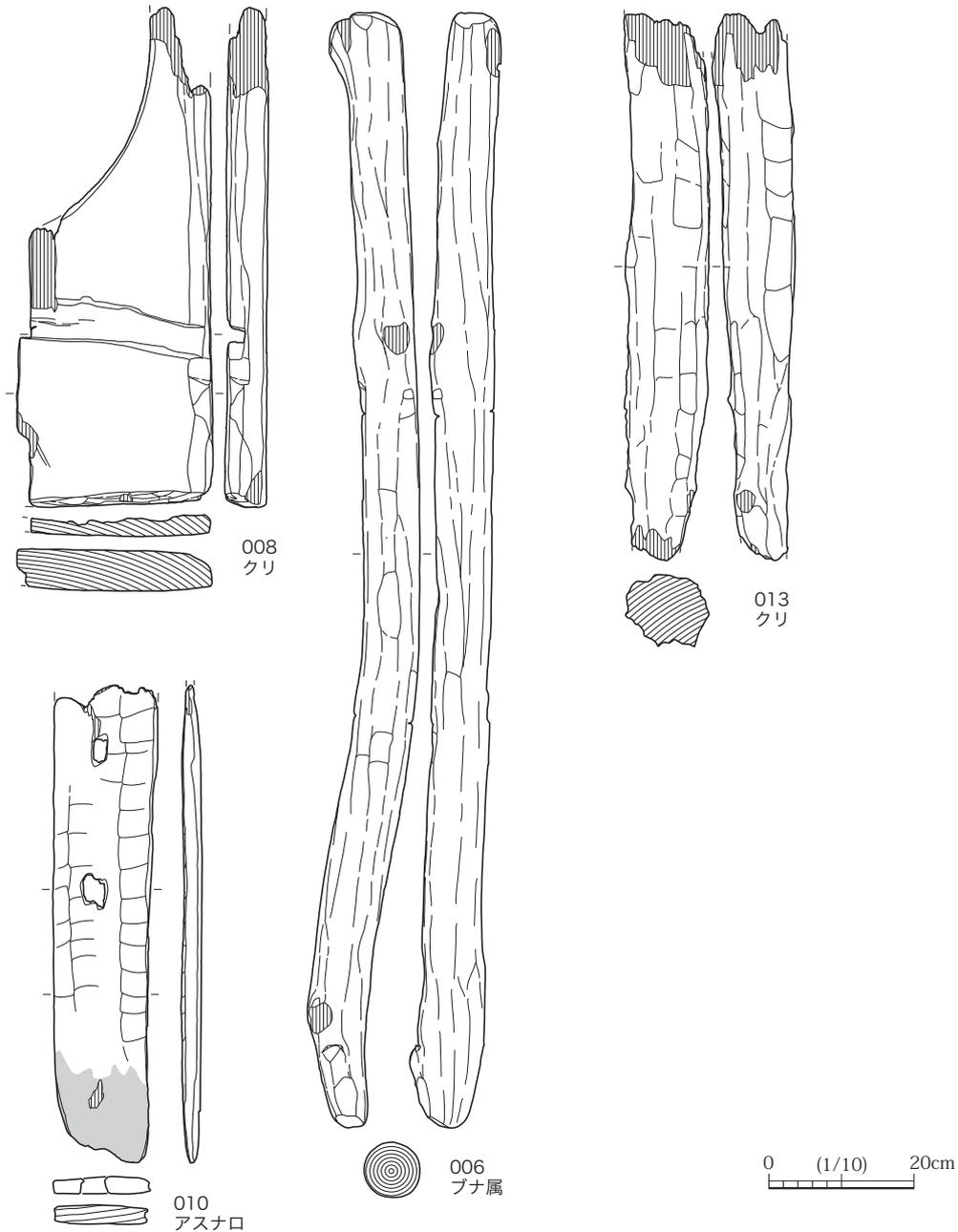


図 74 木製品実測図 2 (1/10)

している (図 75)。

このうち W-017 ~ 020 については、さらに所属時期が新しくなる可能性がある。

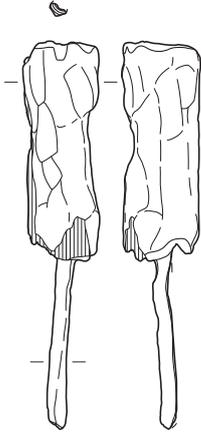
16D-050SK W-014 はヨコヅチで、握部に対して敲打部が太いことからカケヤとして用いられた可能性がある。樹種はマツ属複維管束亜属の芯持ち材。

11A-032SE 井戸枠に用いられた曲物の側板だが、高さが 5cm しかない。下端部付近に多数の穿孔があることから、本来は容器としての曲物の蓋？からの転用である可能性が高い。樹種はアスナロの板目材。

12C-006SE W-016 も同じく曲物の側板で、底部付近に穿孔をほどこすことから、やはり本来は底板をもつ容器からの転用であろう。樹種はヒノキの板目材。

11B-041SK W-017 はヒノキの芯持ち材を用いた柱根。

16D区-050SK



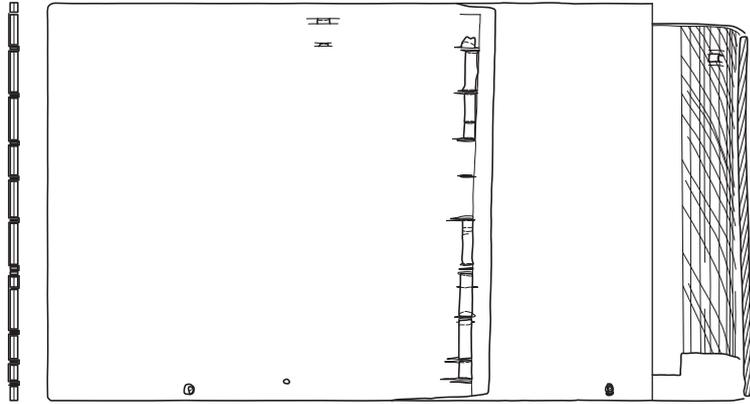
014
マツ属複維管束亜属

11A区-032SE



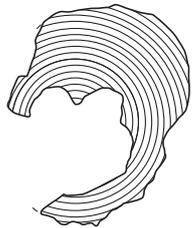
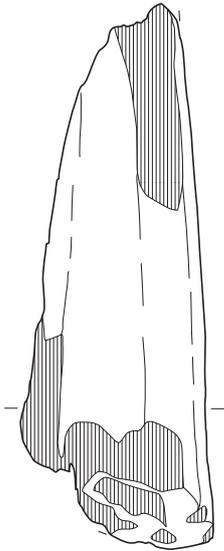
015
アスナロ

12C区-006SE



016
ヒノキ

11B区-041SK



017
ヒノキ

11B区-086SK



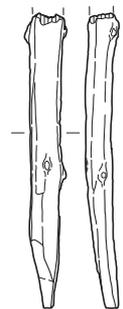
018
マツ属複維管束亜属

11B区-087SK



019
マツ属複維管束亜属

11B区-127SK



020
マツ属複維管束亜属

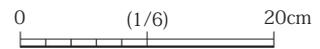


図75 木製品実測図3 (1/6)

11B区-012SE

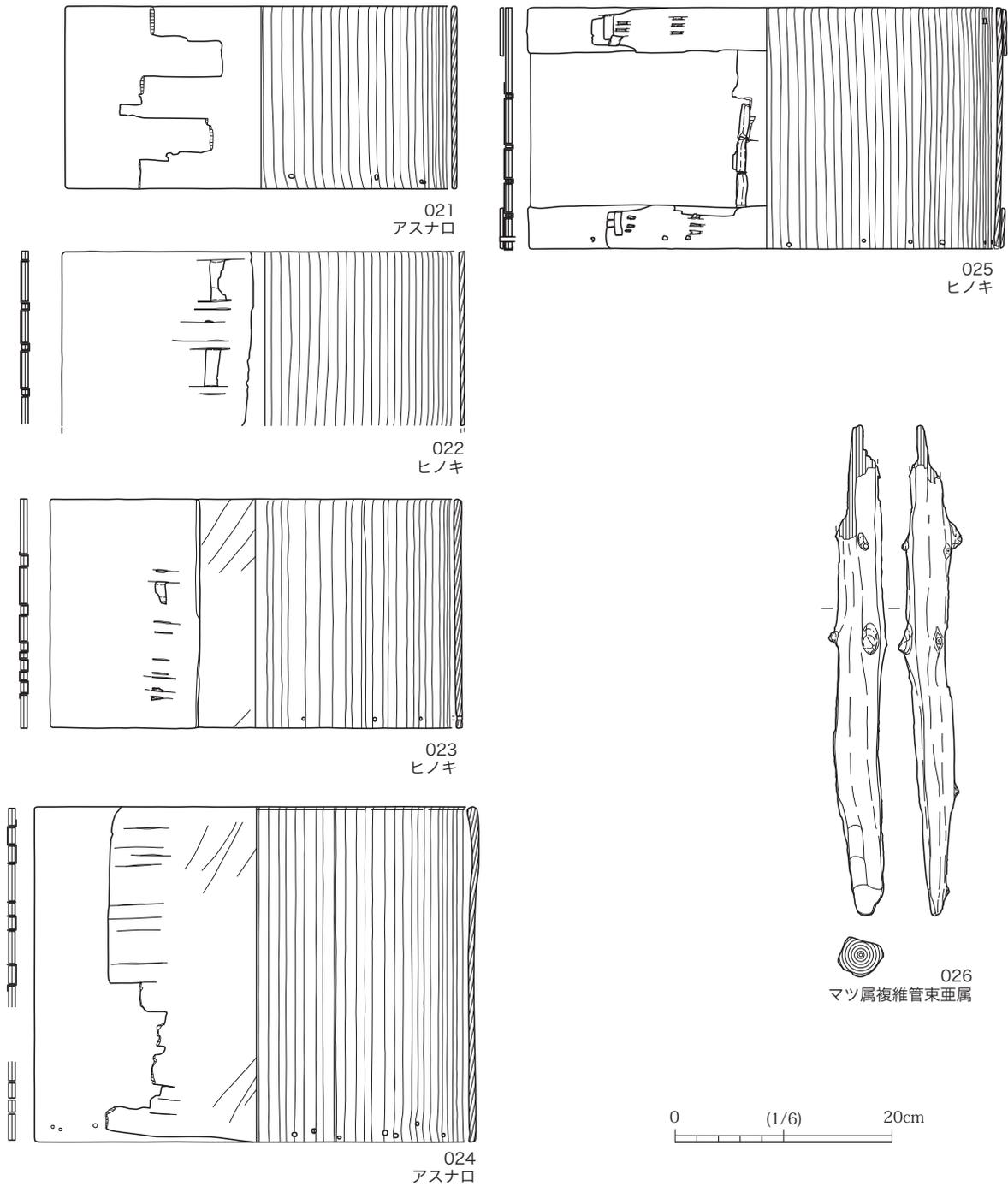


図 76 木製品実測図 4 (1/6)

11B-086SK W-018 はマツ属複維管束亜属の芯持ち材を用いた杭。

11B-087SK W-019 も同じくマツ属複維管束亜属の芯持ち材を用いた杭。

11B-127SK W-020 もやはりマツ属複維管束亜属の芯持ち材を用いた杭。

(3) 中世 (鎌倉～室町時代)

11B 区の 012SE (W-021 ~ 026) は鎌倉時代の井戸で、16E 区の 061SA は鎌倉～室町期 (W-027 ~ 033) の柵列である (図 76・77)。

16E 区 -061SA

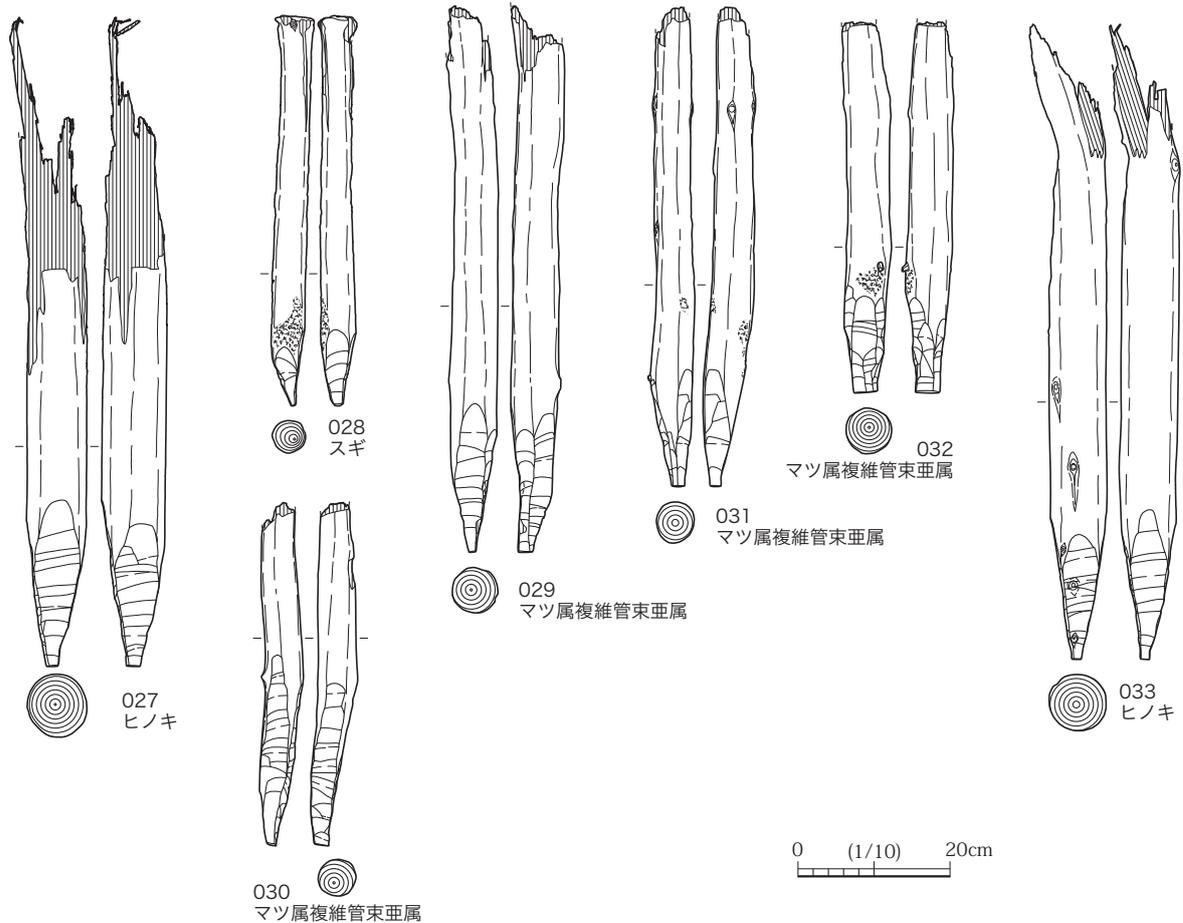


図 77 木製品実測図 5 (1/10)

11B-012SE W-021～025 は井戸 012SE の井戸枠として用いられていた曲物の側板。樹種は W-021・024 がアスナロで、他はヒノキの追柁目材。底部が欠損する W-022 以外の全てに底板を固定するための穿孔を有することから、W-022 を含む全てが容器としての曲物からの転用であろう。W-026 は、同じく 012SE に用いられていた杭で、樹種はマツ属複維管束亜属の芯持ち材。

16E 区 -061SA W-027 と W-033 はヒノキ、W-083 はスギ、他は全てマツ属複維管束亜属の芯持ち材を用いた柱根。

(4) 江戸時代（～以降）

11B 区の 010SE (W-034～054) および 16C 区の 109SE (W-055～074) は桶組みの井戸。16B 区の 015SK (W-075～086) は近世以降の導水施設で、16B 区の 017SK (W-087) は性格不明の大型土坑、16B 区の 021SK (W-088～094) は水溜または肥溜の桶底板 (図 78～82)。

11B-010SE W-034～W-053 は桶組みの井戸枠材で、相互に接合するための目釘が残る例が多い。使用樹種は W-49・51・52 がヒノキ、W-034・041～046 がスギで、他はサワラ。木取りは W-036～040・043・044・047・048・050 が柁目材、W-049 が追柁目材で、他は板目材。W-054 は出土状況が判然としないため詳細は不明だが、クサビのようなものか。樹種はムクノキの追柁目材。

16C 区 -109SE W-055～072 も 11B 区の 010SE と同様に桶組みの井戸枠材だが、板同士の接合のための目釘は用いていない。樹種は W-055・056・062～064・072 がマツ属複維管束亜属、W-057～059・

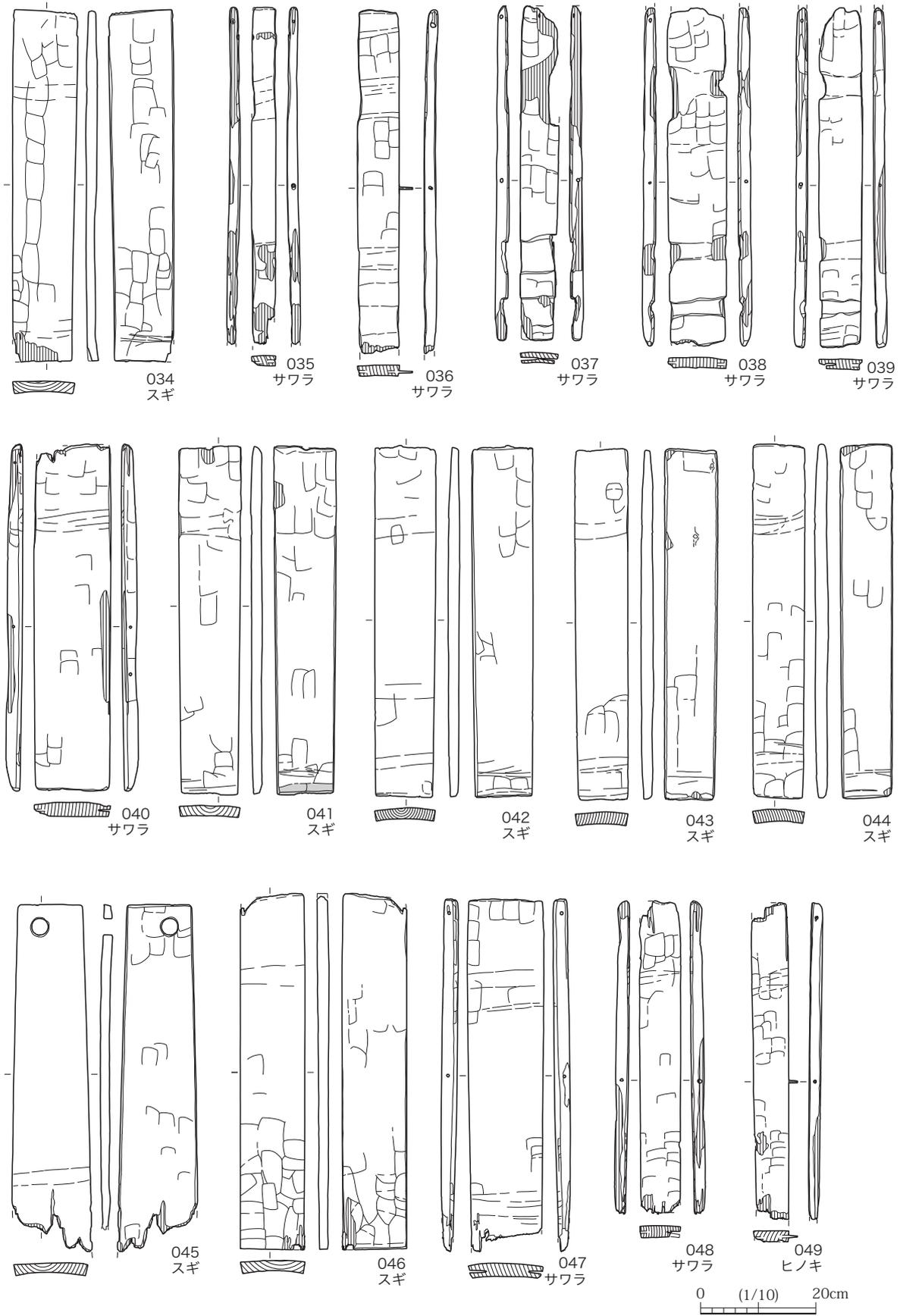


図 78 木製品実測図 6 (1/10)

11B区-010SE-2

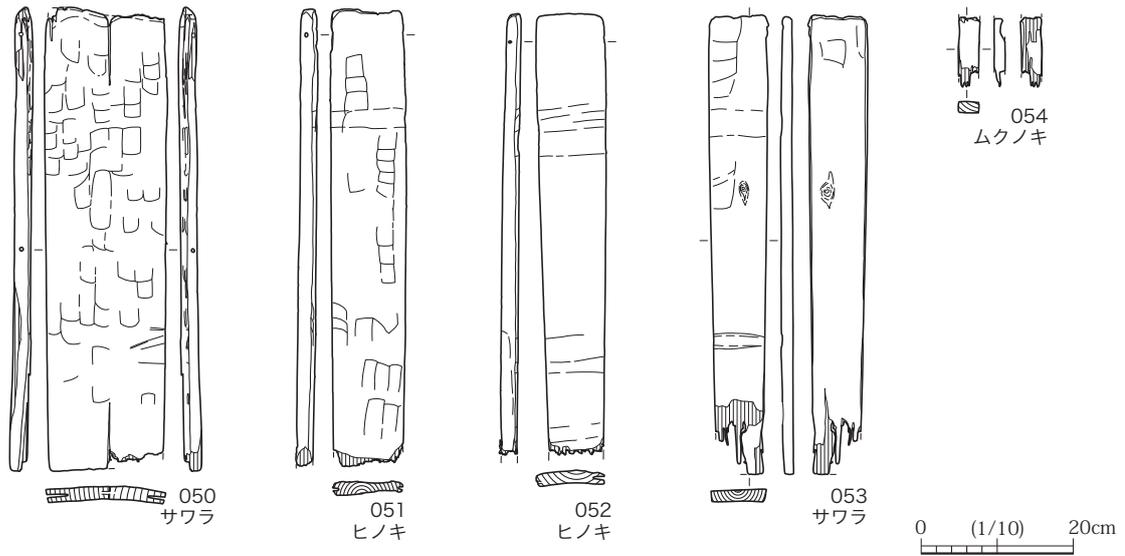


図 79 木製品実測図 7 (1/10)

069・070 がイイギリ、W-060・066 がクワ属、W-061・067・068・071 がモチノキ属、W-065 がクスノキ科で、木取りは全て板目材。W-073 はスギの芯去り材を用いた杭。W-074 はアスナロの板目材を用いた穿孔板。

16B-015SK W-075～086 は杭で、樹種はW-075～077 がツバキ属、W-085・086 がクヌギ節で、他は全てマツ属複雑管束亜属。木取りはいずれも芯持ち材である。

16B-017SK W-087 はマツ属複雑管束亜属の芯持ち材を用いた杭。

16B-021SK W-088～094 はスギの板目材を組み合わせて用いる桶の底板で、鋸引きの痕跡をとどめる。

その他 W-095 は11B区010SE、近世の井戸構築時に用いられた土嚢状の遺物である。

(5) 樹種組成の変遷について

この岡山南遺跡では、実測対象とした94点の木製品(W-095の米俵状を除く)以外に、古墳時代前期-165点、古代-2点、中世-2点、近世(近世以降を含む)-26点の、合計195点の木材ならびに低加工木の樹種同定を実施している。製品と併せて、時期ごとに使用樹種組成の変遷がわかるように集計したのが表3である。

一見してわかるのが古墳時代前期の木材・低加工木に用いられた樹種の多さで、特に広葉樹の種類が豊富である。岡山南遺跡のすぐ北には三ヶ根山から西に延びる丘陵があることから、この時期の樹種組成は遺跡周辺の植生をかなりダイレクトに反映していると考えられる。ただし、ヒノキ・サワラ・アスナロといった各時期ともまんべんなく用いられているヒノキ科の樹種についての現地性を即断することは難しい。

古墳時代前期の木材のうち、広葉樹でアカガシ亜属が最も多いのは、鍬・鋤類のほか農具全般に広く用いられるこの樹種の特徴を反映している。次いでヤナギ属が多いのは、遺跡が河川に面した氾濫原平野に立地していることを示している。湿地に生えるハンノキ亜属が比較的多いこともその証左となる。ヤナギ属に次いでシオジ節がめだつが、これは従来トネリコ属として分類されてきたものである。製品としての使用例は少ない。このほかコナラ節・クワ属・トチノキ・クリ・サカキ・ケヤキはいずれも農具類や容器類で有用な樹種である。

針葉樹ではヒノキ科に次いでモミ属が多い。この遺跡では出土していないが、モミ属は主として楯に

16C区-109SE

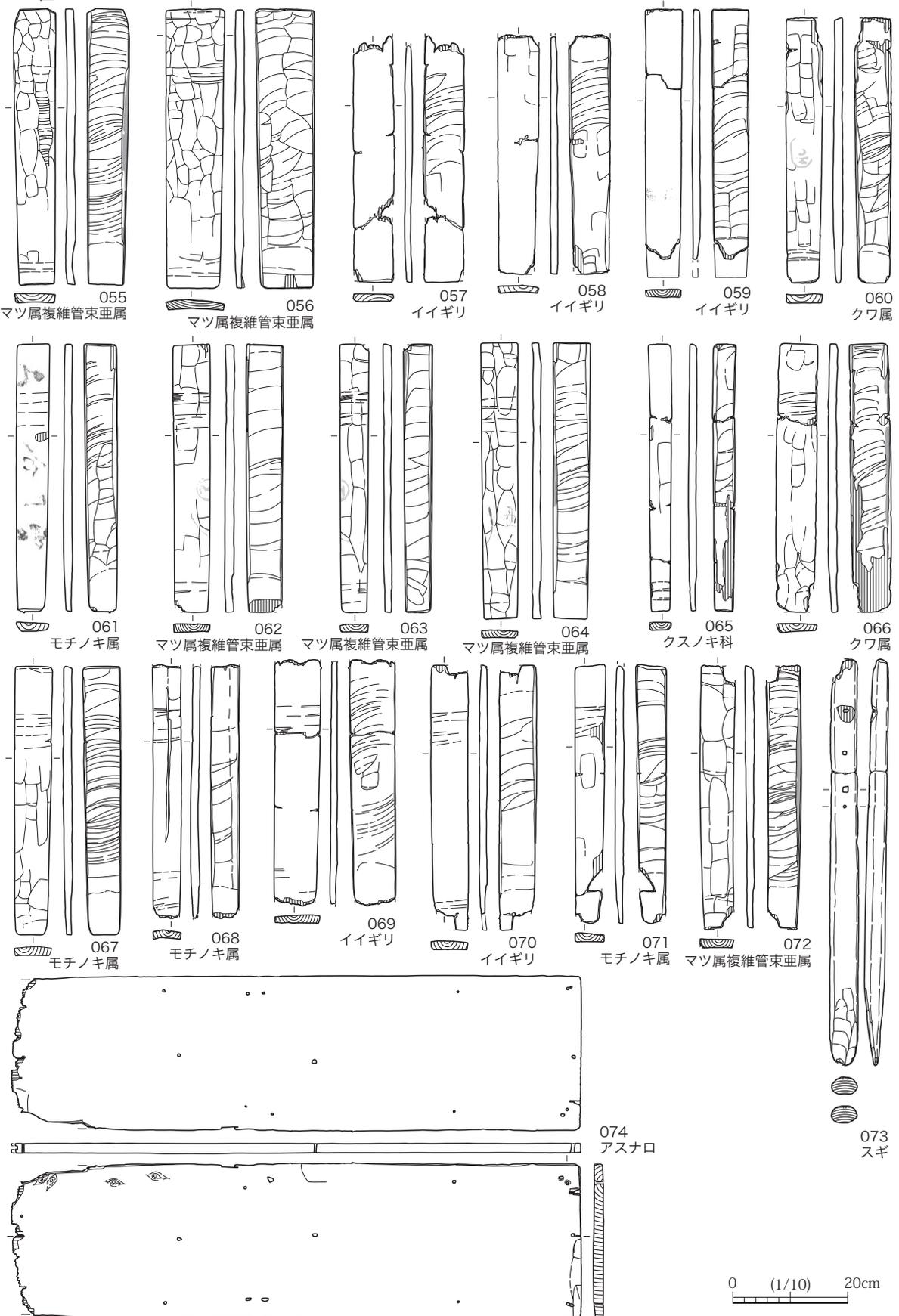


図 80 木製品実測図 8 (1/10)

16B区-015SK

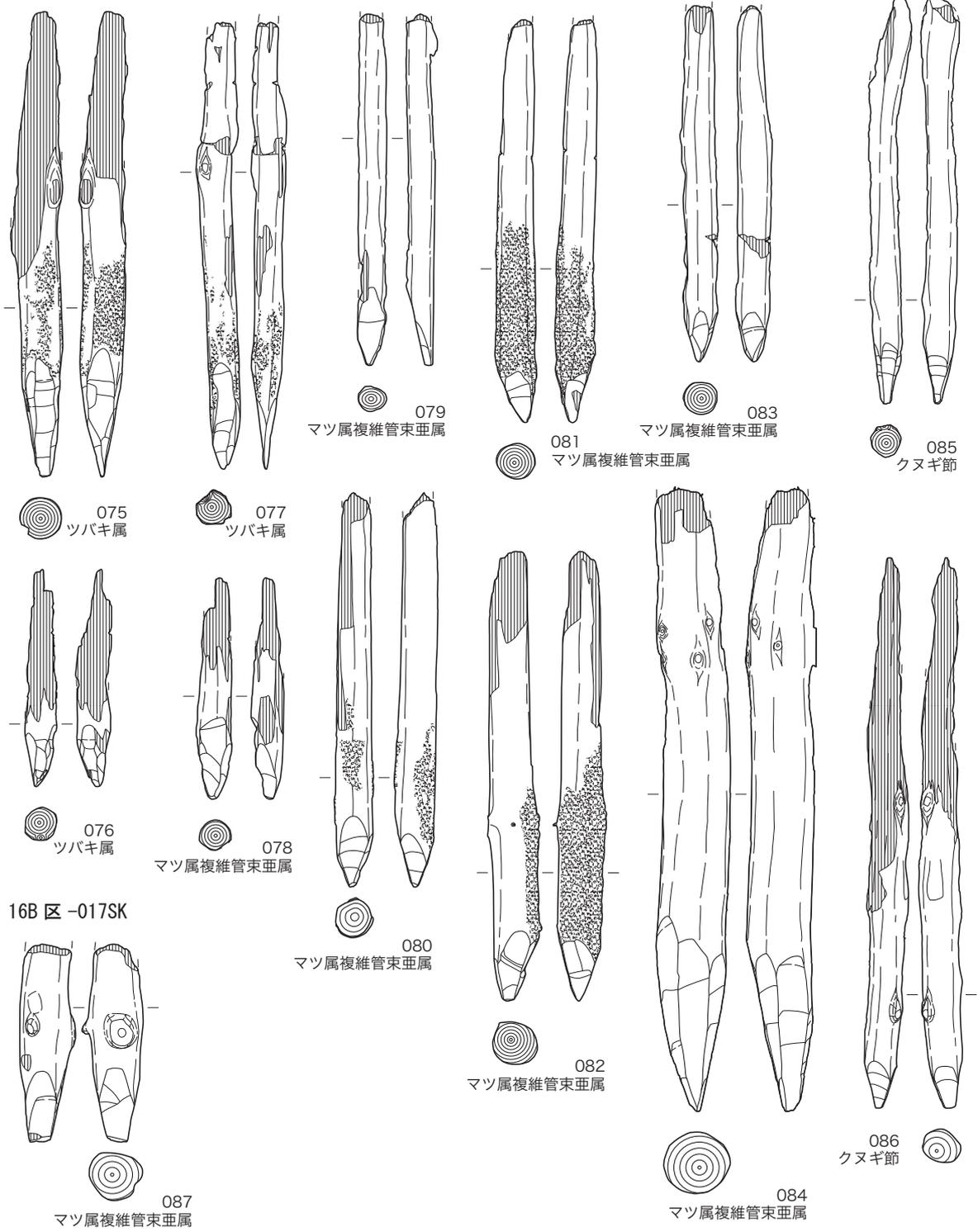
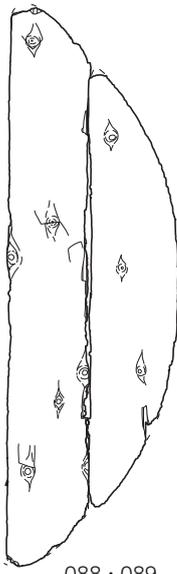
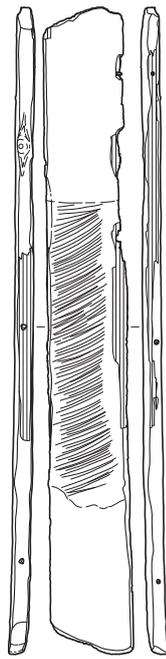


図 81 木製品実測図 9 (1/6)

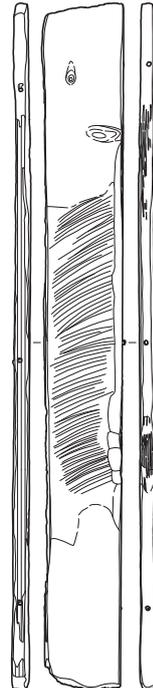
16B 区-021SK



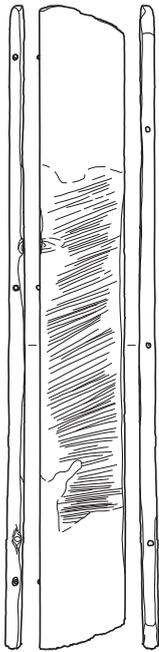
088・089
スギ



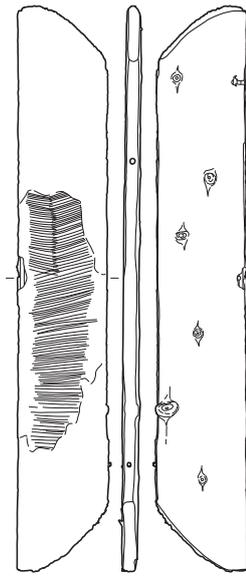
090
スギ



091
スギ



092
スギ

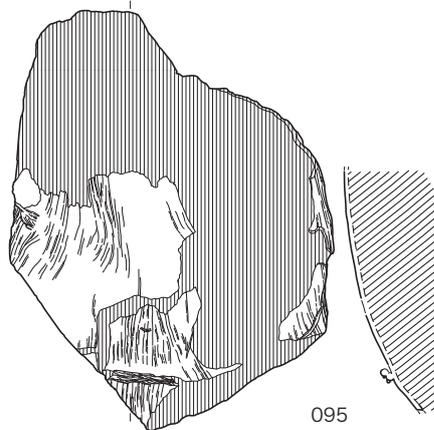


093
スギ



094
スギ

11B 区-010SE



095

0 (1/10) 20cm

図 82 木製品実測図 10 (1/10)

表3 木製品・自然木の樹種（時期別）

	古墳前期 (製品)	古墳前期 (製品以外)	古代 (製品)	古代 (製品以外)	中世 (製品)	中世 (製品以外)	近世 (製品)	近世 (製品以外)
ヒノキ	1	23	2		5	1	3	1
サワラ		14			2		10	1
アスナロ	1	16	1				1	
モミ属		8						1
マツ属複雑管束亜属		2	3		5		14	8
スギ	1	2			1		15	1
カヤ		2						
その他の針葉樹		2						1
アカガシ亜属	2	17						
ヤナギ属		13						
シオジ節		8		1				
コナラ節		5						
クワ属		5					2	
トチノキ		5						
クリ	4	4						2
サカキ	2	4		1				
ケヤキ		3						
ブナ属	1	3						
エノキ属		3						
ハンノキ亜属		3						
クヌギ節	1	2					2	
スダジイ		2				1		
モチノキ属		2					4	
ツバキ属		1					3	1
クスノキ科		1					1	1
イイギリ							5	1
ムクノキ							1	
ヒサカキ							1	
その他の広葉樹		12						
タケ亜科								7

用いられることから、あるいはこの遺跡でも楯が製作されていたのかもしれない。現在では高地に多くみられるが、三ヶ根山付近にも自生していた可能性がある。

古代および中世は製品・製品以外ともに点数が少ないことから、ここから樹種の傾向を導き出すことは難しい。ただ、マツ属複雑管束亜属が、特に現地性が高いとされる杭材に多いことは、この遺跡付近の植生の変化を考えるうえで注目される。

マツ属複雑管束亜属の増加傾向は近世にもおよんでいる。製品・製品以外を合わせて22点は、近世およびそれ以降の樹種組成のなかで最も多く、特に16B区-015SKでは12本の杭材のうち7本が、16C区-109SEでも井戸枠材のうち3分の1がマツ属複雑管束亜属である。この順調なマツ属複雑管束亜属の増加は、三ヶ根山から本遺跡の北側へと延びる丘陵に本来自生していた常緑ならびに落葉広葉樹が度重なる強度伐採により、最終的には裸地化して、マツしか生えないような貧相な植生へといたったことを示しているであろう。

もしその推測が正しければ、当該期の11B区-010SEや16B区-021SKに用いられているヒノキ科やスギは、外部地域から入手したものであったと考えられる。だとすれば、16B区-109SEの井戸枠は桶の接合面が単に面取りしてあるだけなのに対し、11B区-010SEや16B区-021SKでは接合面に目釘が用いられているという違いが、これらの生産地の差を反映している可能性がある。

(樋上 昇)

引用文献

樋上 昇 2016 「木製品からみた『交流拠点』としての荒尾南遺跡（予察）」『2、3世紀の伊勢湾世界を探る』考古学フォーラム シンポジウム資料集

第4章 自然科学分析

1 西尾市中央部、岡山南遺跡における地形と層序の解析

鬼頭 剛

はじめに

西尾市中央部、吉良町木田の岡山南遺跡にて地下層序を観察する機会を得た。その層序解析、放射性炭素年代測定および火山灰分析の結果を報告する。また合わせて地形解析も行なったので報告する。

1. 試料および分析方法

調査地点の地下層序を解析するため各調査区で試錐（ボーリング掘削）調査を実施した。試錐調査は株式会社アーキジオに依頼した。油圧式ロータリー型試錐機を使用し、コアパックスリーブ内蔵型サンプラー（φ 66mm）によりオールコアで実施した。また、各調査区では調査区遺構検出面からバックホーにより掘削し、層序断面を露出させ、層序断面図の作成と試料採取を行なった。層序断面図の作成にあたり、層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。層序断面からは火山灰分析と放射性炭素年代測定の試料を採取した。分析方法の詳細を以下に記す。

火山灰分析の試料は古澤（2003）の方法を基本に前処理を行なった。はじめにナイロン製# 255 メッシュシート（糸径 43 μm、オープニングワイド 57 μm）を用い、流水中で洗浄した。残渣を# 125 メッシュシート（糸径 70 μm、オープニングワイド 133 μm）を用い水中で篩い分けした。これにより極細粒砂サイズ（1/8～1/16）に粒度調整した試料を超音波洗浄器を用いて洗浄し、表面に付着した粘土分などを洗い流した。薄片作成は、鉱物観察用スライドガラスの上に硬化後屈折率が 1.545 程度となる光硬化樹脂をのせ、この樹脂に洗浄・篩い分けを行なった試料を攪拌・封入させ、カバーガラスで覆い粒子組成観察用薄片を作成した。樹脂の屈折率を 1.545 とする目的は石英や長石類の識別にある。前処理・プレパラート封入した粒子を偏光顕微鏡（100 倍）を用いて観察し、火山灰純層の場合 300 粒子（1000 粒子の平均値）を古澤（2003）の区別手法にしたがって区分した。また、火山灰固有で含有率の低い粒子の産出層準を特定するため 3000 粒子（10000 粒子の平均値）の粒子組成分析も行なった。屈折率の測定には、浸液の温度を直接測定しつつ屈折率を測定する温度変化型測定装置“MAIOT”を使用した。測定精度は火山ガラスで± 0.0001、斜方輝石および角閃石で± 0.0002 程度である（古澤, 1995）。火山ガラスの主成分分析について SEM は HITACHI 製 SU1510 を使用し、エネルギー分散型 X 線マイクロアナライザー（EDX）は HORIBA 製 EMAX ENERGY EX-270 を用いた。分析は古澤地質株式会社に依頼した。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析（AMS）法により測定を行なった。加速器質量分析法は 125 μm の篩により湿式篩別を行ない、篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石墨（グラファイト）に調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH）にて測定した。測定された ¹⁴C 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した ¹⁴C 濃度を用いて ¹⁴C 年代を算出した。¹⁴C 年代値の算出には、¹⁴C の半減期として Libby の半減期 5,568 年を使用した。¹⁴C 年代の暦年代への較正には OxCal4.1（較正曲線データ：INTCAL13）を使用した。なお、2σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して産出された放射性炭素年代誤差に相当する 95.4% 信頼限界の暦年代範囲であり、カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。測定は株式会社パレオ・ラボ（Code No. ; PLD）に依頼した。

調査地点を含めた広域的な周辺地形を解析するため、1/2500 スケールで等高線図を作成した。等高線図の作成にあたり愛知県西尾市役所発行の「都市計画図（1/2500）」にプロットされた標高値を基に

した。なお解析にあたって、河川堤防や高速道路、工場や学校のような、人工的に建設・造成されたことが明らかな標高値は除外して等高線を描画した。描画後には現地踏査を実施し、さらに航空写真を基に検討を加えた。

2. 分析結果

(1) 試錐層序

岡山南遺跡の調査範囲では2011（平成23）年に1地点、2015（平成27）年に1地点、2016（平成28）年に1地点の合計3地点で試錐調査を実施している（図83）。試錐調査の年度ごとにコア層序の記載をする。なお、便宜的に2011（平成23）年の試錐地点を地点1、2015（平成27）年のものを地点2、2016（平成28）年を地点3とする。

地点1（2011（平成23）年）では11B区の東端で深度25mの試錐調査を行なった（図83・図84）。下位層より順に記す。標高-21.74m～-15.94mは灰白色（新版標準土色帖によるカラーチャートで5YR7/1；以下ではカラーチャート記号のみを記す）の珪質片岩からなる。長径2mm程度の石英や長石の鉱物が観察される。標高-15.94m～-11.58mは灰オリーブ色（5Y5/3）やオリーブ灰色（2.5GY5/1）を呈する



図83 岡山南遺跡周辺の等高線図
(調査区内の1, 2, 3の数字は試錐調査地点である)

砂質シルト層やシルト質砂層との互層からなる。層厚 20～30cm の砂質シルト層と層厚 60～70cm のシルト質砂層との互層である。シルト層の単層の層厚よりも砂層の層厚のほうが厚い。シルト層、砂層とも堆積構造は認められず塊状・均質である。標高 -15.94m～-15.31m の砂質シルト層最上部の標高 -15.92m の層準、標高 -15.31m～-14.68m のシルト質砂層の最上部標高 -15.29m の層準、標高 -14.68m～-14.40m の砂質シルト層の最上部標高 -14.64m の層準、標高 -14.40m～-13.74m のシルト質砂層の最上部標高 -14.34m の層準、標高 -13.74m～-13.54m の砂質シルト層の中部標高 -13.64m の層準、標高 -12.74m～-12.54m の砂質シルト層の中部標高 -12.64m の層準、標高 -11.74m～-11.58m の砂質シルト層の中部標高 -11.69m の層準から火山灰分析用の試料を採取した。標高 -11.58m～-8.54m は灰オリーブ色 (5Y5/3) のシルト質砂層からなる。塊状・均質で堆積構造はみられない。標高 -8.54m～-6.14m は灰色 (5Y5/1) や灰オリーブ色 (5Y5/3) で層厚 5～7cm までの細礫が混じる粘土質シルト層と、層厚 60～70cm までの砂質シルト層との互層からなる。シルト層は塊状・均質で堆積構造はみられない。細礫を含む粘土質シルト層には堆積構造はみられず、径 4mm 程度の礫を地層中に無秩序に含む。標高 -8.36m～-7.80m の砂質シルト層の最下部標高 -8.29m より火山灰分析用の試料を採取した。標高 -6.14m～-3.12m は灰色 (5Y5/1) やオリーブ褐色 (2.5Y4/3) のシルト層、シルト質砂層、細礫の混じる砂質シルト層とが互層する。それぞれの単層の層厚は 20cm から 60cm までの幅をもつ。全体にシルト成分の優勢な細粒な堆積物が卓越し、各地層は塊状・均質で堆積構造はみられない。標高 -5.64m～-5.21m の黄褐色 (2.5Y5/3) を呈するシルト層の最下部標高 -5.59m の層準、標高 -3.32m～-3.12m のオリーブ褐色 (2.5Y4/3) を呈する細礫の混じる砂質シルト層の中部標高 -3.24m の層準から火山灰分析用の試料を採取した。標高 -4.24m～-3.69m には細礫の混じる粗粒砂層が挟まれる。標高 -3.12m～-2.82m はオリーブ褐色 (2.5Y4/3) の細礫層である。基質はシルト質砂からなり、角礫主体の礫支持礫層である。標高 -2.82m～-0.36m までは中粒砂から極粗粒砂といった砂粒子を主体とする地層である。砂層の単層は 7cm から 60cm までの層厚をもつ。砂層には堆積構造が認められない。これらの砂層のうち標高 -2.34m～-2.08m の細粒砂層とシルト質粘土層との互層において、下位層との層理面に近い標高 -2.29m で放射性炭素年代測定用の試料 No. 1 を、上位層との層理面に近い標高 -2.10m で試料 No. 2 を、標高 -1.62m～-1.04m の中粒砂層の標高 -1.38m で試料 No. 3 を、標高 -0.82m～-0.56m の極粗粒砂の混じるシルト質砂層の下位層との層理面に近い標高 -0.79m で試料 No. 4 を採取した。標高 -0.36m～1.56m までは粘土層ないしシルト層といった細粒な堆積物が卓越する。単層は層厚 8cm から 28cm まで幅をもち、塊状・均質で堆積構造はみられない。標高 0.36m～0.58m の黒褐色 (10YR3/1) を呈する粘土層の下部 (標高 0.41m) で放射性炭素年代測定用の試料 No. 5 を、標高 0.58m～0.86m の黒褐色 (10YR3/2) 粘土層の下部 (標高 0.61m) で試料 No. 6、標高 1.26m～1.38m の黒褐色 (10YR3/1) を呈する砂混じり粘土層の標高 1.30m から試料 No. 7 を採取した。標高 1.56m～2.34m まではシルト質中粒砂層や極細粒砂層が累重する。砂層には堆積構造がみられない。標高 2.00m～2.34m の黒褐色 (10YR2/2) を呈するシルト質中粒砂層の標高 2.16m から試料 No. 8 を採取した。標高 2.34m～3.26m は黒褐色 (10YR3/2) や灰褐色 (10YR4/2) で砂の混じるシルト層が累重する。各シルト層は塊状・均質で堆積構造はみられない。本層の頂部 (標高 3.26m) が地表である。

地点 2 (2015 (平成 27) 年) は 16D 区の西端で深度 25m の試錐調査を行なった (図 83・図 85)。標高 -16.83m～-8.14m は領家帯の変成岩類である珪質片岩からなる。珪質片岩の下部である標高 -16.83m～-15.71m は灰白色 (5YR7/1) を呈し硬く緻密で新鮮である。標高 -15.71m～-8.14m は灰黄色 (2.5Y6/2) の強風化した珪質片岩からなり、岩石を構成する鉱物粒の形も判断できないほどシルト状に風化している。標高 -8.14m～-6.83m は灰色 (5Y5/1) ないしは灰色 (7.5Y5/1) を呈するシルト混じりの細礫層や砂の混じるシルト質粘土層との互層からなる。単層の層厚は 5cm から 30cm までの幅をもって累重す

る。地層は全体に塊状・均質で堆積構造はみられない。標高 -8.14m ~ -7.83m のシルト混じり粗粒砂層の最下部標高 -8.11m の層準、標高 -7.83m ~ -7.68m の砂質シルト層の最下部標高 -7.79m の層準、標高 -7.63m ~ -7.51m の砂の混じるシルト質粘土層の下部標高 -7.59m の層準、標高 -7.38m ~ -7.33m の砂の混じる粘土質シルト層の中部標高 -7.36m の層準から火山灰分析用の試料を採取した。これらの地層のうち標高 -7.38m ~ -7.33m の黒色 (5Y2/1) を呈する砂粒子の混じる粘土質シルト層において、標高 -7.36m で生の草本類を採取した (放射性炭素年代測定用の試料 No. 1)。標高 -6.83m ~ -4.67m にはシルト層や粘土層といった細粒な堆積物がみられ、標高 -6.83m ~ -6.61m には灰色 (5Y5/1) の砂質シルト層が、標高 -6.61m ~ -5.27m には灰色 (7.5Y5/1) で砂の混じるシルト質粘土層が、標高 -5.27m ~ -4.67m には黄灰色 (2.5Y4/1) の砂混じりのシルト質粘土層が認められる。これらの粘土層は塊状・均質で堆積構造はみられない。標高 -6.61m ~ -5.27m のシルト質粘土層の最下部標高 -6.53m の層準と、標高 -5.27m ~ -4.67m のシルト質粘土層の最下部標高 -5.2m の層準で火山灰分析用試料を採取した。標高 -4.67m ~ -2.03m までは粘土質シルト層ないしシルト質粘土層と、極細粒砂層や中粒砂層との互層と

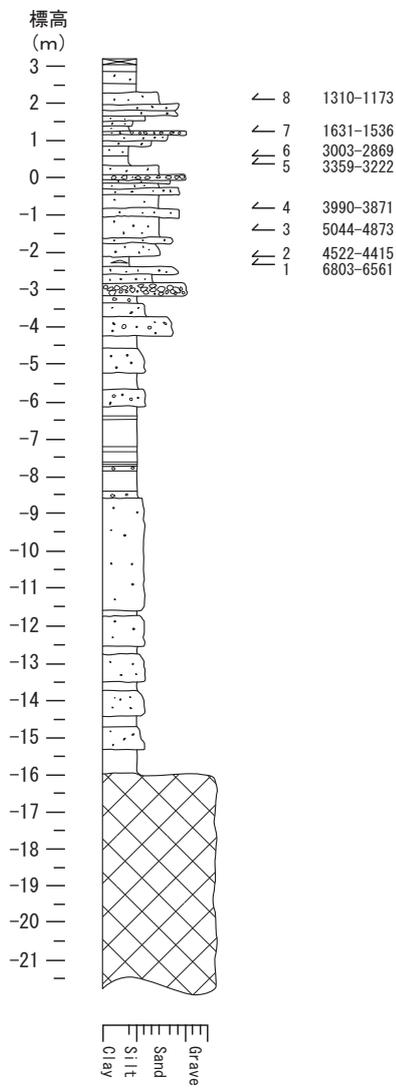


図 84 試錐地点 1 における地質柱状図
(柱状図右横の矢印は分析試料採取層準、数値は放射性炭素年代測定値を示す)

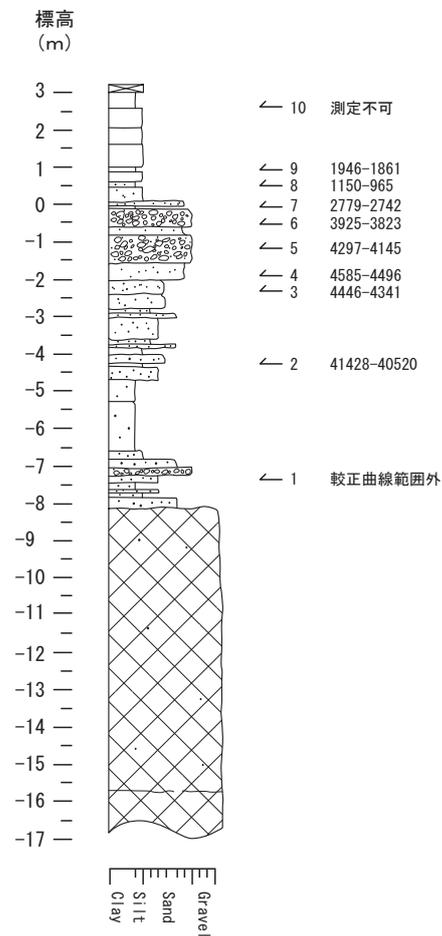


図 85 試錐地点 2 における地質柱状図
(柱状図右横の矢印は分析試料採取層準、数値は放射性炭素年代測定値を示す)

なる。地層は全体に砂粒子が卓越し、塊状・均質で堆積構造はみられない。これらの累重する地層のうち、標高 -4.33m ~ -4.23m の黒褐色 (10YR3/2) を呈する砂質シルト層の標高 -4.29m で放射性炭素年代測定用の分析試料 (試料 No. 2) を、標高 -2.37m ~ -2.03m の灰黄褐色 (10YR4/2) を呈する中粒砂層において、その下部 (標高 -2.33m) で分析試料 (試料 No. 3) を採取した。標高 -2.03m ~ -0.10m はシルトの混じる細礫層と中粒砂層や極粗粒砂層との互層となる。地層は全体に礫や砂といった粗粒堆積物が卓越し、堆積構造はみられない。これらの地層のうち、標高 -2.03m ~ -1.56m の褐灰色 (10YR4/1) のシルト混じりの中粒砂~極粗粒砂層の標高 -1.93m で分析試料 (試料 No. 4) を、さらにその上位を覆う標高 -1.56m ~ -0.77m の暗褐色 (10YR3/3) を呈するシルト混じり細礫層の標高 -1.21m で分析試料 (試料 No. 5) を、標高 -0.59m ~ -0.09m の暗褐色 (10YR3/3) でシルト混じり細礫層の標高 -0.53m で分析試料 (試料 No. 6) を、さらにその上を覆う標高 -0.09m ~ -0.03m の褐灰色 (10YR4/1) の砂混じり粘土層の標高 -0.07m から分析試料 (試料 No. 7) を採取した。標高 -0.10m ~ 3.17m はシルト層ないしは粘土層といった細粒な堆積物が卓越し、それらが累重する。層厚は 15cm から 60cm までとさまざまである。地層は塊状・均質で堆積構造はみられない。本層の頂部 (標高 3.17m) が地表となる。標高 0.47m ~ 0.63m のオリーブ黒色 (10Y3/1) で砂粒子の混じるシルト質粘土層標高 0.51m で放射性炭素年代測定用の試料 No. 8 を、標高 0.87m ~ 1.02m の黒色 (10YR1.7/1) シルト質粘土層の標高 0.93m で試料 No. 9 を、標高 2.57m ~ 3.03m の黄灰色 (2.5Y4/1) シルト質粘土層の標高 2.63m で試料 No. 10 を採取した。

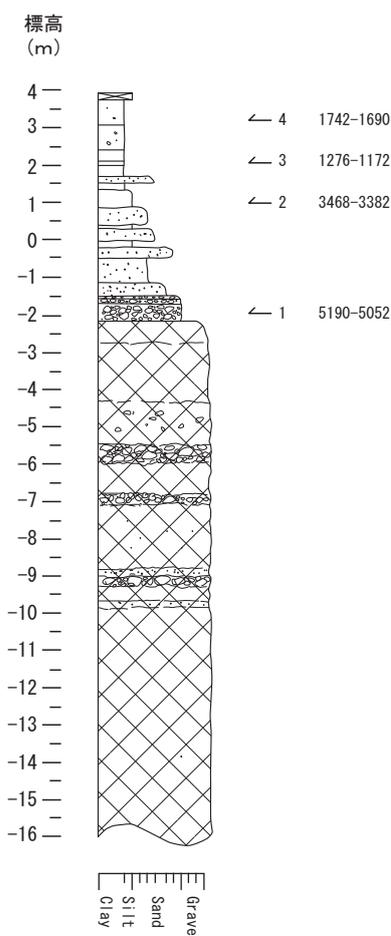


図 86 試錐地点 3 における地質柱状図 (柱状図右横の矢印は分析試料採取層準、数値は放射性炭素年代測定値を示す)

地点 3 (2016 (平成 28) 年) は 16A 区の西端からさらに西へ約 140m 離れた地点で深度 25m の試錐調査を行なった (図 83・図 86)。標高 -16.03m ~ -2.15m は珪質片岩からなる。珪質片岩の下部となる標高 -16.03m ~ -9.85m は灰白色 (5YR7/1) を呈し硬く緻密で新鮮である。いっぽう、上部の標高 -9.85m ~ -2.15m は風化帯となり、灰オリーブ色 (5Y4/2) やオリーブ黒色 (5Y3/2)、褐灰色 (7.5YR6/1) やにぶい黄褐色 (10YR5/3) とさまざまな色調が観察される。珪質片岩の岩構造が風化により崩れて礫状を呈する部分が認められる層準もあり、特に標高 -4.29m ~ -2.15m は風化が激しく、岩石を構成する鉱物は自形を保っておらず粘土状になっている。標高 -2.15m ~ -1.12m は灰オリーブ色 (7.5Y4/2) やオリーブ黒色 (5Y3/1) でシルトの混じる細礫層と粗粒砂層との互層からなる。標高 -2.15m ~ -1.68m にみられるオリーブ黒色 (5Y3/1) の細礫層は最大礫径 7mm の角礫を主体とする基質支持礫層である。本層の最下部の標高 -2.13m の層準から火山灰用分析試料を、本層の標高 -1.93m で放射性炭素年代測定用の分析試料 (試料 No. 1) を採取した。標高 -1.48m ~ -1.12m でみられる粗粒砂層は淘汰良好であるが、堆積構造は認められない。標高 -1.12m ~ 0.89m はシルトの混じる細粒砂層ないし中粒砂層が累重する。塊状・均質で堆積構造はみられない。標高 -0.98m ~ -0.49m のシルト質細粒砂層の最下部、標高 -0.93m の層準から火山灰分析用の試料を採取した。標高 0.89m ~ 3.97m まではシルトや粘土の細粒な堆積物が卓越するようになり、シルト層や粘土層あるいはそれらの混合した地層が、層厚 7cm

から70cmまでの幅をもって累重する。地層の色調はオリーブ黒色(5Y3/1)や黒褐色(10YR2/3)などと下位層に比べると黒色化が著しい。堆積物は塊状・均質で堆積構造はみられない。本層の頂部(標高3.97m)が地表である。標高0.97m～1.36mのオリーブ黒色(5Y3/1)の砂質シルト層において標高1.01mの層準から放射性炭素年代測定用の分析試料(試料No.2)を、標高2.03m～2.10mの黒色(5Y2/1)の粘土層において標高2.07mの層準から分析試料(試料No.3)を、標高3.07m～3.77mの黒褐色(10YR3/2)の砂混じりシルト質粘土層において標高3.23mの層準から分析試料(試料No.4)を採取した。

(2) 放射性炭素年代測定

地点1(2011(平成23)年)のコア資料から8点、地点2(2015(平成27)年)のコア資料から10点、地点3(2016(平成28)年)のコア資料から4点の計22点の放射性炭素年代測定を行なった。地点2のコア資料において較正曲線範囲外であった試料1点(試料No.1)と測定量に満たず測定ができなかった試料1点(試料No.10)を除き、他の20点からは数値年代を得られた(表4・表5・表6)。古い数値年代では地点2のコア資料において、標高-4.33m～-4.23mの黒褐色(10YR3/2)を呈する砂質シルト層の標高-4.29mから採取した分析試料(試料No.2)が41428 - 40520 cal yrs BP (PLD-35434)とおおよそ4万年前の数値年代であった。他には、地点2のコア資料において標高-2.34m～-2.08mの細粒砂層とシルト質粘土層との互層の標高-2.29mから採取した分析試料(試料No.1)が6803-6561 cal yrs BP (PLD-35425)、地点3のコア資料の標高-2.15m～-1.68mにみられるオリーブ黒色(5Y3/1)の細礫層の標高-1.93mで採取した分析試料(試料No.1)が5190 - 5053 cal yrs BP (PLD-35439)と、約6000年前から5000年前代であった。いっぽう、新しい数値年代として、地点1のコア資料の標高2.00m～2.34mの黒褐色(10YR2/2)を呈するシルト質中粒砂層の標高2.16mから採取した分析試料(試料No.8)が1310 - 1173 cal yrs BP (PLD-35418)、地点3のコア資料の標高2.03m～2.10mの黒色(5Y2/1)の粘土層において標高2.07mから採取した分析試料(試料No.3)が1276 - 1172 cal yrs BP (PLD-35437)と約1300年前から1100年前代であった。

(3) 火山灰分析

地点1(2011(平成23)年)のコア資料から10点、地点2(2015(平成27)年)のコア資料から5点、地点3(2016(平成28)年)のコア資料から2点の計17点の火山灰分析を行なった。このうち地点3の標高-0.98m～-0.49mのシルト質細粒砂層の最下部、標高-0.93mから採取した試料でのみ、極微量(3000粒子中に0.1)のバブルウォールタイプ(BW)の火山ガラスが検出された。いっぽうで、地点1・地点2からは火山ガラスが検出されなかった。地点3のコア資料から検出された火山ガラスの主成分化学組成は鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)の特徴(町田・新井,2003)と一致する。なお、少量の普通角閃石が3地点のコア資料からすべて検出されているものの、この角閃石は遺跡周辺の領家帯変成岩類から構成される基盤岩を起源とする角閃石が二次的に運搬・堆積したものと考えられる。

(4) 遺跡周辺の等高線図

東西約2.3km、南北約1.8kmの範囲全体では標高1.4mから標高60mまでの等高線が描かれる(図83)。解析範囲全体では図の北側にある吉良町岡山に、南北約0.75km、東西約1.9kmの東西方向に半島状にのびる丘陵地が標高5mから標高60mまでと相対的に高く、吉良町岡山の華蔵寺の北にある岡山配水池付近が解析範囲内でもっとも標高の高い場所となる。吉良町岡山のこの丘陵地を囲んで周囲は次第に標高を減じ、標高5mよりも低くなっている。もっとも標高の低いのが解析範囲南西の吉良町上横須賀付近にみられる標高1.4mである。解析範囲の西方には矢作古川と広田川とが北から南へ並行して流

表 4 試錐地点 1 における放射性炭素年代測定結果

試料No.	標高 (m)	堆積物	試料の種類	¹⁴ C年代 (yrs BP)	δ ¹³ C PDB (‰)	2σ 暦年代範囲 (AD/BC, probability)	2σ 暦年代範囲 (Cal yrs BP, probability)	Lab Code No. (method)
1	-2.29	細粒砂層とシルト 質粘土層の互層	土壌	5885 ± 52	-34.51 ± 0.22	4854 - 4612 BC (91.8 %) 4899 - 4864 BC (3.6 %)	6803 - 6561 (91.8 %) 6848 - 6813 (3.6 %)	PLD - 35425 (AMS)
2	-2.10	細粒砂層とシルト 質粘土層の互層	生の草本類	3988 ± 28	-33.52 ± 0.33	3573 - 2466 BC (95.4 %)	4522 - 4415 (95.4 %)	PLD - 35424 (AMS)
3	-1.38	中粒砂層	生の草本類	4405 ± 24	-27.46 ± 0.25	3095 - 2924 BC (95.4 %)	5044 - 4873 (95.4 %)	PLD - 35423 (AMS)
4	-0.79	極粗粒砂混じりシルト 質砂層	生の草本類	3631 ± 23	-28.69 ± 0.24	2041 - 1922 BC (90.7 %) 2119 - 2096 BC (4.7 %)	3990 - 3871 (90.7 %) 4068 - 4045 (4.7 %)	PLD - 35422 (AMS)
5	0.41	粘土層	土壌	3073 ± 22	-26.10 ± 0.13	1410 - 1273 BC (95.4 %)	3359 - 3222 (95.4 %)	PLD - 35421 (AMS)
6	0.61	粘土層	土壌	2837 ± 22	-25.60 ± 0.12	1054 - 920 BC (95.4 %)	3003 - 2869 (95.4 %)	PLD - 35420 (AMS)
7	1.30	砂混じり粘土層	生の草本類	1690 ± 28	-27.35 ± 0.34	320 - 414 AD (80.5 %) 257 - 298 AD (14.9 %)	1631 - 1536 (80.5 %) 1694 - 1653 (14.9 %)	PLD - 35419 (AMS)
8	2.16	シルト 質中粒砂層	生の草本類	1311 ± 44	-39.04 ± 0.26	641 - 777 AD (94.5 %) 793 - 801 AD (0.5 %) 847 - 853 AD (0.3 %)	1310 - 1173 (94.5 %) 1158 - 1149 (0.5 %) 1104 - 1098 (0.3 %)	PLD - 35418 (AMS)

表 5 試錐地点 2 における放射性炭素年代測定結果

試料No.	標高 (m)	堆積物	試料の種類	¹⁴ C年代 (yrs BP)	δ ¹³ C PDB (‰)	2σ 暦年代範囲 (AD/BC, probability)	2σ 暦年代範囲 (Cal yrs BP, probability)	Lab Code No. (method)
1	-7.36	砂混じり粘土質シルト層	生の草本類	バックグラウンド 以下	-31.89 ± 0.22	較正曲線範囲外	較正曲線範囲外	PLD - 35435 (AMS)
2	-4.29	砂質シルト層	土壌	36335 ± 170	-29.36 ± 0.15	39479 - 38571 BC (95.4 %)	41428 - 40520 (95.4 %)	PLD - 35434 (AMS)
3	-2.33	シルト 混じり中粒砂層	生の草本類	3947 ± 25	-28.44 ± 0.22	2497 - 2392 BC (66.9 %) 2386 - 2346 BC (15.5 %) 2566 - 2532 BC (13.1 %)	4446 - 4341 (66.9 %) 4335 - 4295 (15.5 %) 4515 - 4481 (13.1 %)	PLD - 35433 (AMS)
4	-1.93	シルト 混じり中粒砂～極粗粒砂層	土壌	4055 ± 23	-28.62 ± 0.11	2636 - 2547 BC (57.8 %) 2540 - 2489 BC (31.4 %) 2834 - 2818 BC (4.1 %) 2661 - 2647 BC (2.1 %)	4585 - 4496 (57.8 %) 4489 - 4438 (31.4 %) 4783 - 4767 (4.1 %) 4610 - 4596 (2.1 %)	PLD - 35432 (AMS)
5	-1.21	シルト 混じり細礫層	生の草本類	3819 ± 26	-28.44 ± 0.22	2348 - 2196 BC (89.7 %) 2172 - 2146 BC (3.9 %) 2401 - 2383 BC (1.8 %)	4297 - 4145 (89.7 %) 4121 - 4095 (3.9 %) 4350 - 4332 (1.8 %)	PLD - 35431 (AMS)
6	-0.53	シルト 混じり細礫層	炭化草本類	3559 ± 24	-29.00 ± 0.23	1976 - 1874 BC (84.2 %) 1844 - 1816 BC (6.4 %) 1799 - 1779 BC (3.9 %) 2009 - 2002 BC (0.8 %)	3925 - 3823 (84.2 %) 3793 - 3765 (6.4 %) 3748 - 3728 (3.9 %) 3958 - 3951 (0.8 %)	PLD - 35430 (AMS)
7	-0.07	砂混じり粘土層	土壌	2639 ± 22	-22.84 ± 0.18	830 - 793 BC (95.4 %)	2779 - 2742 (95.4 %)	PLD - 35429 (AMS)
8	0.51	砂混じりシルト 質粘土層	生の草本類	1137 ± 35	-32.98 ± 0.35	800 - 985 AD (89.7 %) 776 - 794 AD (5.7 %)	1150 - 965 (89.7 %) 1174 - 1157 (5.7 %)	PLD - 35428 (AMS)
9	0.93	シルト 質粘土層	土壌	1945 ± 21	-27.82 ± 0.15	5 - 89 AD (88.4 %) 101 - 123 AD (7.0 %)	1946 - 1861 (88.4 %) 1849 - 1828 (7.0 %)	PLD - 35427 (AMS)
10	2.63	シルト 質粘土層	生の草本類	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	PLD - 35426 (AMS)

表 6 試錐地点 3 における放射性炭素年代測定結果

試料No.	標高 (m)	堆積物	試料の種類	¹⁴ C年代 (yrs BP)	δ ¹³ C PDB (‰)	2σ 暦年代範囲 (AD/BC, probability)	2σ 暦年代範囲 (Cal yrs BP, probability)	Lab Code No. (method)
1	-1.93	シルト 混じり細礫層	炭化材	4522 ± 25	-30.09 ± 0.24	3241 - 3103 BC (65.0 %) 3355 - 3264 BC (30.4 %)	5190 - 5052 (65.0 %) 5304 - 5213 (30.4 %)	PLD - 35439 (AMS)
2	1.01	砂質シルト層	土壌	3213 ± 21	-22.24 ± 0.19	1519 - 1433 BC (95.4 %)	3468 - 3382 (95.4 %)	PLD - 35438 (AMS)
3	2.07	粘土層	土壌	1254 ± 24	-29.62 ± 0.20	674 - 779 AD (87.9 %) 840 - 863 AD (3.3 %) 791 - 805 AD (2.4 %) 812 - 826 AD (1.8 %)	1276 - 1172 (87.9 %) 1111 - 1088 (3.3 %) 1159 - 1145 (2.4 %) 1139 - 1124 (1.8 %)	PLD - 35437 (AMS)
4	3.23	砂混じりシルト 質粘土層	土壌	1787 ± 20	-26.04 ± 0.12	208 - 261 AD (49.2 %) 278 - 327 AD (29.6 %) 140 - 198 AD (16.6 %)	1742 - 1690 (49.2 %) 1672 - 1624 (29.6 %) 1810 - 1753 (16.6 %)	PLD - 35436 (AMS)

れる。図の北には須美川が吉良町岡山の丘陵地北側縁辺に沿って北東から南西方向に流れ、丘陵地西端の花蔵寺町で矢作古川と広田川とに合流する。合流地点付近では広田川より取水した新用水路が北西から南東方向に流下しており、岡山南遺跡の調査範囲を横切る。この新用水路は、図の南東で解析範囲には描かれないが矢崎川に合流する。図の南東では炭焼川が南流し、東から西へ流れる小迫川と合流し矢崎川となる。解析範囲の南西には名古屋鉄道西尾線が通り、吉良町上横須賀において東へ凸の形状で大きくカーブする。東には主要地方道西尾吉良線が南北方向にのび、東西方向には県道宮迫今川線が通る。岡山南遺跡の調査地点は吉良町岡山の標高 5m ~ 60m までの丘陵地の南に広がる低地域にあるので、解析結果は標高 5m よりも低い低地を中心に述べる。

吉良町岡山の東西方向にのびる丘陵地の周囲には標高 1.4m から標高 4.8m までの等高線が描かれる。それらの等高線間隔には疎密差がみられ、疎密差の空間的な配置状況から低平な場所の起伏が読み取れる。解析範囲では閉曲線の等高線からなる島状に標高の高いところと、それらの間に谷地形が判別できる。標高の高いところから順に述べる。

1. 図の東、吉良町寺嶋には標高 3.8m ~ 4.2m の閉曲線で囲まれた東西約 370m、南北約 450m の島状に標高の高い地形がみられる。
2. 図の中央、吉良町木田には標高 3.4m ~ 3.8m の閉曲線で囲まれた東西約 270m、南北約 270m の島状に標高の高い地形がみられる。
3. 図の南西、吉良町上横須賀には解析図には地形の全体が描かれないが、標高 1.4m ~ 2.8m の閉曲線で囲まれた東西約 480m、南北約 220m の島状に標高の高い地形がみられる。
4. 図の北西、宅野島町には標高 3.8m ~ 4.2m の閉曲線で囲まれた東西約 220m、南北約 320m の島状に標高の高い地形がみられる。

このように解析範囲には相対的に周りよりも標高の高い島状の地形が 4 つ認められる。

いっぽうで、谷地形もみられる。北東から南西へ順に列記する。

1. 図の東、吉良町岡山には主要地方道西尾吉良線を通る場所に標高 3.8m ~ 4.8m で南北方向にのび南へ開いた谷地形がみられる。
2. 図の東、吉良町岡山から吉良町瀬戸にかけて標高 2.8m ~ 3.6m で、南北方向にのびて南に開口する谷地形が認められる。
3. 図の中央から南西には吉良町岡山から吉良町木田にかけて標高 1.6m ~ 3.6m で北東から南西方向にのび西に開いた谷地形がみられる。
4. 図の西、現在の矢作古川と広田川の流路に沿って標高 1.4m ~ 3.4m で南北方向にのびる谷地形が認められる。

以上のように、解析範囲には 4 つの谷地形が認められる。

3. 考察

(1) 岡山南遺跡の地下層序

岡山南遺跡において試錐調査を実施した。試錐調査で得られた地下層序を観察すると、すべてのコア資料の下部には地質学的に領家変成コンプレックスの珪質片岩が観察された。なお、領家変成コンプレックスとはかつて領家変成岩類としていたもので、コンプレックスとは地質学において変成岩や火成岩などの、構造が複雑で細かく区分することが難しい岩石をひとまとめにした岩石の集合体のことを言う。岡山南遺跡の調査範囲の北には吉良町岡山に東西の長さ約 1.9km、南北の長さ約 0.8km の東西方向に半島状にのびる標高 5m から標高 60m の丘陵地があり、この丘陵地全体を構成する岩石が領家変成コンプレックスの片岩類となる。筆者も本論をまとめるにあたり丘陵地の地質調査を行なったが、灰黒色を呈

する泥質片岩と灰白色の珪質片岩が丘陵地を構成していることを確認している。岡山南遺跡で実施した試錐調査によって、地下にも片岩類が分布していることが認められた。この基盤岩を覆って粘土層、シルト層、砂層や礫層が覆う。地点1と地点2では砂質シルト層やシルト質砂層の累重がみられ、特に地点1では層厚約13mにおよぶ累重が認められたものの、残念ながら放射性炭素年代値や火山灰は検出できなかった。地点2では標高-4.33m～-4.23mの砂質シルト層の標高-4.29mから採取した分析試料（試料No.2）から41428 - 40520 cal yrs BP (PLD-35434) とおよそ4万年前の数値年代が得られており、少なくとも地点2や同じ層相が観察される地点1においても標高約-4m付近よりも下位層には更新統堆積物が分布する可能性がある。

調査範囲に堆積物が運搬され埋積作用が進み、およそ5000年前から4000年前代に調査範囲周辺は低平化が進んだようである。それは、地点1の標高-2.34m～-2.08mの細粒砂層とシルト質粘土層との互層において標高-2.10mで採取した分析試料（試料No.2）が4522 - 4415 cal yrs BP (PLD-35424)、地点2の標高-2.37m～-2.03mの中粒砂層の標高-2.33mから採取した分析試料（試料No.3）が4446 - 4341 cal yrs BP (PLD-35433)、地点3の標高-2.15m～-1.12mの細礫層と粗粒砂層との互層の標高-1.93mで採取した分析試料（試料No.1）が5190 - 5052 cal yrs BP (PLD-35439) を示し、標高-2m前後のほぼ同じ標高の分析試料から約5000年前から4000年前代の数値年代が得られていることから示唆される。その後も調査範囲には堆積物が運ばれ、地層は上方へ累重した。低平化傾向にある地表にも軽微な起伏が出現し始める。例えば、地点1の標高1.26m～1.38mの黒褐色を呈する粘土層の標高1.30mから採取した分析試料（試料No.7）が1631 - 1536 cal yrs BP (PLD-35419) と、標高1m前後の地表がおよそ1600年前代には形成されているのに対して、地点2の標高0.47m～0.63mのオリブ黒色を呈するシルト質粘土層の標高0.51mで採取した分析試料（試料No.8）が1150 - 965 cal yrs BP (PLD-35428)、地点3の標高2.03m～2.10mの黒色粘土層の標高2.07mから採取した分析試料（試料No.3）が1276 - 1172 cal yrs BP (PLD-35437) と、標高0.5mから2mまでの地層の形成が約1200年前代から1100年前代であり、東側の調査区の形成年代が500年ほど古かった。考古遺物では調査範囲の東端に位置する11A区・11B区において岡山南遺跡でもっとも考古学的な相対年代の古い弥生時代中期の土器片が確認され、またその土器片は水流により運ばれる過程で生じた摩滅痕が認められるとの所見がある（池本，2011）。岡山南遺跡では調査範囲の西側よりも東側周辺において、より早く離水環境が出現していたことが示唆される。

（2）調査地周辺の古地理・古環境

東西約2.3km、南北約1.8kmの解析範囲全体では標高1.4mから標高60mまでの等高線が描かれた。解析範囲の北には吉良町岡山に南北約0.75km、東西約1.9kmで東西方向に半島状にのびる標高5mから標高60mの丘陵地がみられる。丘陵地は中生代白亜紀の領家変成コンプレックスの片岩類からなる。この丘陵地を取り囲んで標高4.8m以下の低地がひろがり、標高1.4mから標高4.8mまでの等高線が描かれた。等高線の空間的な配置状況から地形の起伏が読み取れ、相対的に周りよりも標高の高い島状地形が4つと、それらの間に4つの谷地形が認められた。これらの地形の起伏のうち岡山南遺跡の調査範囲は、先に述べた吉良町岡山の丘陵地の南にひろがる吉良町岡山から吉良町木田にかけてみられる標高1.6m～3.6mの、北東に谷頭をもち南西方向に開いた谷地形の中に位置していることがわかった（図83）。周囲よりも相対的に標高の低い谷地形内にあるため、降雨や洪水などによって周辺から集められた水は、この谷内を流下したことが予想される。実際に、谷地形の中央部にあたる16E区で実施したバックホーによる深掘調査では、調査区の東側半分に中粒砂～極粗粒砂サイズの砂粒子からなる砂層が確認でき、砂層のさらに下位層として中礫層が確認できた。さらに砂層には堆積構造としてトラフ状斜交層理が観察され、16E区付近に水理エネルギーの高い、浅くて速い水の流れがあったことを示すものであ

る。いっぽう、16E 区の西側半分には粘土質シルト層やシルト質粘土層といった細粒堆積物がみられ、東側半分でみられる砂層が西方へ軽微に傾きその上を覆っていた。これらのシルト層や粘土層中にはヨシ属の茎部や木本植物の葉片の集積層が観察でき、本地点を流下していた河川流路が放棄河道となったことを示すものである。地形解析では 16E 区付近から東にかけて次第に標高が高くなり、吉良町木田の標高 3.4m ~ 3.8m の閉曲線で囲まれる島状の地形へと連なる。考古学的にも 16E 区の東半分を境として東へ向けて井戸、溝、土抗などと次第に考古遺構の密度が高くなり（武部，2017）、地質学的な解析結果と考古学所見とは調和的であった。さらに、吉良町岡山から吉良町木田にかけて標高 1.6m ~ 3.6m で北東から南西方向にのび西に開いた谷地形が描かれたが、考古学的にも 16C 区および 16D 区にかけてみられる古墳時代の溝も北東から南西方向のものが多く（武部，2017）、同様に調和的な結果を示した。古墳時代においても北東から南西方向の谷地形に規制されてヒトによる生業活動が行われていたことがわかった。ところで、全体に谷地形の中にある岡山南遺跡の調査範囲ではあるが、その谷の南東方向には吉良町木田にみられる標高 3.4m ~ 3.8m の閉曲線で囲まれた東西・南北とも約 270m で島状に標高の高い地形が認められた。いっぽう、試錐調査の結果からは、調査区東端で実施した試錐（地点 1）では標高 1m 前後の地表付近がおおよそ 1600 年前代に堆積を終えているのに対して、西側では標高 0.5m から 2m までの地層が約 1200 年前代から 1100 年前代であり、東側の地形の方が西側よりも 500 年ほど早く形成されていることがわかった。また、考古学的所見でも調査範囲の東端に位置する 11A 区・11B 区において、岡山南遺跡の今回の調査範囲でもっとも相対年代の古い弥生時代中期の考古遺物が検出されている。以上のことから、11A 区・11B 区付近が、谷地形の中からその南東にある相対的に標高の高くなる島状地形（吉良町木田）への変換域にあたるものと思われる。

謝辞

本論を作成するにあたり、試錐調査では株式会社アーキジオに、火山灰分析では古澤地質株式会社にお世話になった。放射性炭素年代測定では株式会社パレオ・ラボ AMS 年代測定グループの伊藤 茂氏・佐藤正教氏・廣田正史氏・山形秀樹氏・小林紘一氏・Zaur Lomtadze 氏・小林克也氏にお世話になった。図表の作成では国際文化財株式会社にお手伝いいただいた。分析試料の整理・保管と原図の作成では整理補助員の前田弘子氏・鈴木好美氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

文献

- 古澤 明，1995，火山ガラスの屈折率測定・形態分類とその統計的な解析，地質学雑誌，101，123-133。
古澤 明，2003，洞爺火山灰降下以降の岩手火山のテフラの識別，地質雑，109，1-19。
池本正明，2012，岡山南遺跡，平成 23 年度 愛知県埋蔵文化財センター年報，愛知県埋蔵文化財センター，27。
町田 洋・新井房夫，2003，新篇 火山灰アトラス [日本列島とその周辺]，東京大学出版会，336。
武部真木，2017，岡山南遺跡，平成 28 年度 愛知県埋蔵文化財センター年報，愛知県埋蔵文化財センター，11-13

2 岡山南遺跡出土土師器の胎土分析

藤根 久・米田恭子（株式会社 パレオ・ラボ）

1. はじめに

土器の胎土分析は、一般的には製作地の推定を目的として行われることが多い。しかしながら、胎土中に含まれる岩石片の鉱物組成から、その砂粒物が示す地域がいずれであるかを推定するのは容易ではない。

土器などの焼物は、基本材料として粘土と砂粒などの混和材で構成されるが、粘土材料は比較的良質と思える粘土層から採取されたことが、粘土採掘坑の調査から推察される（藤根・今村，2001）。また、粘土自体に珪藻化石やプラント・オパール、放散虫化石が混在している場合があり、材料として使用した粘土が生成された時の環境を示す。

一方、混和材としての砂粒物は、粘土層からの粘土採取の際に、粘土層の上下層や周辺に分布する砂層などから採取されたと考えられる。東海地域では、弥生時代後期の赤彩されたパレススタイル土器が知られているが、パレススタイル土器のうち3分の1程度は、砂粒物として火山ガラスが多量に含まれている（藤根，1998；車崎ほか，1996）。これらの火山ガラスは、粘土採取場所の上下層や周辺に分布するテフラ層と考えられる。このように胎土分析においては、粘土や混和材について、微化石やテフラなどの鉱物を含めての検討が必要であり、粘土や砂粒物、混和物の特徴について調べたうえで、周辺地質と比較・検討する必要がある。

岡山南遺跡は、西尾市吉良町岡山王ノ城地内に所在する遺跡である。発掘調査では、古墳時代前期の竪穴建物跡や、奈良・平安時代の井戸、中世の水田などが検出された。ここでは、奈良・平安時代の三河型甕について、薄片の偏光顕微鏡観察を行い、粘土の種類と砂粒組成あるいは混和物の特徴を調べ、土器の胎土材料について検討した。

2. 試料と方法

試料は、岡山南遺跡から出土した土師器甕 15 点と、豊田市下山田代町および田折町地区の柿根田遺跡、トヨガ下遺跡、栗狭間遺跡、丸山 A 遺跡、丸山 D 遺跡、孫石遺跡、蔵平遺跡、菅ノ口 A 遺跡、朴ノ木 B 遺跡の土師器甕（鍋型を含む）25 点の、合計 40 点である。岡山南遺跡の土師器甕は主に 7 世紀後半から 10 世紀前半、豊田市下山田代町および田折町地内の各遺跡の土師器甕は 9 世紀後半から 10 世紀前半に限定される。なお、砂粒の比較試料として、岡山南遺跡と亀塚遺跡の基盤砂層についても検討した（表 7, 図 87, 88）。

土器は、ミニドリルを用いて 2 × 3cm 程度を切り出し、恒温乾燥機により乾燥させた。次に、全体にエポキシ系樹脂を含浸させて固化処理を行い、スライドガラスに接着した。薄片作製面を平滑にして、エポキシ系樹脂で固化処理を行い、精密岩石薄片作製機およびガラス板を用いて研磨した。その後、厚さ 0.1mm 程度に切断した後、さらに研磨して、厚さ 0.02mm 前後の薄片を作製した。最後に、仕上げとしてコーティング剤を塗布した。

作製した土器薄片は、偏光顕微鏡を用いて薄片全面に含まれる微化石類（放散虫化石、珪藻化石、骨針化石など）、鉱物、大型砂粒の特徴、その他の混和物等について、観察と記載を行った（表 8）。なお、ここで採用した微化石類や岩石、鉱物の各分類群の特徴は、以下の通りである。

[珪藻化石]

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、大きさは 10 ～ 数百 μ m 程度である。珪藻は、海水域から淡水域に

表 7 胎土分析試料とその詳細

分析No	遺跡名	器種	残存部位	土器作業 NO.	発掘区	遺構・土層	グリッド	口径cm	器高cm	口径残存 率(%)
1	柿根田遺跡	甕	口縁部～胴部	141	13D	包含層	2570	(20.4)	(4.9)	3
2	トヨガ下遺跡	甕	口縁部	16	13A	013NR 黒色 土層	3484	(29.3)	(9.9)	2
3	トヨガ下遺跡	甕	口縁部	66	12B	TT01	3587	(30.3)	(7.35)	2
4	トヨガ下遺跡	甕	口縁部	80	12B	-	3587	(19.5)	(5.1)	2
5	栗狭間遺跡	甕	口縁部	268	14B	195SL	-	(22.4)	(7.55)	2
6	栗狭間遺跡	甕	口縁部	276	14B1	245SL 床面 上層	3946	(30.8)	(7.2)	2
7	栗狭間遺跡	甕	口縁部	279	14B	210SI 5層	4246	(21.5)	(8.5)	1
8	栗狭間遺跡	甕	口縁部	281	14B	210SI 5層	4245	(20.8)	(12.8)	6
9	栗狭間遺跡	甕	口縁部	337	14A	040SI 3層 中	4246	(22.5)	(17.7)	5
10	丸山A遺跡	甕	口縁部～胴部	3	13	050SL	0228	(23.9)	(20.6)	5
11	丸山A遺跡	甕	口縁部～胴部	4	13	050SL	0228	(16.4)	(10.7)	4
12	丸山A遺跡	甕	口縁部～胴部	5	13	050SL	0228	(20.8)	(16.2)	4
13	丸山A遺跡	甕	口縁部	12	13	包含層	0228	(18.4)	(4.5)	3
14	丸山D遺跡	甕	口縁部～胴部	10	14	009SI	9463	(28.2)	(16.55)	5
15	丸山D遺跡	鍋	口縁部	21	14	009SI	9462	19.5	(4.4)	12
16	丸山D遺跡	甕	口縁部～胴部	56	14	包含層	9861	(17.8)	(7.15)	3
17	孫石遺跡	甕	口縁部	122	13B	218SD	0018	(13.4)	(6.8)	3
18	孫石遺跡	甕	口縁部	163	13D	検出1	9716	(23.9)	(8.0)	3
19	孫石遺跡	甕	口縁部	193	TT12	黄褐色層	-	(17.9)	(4.9)	2
20	蔵平遺跡	甕	口縁部	5	14A	009SX 5層 床直上	0508	(20.0)	(9.3)	5
21	蔵平遺跡	甕	口縁部	83	14A	062SX	0405	(29.6)	(3.5)	1
22	蔵平遺跡	甕	口縁部	150	14A	-	0205	(26.0)	(4.7)	2
23	蔵平遺跡	甕	口縁部	162	14A	-	0206	(23.2)	(4.85)	2
24	菅ノ口A遺跡	甕	口縁部～胴部	80	15	085SL	8350	(33.4)	(13.7)	2
25	朴ノ木B遺跡	甕	口縁部	8	13	076SI	2561～2562	(29.4)	(7.1)	4
26	岡山南遺跡	甕	口縁部	E-312	12B	検出1	9413E	(22.6)	(5.5)	1
27	岡山南遺跡	甕	口縁部	E-250	11B	030SI (A)	9513J	(24.0)	(3.8)	1
28	岡山南遺跡	甕	口縁部	E-252	11B	030SI (C)	9513J	-	(4.6)	1
29	岡山南遺跡	甕	口縁部	E-293	11B	-	9512F	(21.0)	(5.4)	2
30	岡山南遺跡	甕	口縁部	E-274	11B	検出2	9611W	(29.4)	(3.5)	1
31	岡山南遺跡	甕	口縁部	E-360	15	005SW北	915220	(21.0)	(3.2)	3
32	岡山南遺跡	甕	口縁部～胴部	E-376	15	020SD	920230	(21.6)	33.2	3
33	岡山南遺跡	甕	口縁部	E-382	15	043SK	905245	(21.0)	(13.0)	3
34	岡山南遺跡	甕	口縁部	E-383	15	050SK	900245	-	(4.7)	1
35	岡山南遺跡	甕	口縁部	E-390	15	056SK	915220	(29.0)	(5.1)	1
36	岡山南遺跡	甕	口縁部	E-454	15	包含層	915220	(20.0)	(4.9)	1
37	岡山南遺跡	甕	口縁部	E-460	15	北攪乱	-	(22.2)	(3.5)	1
38	岡山南遺跡	甕	口縁部	E-478	16C	001SD	8436P	(24.5)	(3.8)	2
39	岡山南遺跡	把手付甕	口縁部～胴部	E-507	16D	090SK上層	8534	31.6	22.6	4
40	岡山南遺跡	甕	口縁部	E-504	16D	090SK下層	8534	(31.0)	(4.3)	1
41	岡山南遺跡	基盤砂層								
42	亀塚遺跡	基盤砂層								

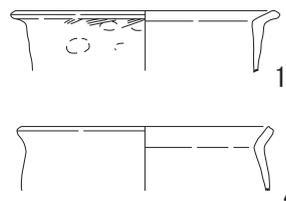
*No. 1～25 豊田市下山田代町

*No. 26～40 西尾市吉良町岡山

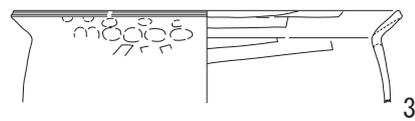
広く分布する。小杉（1988）や安藤（1990）は、現生珪藻に基づいて環境指標種群を設定し、具体的な環境復原を行っている。ここでは、種あるいは属が同定できる珪藻化石（海水種、淡水種）を分類した。
[骨針化石]

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状である。海綿動物の多くは海水産であるが、淡水産も23種ほどが知られ、湖や池、川の底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。したがって、骨針化石は水成環境を指標する。

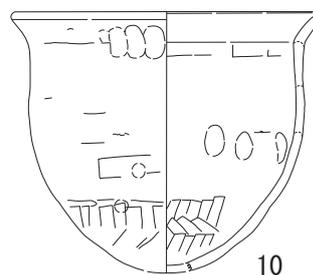
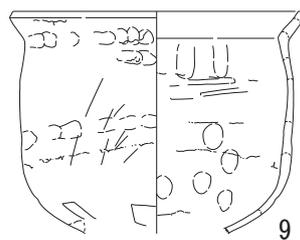
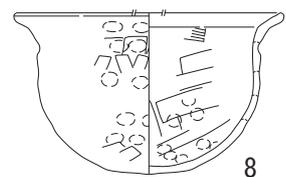
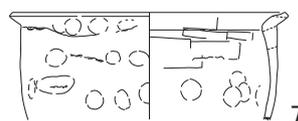
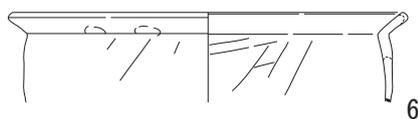
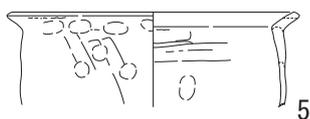
柿根田遺跡



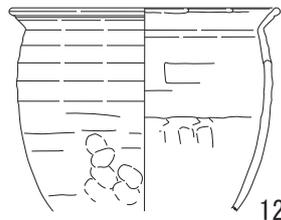
トヨガ下遺跡(2~4)



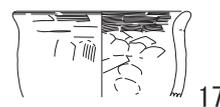
栗狭間遺跡(5~8)



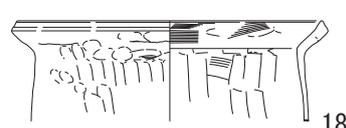
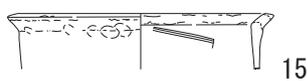
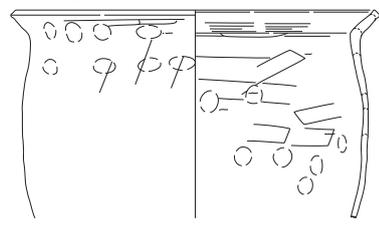
丸山A遺跡(10~13)



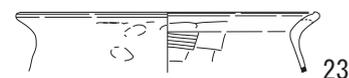
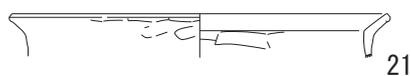
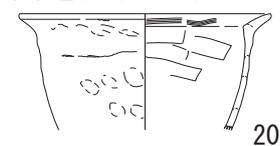
孫石遺跡(17~19)



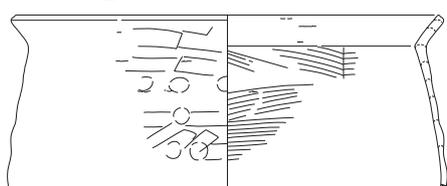
丸山D遺跡(14~16)



蔵平遺跡(20~23)



菅ノ口A遺跡



朴ノ木B遺跡

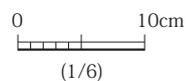
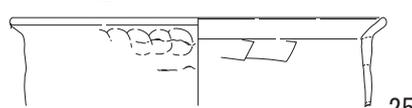


図87 試料土師器実測図1 (1/6)

[植物珪酸体化石]

主にイネ科植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、長径約10～50 μm前後である。一般にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本やスゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在する。

[孢子化石]

孢子は、直径約10～30 μm程度の珪酸質の球状粒子である。水成堆積物中に多く見られるが、土壌中にも含まれる。

[石英・長石類]

石英および長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち、後述する双晶などのように、光学的な特徴をもたないものは石英と区別するのが困難な場合が多く、一括して扱う。

[長石類]

長石は、大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶（主として平行な縞）を示すものと累帯構造（同心円状の縞）を示すものに細分される（これらの縞は組成の違いを反映している）。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（パーサイト構造）と格子状構造（微斜長石構造）を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶（微文象構造という）である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶（斑晶）に見られることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石は、花崗岩などケイ酸分の多い深成岩などに産出する。

[雲母類]

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で、風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開（規則正しい割れ目）にそって板状に剥がれ易い。薄片上では、長柱状や層状に見える場合が多い。花崗岩

岡山南遺跡（26～40）

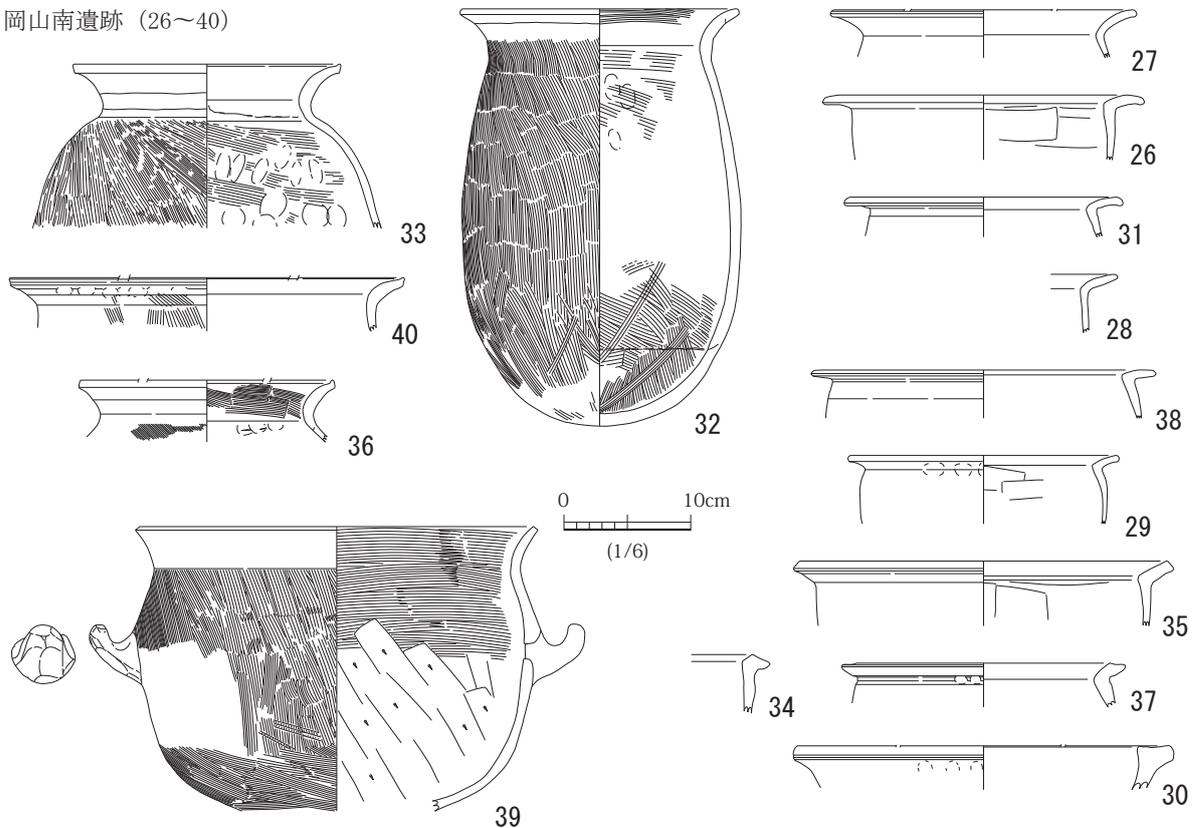


図 88 試料土師器実測図 2 (S=1/6)

表 8 各試料の粘土中の微化石類と砂粒組成の特徴記載

分析No.	器種	主な粒度範囲	最大粒径	微化石類の特徴	砂粒物岩石・鉱物組成
1	甕	180 μm ~ 780 μm	1.50mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Cymbella</i> 属、不明種)、骨針化石(1)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類、複合石英類(大型)、雲母類 角閃石類、斜方輝石、斜長石(双晶・帯)、火山ガラス(バブル型)、ジルコン、ザクロ石
2	甕	200 μm ~ 780 μm	1.96mm	胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類、雲母類 複合石英類(大型)、火山ガラス(バブル型) 斜長石(双晶)、カリ長石(パーサイト)、角閃石類、ジルコン、ザクロ石
3	甕	130 μm ~ 600 μm	2.10mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属、不明種)、骨針化石(3)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類 複合石英類(大型)、雲母類 火山ガラス(バブル型)、ザクロ石、凝灰岩質、ジルコン、斜長石(双晶)、角閃石類、斜方輝石
4	甕	260 μm ~ 630 μm	3.00mm	植物珪酸体化石多い	石英・長石類、雲母類 火山ガラス(バブル型)、複合石英類(大型) 斜長石(双晶)、角閃石類、カリ長石(パーサイト)、斜方輝石、ジルコン、凝灰岩質、ザクロ石
5	甕	250 μm ~ 780 μm	1.70mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Cymbella</i> 属、不明種)、骨針化石(1)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類、火山ガラス(バブル型) 複合石英類(大型)、雲母類 斜長石、カリ長石(パーサイト)、角閃石類、斜長石(双晶)、ジルコン
6	甕	250 μm ~ 900 μm	2.80mm	珪藻化石(淡水種 <i>Pinnularia</i> 属、 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Aulacoseira</i> 属、陸域指標種群 <i>Hantzschia amphioxys</i> 、不明種)、骨針化石(1)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類、雲母類 火山ガラス(バブル型)、複合石英類(大型) ザクロ石、斜長石(双晶)、複合石英類(中型)、ジルコン、斜方輝石
7	甕	200 μm ~ 950 μm	1.35mm	胞子化石、植物珪酸体化石、植物細胞片	石英・長石類、火山ガラス(バブル型) 複合石英類(大型)、雲母類 斜長石(双晶)、角閃石類、ザクロ石、凝灰岩質、斜方輝石、ジルコン
8	甕	250 μm ~ 800 μm	1.60mm	珪藻化石(不明種)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石	石英・長石類、雲母類 火山ガラス(バブル型) 複合石英類(大型)、凝灰岩質、斜長石(双晶)、角閃石類、ジルコン、完晶質、斜方輝石
9	甕	150 μm ~ 700 μm	1.35mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia</i> 属)、骨針化石(2)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類、雲母類 火山ガラス(バブル型)、複合石英類(大型) 斜長石(双晶)、角閃石類、ジルコン、斜方輝石
10	甕	180 μm ~ 950 μm	1.80mm	珪藻化石(淡水種 <i>Cymbella</i> 属、不明種)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類、雲母類 複合石英類(大型)、火山ガラス(バブル型) 斜長石(双晶)、角閃石類、ジルコン、凝灰岩質
11	甕	300 μm ~ 1150 μm	2.38mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Cymbella</i> 属、不明種)、骨針化石(3)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類、雲母類 複合石英類(大型)、火山ガラス(バブル型・軽石型) 斜長石(双晶)、角閃石類、ジルコン、斜方輝石、凝灰岩質、ザクロ石
12	甕	180 μm ~ 850 μm	1.92mm	胞子化石、植物珪酸体化石	雲母類、石英・長石類 複合石英類(大型) 斜長石(双晶)、斜方輝石、角閃石類、ジルコン、ザクロ石
13	甕	200 μm ~ 550 μm	1.55mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Pinnularia</i> 属、不明種)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類、雲母類 火山ガラス(バブル型)、複合石英類(大型) カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶)、角閃石類、ジルコン
14	甕	180 μm ~ 600 μm	1.64mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia</i> 属)、骨針化石(2)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類、雲母類 火山ガラス(バブル型)、複合石英類(大型) 角閃石類、斜長石(双晶)、カリ長石(パーサイト)、斜方輝石、ジルコン
15	鍋型	200 μm ~ 650 μm	2.92mm	植物珪酸体化石	石英・長石類 火山ガラス(バブル型) 角閃石類、斜長石(双晶)、複合石英類(大型) 雲母類、カリ長石(パーサイト)、斜方輝石、ジルコン
16	甕	250 μm ~ 750 μm	2.60mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Cymbella</i> 属、 <i>Pinnularia</i> 属、不明種)、骨針化石(3)、胞子化石、植物珪酸体化石	雲母類、石英・長石類 複合石英類(大型)、火山ガラス(バブル型) 斜長石(双晶)、複合石英類(微細)、角閃石類、ジルコン、ザクロ石
17	甕	150 μm ~ 500 μm	1.20mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Cymbella</i> 属、不明種)、骨針化石(2)、胞子化石、植物珪酸体化石	石英・長石類、雲母類 火山ガラス(バブル型)、複合石英類(大型) カリ長石(パーサイト)、角閃石類、斜長石(双晶)、ジルコン、凝灰岩質
18	甕	150 μm ~ 500 μm	1.25mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Cymbella</i> 属、 <i>Aulacoseira</i> 属、 <i>Dipleoneis</i> 属、不明種)、骨針化石(1)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類 雲母類、火山ガラス(バブル型・軽石型)、複合石英類(大型)、角閃石類、カリ長石(パーサイト)、凝灰岩質、斜長石(双晶)、斜方輝石、ジルコン
19	甕	150 μm ~ 400 μm	1.49mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属、不明種)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類 複合石英類(大型)、火山ガラス(バブル型)、雲母類 カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶)、角閃石類、ザクロ石、ジルコン
20	甕	180 μm ~ 600 μm	1.89mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Cymbella</i> 属、 <i>Pinnularia</i> 属、不明種)、骨針化石(1)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類、雲母類 火山ガラス(バブル型)、複合石英類(大型) カリ長石(パーサイト)、複合石英類(微細)、斜長石(双晶)、角閃石類、斜方輝石、ジルコン
21	甕	180 μm ~ 600 μm	2.17mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Cymbella</i> 属、不明種)、骨針化石(1)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類 複合石英類(大型)、火山ガラス(バブル型) 雲母類 カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶)、角閃石類、ザクロ石、ジルコン、片理複合石英類
22	甕	220 μm ~ 600 μm	2.12mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia</i> 属、不明種)、骨針化石(1)、植物珪酸体化石多い	石英・長石類、雲母類 火山ガラス(バブル型)、複合石英類(大型) 斜長石(双晶)、角閃石類、ザクロ石、ジルコン
23	甕	400 μm ~ 850 μm	1.52mm	珪藻化石(淡水種 <i>Synedra ulna</i> 、 <i>Eunotia</i> 属、不明種)、植物珪酸体化石多い	石英・長石類、火山ガラス(バブル型)、複合石英類(大型) 雲母類、ザクロ石、ジルコン、カリ長石(パーサイト)
24	甕	180 μm ~ 750 μm	3.32mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Cymbella</i> 属、 <i>Dipleoneis</i> 属)、胞子化石	石英・長石類、雲母類 複合石英類(大型)、火山ガラス(バブル型) 斜長石(双晶)、斜方輝石、ジルコン
25	甕	130 μm ~ 550 μm	2.07mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属、不明種)、骨針化石(1)、胞子化石、植物珪酸体化石	石英・長石類、雲母類 火山ガラス(バブル型)、複合石英類(大型) 斜長石(双晶)、ザクロ石、カリ長石(パーサイト)、斜方輝石、複合石英類(微細)、ジルコン
26	甕	220 μm ~ 600 μm	1.02mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属多産、 <i>Cymbella</i> 属、 <i>Pinnularia</i> 属、不明種)、骨針化石(3)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類 雲母類、火山ガラス(バブル型) 複合石英類(大型)、カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶)、角閃石類、斜方輝石、ザクロ石、ジルコン
27	甕	160 μm ~ 1100 μm	1.85mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Cymbella</i> 属、不明種)、骨針化石(5)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類、雲母類 複合石英類(大型) 火山ガラス(バブル型) カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶)、角閃石類、ジルコン、ザクロ石、泥岩質
28	甕	100 μm ~ 500 μm	1.57mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia</i> 属)、骨針化石(2)、胞子化石、植物珪酸体化石	石英・長石類、雲母類 複合石英類(大型) 火山ガラス(バブル型)、斜長石(双晶)、角閃石類、斜方輝石、ジルコン、ザクロ石、凝灰岩質
29	甕	150 μm ~ 600 μm	1.47mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Cymbella</i> 属、不明種)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類 雲母類、火山ガラス(バブル型)、複合石英類(大型) 斜長石(双晶)、斜方輝石、泥岩質、ジルコン、ザクロ石
30	甕	200 μm ~ 750 μm	1.61mm	骨針化石、植物珪酸体化石	石英・長石類 雲母類 複合石英類(大型)、複合石英類(微細)、斜長石(双晶)、ジルコン、カリ長石(パーサイト)、ザクロ石
31	甕	280 μm ~ 600 μm	1.64mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属多産、 <i>Cymbella</i> 属、 <i>Pinnularia</i> 属、不明種)、骨針化石(2)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類 複合石英類(大型)、火山ガラス(バブル型) 雲母類、カリ長石(パーサイト)、ザクロ石、角閃石類、ジルコン、凝灰岩質
32	甕	220 μm ~ 700 μm	2.05mm	珪藻化石(淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属、 <i>Cymbella</i> 属、 <i>Gomphonema</i> 属、 <i>Pinnularia</i> 属、不明種)、骨針化石(29)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類 雲母類、斜長石(双晶) カリ長石(パーサイト)、複合石英類(大型)、角閃石類、斜方輝石、ジルコン、ザクロ石、火山ガラス(軽石型)
33	甕	150 μm ~ 480 μm	1.52mm	植物珪酸体化石	石英・長石類 複合石英類(大型) 角閃石類、斜長石(双晶)、カリ長石(パーサイト)、複合石英類(微細)、ジルコン、雲母類
34	甕	170 μm ~ 800 μm	2.22mm	—	雲母類、石英・長石類 複合石英類(大型) 斜長石(双晶)、カリ長石(パーサイト)、複合石英類(微細)、ジルコン
35	甕	180 μm ~ 500 μm	1.82mm	珪藻化石(不明種)、骨針化石(1)、胞子化石、植物珪酸体化石	石英・長石類 角閃石類、斜長石(双晶)、複合石英類(大型) カリ長石(パーサイト)、斜方輝石、ジルコン、複合石英類(中型)、ザクロ石
36	甕	180 μm ~ 430 μm	1.10mm	植物珪酸体化石	石英・長石類 角閃石類、複合石英類(大型) 火山ガラス(バブル型)、斜長石(双晶)、複合石英類(微細)、カリ長石(パーサイト)、斜方輝石、ジルコン、複合石英類(中型)、ザクロ石
37	甕	180 μm ~ 650 μm	3.46mm	植物珪酸体化石多い	石英・長石類 角閃石類、複合石英類(大型) 斜長石(双晶)、火山ガラス(バブル型)、カリ長石(パーサイト)、斜方輝石、複合石英類(中型)、雲母類、ジルコン
38	甕	180 μm ~ 650 μm	1.59mm	珪藻化石(淡水種淡水種 <i>Eunotia biareofera</i> 、 <i>Eunotia</i> 属多産、 <i>Cymbella</i> 属、 <i>Pinnularia</i> 属、不明種)、骨針化石(2)、胞子化石、植物珪酸体化石多い	石英・長石類 火山ガラス(バブル型) 複合石英類(大型)、斜長石(双晶)、ジルコン、複合石英類(微細)、雲母類
39	把手付甕	150 μm ~ 400 μm	1.68mm	—	石英・長石類、雲母類 斜長石(双晶)、複合石英類(大型) 複合石英類(微細)、角閃石類、複合石英類(中型)、ジルコン、ザクロ石
40	甕	140 μm ~ 480 μm	0.95mm	植物珪酸体化石多い	石英・長石類 角閃石類、火山ガラス(バブル型) 複合石英類(大型) 斜長石(双晶)、カリ長石(パーサイト)、斜方輝石、複合石英類(微細)、ジルコン
41	砂層	-0.5~0.0 φ (1.4~1.0mm) 篩残渣	—	—	複合石英類(大型) 石英・長石類、カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶)、複合石英類(微細)、雲母類
42	砂層	-0.5~0.0 φ (1.4~1.0mm) 篩残渣	—	—	複合石英類(大型) 石英・長石類、斜長石(双晶)、カリ長石(パーサイト)、砂岩質、雲母類、角閃石類、複合石英類(輝石類)

表9 胎土中の粘土および砂粒の特徴一覧表

分析№	遺跡	器種	粘土の特徴											砂粒の特徴							鉱物の特徴							植物珪酸体化石	その他の特徴
			種類	放散虫化石	珪酸化石	珪酸化石種	珪酸化石	骨針化石	胞子化石	分類	A~g							石英	(双晶・黒)	(バーサイ)	ジルコン	ザクロ石	角閃石類	輝石類	雲母類				
											A:a	B:b	C:c	D:d	E:e	F:f	G:g									テフラ			
1	柿根田遺跡	甕	淡水成	-	-	△	△	△	△	B	-	○	-	-	-	-	△	◎	△	-	○	△	△	△	○	◎			
2		甕	その他	-	-	-	-	-	△	B	-	○	-	-	-	-	△	◎	△	△	○	△	△	-	◎		イネ粉殻の珪酸体化石多い		
3	トヨガ下遺跡	甕	淡水成	-	-	○	△	△	△	B	-	○	-	-	-	-	△	◎	△	-	○	△	△	△	○	◎			
4		甕	その他	-	-	-	-	-	-	B	-	△	-	-	-	△	◎	△	△	○	△	△	△	△	◎				
5		甕	淡水成	-	-	○	△	△	△	B	-	○	△	-	-	-	△	◎	△	△	○	△	△	△	-	◎			
6		甕	淡水成	-	-	○	△	△	△	B	-	○	△	-	-	-	△	◎	△	-	○	△	△	△	◎				
7	栗狭間遺跡	甕	その他	-	-	-	-	-	△	B	-	○	-	-	-	△	◎	△	-	○	△	△	△	○	◎		植物細胞片含む		
8		甕	水成	-	-	-	△	△	△	B	-	△	-	-	-	△	◎	△	-	○	-	△	△	◎					
9		甕	淡水成	-	-	△	-	△	△	B	-	○	-	-	-	-	△	◎	△	-	○	-	△	△	○	◎			
10		甕	淡水成	-	-	△	△	-	△	B	-	○	-	-	-	-	△	◎	△	-	○	-	△	△	-	◎	イネ粉殻の珪酸体化石含む		
11	丸山A遺跡	甕	淡水成	-	-	○	△	△	△	B	-	○	-	-	-	△	◎	△	-	○	△	△	△	○	◎		軽石型火山ガラス含む		
12		甕	その他	-	-	-	-	-	△	B	-	○	-	-	-	-	◎	○	-	○	△	△	○	◎					
13		甕	淡水成	-	-	△	△	-	△	B	-	△	-	-	-	-	△	○	△	△	○	-	△	△	-	◎			
14		甕	淡水成	-	-	△	-	△	△	B	-	△	-	-	-	-	△	○	△	△	○	-	△	△	-	◎	イネ粉殻の珪酸体化石含む		
15	丸山D遺跡	鍋型	その他	-	-	-	-	-	-	B	-	○	-	-	-	-	△	◎	○	△	○	-	○	△	△	○			
16		甕	淡水成	-	-	○	△	△	△	B	-	○	△	-	-	-	△	◎	△	-	○	△	△	-	◎				
17		甕	淡水成	-	-	○	△	△	△	B	-	△	-	-	-	-	△	◎	△	△	○	-	△	△	-	◎			
18	孫石遺跡	甕	淡水成	-	-	○	△	△	△	B	-	○	-	-	-	-	△	◎	△	△	○	△	△	△	○	◎	軽石型火山ガラス含む		
19		甕	淡水成	-	-	○	△	△	△	B	-	○	-	-	-	-	△	◎	△	△	○	△	△	-	◎		イネ粉殻の珪酸体化石含む		
20		甕	淡水成	-	-	○	△	△	△	B	-	○	△	-	-	-	△	○	△	△	○	-	△	△	-	◎			
21		甕	淡水成	-	-	△	△	△	△	B	△	○	-	-	-	-	-	△	○	△	△	○	△	△	-	◎			
22	蔵平遺跡	甕	淡水成	-	-	△	△	△	-	B	-	○	-	-	-	-	-	△	○	△	-	○	△	△	-	◎			
23		甕	淡水成	-	-	△	△	-	-	B	-	○	-	-	-	-	-	△	○	-	△	○	△	△	-	◎			
24	菅ノ口A遺跡	甕	淡水成	-	-	△	-	-	△	B	-	○	-	-	-	-	-	△	○	△	-	○	-	-	△	○			
25	朴ノ木B遺跡	甕	淡水成	-	-	△	△	△	△	B	-	△	△	-	-	-	-	△	◎	△	△	○	△	-	△	◎			
26		甕	淡水成	-	-	◎	△	△	△	B	-	△	-	-	-	-	-	△	◎	△	△	○	△	△	△	◎			
27		甕	淡水成	-	-	○	△	△	△	B	-	○	△	-	-	-	-	△	◎	△	△	○	△	△	-	◎			
28		甕	淡水成	-	-	△	-	-	△	B	-	○	-	-	-	-	-	△	◎	△	-	○	△	△	◎				
29		甕	淡水成	-	-	△	△	-	△	B	-	△	△	-	-	-	-	△	○	△	-	○	△	-	△	◎			
30		甕	水成	-	-	-	-	△	-	B	-	○	△	-	-	-	-	◎	△	○	△	-	-	-	◎				
31		甕	淡水成	-	-	◎	△	△	△	B	-	○	-	-	-	-	-	△	○	-	△	○	△	△	-	◎	イネ粉殻の珪酸体化石含む		
32		甕	淡水成	-	-	○	△	○	△	B	-	△	-	-	-	-	-	△	◎	△	△	○	△	△	○	◎			
33	岡山南遺跡	甕	その他	-	-	-	-	-	-	B	-	○	△	-	-	-	-	◎	△	△	○	-	○	-	△	△	◎	植物細胞片含む	
34		甕	その他	-	-	-	-	-	-	B	-	○	△	-	-	-	-	◎	△	△	○	-	-	-	-	◎			
35		甕	水成	-	-	-	△	△	△	B	-	○	△	-	-	-	-	◎	○	△	○	△	◎	△	○	◎			
36		甕	その他	-	-	-	-	-	-	B	-	○	△	-	-	-	-	△	◎	△	△	○	△	◎	△	△	◎	植物細胞片含む	
37		甕	その他	-	-	-	-	-	-	B	-	○	△	-	-	-	-	△	◎	○	△	○	-	◎	△	△	◎		
38		甕	淡水成	-	-	◎	△	△	△	B	-	△	△	-	-	-	-	△	○	△	-	○	-	△	-	◎			
39		甕	把手付甕	-	-	-	-	-	-	B	-	△	△	-	-	-	-	-	◎	○	△	○	△	△	-	◎			
40		甕	その他	-	-	-	-	-	-	B	-	△	△	-	-	-	-	-	◎	△	△	△	-	◎	△	△	◎	植物細胞片含む	
41	岡山南遺跡	砂層	比較試料	-	-	-	-	-	-	B	-	○	△	-	-	-	-	◎	○	○	-	-	-	-	△	-			
42	亀塚遺跡	砂層	比較試料	-	-	-	-	-	-	B	-	○	△	-	-	-	-	◎	○	○	-	-	-	-	△	-			

表10 岩石片の起源と組み合わせ

		第1出現群						
		A	B	C	D	E	F	G
		片岩類	深成岩類	堆積岩類	火山岩類	凝灰岩類	流紋岩類	テフラ
第2出現群	a	片岩類	Ba	Ca	Da	Ea	Fa	Ga
	b	深成岩類	Ab	Cb	Db	Eb	Fb	Gb
	c	堆積岩類	Ac	Bc	Dc	Ec	Fc	Gc
	d	火山岩類	Ad	Bd	Cd	Ed	Fd	Gd
	e	凝灰岩類	Ae	Be	Ce	De	Fe	Ge
	f	流紋岩類	Af	Bf	Cf	Df	Ef	Gf
	g	テフラ	Ag	Bg	Cg	Dg	Eg	Fg

表11 粘土の種類と砂粒組成

砂粒組成	粘土の種類	岡山南遺跡	下山田代町地内	田折町地内	総計
B群 (主に深成岩類)	淡水成	7	14	5	26
	水成	2	1		3
	その他	6	3	2	11
総計		15	18	7	40

などケイ酸分の多い火成岩に普遍的に産し、変成岩類や堆積岩類にも産出する。

[輝石類]

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼ではビール瓶のような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。ケイ酸分の少ない深成岩類や火山岩類、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩類に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼では緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてケイ酸分の少ない火山岩類や、ケイ酸分の最も少ない火成岩類や変成岩類中にも産出する。

[角閃石類]

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は、細長く平たい長柱状である。閃緑岩のような、ケイ酸分が中間的な深成岩類や変成岩類、火山岩類に産出する。

[ガラス質]

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄く湾曲したガラス（バブル・ウォール型：記載ではバブル型と略す）や、小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山噴火により噴出した噴出物（テフラ）である。

[片理複合石英類]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、片理構造を示す岩石である。雲母片岩や結晶片岩、片麻岩、粘板岩などと考えられる。

[砂岩質・泥岩質]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、基質部分をもつ。構成粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質、約0.06mm未満のものを泥岩質とした。

[複合石英類]

複合石英類は、石英が集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は、粗粒から細粒までさまざまである。ここでは便宜的に、粒径が0.01mm未満の粒子を微細、0.01～0.05mmの粒子を小型、0.05～0.10mmの粒子を中型、0.10mm以上の粒子を大型と分類した。微細結晶の集合体である場合には、堆積岩類のチャートなどに見られる特徴がある。

[斑晶質・完晶質]

斜長石や輝石・角閃石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなる岩石である。直交ニコルの観察において、結晶度が高い岩石片である。

[流紋岩質]

石英や長石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなり、主に流理構造を示す岩石である。

[凝灰岩質]

ガラス質で斑晶質あるいは完晶質構造を持つ粒子のうち、直交ニコルの観察において結晶度が低く、全体的に暗い岩石片である。

[不明粒子]

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明な粒子や、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明粒子とした。

3. 結果および考察

以下に、土器薄片の偏光顕微鏡観察による結果を述べる。偏光顕微鏡観察では、微化石類や岩石片、

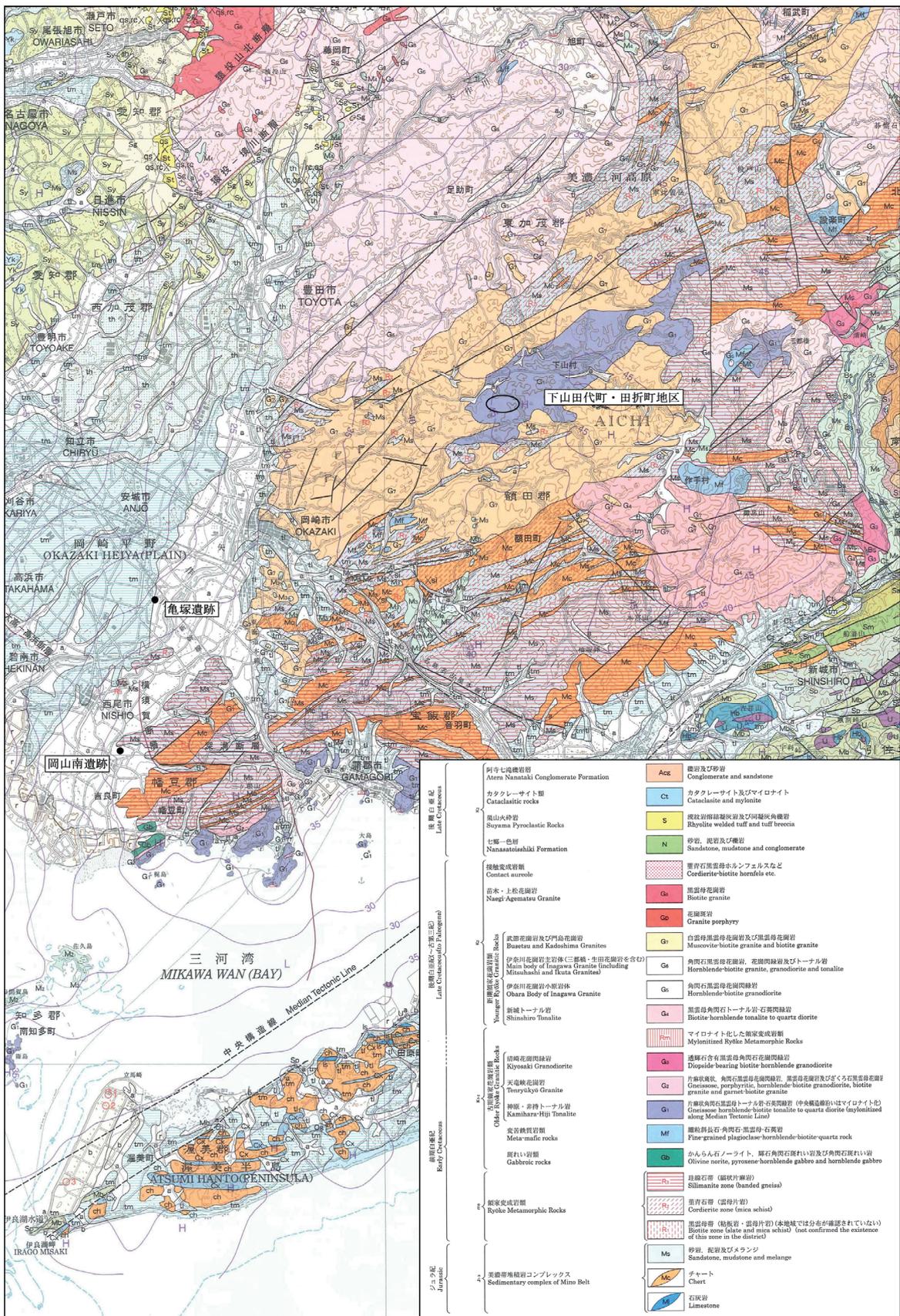


図 89 遺跡周辺の地質図 (牧本ほか (2004) 20 万分の 1 地質図幅「豊橋及び伊良湖岬」を編集)

鉱物を記載するために、プレパラート全面を精査した。以下では、粒度組成や、0.1mm 前後以上の岩石片・鉱物の砂粒組成、微化石類などの記載を示す。なお、表 2 における不等号は、量比の概略を示す。また、表 9 の◎は非常に多い、○は多い、△は検出、－は未検出を示す。

3.1. 微化石類による粘土材料の分類

土器薄片の全面を観察した結果、微化石類（珪藻化石、骨針化石）が検出された。微化石類の大きさは、珪藻化石が 10～数 100 μm 、骨針化石が 10～100 μm 前後である（植物珪酸体化石は 10～50 μm 前後）。一方、碎屑性堆積物の粒度は、粘土が約 3.9 μm 以下、シルトが約 3.9～62.5 μm 、砂が 62.5 μm ～2mm である（地学団体研究会・地学事典編集委員会編，1981）。主な堆積物の粒度分布と微化石類の大きさの関係から、微化石類は粘土材料中に含まれていたと考えられ、植物珪酸体化石以外の微化石類は、粘土の起源（粘土層の堆積環境）を知るのに有効な指標になると思われる。植物珪酸体化石については、土器製作の場で灰質に伴って多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を必ずしも指標しないと思われる。

土師器胎土は、粘土中に含まれていた微化石類により、a) 淡水成粘土、b) 水成粘土、c) その他粘土、の 3 種類に分類された（表 9）。以下では、それぞれの粘土の特徴について述べる。

a) 淡水成粘土（岡山南遺跡 7 点、下山田代町地内の遺跡 14 点、田折町地内の遺跡 5 点）

これらの土器胎土中には、淡水種の珪藻化石が特徴的に含まれており、多くの土師器胎土中には淡水種 *Eunotia biareofera* やその一部破片の *Eunotia* 属の珪藻化石が特徴的に含まれていた。また、海綿動物の骨格の一部である骨針化石や不明種珪藻化石も含まれていた。したがって、これらの土師器は、これらの珪藻化石が共通する沼沢地環境で堆積した粘土を利用していると考えられる。珪藻化石を比較的多く含む土師器は、トヨガ下遺跡で 1 点、栗狭間遺跡で 2 点、丸山 A 遺跡で 1 点、丸山 D 遺跡で 1 点、孫石遺跡で 1 点、蔵平遺跡で 1 点、岡山南遺跡で 5 点と、各遺跡において普遍的に見られた。

b) 水成粘土（岡山南遺跡 2 点、下山田代町地内の遺跡 1 点）

これらの土器胎土中には、海綿動物の骨格の一部である骨針化石や不明種珪藻化石がわずかに含まれていた。

c) その他粘土（岡山南遺跡 6 点、下山田代町地内の遺跡 3 点、田折町地内の遺跡 2 点）

これらの土器胎土中には、水成環境を指標する骨針化石や珪藻化石は含まれていなかった。

3.2. 砂粒組成による分類

本稿で設定した分類群は、構成される鉱物種や構造的な特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。したがって、胎土中の鉱物と岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。特に、深成岩類を構成する鉱物は粒度が大きいため、細粒質の砂粒からなる胎土の場合には、深成岩類の推定が困難な場合が多い。

ここでは、比較的大型の砂粒と鉱物群の特徴により、起源岩石の推定を行った（表 10）。岩石の推定では、片理複合石英類が片岩類（A/a）、複合石英類（大型）が深成岩類（B/b）、複合石英類（微細）などが堆積岩類（C/c）、斑晶質・完晶質が火山岩類（D/d）、凝灰岩質や結晶度の低い火山岩が凝灰岩類（E/e）、流紋岩質が流紋岩類（F/f）、ガラス質がテフラ（G/g）である。

今回の試料の土器胎土中の砂粒組成は、表 4 の組み合わせに従い、すべて B 群に分類された。以下に、

B群の砂粒物の特徴について述べる。

1) 主に深成岩類からなるB群（土師器40点、岡山南遺跡砂層1点、亀塚遺跡砂層1点）

これらの胎土中には、複合石英類のほか、大型の石英、ジルコン、カリ長石（パーサイト）が特徴的に含まれていた。その他の砂粒として、火山ガラス、凝灰岩類、片理複合石英類、堆積岩類がわずかに伴っていた。

なお、岡山南遺跡と亀塚遺跡で採取された砂層について、 $-0.5 \sim 0.0 \phi$ （ $1.4 \sim 1.0\text{mm}$ ）篩の残渣中の砂粒組成を調べたところ、いずれも主に深成岩類からなるB群であった。

3.3. 土器胎土の材料の特徴

土師器胎土の粘土材料は、粘土中に含まれていた微化石類により、a) 淡水成粘土（26試料）、b) 水成粘土（3試料）、c) その他粘土（11試料）、の3種類に分類された。また、土師器胎土中の砂粒組成はいずれも、1) 主に深成岩類からなるB群（40試料）、に分類された。

岡山南遺跡は、矢作（古）川下流の標高3mの微高地上に立地し、東の寄名山と背撫山に挟まれた谷の北側に位置する。岡山南遺跡の東側地域には、前期白亜紀の領家変成岩類が分布する（図89のR1～R3）。

岡山南遺跡の基盤砂層試料は、主に花崗岩質の深成岩類を主体とした砂粒組成を示し、領家変成岩類由来の砂粒の混入は見られなかった。また、矢作（古）川の上流域に位置する亀塚遺跡の砂層も同様の砂粒組成を示した。これらの砂粒組成は、主に矢作川の上流域の前期～後期白亜紀の新期領家花崗岩類または古期領家花崗岩類の基盤岩類を強く反映した組成と考えられる（図89のG1～G7）。

一方、豊田市下山田代町や田折町地区の遺跡は、古期領家花崗岩類を基盤岩類とする地域に位置し、同じ流域であることから、この地域で製作された土器の砂粒組成も類似すると考えられる。

こうした地質学的背景から、岡山南遺跡や、豊田市下山田代町および田折町地区の遺跡から出土した土師器甕は同じ砂粒組成を示すため、在地産の土師器であったとしても、生産地の推定は困難である。

一方、粘土材料は、淡水成粘土が26試料で検出され（表11）、淡水種 *Eunotia biareofera* やその一部破片の *Eunotia* 属の珪藻化石が共通して含まれていた。こうした珪藻化石を多く含む土師器甕は、岡山南遺跡や、豊田市下山田代町および田折町地内の遺跡において普遍的に見られた。このような共通した粘土および砂粒組成は、今回の試料の土師器甕が特定の地域で生産された土器であることを示唆すると思われる。

豊田市下山田代町および田折町地域では、矢作川支流の郡界川沿いに小規模な河岸段丘が発達するが、これらの段丘堆積物は河川成であるにもかかわらず、一般的に珪藻化石をほとんど含んでいない場合が多い。段丘堆積物の珪藻化石の欠損を考慮すると、少なくとも沼沢地成粘土を用いた土師器甕は、豊田市下山田代町や田折町地区で生産された可能性が非常に低いと考えられる。

周辺の他の遺跡で、砂粒組成がB群に分類され、粘土中に淡水種 *Eunotia biareofera* やその一部破片の *Eunotia* 属の珪藻化石が共通して含まれる例は、豊橋市の野添遺跡や大海津遺跡から出土した三河型甕（8世紀代）の30資料のうち8資料で見られた（藤根・米田，2016）。さらに、加原遺跡の比較資料として分析した三河型甕（12遺跡42資料）では、あま市の大淵遺跡の1資料、新城市の石岸遺跡の2資料、同市の諏訪遺跡の1資料、豊田市の落合遺跡の1資料、同市の万場垣内遺跡の1資料、豊川市の国分寺北遺跡の2資料において、同様の特徴をもつ材料が見られた。ただし、同時に検討した清郷型鍋（19遺跡57資料）では、こうした特徴をもつ材料の使用例は見られなかった（藤根・米田，2015）。以上の結果から、三河型と清郷型の土器は、土器材料の検討から生産地に関する客観的なデータが得ら

れる可能性がでてきた。三河型甕と清郷型鍋は、考古学的に「三河型甕」と総称して型式分類および編年が行われているが（北村，2001）、土器材料の違いから生産地に関する情報提供が可能性となり、生産・流通について客観的データによる踏み込んだ議論ができるのではと期待される。

* 本節の表7および図87, 図88は編者（武部）が作成した。

** 豊田市下山地区の諸遺跡（柿根田遺跡、トヨガ下遺跡、栗狭間遺跡、丸山A遺跡、丸山D遺跡、孫石遺跡、蔵平遺跡、菅ノ口遺跡、朴ノ木遺跡）試料は、愛知県埋蔵文化財調査センターより報告書整理段階で提供されたものである。

*** 本節は掲載できなかった写真図版等も含め、全てをPDFデータとしてCD-ROMに収録した。

引用文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42（2），73-88．

地学団体研究会・地学事典編集委員会編（1981）増補改訂 地学事典，1612p，平凡社．

藤根 久（1998）東海地域（伊勢－三河湾周辺）の弥生および古墳土器の材料．

東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会編「土器・墓が語る：美濃の独自性 弥生から古墳へ」：108-117，東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会．

藤根 久・今村美智子（2001）第3節 土器の胎土材料と粘土採掘坑対象堆積物の特徴．群馬県埋蔵文化財調査事業団編「波志江中宿遺跡」：262-277，日本道路公団・伊勢崎市・群馬県埋蔵文化財調査事業団．

藤根 久・米田恭子（2015）第1節 古代土師器甕の胎土分析と年代測定．

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第194集「加原遺跡」：58-76，

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター．

藤根 久・米田恭子（2016）第3節 出土土器の胎土材料．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書

第205集「野添遺跡」：50-57，公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター．

北村和宏（2001）古代「三河型甕」考．愛知県埋蔵文化財センター研究紀要，第2号，33-40．

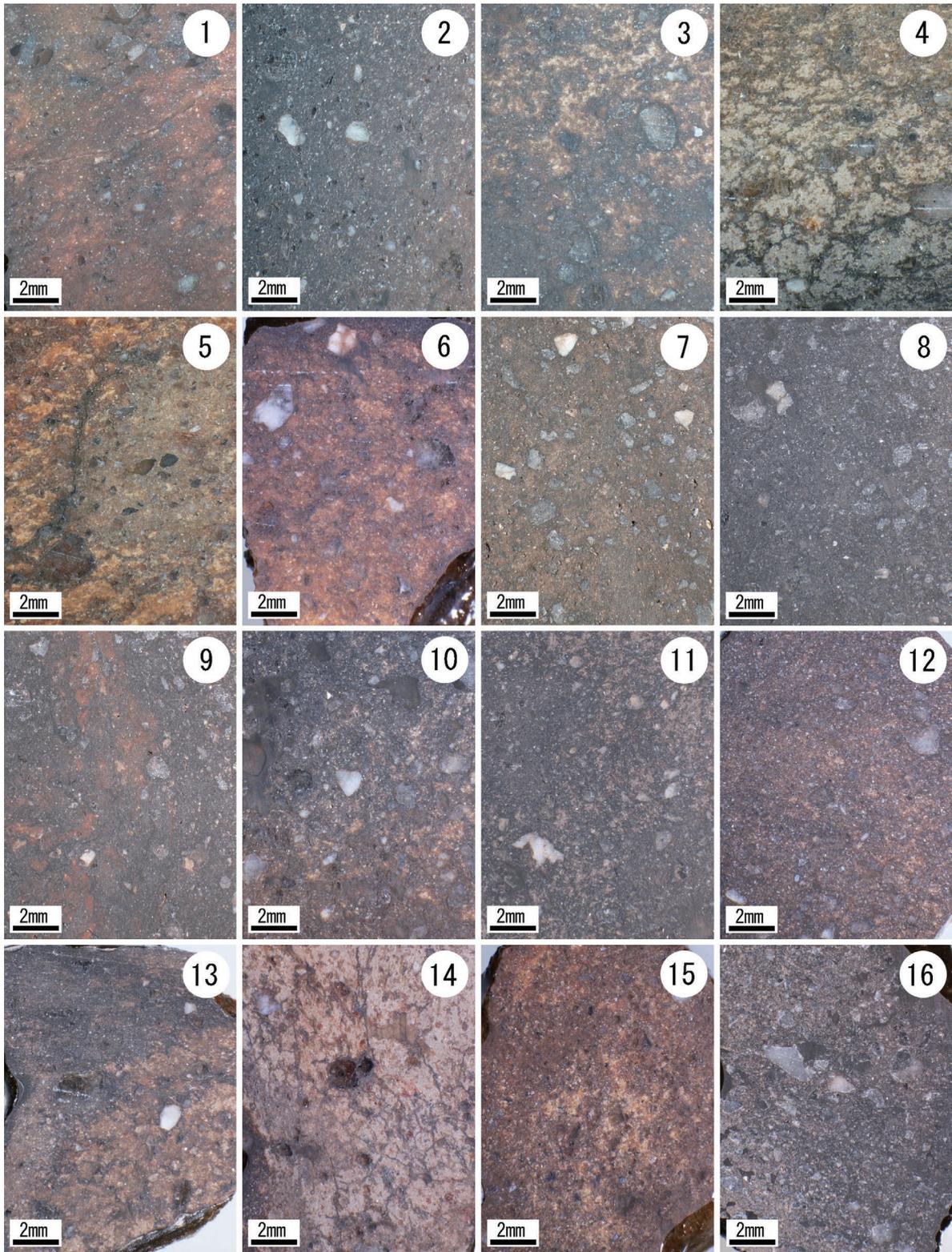
小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用．第四紀研究，27，1-20．

車崎正彦・松本 完・藤根 久・菱田 量・古橋美智子（1996）土器胎土の材料－粘土の起源を中心に－．

日本考古学協会編「日本考古学協会第62回大会研究発表要旨」：153-156，日本考古学協会．

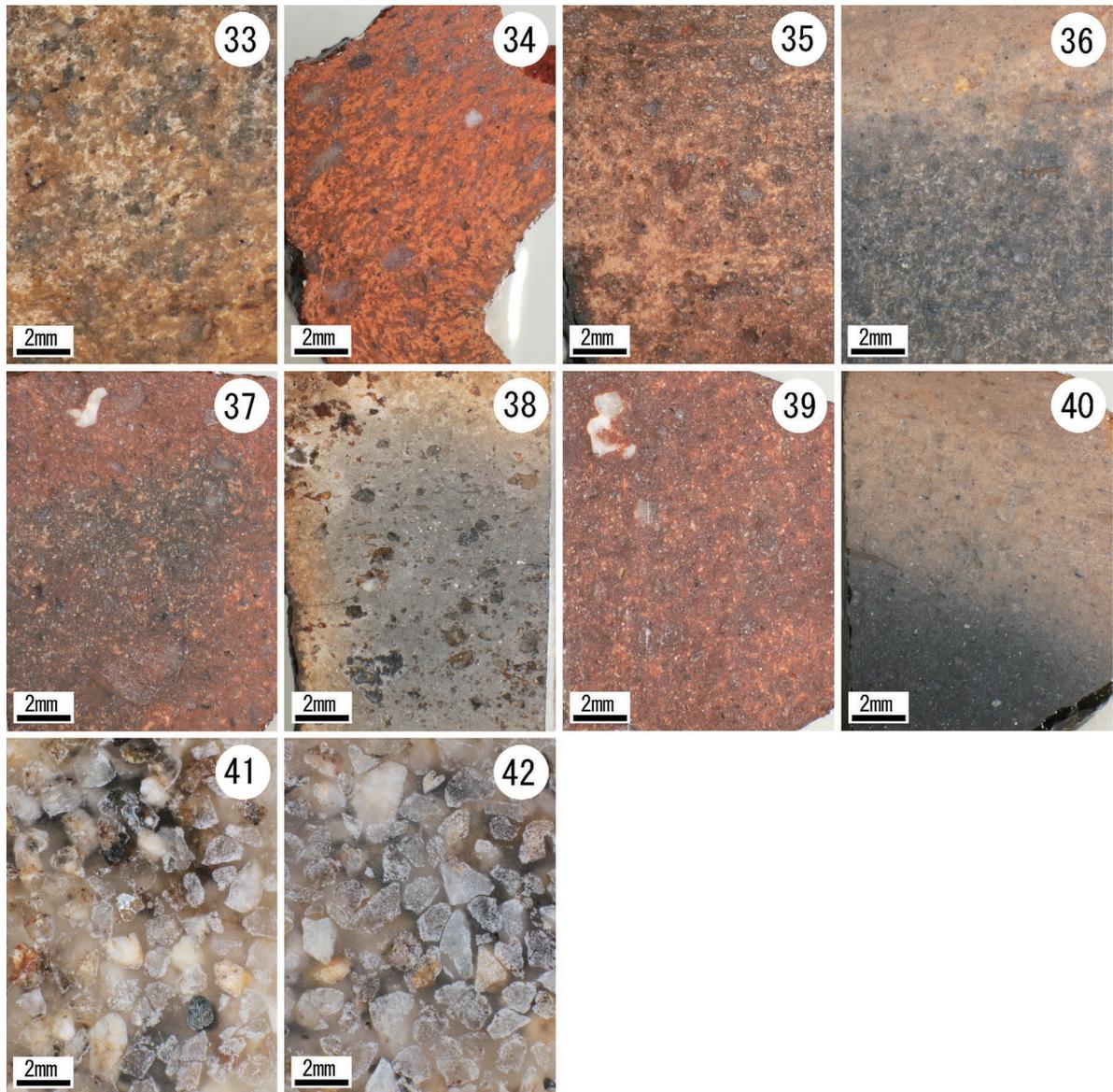
牧本 博・山田直利・水野清秀・高田 亮・駒澤正夫・須藤定久（2004）20万分の1地質図幅

「豊橋及び伊良湖岬」．産業技術総合研究所 地質調査総合センター



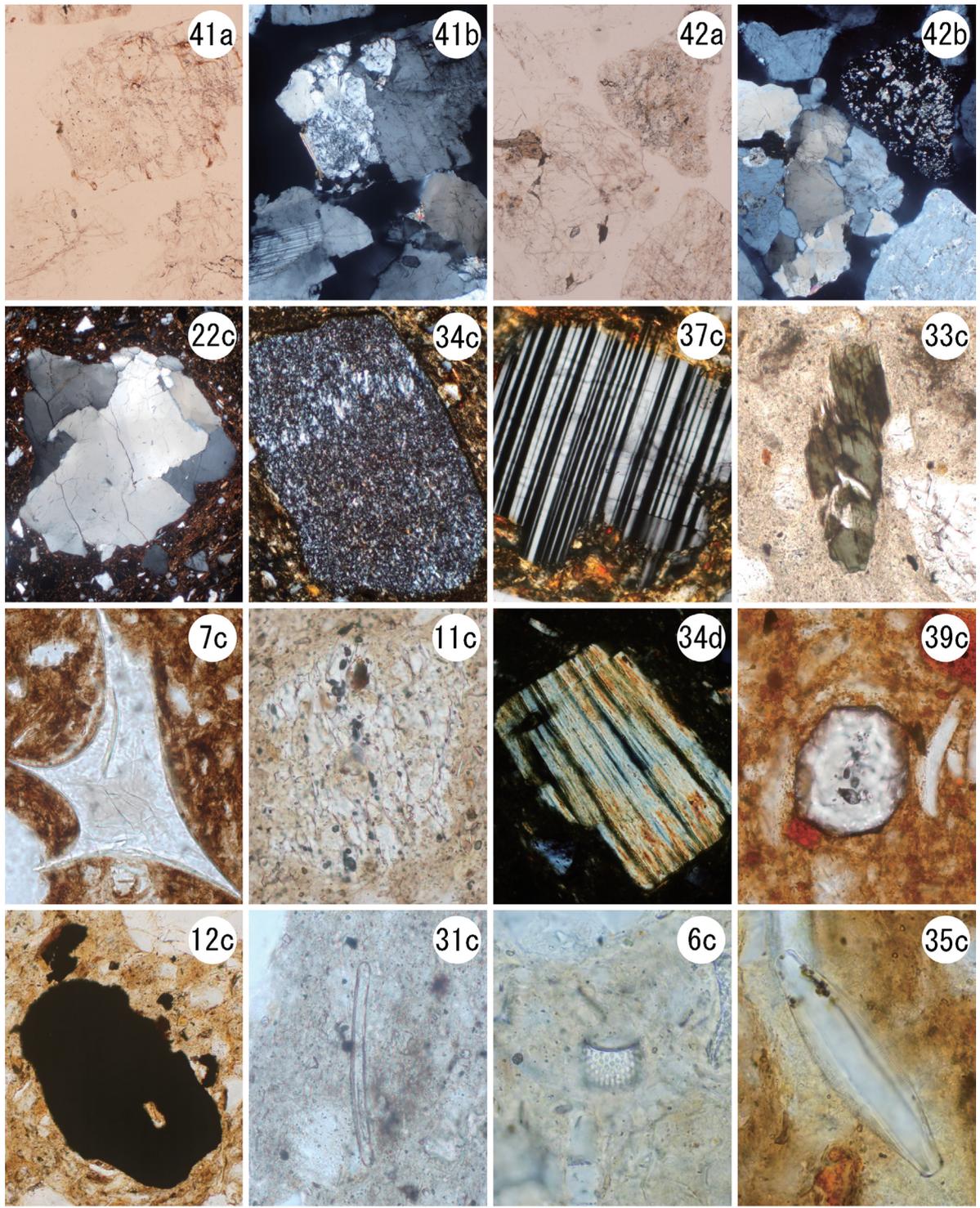
1. 分析No. 1、2. 分析No. 2、3. 分析No. 3、4. 分析No. 4
 5. 分析No. 5、6. 分析No. 6、7. 分析No. 7、8. 分析No. 8
 9. 分析No. 9、10. 分析No. 10、11. 分析No. 11、12. 分析No. 12
 13. 分析No. 13、14. 分析No. 14、15. 分析No. 15、16. 分析No. 16

図 90 分析試料の断面写真 1



33. 分析No. 33、34. 分析No. 34、35. 分析No. 35、36. 分析No. 36
 37. 分析No. 37、38. 分析No. 38、39. 分析No. 39、40. 分析No. 40
 41. 分析No. 41、42. 分析No. 42

図 91 分析試料の断面写真 2



(スケール; 41a, 41b, 42a, 42b, 22c: 500 μ m、34c, 33c, 12c: 100 μ m、37c, 7c, 11c, 34d, 31c: 50 μ m、6c, 35c: 20 μ m)

41a. 分析No. 41 (解放ニコル)、41b. 分析No. 41 (直交ニコル)
 42a. 分析No. 42 (解放ニコル)、42b. 分析No. 42 (直交ニコル)
 22c. 複合石英類 (大型)、34c. 複合石英類 (微細)、37c. 斜長石 (双晶)、33c. 角閃石類
 7c. バブル型火山ガラス、11c. 軽石型火山ガラス、34d. 雲母類、39c. ザクロ石
 12c. 磁鉄鉱等、31c. 珪藻化石 *Eunotia bilunaris*、6c. 珪藻化石 *Aulacoseira* 属、35c. 珪藻化石不明種

図 92 胎土の偏光顕微鏡写真

第5章 総括

岡山南遺跡は矢作古川の左岸域、岡山丘陵の南側に広がる沖積地に立地する遺跡である。第4章1(鬼頭)に示されているように、一帯の地形的特徴は北東を谷頭として南西に開いた谷地形となっており、遺跡はその谷の中に位置している(図83)。南東-北西方向にのびるトレンチ状の調査範囲は距離にして約450mあり、表12に示すように谷の埋積の経過と共に変化した土地利用の状況が明らかとなってきた。以下では時期ごとの遺構変遷を整理しつつ、岡山丘陵部の遺跡群との関係にふれておきたい。

1. 古墳時代前期～中期(図93, 94, 95)

確認された遺構は、竪穴建物(5棟)、井戸(1基)、溝、土坑があり、このほかに複数の自然流路跡がある。竪穴建物と井戸は調査範囲南東部の12A区を中心に分布しており、この付近から南側にかけての範囲にやや安定した微高地があったと考えられる。また溝と自然流路の軸線方向は、いずれも自然地形の影響を受けた北東-南西方向となっている。

出土遺物で最も古い時期となる弥生土器はいずれも小片ではあるが、中期以前(19)と中期(瓜郷式・古井式)、後期(11)が確認されている。出土地点は11A・12A・12D区など南東部に偏在するほか、少し北西側の16B区でも検出された。

古墳時代土師器は、概ね廻間Ⅲ式から松河戸Ⅱ式に属すると考えられるものであり、松河戸式段階の4世紀頃に盛期が認められる。分布域は11・12区、15区東半など調査範囲の南東部と16C区、16E区西半、すなわち自然流路bの西側に分布域が認められた。また16C区下層(自然流路a)では古墳時代前期と考えられる木製品を含む多数の木材の集積が確認されていることから、この付近にも集落が形成されるような微高地が存在したと考えられる。なお、これら古墳時代木製品等の樹種では広葉樹の種類が豊富であり、農具全般に用いられることの多いアカガシ亜属のほか、湿地に生えるハンノキ亜属も比較的多くみられた。岡山丘陵および遺跡の立地する沖積低地の植生を示していると考えられる。

2. 古墳時代後期から平安時代(図96, 97, 98)

調査範囲の広い範囲で遺構の展開がみられ、比較的安定して集落が営まれていた時期である。出土遺

表12 調査区ごとの遺構・遺物の分布

調査区	16A区	16B区	16C区	16D区	16E区	15区	12C・D区	12A区	12B区	11A・B区					
上面検出面レベル(m)	3.6	3.0	3.0	3.0	3.3	3.0	3.2	3.0	3.2	3.0					
近世	○ 耕作痕	▲ 施釉陶器	◎ 井戸・土坑群	○ 土器・施釉陶器・磁器・錢貨・石帯・金属製品	-	-	-	-	-	-	◎ 井戸	-			
中世	-	-	-	○ 山茶碗・施釉陶器・常滑窯産陶器	▲ 溝	▲ 山茶碗・青磁	▲ 溝?	▲ 山茶碗	○ 土坑・溝	▲ 施釉陶器	-	▲ 山茶碗	◎ 井戸	▲ 山茶碗・施釉陶器	
平安	-	▲ 灰軸陶器(K-14)	-	◎ 竪穴建物・溝	▲ 灰軸陶器・土器	◎ 灰軸陶器	○ 竪穴建物?・掘立柱建物・溝・土坑	▲ 灰軸陶器・土器	◎ 灰軸陶器・土器	◎ 井戸・溝	◎ 灰軸陶器・緑軸陶器・土器	-	▲ 灰軸陶器	◎ 井戸・溝・土坑	◎ 灰軸陶器・土器
古墳時代後期～奈良時代	-	-	-	▲ 須恵器・土器	○ 溝	▲ 須恵器・土器	◎ 溝	◎ 須恵器・土器	◎ 溝	◎ 須恵器・土器	◎ 溝・土坑	◎ 須恵器・土器	◎ 須恵器・土器	◎ 須恵器・土器	◎ 須恵器・土器
古墳時代前期～中期	-	-	-	◎ 溝・自然流路	◎ 土器・木製品	▲ 溝	○ 土器	◎ 溝・自然流路	◎ 土器	▲ 土坑	◎ 土器	◎ 溝	◎ 土器	◎ 土器	◎ 土器
弥生時代	-	-	-	▲ 溝	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲ 溝

物では6世紀代と7世紀前半の須恵器が検出されたが、遺構としてのまとまりは判然としない。遺構が明確になるのは7世紀後半(I-17号窯式)以降であり、16D区で溝と竪穴建物の可能性を含む堆積層(西端部、080SX付近)、16E区で溝(009SD)、土坑(019SK)などが確認されたにとどまる。

8世紀後半(NN-32号窯式)から10世紀後半(H-72号窯式)が今回の調査地点の中心となる時期であり、なかでも折戸10号窯式期から折戸53号窯式期、9世紀初頭から10世紀前半が盛期となっている。遺構は調査範囲の西端付近の16A・16B区と12A区を除く全域に分布が認められたが、K-90号窯式段階の遺構としては抽出できなかった。遺構の密度が最も高いのは調査範囲の南東側であり、11B区では8世紀後半の竪穴建物(030SI・067SI)、平安時代井戸(032SE)、土坑、12C区では平安時代井戸(006SE)、12C・12D区では溝、15区では平安時代の竪穴建物(035SI・036SI)、土坑(053SK)、溝などがある。竪穴建物はほぼ同じ位置に重複がみられ、12区、15区では時期が異なる溝もほぼ同様の方位となっている。以上の範囲では遺物量も比較的多く、15区では多数の灰釉陶器(K-90号窯式～H-72号窯式)碗・皿類のほか、畿内産土師器、緑釉陶器、土師質の碗、フイゴ羽口などが包含層から多数が出土している。後世の耕作等により攪拌・削平されているとはいえ、出土遺物はまとまった量があり、付近に居住域が存在した可能性は高いと考えられる。竪穴建物の分布域は7世紀代の溝群の少し西側の16E区西半から16C区にかけての範囲にもあり、時期やプランが不明瞭なものも含めて7棟程度の竪穴建物として検出した。ただし、当該時期の井戸はこちらでは確認されていない。

さて、本遺跡でも搬入された製塩土器(脚部片)が出土している。矢作古川以東から渥美半島までの三河湾東岸は製塩遺跡が見つからない地域であるが、この要因については大規模河川の流入により低下する海水の塩分濃度が「製塩」遺跡の成立を左右しているとも考えられている(宮腰1995)。出土した管状土錘は比較的小型のものが多いなかで重量が180gにもなる特大型の土錘(345)が数点含まれており、このような土錘は河川ではなく海岸部などで使用する漁網錘と考えられる。これらが本遺跡集落の生業に直接関連する資料と捉えるならば、当時の地形では流量の大きい河川または河口が近く、海岸線が現在よりもずっと内陸側にあったことの傍証となるのではないだろうか。

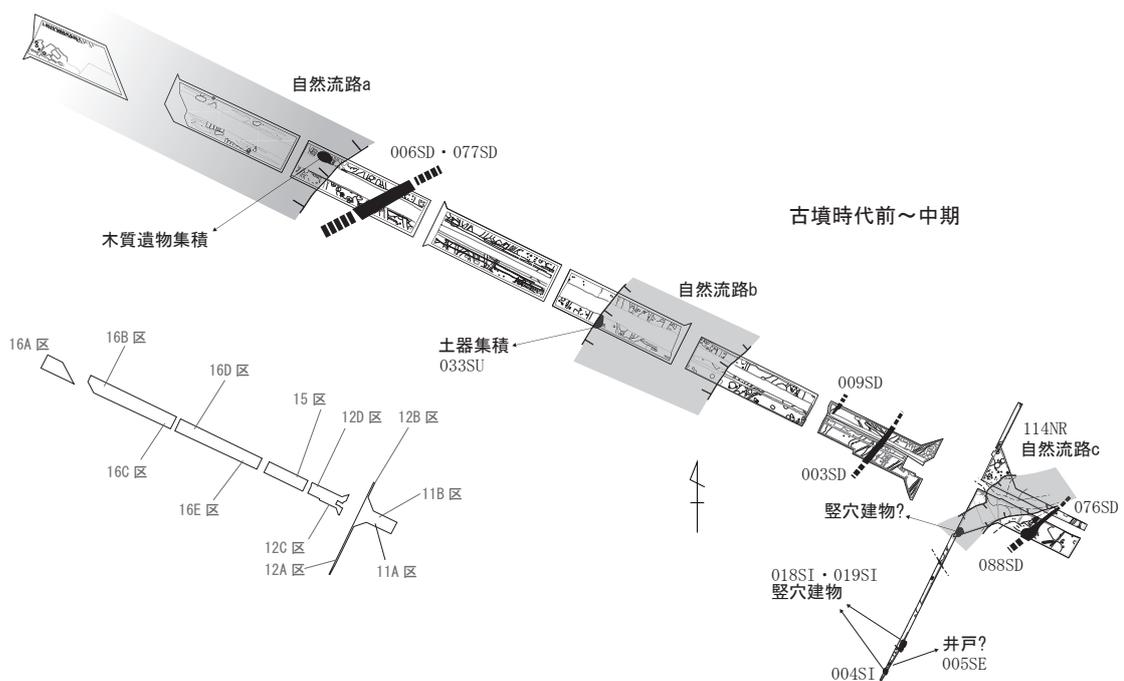


図 93 岡山南遺跡遺構変遷図 1 (1/3,000)

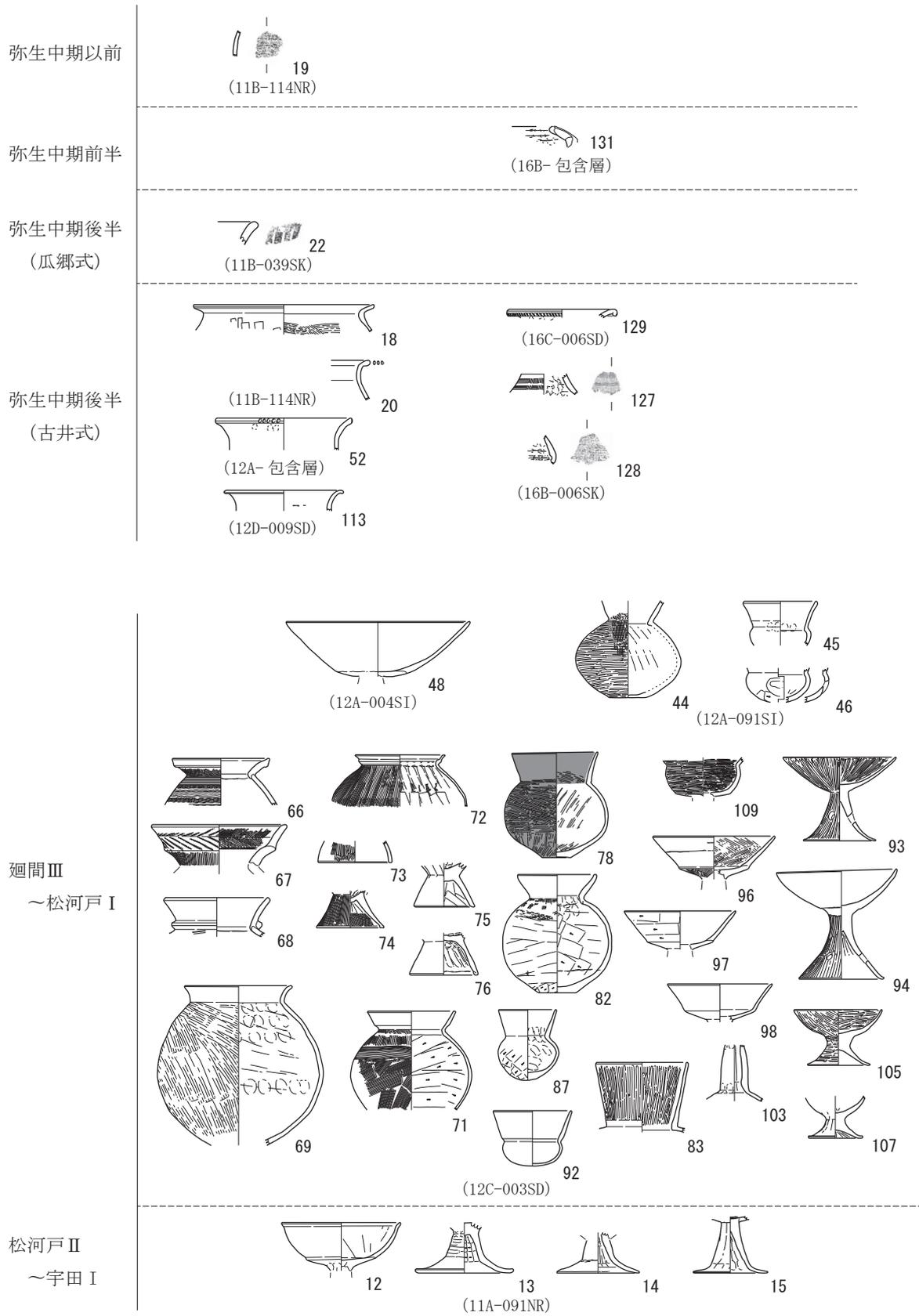


図 94 主要遺構の出土遺物 1 (1/8)

3. 中世・近世 (図 96)

少量ながら 12～15 世紀の鎌倉・室町時代と近世の陶磁器類が包含層に含まれており、広く調査区全体で出土している。11B 区では山茶碗や瀬戸・美濃窯産陶器など 14, 15 世紀の遺物が出土している。ただしこの時期の遺構は少なく、井戸を除くと時期の明確なものは多くはない。11B 区では鎌倉時代と近世の井戸各 1 基 (012SE, 010SE)、16C 区で近世の井戸 1 基 (109SE) が確認された。16B 区では近世以降と思われる導水施設 (015SK)、配置や規模が特徴的な連続して並ぶ大型の土坑群が確認された。16B 区では土師質煮炊具、くの字形口縁鍋が少量ながら出土している。調査範囲西端付近の 16A・16B・16C 区は少なくとも近世以降には耕作地として利用されていたと考えられる。

4. 遺跡周辺の地籍図から (図 97)

地籍図中に比定される調査範囲には「宅地」とが表記される地点は含まれず、「水田」あるいは「畑地」となっている。現在の集落 (郷中、寺島集落) に近い調査範囲南東部には、北東から南西方向に帯状に伸びる畑地の形状が読み取れる。この微高地部分が 11 区・12 区の遺構の分布状況と一部が対応している。

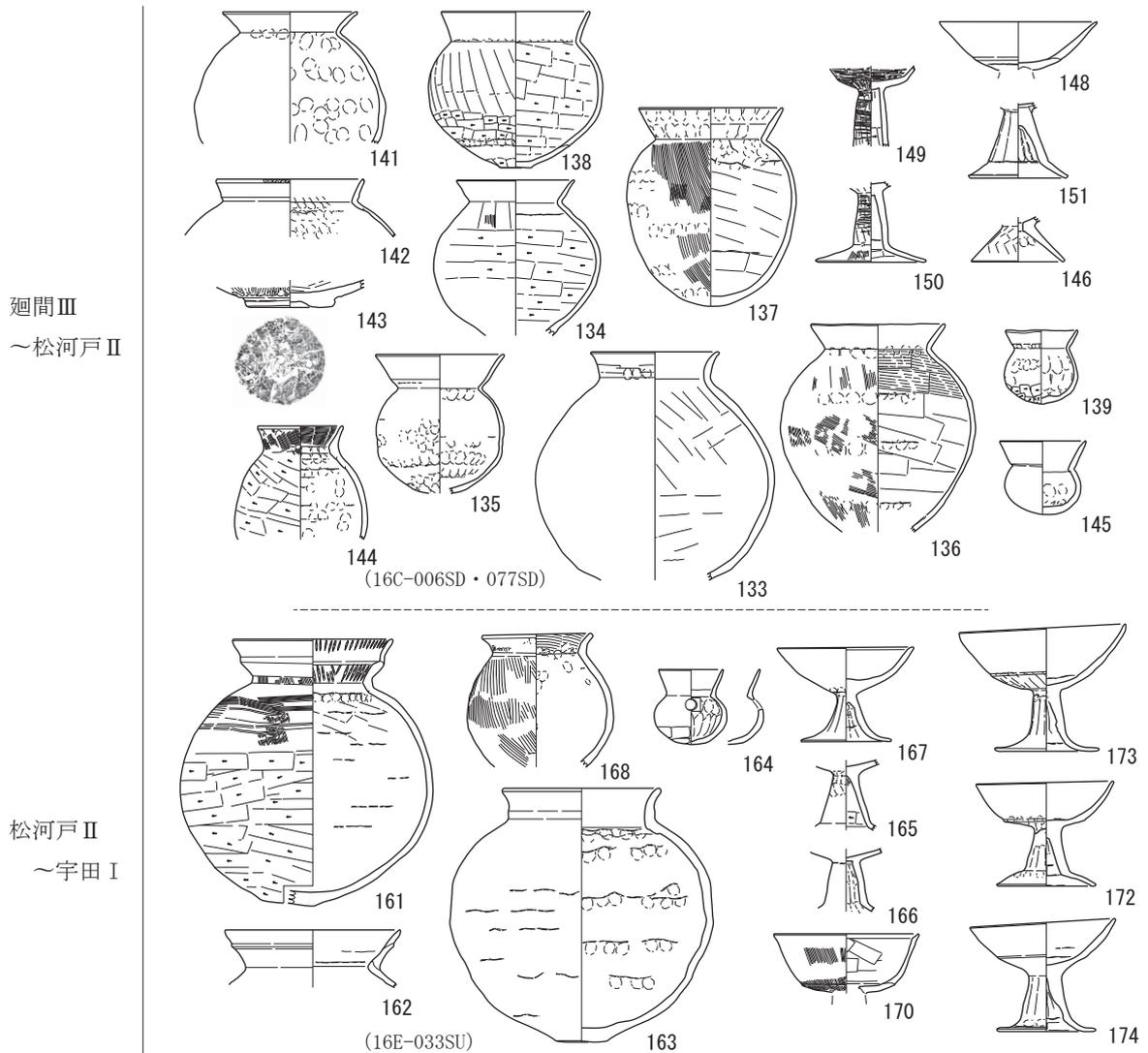


図 95 主要遺構の出土遺物 2 (1/8)

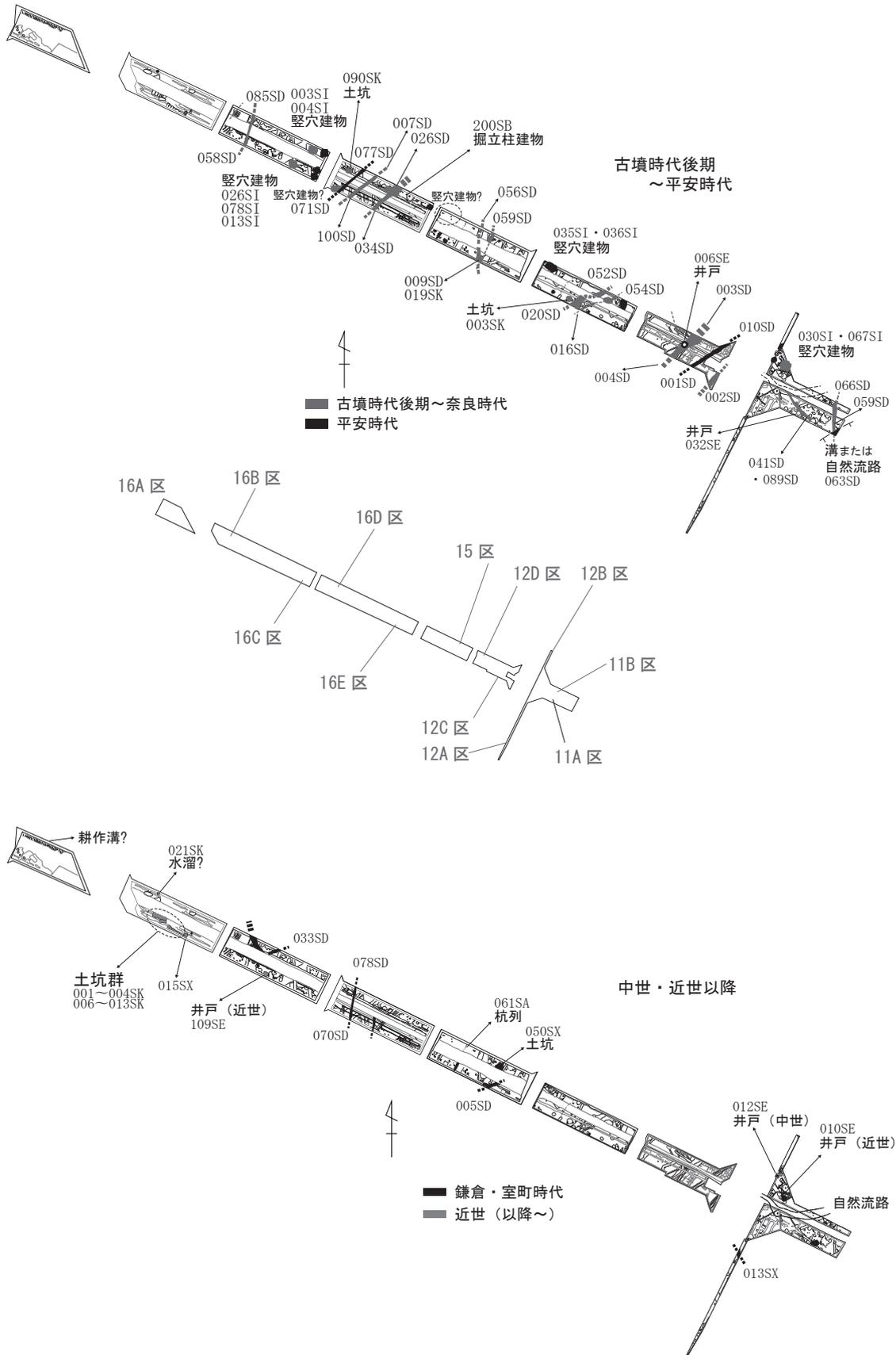


図 96 岡山南遺跡遺構変遷図 2 (1/3,000)

同様に 15 区、16E 区付近にも正方位に近い南北方向の地割をなす畑地、微高地があり、こちらも一部に対応関係が想定できる。16D 区以西は水田となっており、16A・16B 区付近は北東から南西へ流れる自然流路の影響が残る地点であったと想像される。

今回の調査により、岡山南遺跡周辺の開発は弥生時代中期後半まで遡る可能性も考えられるようになった。明確な遺構は未だ検出されていないものの、標高 22～36m の岡山丘陵斜面に展開した環濠集落である中根山遺跡の成立とほぼ同時期に山麓の低地部でも土地利用が始まっていたと考えられる。また集落については、少なくとも古墳時代前期には低地部にも営まれていたことが明らかとなった。しかもそれは調査範囲の南東部、堆積環境により陸地化が先行していた微高地がまず選地されたと考えられる。

岡山南遺跡で古墳時代前期から中期の集落が営まれた時期には、丘陵上の中根山遺跡では環濠は機能を失い集落の堅穴建物の数も減少傾向にあったが、丘陵上と沖積地という異なる立地の集落が並存する環境にあったといえる。全長 66m の前方後円墳、吉良八幡山古墳の築造は 4 世紀半ば頃と推定されており、ここでの集落域が沖積地へ本格的に展開し始めた頃との関連性が注目される。

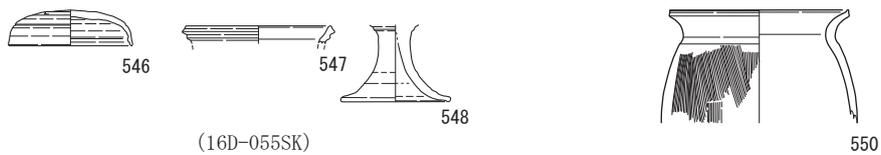
岡山丘陵上には若宮古墳群、6, 7 世紀の岩谷山古墳群などが築かれているが、岡山南遺跡では 5 世紀、6 世紀の遺構は明らかでなく出土遺物も少ない。

その後、本遺跡では 7 世紀後半には再び活動が見られるようになり、8 世紀後半から 10 世紀前半の遺跡の盛期には、安定した微高地の縁辺と想定される調査範囲の南東部だけでなく、西側へも居住域の広がりが認められた。低地部が以前よりも安定した環境となりしかもそれが一定期間継続したことにより、本格的な水田開発を目的とする集落の立地として選択されるようになったと想像される。西尾市北部の碧海台地上に立地する志貴野遺跡、八ツ面山北部遺跡なども 7 世紀後半から 10 世紀後半にかけての間に継続的あるいは断続的に営まれた集落であり、旧矢作川流域の広い範囲で低地部の開発が継続的に推し進められていたと考えられる。岡山丘陵上では古墳時代中期以降の集落は不明であったが、本遺跡から東へ約 1.5km、丘陵裾の南向き緩斜面に検出された寄名山遺跡で当該期の集落の様相が明らかとなってきた。ここでも遺構は 7 世紀後半から確認され、9, 10 世紀を中心として堅穴建物 10 棟、掘立柱建物 3 棟、平場遺構 4 棟などが重複して見つかるなど居住域の継続性が認められる。ただし、ここでは各種の特異な出土遺物を含むことから一般的な集落とは異なる遺跡の性格が指摘されており、特徴的な立地と併せて貴重な調査事例となっている。

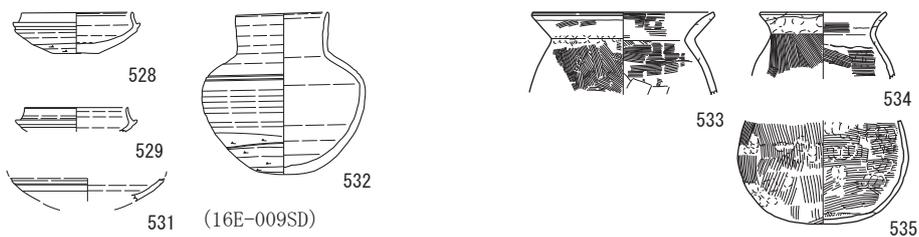
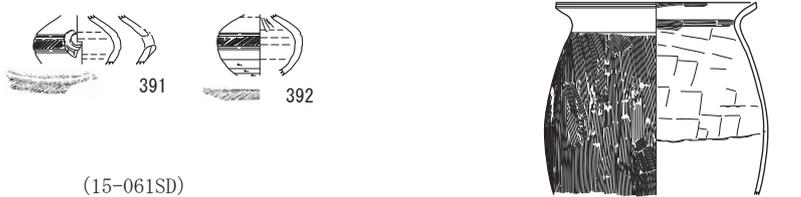
岡山南遺跡では 10 世紀後半（H-72 号窯式）までには活動域は縮小しており、遺構は 11A・11B・12C・12D 区など調査範囲南東部に限定される。その後の明瞭な活動の痕跡は、11B 区で井戸（O12SE）が造られた鎌倉時代までみられず、10 世紀後半以降には居住域から離れた場所となったと考えられる。

岡山丘陵上では 13～15 世紀後半にかけて蔵骨器埋納が続けられた大規模な墓域（善光寺沢遺跡）が設けられたが、集落域については調査が行われておらず判然としない。岡山丘陵山麓南斜面では灰釉陶器、山茶碗片が採集されるようであり、調査範囲の低地部は居住には適さない場所であったと考えられる。ただし、今回の調査時点での検出面は古代の包含層中まで削平を受けた面であり、中世については耕作地としての利用状況すら明確でなく手掛かりの大半を失っている状況である。（武部真木）

6 世紀



7 世紀



7, 8 世紀

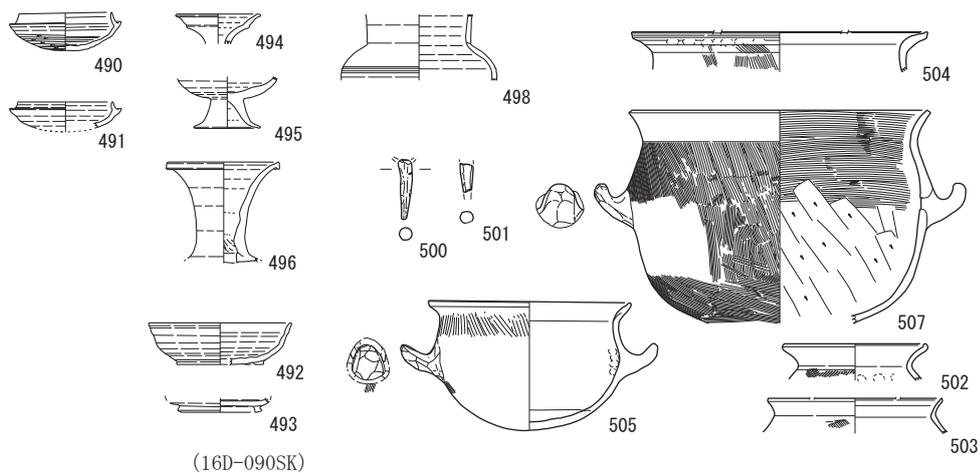
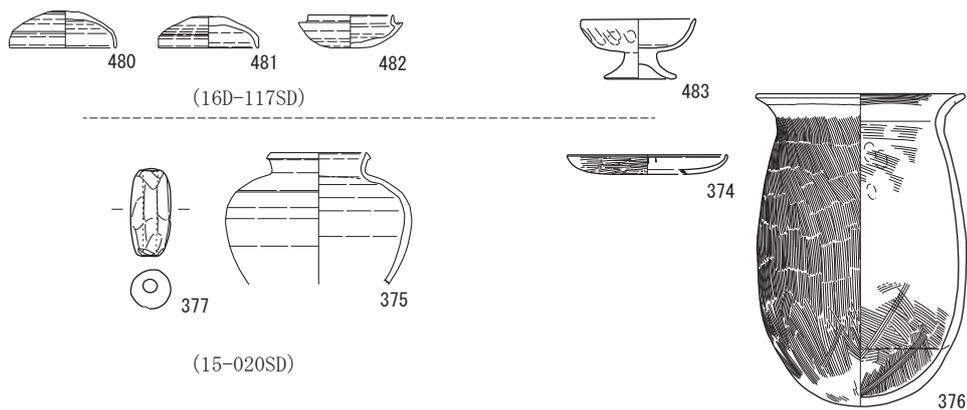
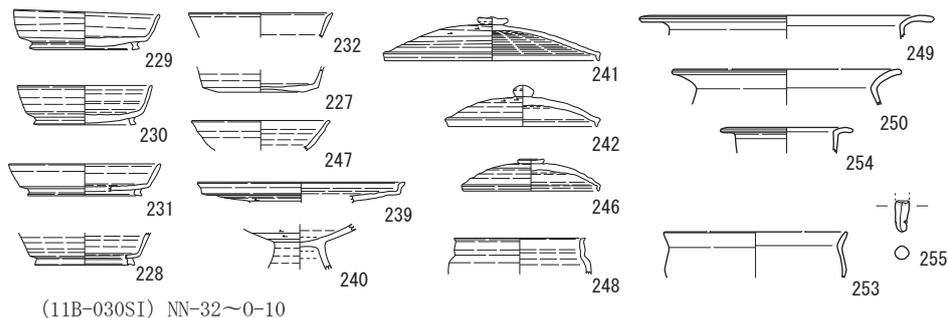


図 97 主要遺構の出土遺物 3 (1/8)

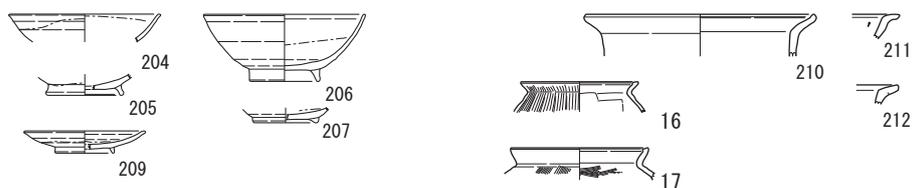
8 世紀後半



(11B-030SI) NN-32~0-10

9 世紀後半

(15 区包含層)

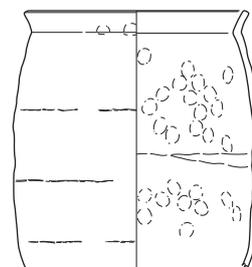


10 世紀

(11A-032SE)



322
(12C-006SE)



323

図 98 主要遺構の出土遺物 4 (1/8)

参考文献

- 加藤安信編, 1989, 『愛知県幡豆郡吉良町 中根山遺跡発掘調査報告書』吉良町教育委員会
 松井直樹編, 1990, 『愛知県西尾市 志貴野遺跡』西尾市教育委員会
 松井直樹編, 1991, 『愛知県西尾市 八ツ表山北部遺跡Ⅰ-八ツ表山地区-』西尾市教育委員会
 松井直樹編, 1992, 『愛知県西尾市 八ツ表山北部遺跡Ⅱ-中原町地区-』西尾市教育委員会
 鈴木とよ江編, 1993, 『愛知県西尾市 八ツ表山北部遺跡Ⅲ-蔵屋敷地区-』西尾市教育委員会
 荻野 栄・小嶋そのみ編, 1999, 『愛知県幡豆郡吉良町 善光寺沢遺跡』愛知県幡豆郡吉良町教育委員会
 三田敦司編, 2008, 『寄名山遺跡 発掘調査報告書』吉良町教育委員会
 宮腰健司, 1995, 「幡豆町出土の製塩土器」考古学フォーラム 6
 考古学フォーラム, 2013, 『変貌する弥生社会 安城市 鹿乗川流域の弥生時代から古墳時代』
 吉良町史編纂委員会, 1991, 『吉良のあけぼの 原始・古代史編』
 愛知県幡豆郡吉良町, 1965 『吉良町誌』
 吉良町史編さん委員会, 1996, 『吉良町史 原始・古代 中世前期』
 愛知県史編さん室, 2017, 『愛知県史 資料編 5 鎌倉～江戸 考古 5』愛知県

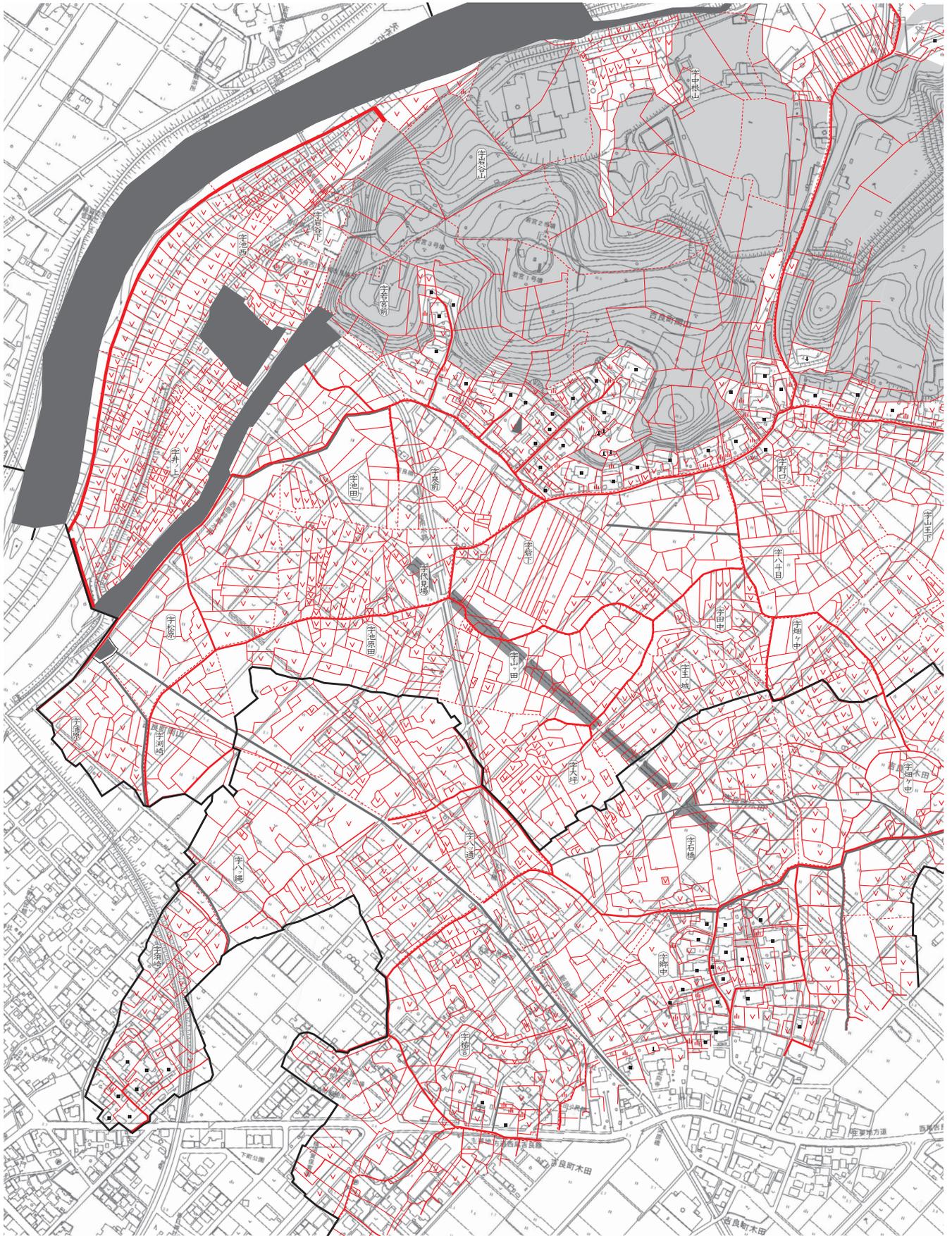
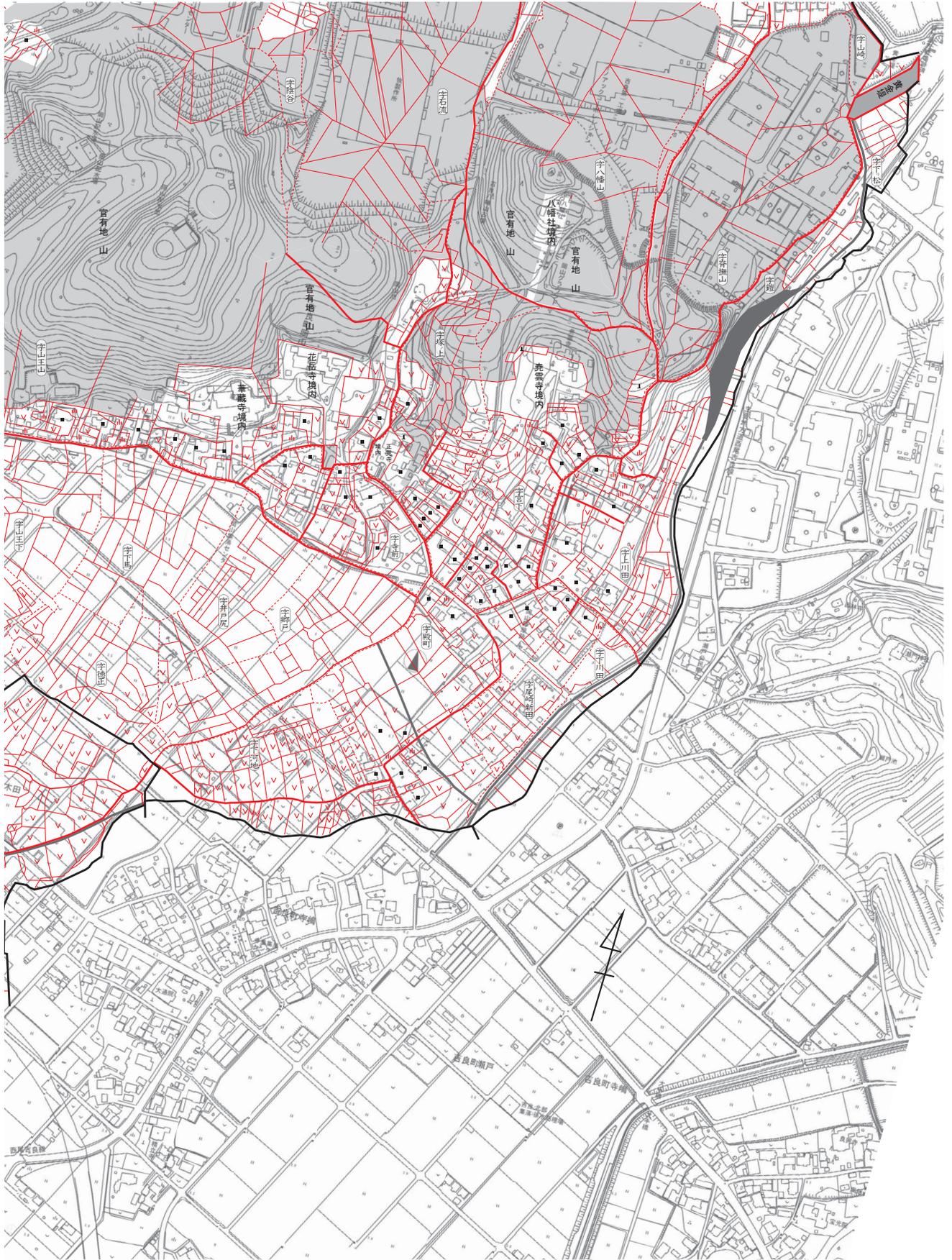
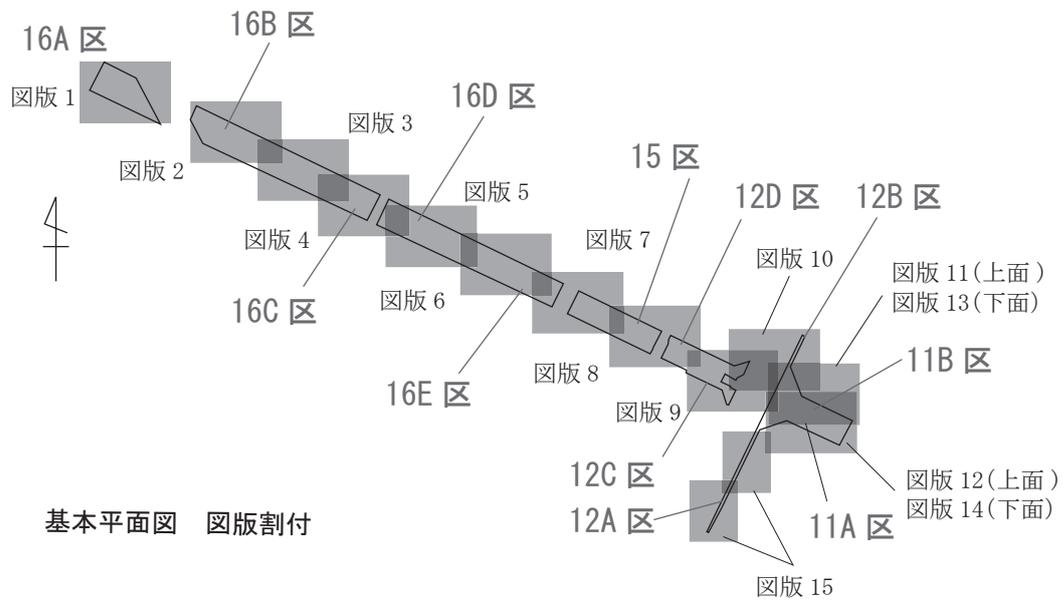


図 99 岡山南遺跡調査地点と周辺地籍図 (1/6,000, 西尾市都市計画図に合成)

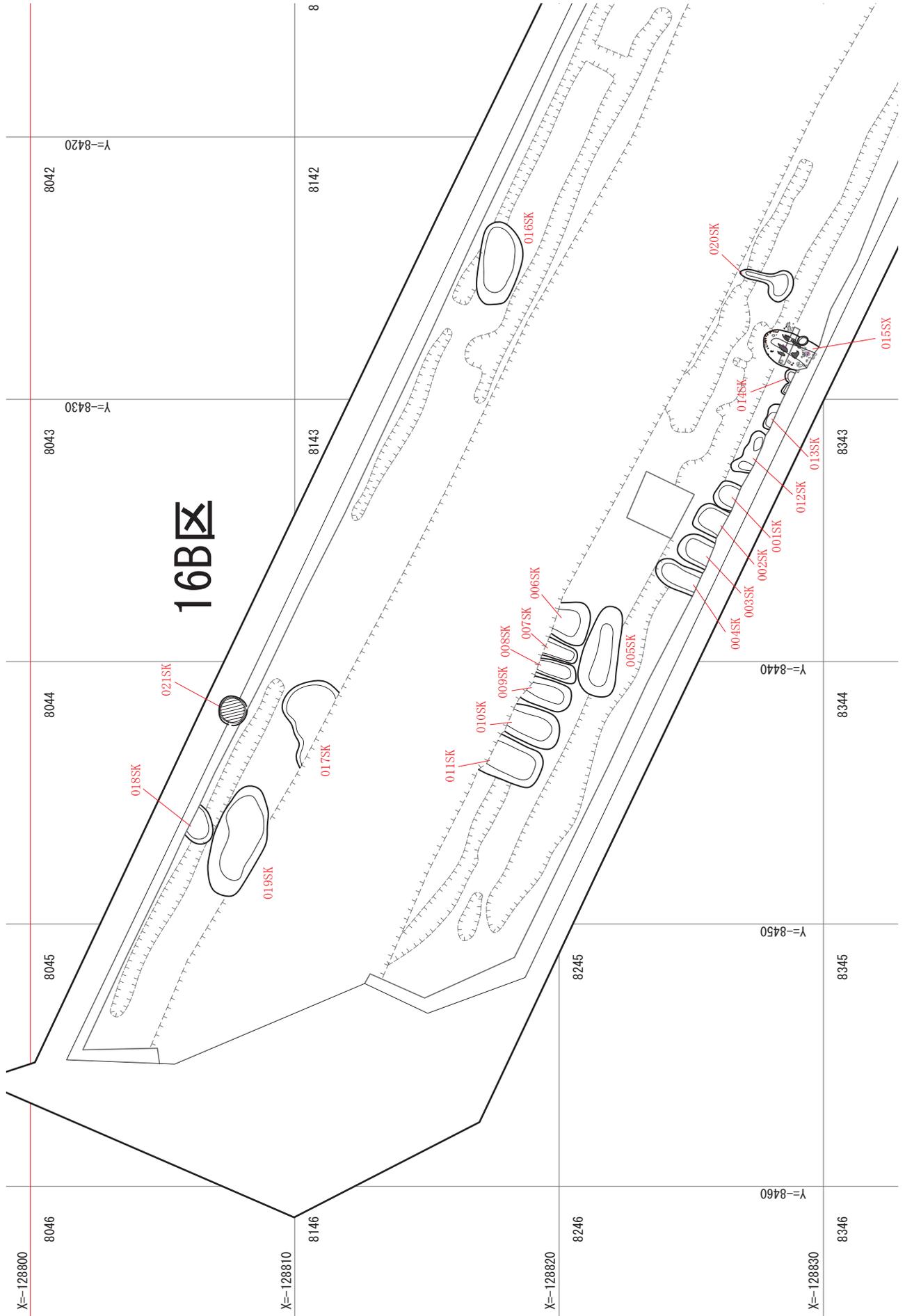


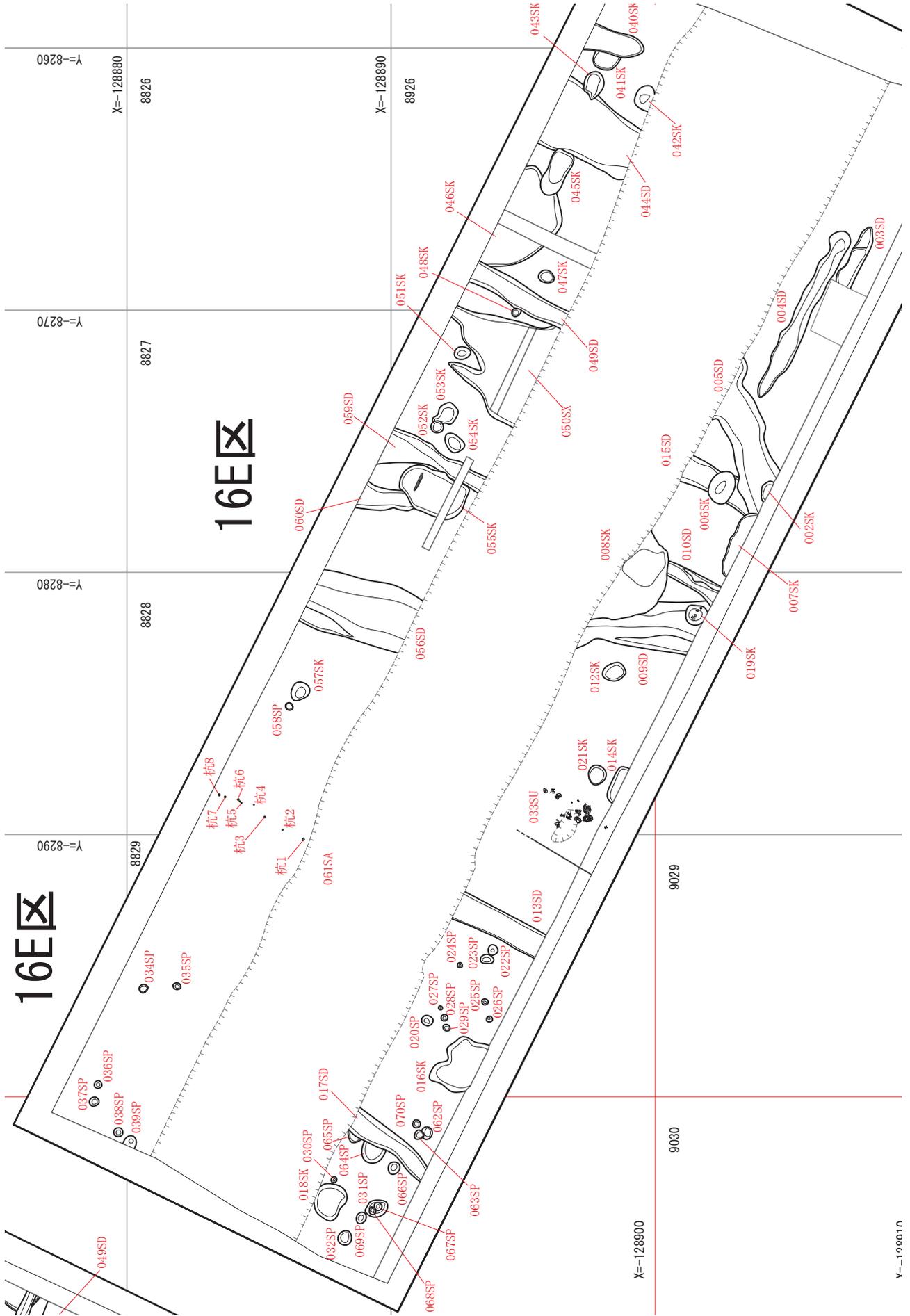
図版

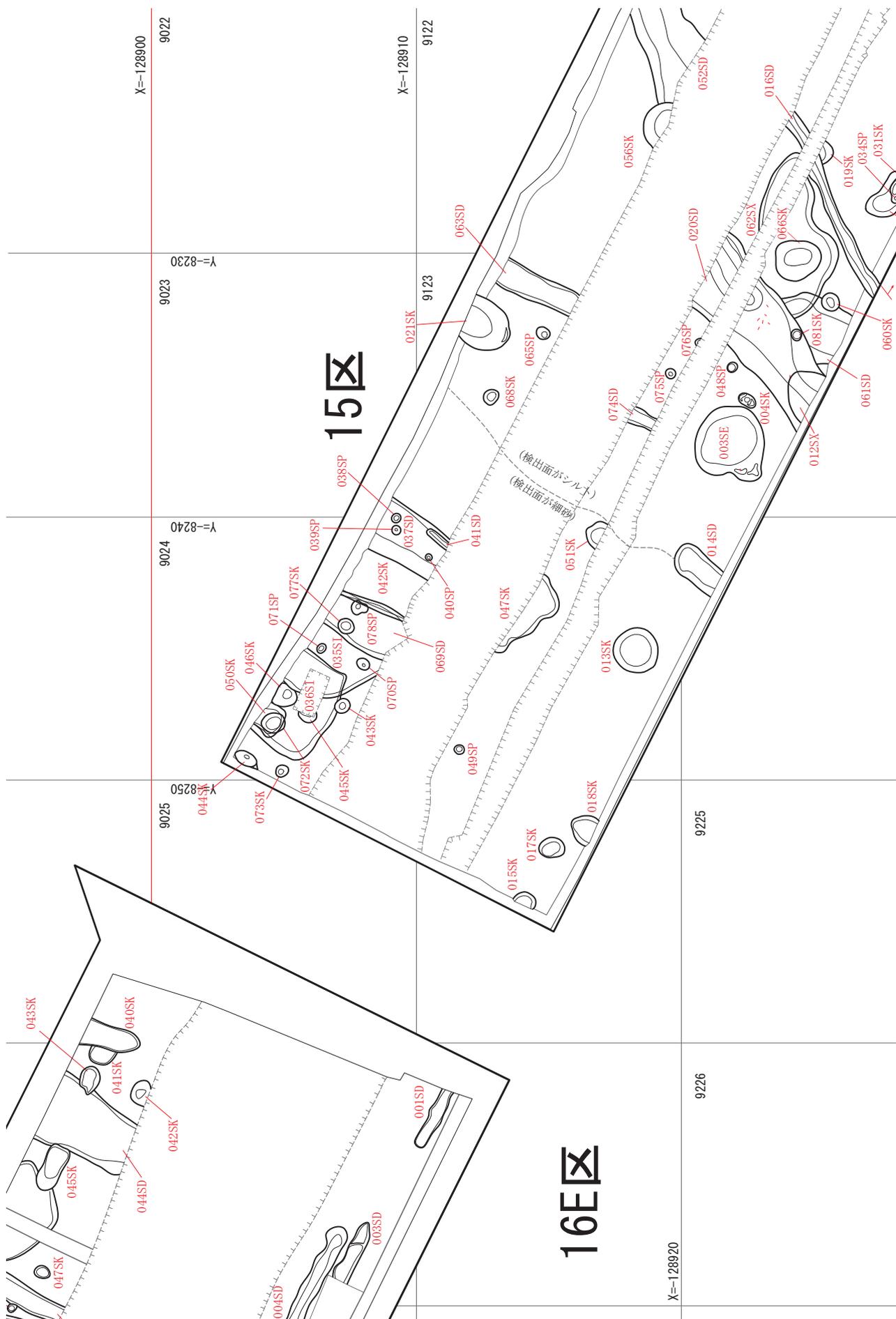
- ・基本平面図（縮尺 1/200）
- ・登録遺物一覧表
- ・写真図版（遺構／遺物）

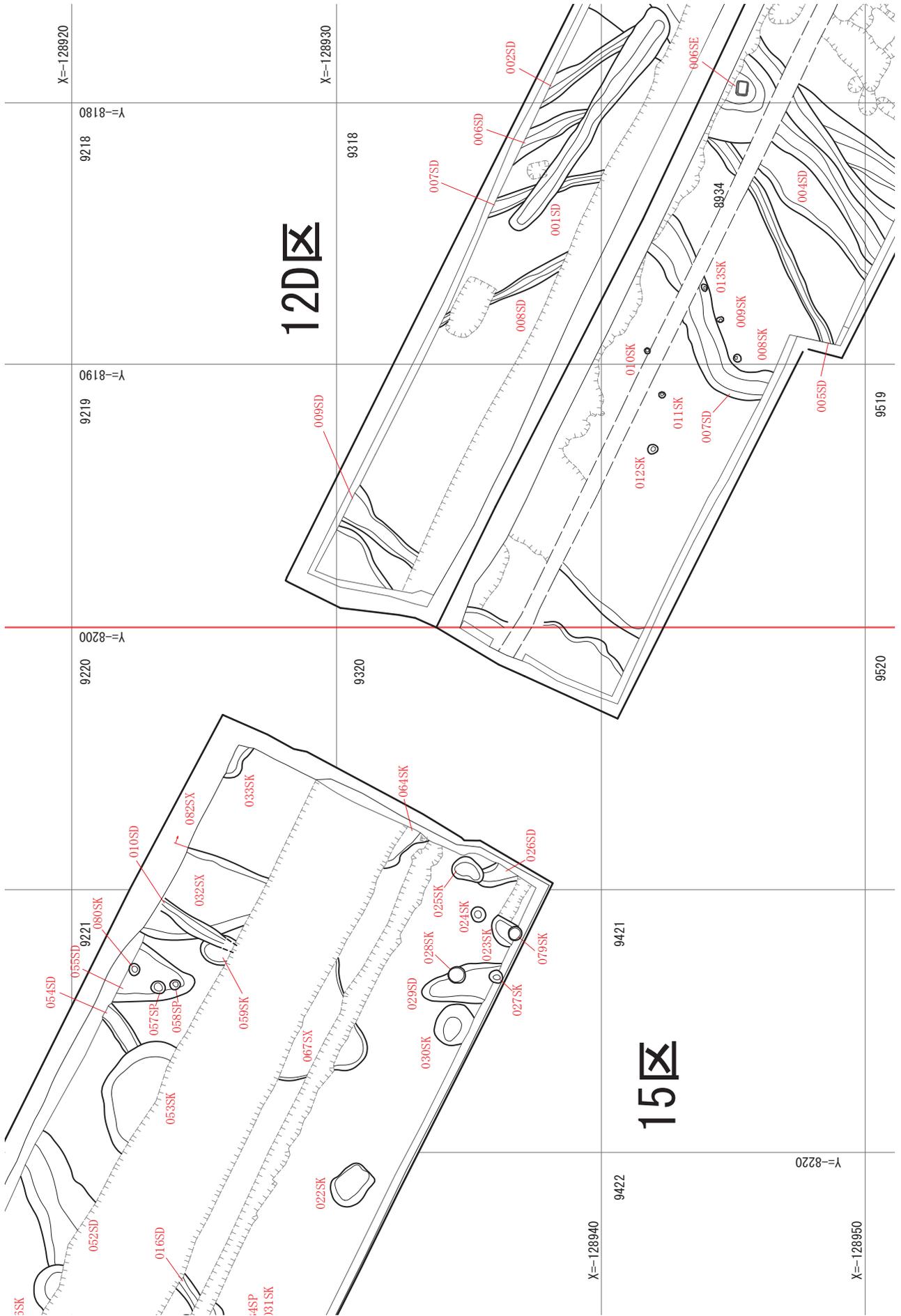


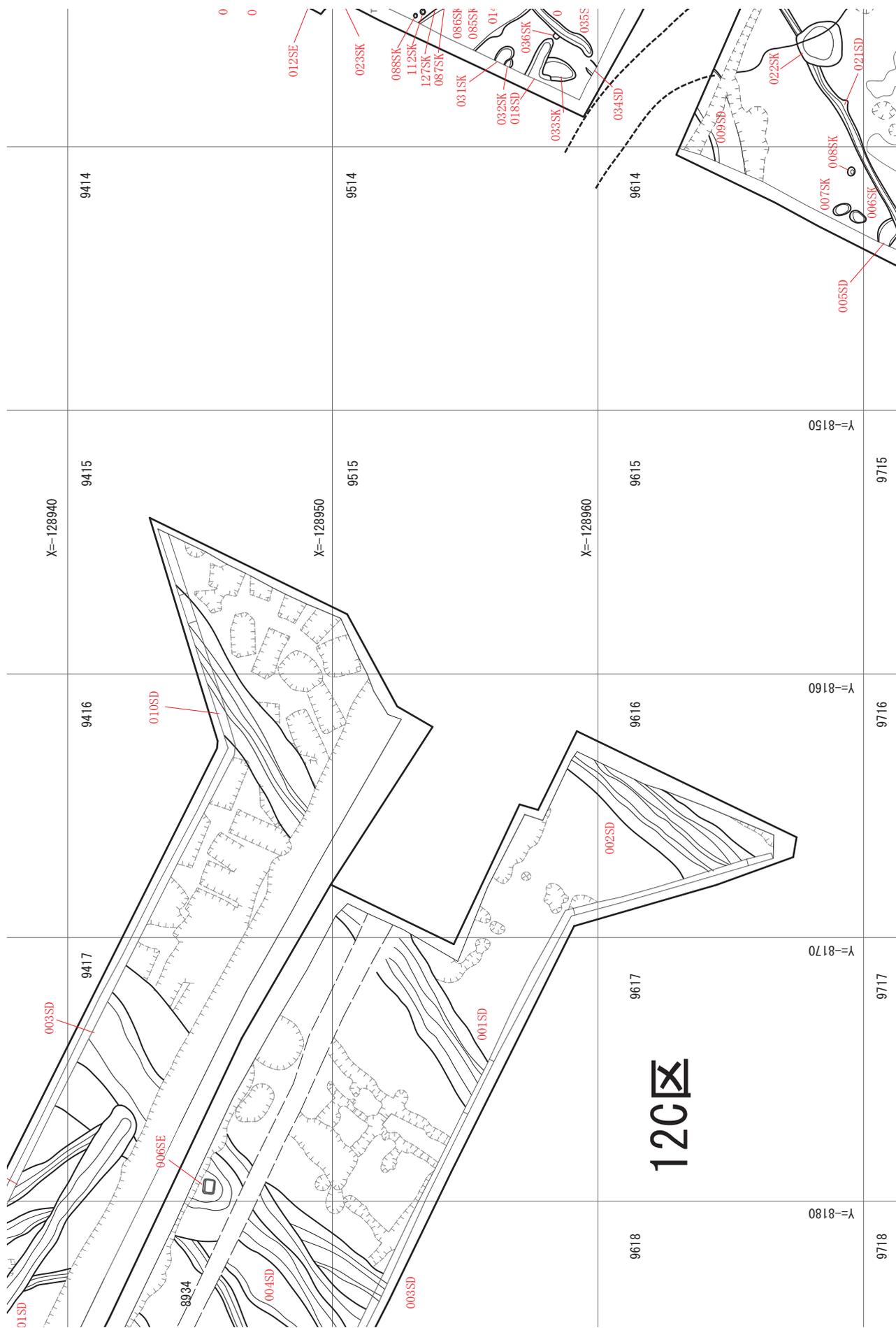


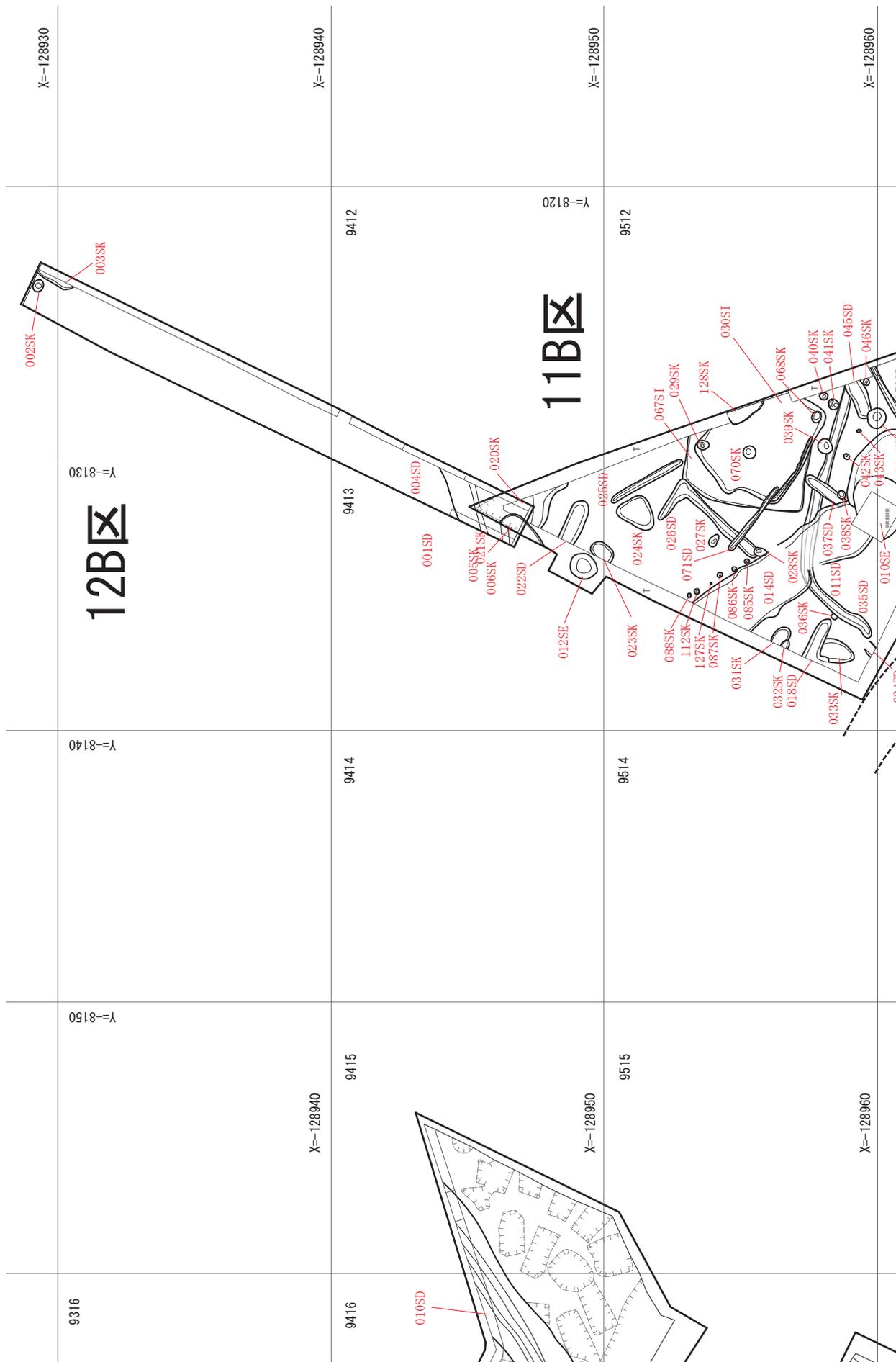


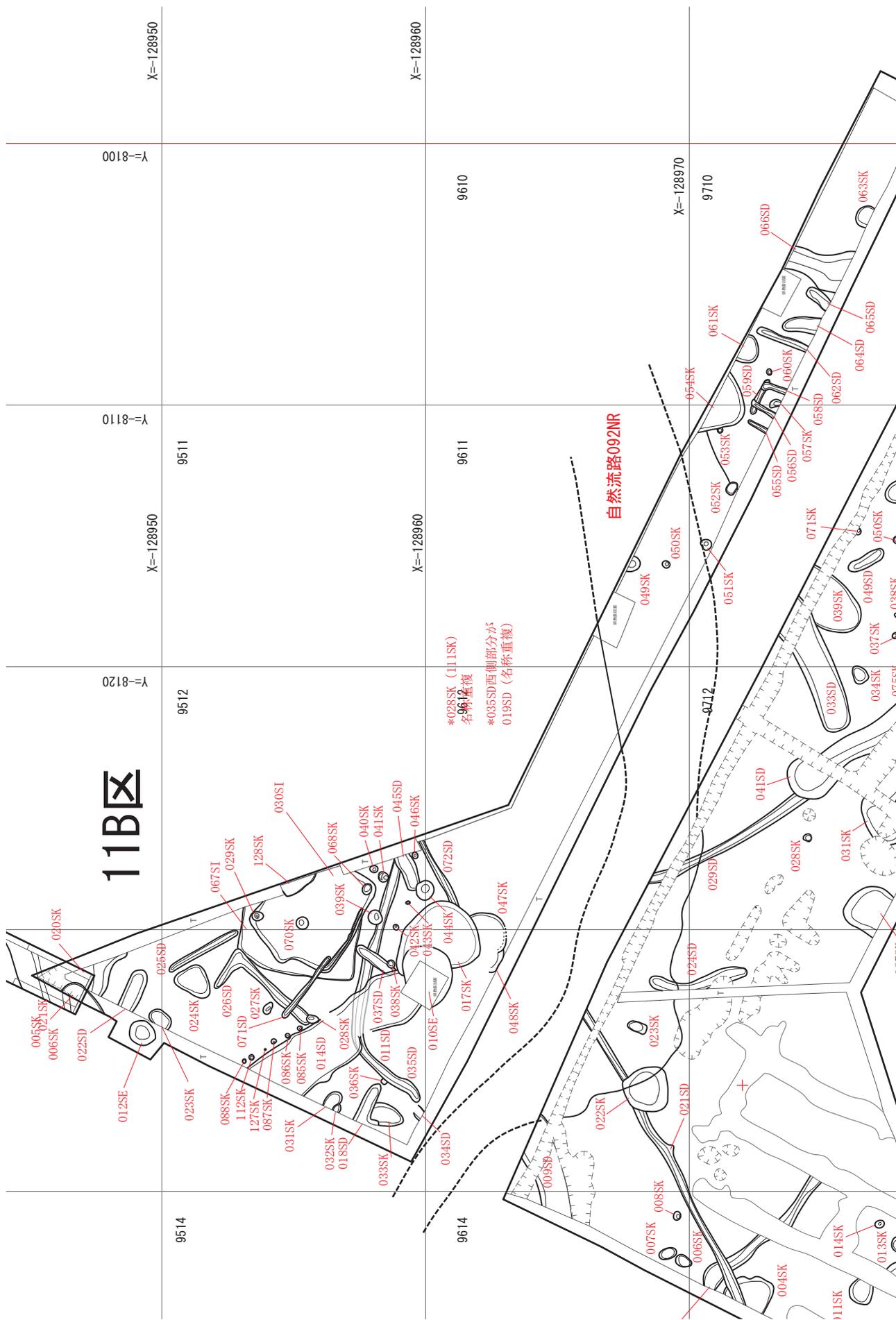










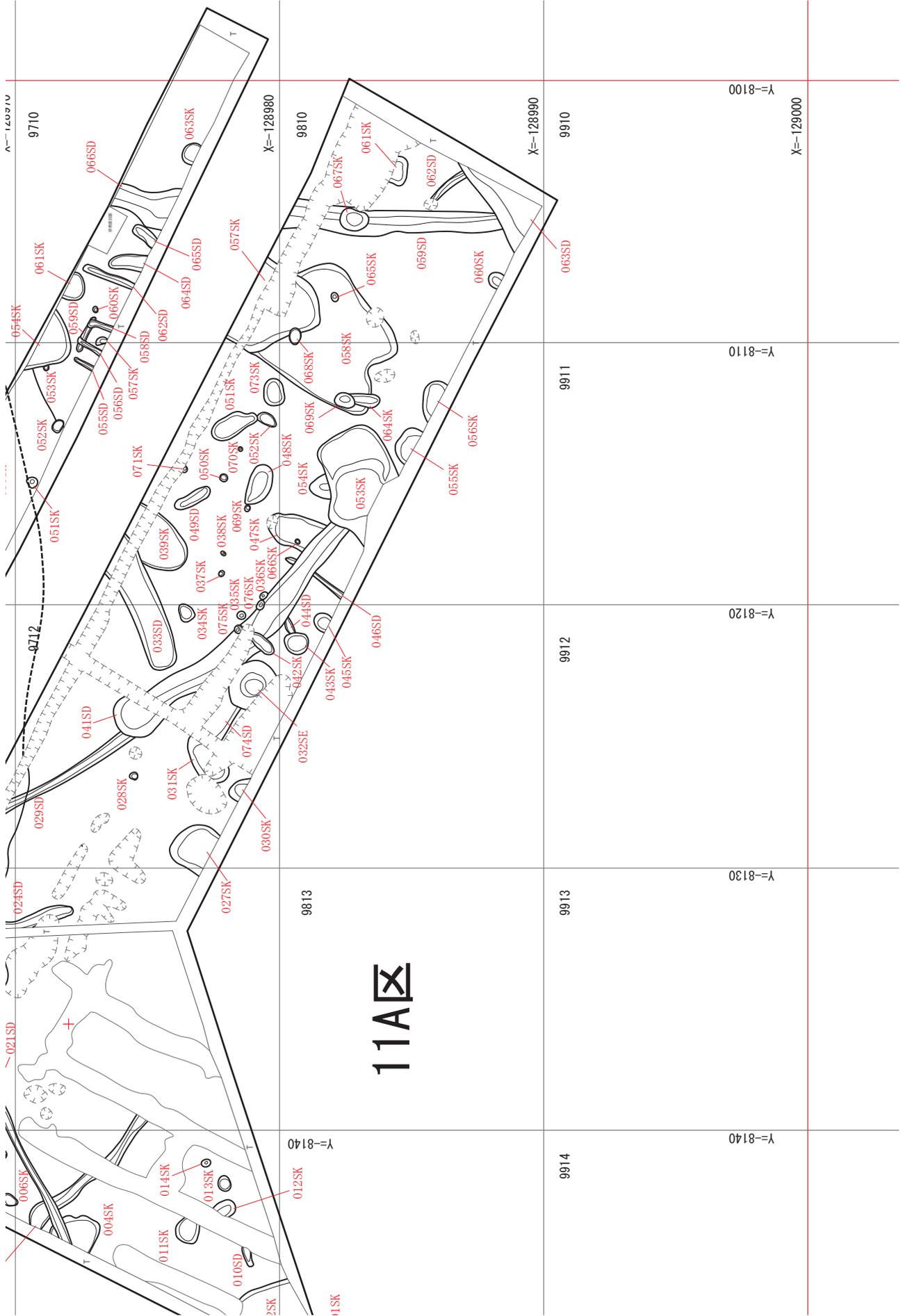


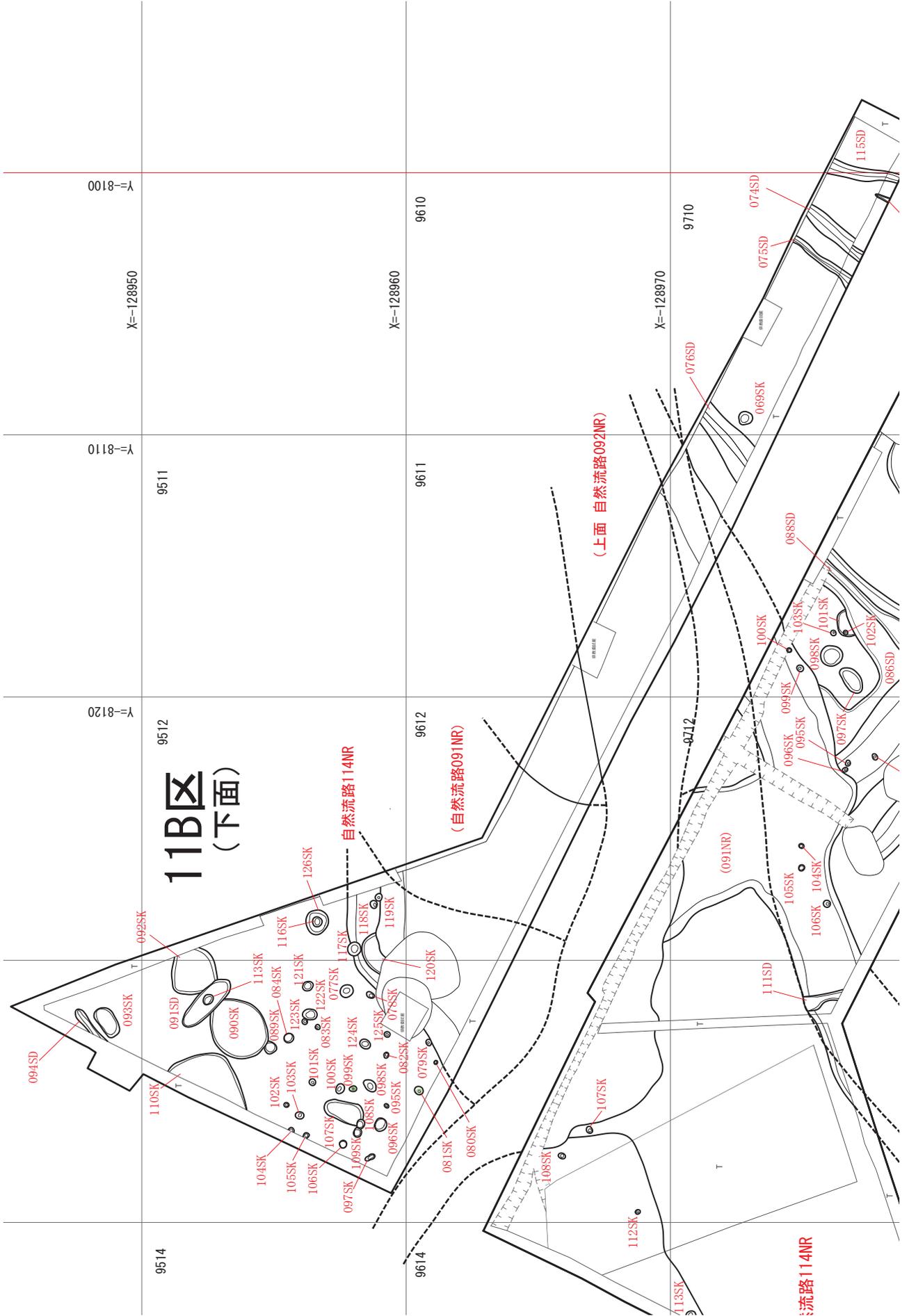
11B区

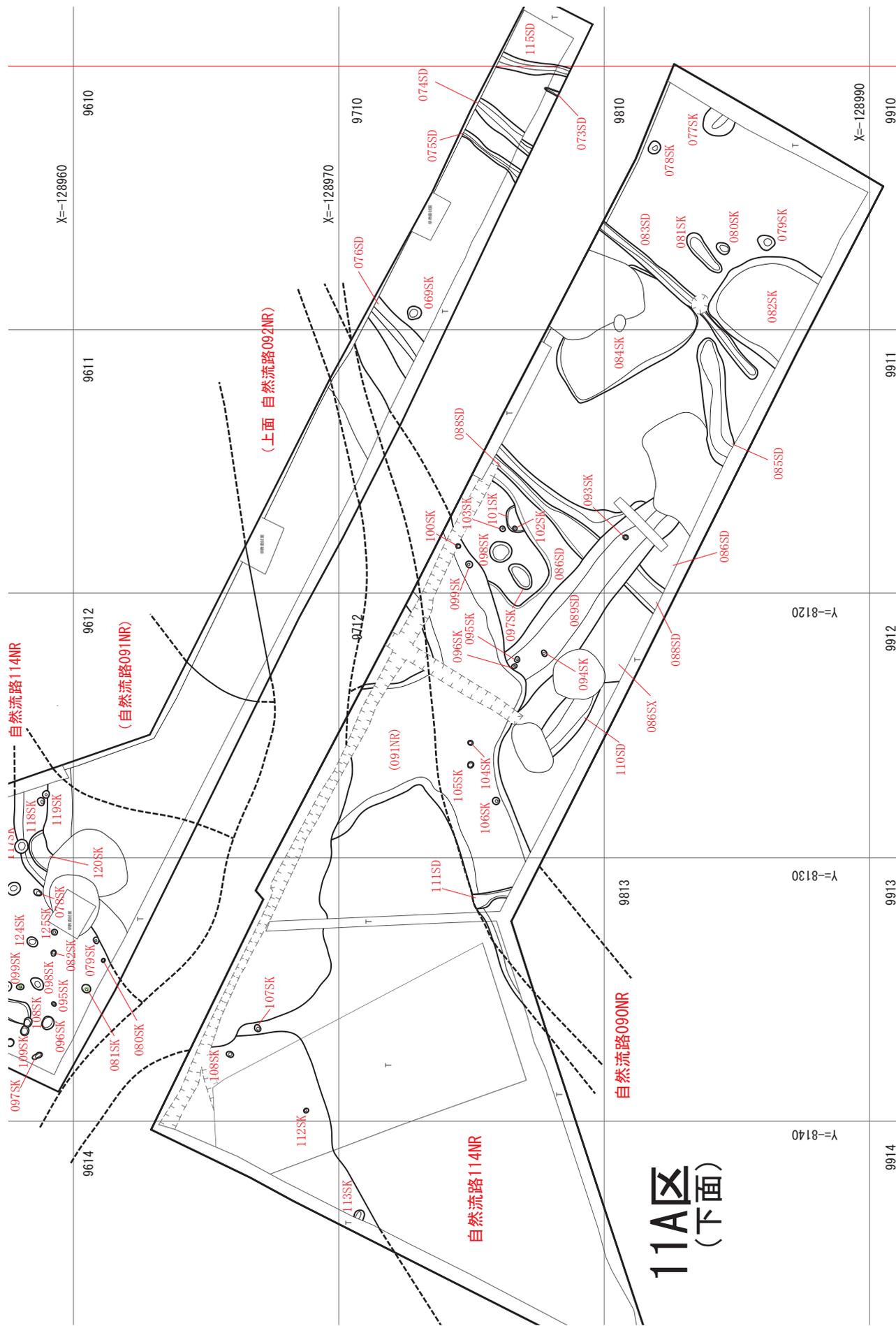
自然流路092NR

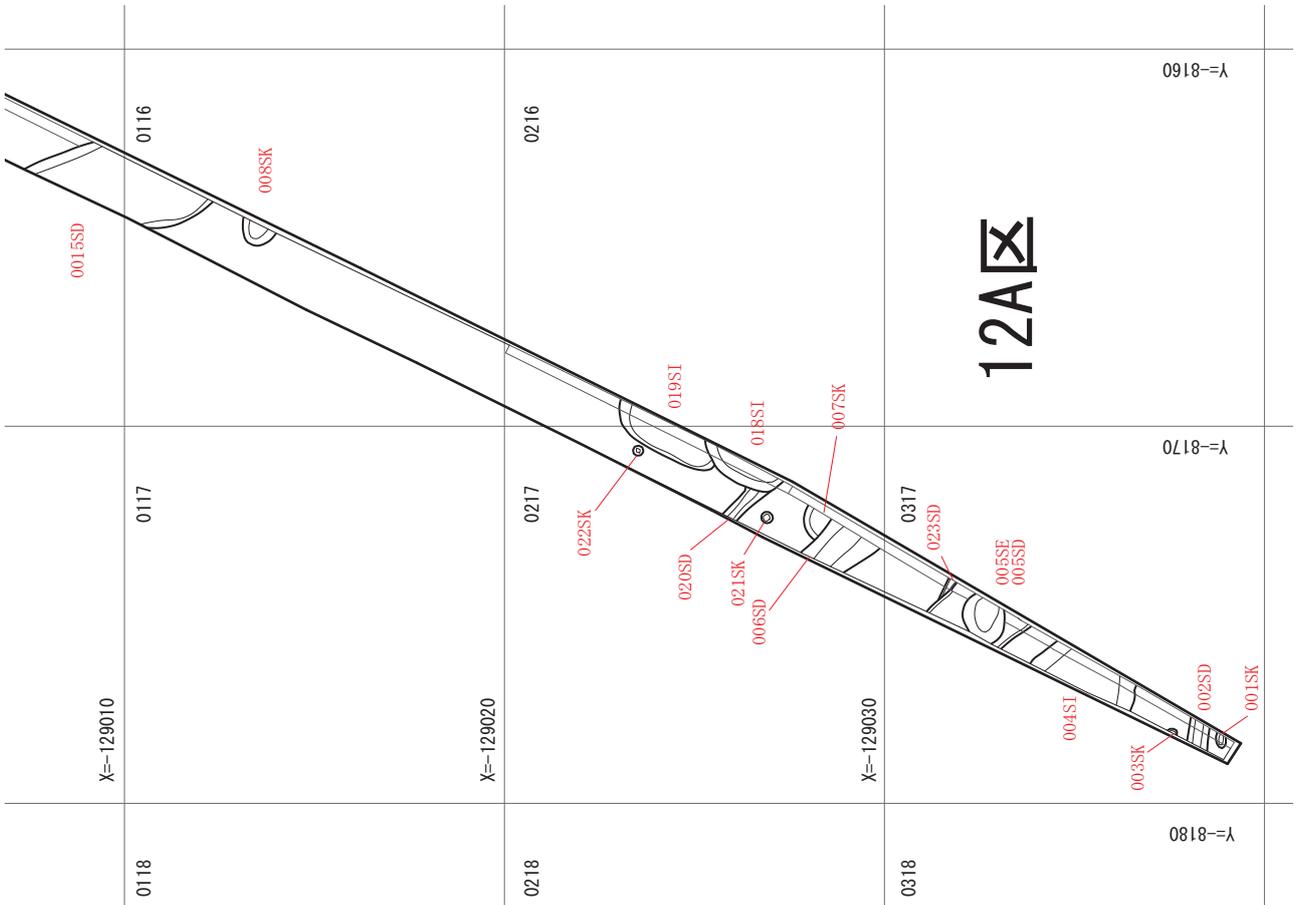
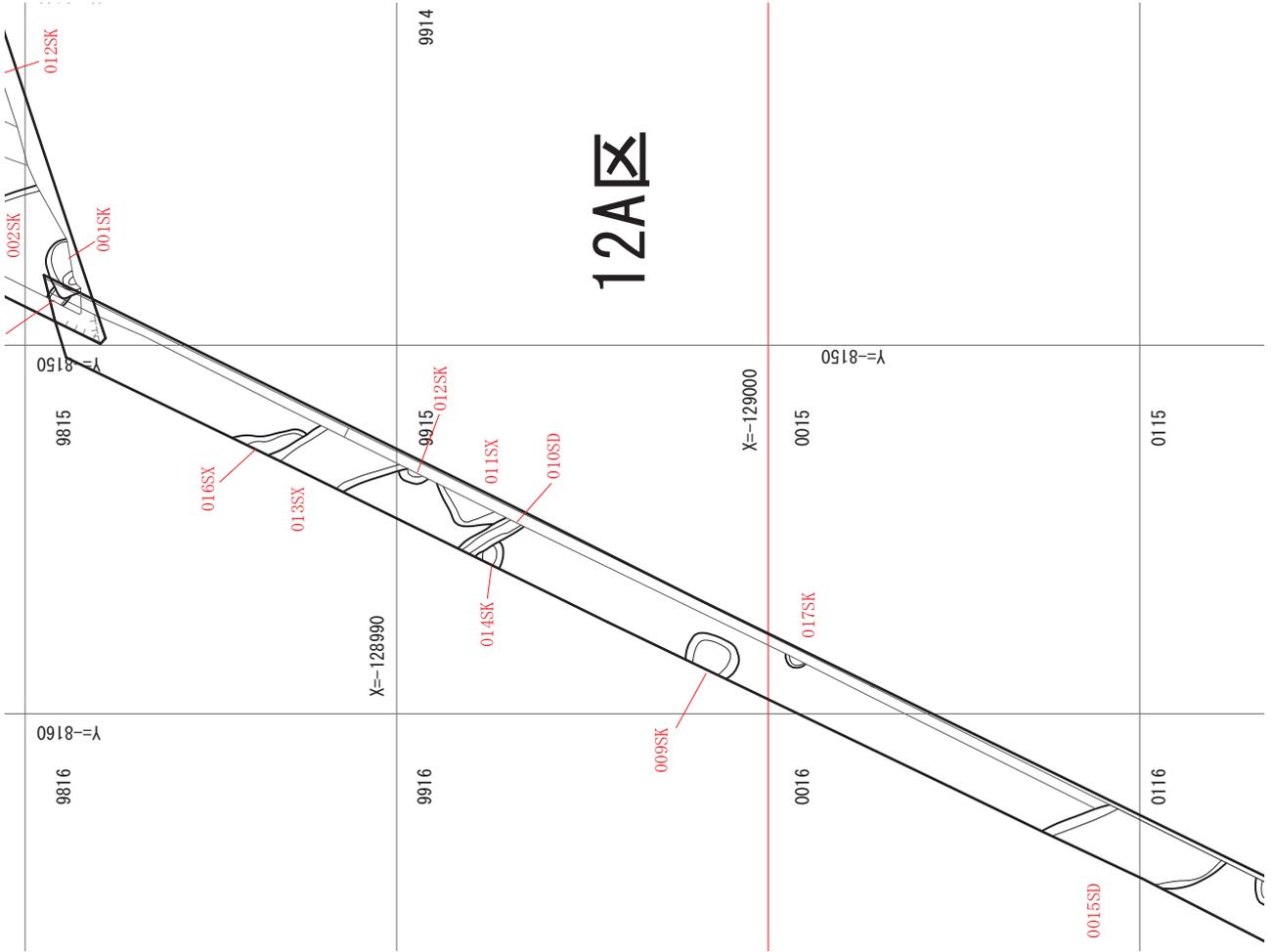
*028SK (111SK)
名称重複

*035SD西側部分が
019SD (名称重複)









登録遺物一覽表

1

E-no.	器種	型式	時期・備考	調査区	遺構番号	グリッド	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率・口 /12	残存率・底 /12
1	土器甕		古墳時代早期～前期	11A	039SK	9711K	(20.0)	-	(8.1)	3	-
2	土器甕		古墳時代早期～前期	11A	088SD	9711P	(16.6)	-	(14.9)	3	-
3	土器甕			11A	088SD	9711P	-	5.0	(3.3)	-	12
4	土器甕		古墳時代早期～前期	11A	086SX	9711P	-	10.0	(11.7)	-	9
5	土器鉢		古墳時代早期～前期	11A	086SX	9811B	(12.0)	-	(5.5)	5	-
6	土器甕		古墳時代早期～前期	11A	069SK	9811I	-	7.7	(18.6)	-	12
7	土師器壺		古墳時代早期～前期	11A	092NR	9613M	(14.4)	-	(4.3)	1	-
8	土器鉢		古墳時代早期～前期	11A	089SD	9811B	(15.8)	-	(10.1)	2	-
9	土器台付鉢		古墳時代早期～前期	11A	041SD	9712M	(12.0)	-	(10.6)	4	-
10	土器壺		古墳時代早期～前期	11A	058SK	9711Y	-	1.5	(6.9)	-	12
11	土器甕		弥生時代後期～古墳時代早期	11A	091NR	9712C	-	-	(8.5)	-	-
12	土師器高杯	松河戸式	古墳時代前期	11A	091NR	9712H	(15.8)	-	(6.5)	10	-
13	土師器高杯	松河戸式	古墳時代前期	11A	091NR	9712M	-	(13.2)	(6.8)	-	4
14	土師器高杯	松河戸式	古墳時代前期	11A	091NR	9712H	-	(11.0)	(5.5)	-	2
15	土師器高杯	松河戸式	古墳時代前期	11A	091NR	9712L	-	(10.0)	(7.6)	-	2
16	土器鍋	伊勢型鍋	平安時代	11A	032SE NO.2	9712S	(12.3)	-	(3.3)	2	-
17	土器鍋	伊勢型鍋	平安時代	11A	032SE第1層	9712S	(14.4)	-	(3.4)	1	-
18	土器壺	古井式	弥生時代中期	11B	114NR	9612N	(24.0)	-	(3.5)	1	-
19	土器壺		弥生時代中期?	11B	114NR	9612P	-	-	(3.6)	-	-
20	土器壺	古井式	弥生時代中期	11B	114NR	9612P	-	-	(5.4)	1	-
21	土器S字状口縁台付甕	廻間式	古墳時代早期～前期	11A	027SK	9712P	-	(9.2)	(6.2)	-	4
22	土器壺	瓜郷式	弥生時代中期	11B	039SK	9513T	-	-	(3.1)	1	-
23	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	11A	053SK	9811C	-	-	(8.1)	-	-
24	土器甕		古墳時代早期～前期	11A	-	9711M	(18.5)	-	(22.5)	3	-
25	土器甕		古墳時代早期～前期	11A	-	9711V	(17.8)	-	(14.5)	2	-
26	土器甕	廻間式	古墳時代早期～前期	11A	-	9713G	(15.0)	-	(4.3)	4	-
27	土器加飾壺	廻間式	古墳時代早期～前期	11A	-	9814A	(9.9)	-	(1.9)	1	-
28	土器壺		古墳時代早期～前期	11A	-	9814A	-	4.0	(7.9)	-	12
29	土器壺		弥生時代中期	11A	-	9814A	-	-	(7.1)	-	-
30	土器壺		古墳時代早期～前期	11A	-	9711S	-	4.4	(14.3)	-	12
31	土器壺		古墳時代早期～前期	11A	-	9810P	(11.8)	丸底	14.3	5	12
32	土器甕		古墳時代早期～前期	11B	076SD	9611Y	(14.4)	-	(5.3)	2	-
33	土器甕		古墳時代早期～前期	11B	089SK	9811A	(12.0)	-	(5.0)	1	-
34	土器直口壺	廻間式	古墳時代早期～前期	11B	069SK	9710F	10.2	3.6	14.5	6	12
35	土器鉢		古墳時代早期～前期	11B	001SD	9711J	11.9	(2.4)	4.3	4	6
36	土器高杯	廻間式	古墳時代早期～前期	11B	001SD	9710K	19.4	-	(5.5)	7	-
37	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	11B	121SK	9513T	-	(10.6)	(5.1)	-	4
38	土器鉢		古墳時代早期～前期	11B	-	9513X	(12.4)	1.6	4.4	1	12
39	土器甕		古墳時代早期～前期	12A	010SD	9915H	16.0	-	(15.0)	12	-
40	土器甕		古墳時代早期～前期	12A	010SD	9915H	-	-	(4.4)	-	-
41	土器甕		古墳時代早期～前期	12A	005SE	0317H	(18.7)	-	(4.2)	1	-
42	土器甕	廻間式	古墳時代早期～前期	12A	013SX	9815W	(13.7)	-	(2.2)	1	-
43	土器甕		古墳時代早期～前期	12A	005SD	0817H	-	(8.9)	(5.5)	-	4
44	土器壺	廻間式	古墳時代早期～前期	12A	019SI	0217E～0217O	-	4.8	(13.2)	-	12
45	土器壺		古墳時代早期～前期	12A	019SI	0217E	(9.6)	-	(6.0)	2	-
46	土器壺		古墳時代早期～前期	12A	019SI	0217E～0217O	-	-	(4.6)	-	-
47	土器甕		古墳時代早期～前期	12A	020SD	0217E	(13.0)	-	(3.7)	1	-
48	土器高杯	廻間式	古墳時代早期～前期	12A	004SI	0817H	24.5	-	(7.5)	4	-
49	土器器台?			12A	018SI	0217E	-	-	(1.8)	1	-
50	土器手焙り形土器?		古墳時代早期?	12A	018SI	0217E	-	-	(2.3)	-	-
51	土器高杯	廻間式	古墳時代早期～前期	12B	検出1	9413E	-	-	(5.7)	-	-
52	土器甕	古井式	弥生時代中期	12A	検出2	0217W	(18.0)	-	(5.3)	1	-
53	土器甕		古墳時代早期～前期	12A	検出2	0217W	(21.0)	-	(2.5)	1	-
54	土器甕		古墳時代早期～前期	12A	検出2	0217W	(19.0)	-	(5.3)	2	-
55	土器甕		古墳時代早期～前期	12A	検出1	0016V～0016X	(16.6)	-	(2.7)	2	-
56	土器壺		古墳時代早期～前期	12A	検出2	0217W	-	4.0	(2.9)	-	12
57	土器高杯	廻間式	古墳時代早期～前期	12A	検出2	0217N	(19.0)	-	(3.5)	6	-
58	土器甕		古墳時代早期～前期	12A	検出1	0015A	-	-	(4.2)	-	-
59	土器高杯	廻間式	古墳時代早期～前期	12A	サブトレンチ	9815W	-	-	(4.2)	-	-
60	土器甕		古墳時代早期～前期	12C	004SD	9418X	(13.8)	-	(5.6)	4	-
61	土器甕		古墳時代早期～前期	12C	004SD	9417K	(18.0)	-	(7.7)	2	-
62	土器甕			12C	005SD	9418N	(12.6)	-	(3.5)	1	-
63	土器壺			12C	005SD	9418N	-	(5.0)	(2.9)	-	5
64	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	012SK	9419C	-	-	(4.8)	-	5
65	土器S字状口縁台付甕	廻間式	古墳時代早期～前期	12C	検出1	9516Q	(13.7)	-	(3.8)	1	-
66	土器加飾壺	廻間式	古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	(12.8)	-	(6.3)	2	-
67	土器加飾壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	18.0	-	(5.5)	12	-
68	土器壺	廻間式	古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	(13.6)	-	(5.3)	1	-

E-no.	器種	型式	時期・備考	調査区	遺構番号	グリッド	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率・口径/12	残存率・底径/12
69	土器甕		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	14.2	-	(21.6)	10	-
70	土器甕		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	13.0	-	(13.7)	12	-
71	土器甕		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418N	11.6	-	(13.4)	11	-
72	土器S字状口縁台付甕	廻間式	古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	12.0	-	7.0	12	-
73	土器高杯	廻間式	古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	-	(9.8)	(2.9)	-	1
74	土器甕		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418N	-	9.0	5.0	-	12
75	土器甕		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	-	8.1	(5.9)	-	7
76	土器甕		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	-	(9.0)	(5.6)	-	6
77	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	(12.4)	-	(4.4)	7	-
78	土器壺	廻間式	古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	11.5	3.8	14.3	5	12
79	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	(13.4)	-	(4.2)	5	-
80	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418N	14.0	-	5.8	9	-
81	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	(10.4)	-	(10.8)	3	-
82	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	10.4	(5.0)	16.0	12	6
83	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418N	(12.0)	-	(9.5)	2	-
84	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	(10.6)	-	(6.8)	2	-
85	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	-	(4.0)	(3.1)	-	6
86	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	-	6.4	(4.6)	-	12
87	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	(7.6)	丸底	9.6	2	12
88	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	-	3.6	(5.2)	-	12
89	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	-	3.2	(6.3)	-	12
90	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	-	3.0	(5.0)	-	12
91	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418N	(11.2)	-	(5.8)	1	-
92	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	(10.4)	丸底	7.5	3	12
93	土器高杯	廻間式	古墳時代前期	12C	003SD	9418X	(15.0)	(9.6)	11.3	2	5
94	土器高杯	廻間式	古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	16.0	11.2	14.9	12	12
95	土器高杯	廻間式	古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	-	(13.0)	(7.8)	-	5
96	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	12C	003SD	9418X	(16.2)	-	(5.8)	3	-
97	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	12C	003SD	9418X	(14.8)	-	(5.2)	6	-
98	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	12C	003SD	9418N	(14.0)	-	(5.2)	6	-
99	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	12C	003SD	9418X	(12.8)	-	(4.7)	3	-
100	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	12C	003SD	9418X	-	-	(7.7)	-	-
101	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	12C	003SD	9418X	-	-	(8.5)	-	-
102	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	12C	003SD	9418X	-	-	(8.7)	-	-
103	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	12C	003SD	9418N	-	-	(7.6)	-	-
104	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	12C	003SD	9418X	-	-	(8.0)	-	-
105	土器高杯	廻間式	古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418N	11.8	8.4	7.5	1	8
106	土器高杯	廻間式	古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	-	(9.8)	(7.8)	-	6
107	土器壺		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418N	-	(7.4)	(5.7)	-	1
108	土器高杯		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	-	(6.3)	(5.0)	-	4
109	土器台付鉢		古墳時代早期～前期	12C	003SD	9418X	-	-	(5.3)	-	-
110	土器壺		古墳時代早期～前期	12D	003SD	9417C	(9.2)	-	(5.9)	4	-
111	土器壺		古墳時代早期～前期	12D	003SD	9417C	-	7.5	(4.2)	-	12
112	土器S字状口縁台付甕	廻間式	古墳時代早期～前期	12D	009SD	9219W	(13.2)	-	(5.3)	4	-
113	土器壺	古井式	古墳時代早期～前期	12D	009SD	9219W	(16.0)	-	(2.8)	4	-
114	土器壺		古墳時代早期～前期	12D	010SD	9416N	(13.7)	-	(4.2)	5	-
115	土器加飾壺	廻間式	古墳時代早期～前期	12D	検出1	9416X	(16.8)	-	(5.0)	3	-
116	土器甕		古墳時代早期～前期	12D	検出1	9415K	20.2	-	(4.5)	7	-
117	土器S字状口縁台付甕		古墳時代早期～前期	12D	検出1	9219V	-	-	(3.4)	-	-
118	土器高杯		古墳時代早期～前期	12D	検出1	9417C	-	-	(8.6)	-	-
119	土器壺		古墳時代早期～前期	12D	検出1	9415U	-	(5.0)	(2.1)	-	2
120	土器甕		古墳時代早期～前期	15	068SK	910235	16.8	-	(19.0)	12	-
121	土器壺		古墳時代早期～前期	15	耕作痕	930215	(9.3)	3.5	9.25	1	12
122	土器高杯		古墳時代早期～前期	15	包含層	910245	(16.0)	-	(3.5)	1	-
123	土器甕		古墳時代早期～前期	15	南撓乱	-	-	-	(3.3)	-	-
124	土器鉢		古墳時代早期～前期	15	北撓乱	-	-	-	(3.7)	1	-
125	土器甕		古墳時代早期～前期	15	TT25 4～5層	-	(18.0)	-	(4.7)	2	-
126	土器壺		古墳時代早期～前期	16A	撓乱	7848	-	(7.2)	(3.9)	-	1
127	土器壺	瓜郷式	弥生時代中期	16B	006SK	8243	-	-	(2.8)	-	-
128	土器壺	古井式	弥生時代中期	16B	006SK	8243	-	-	(2.0)	-	-
129	土器壺	古井式	弥生時代中期	16B	011SK	8144	(14.1)	-	(1.2)	2	-
130	土器甕	古井式	弥生時代中期	16B	011SK	8144	-	(7.0)	(5.1)	-	3
131	土器内傾口縁鉢		弥生時代中期	16B	撓乱	-	-	-	(4.4)	-	-
132	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16C	005SD	8436	-	11.0	(2.0)	-	10
133	土器壺		古墳時代早期～前期	16C	006SD	8436K	(14.0)	-	(25.0)	5	-
134	土器壺		古墳時代早期～前期	16C	006SD	8436K	(12.6)	-	(17.0)	11	-
135	土器壺		古墳時代早期～前期	16C	006SD	84370	(13.8)	-	(15.2)	4	-
136	土器甕		古墳時代早期～前期	16C	006SD	8436K	(14.4)	-	(22.8)	10	-
137	土器甕		古墳時代早期～前期	16C	006SD	8436F	(15.4)	丸底	21.7	2	12
138	土器鉢		古墳時代早期～前期	16C	006SD	84370	(16.0)	3.5	(17.1)	4	12
139	土器壺		古墳時代早期～前期	16C	006SD	8436K	(7.7)	0.3	8.1	5	12
140	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16C	006SD	8436F	-	-	(5.3)	-	-
141	土器甕		古墳時代早期～前期	16C	077SD	8537F	(14.6)	-	(14.4)	6	-

登録遺物一覽表

3

E-no.	器種	型式	時期・備考	調査区	遺構番号	グリッド	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率・口/12	残存率・底/12
142	土器甕		古墳時代早期～前期	16C	077SD	8538E	(16.0)	-	(6.4)	2	-
143	土器壺		古墳時代早期～前期	16C	077SD	8538・8537	-	9.5	(3.0)	-	12
144	土器甕		古墳時代早期～前期	16C	077SD	8537A	(9.2)	-	(12.4)	10	-
145	土器壺		古墳時代早期～前期	16C	077SD	8538E	9.3	丸底	8.1	11	12
146	土器器台		古墳時代早期～前期	16C	077SD	8537B	-	(10.1)	(4.8)	-	11
147	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16C	077SD	8537B	-	-	(7.6)	-	-
148	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16C	077SD	8537・8538	(17.0)	-	(5.3)	3	-
149	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16C	077SD	8537A	-	-	(8.9)	-	-
150	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16C	077SD	8537B	-	(12.0)	(8.8)	-	1
151	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16C	077SD	8538E	-	(10.5)	(8.2)	-	6
152	土器甕		古墳時代早期～前期	16D	026SD	8632	(16.0)	-	(19.0)	1	-
153	土器壺		古墳時代早期～前期	16D	026SD	8632	(21.2)	-	(4.6)	1	-
154	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16D	052SD	8632	-	-	(7.0)	-	-
155	土器甕		古墳時代早期～前期	16D	085SK	8534	-	-	(6.3)	1	-
156	土器鉢		古墳時代早期～前期	16D	090SK下層	8534	15.9	3.0	7.6	12	12
157	土器壺		古墳時代早期～前期	16D	090SK上層	8534	(7.0)	-	(5.6)	5	-
158	土器手捏ね土器			16D	090SK	8534	(3.6)	-	(4.8)	3	-
159	土器鉢		古墳時代早期～前期	16D	19層	8633	(14.0)	-	(5.5)	1	-
160	土器壺		古墳時代早期～前期	16D	検出	8731	-	-	(3.2)	-	-
161	土器加飾壺	松河戸式	古墳時代前期	16E	033SU	8928	17.4	(6.0)	29.2	9	3
162	土器壺	松河戸式	古墳時代前期	16E	033SU	8928	(19.0)	-	(6.3)	9	-
163	土器壺	松河戸式	古墳時代前期	16E	033SU	8928	(16.9)	5.6	27.8	3	12
164	土器甕		古墳時代早期～前期	16E	033SU	8928	11.7	-	(14.5)	11	-
165	土器壺		古墳時代早期～前期	16E	033SU	8928	6.9	丸底	8.2	12	12
166	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	033SU	8928	-	-	(7.7)	-	-
167	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	033SU	8928	-	-	(6.9)	-	-
168	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	033SU	8928	14.6	9.8	10.4	10	12
169	土器高杯		古墳時代早期～前期	16E	033SU	8928	(15.0)	-	(3.4)	1	-
170	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	033SU	8928	15.6	-	(5.5)	3	-
171	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	033SU	8928	16.0	-	(5.0)	5	-
172	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	033SU 西の砂層	8928	14.8	10.8	11.5	12	11
173	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	033SU	8928	17.8	10.4	13.9	10	12
174	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	033SU	8928	15.6	10.7	12.4	12	10
175	土器壺		古墳時代早期～前期	16E	055SK	8927	(14.0)	-	(3.3)	1	-
176	土器壺		古墳時代早期～前期	16E	055SK	8927	-	-	(3.0)	-	-
177	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	055SK	8927	-	-	(7.0)	-	-
178	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	055SK	8927	-	17.2	(5.6)	-	6
179	土器甕		古墳時代早期～前期	16E	019SK	9028	(14.7)	-	(5.9)	3	-
180	土器壺		古墳時代早期～前期	16E	059SD	8927	(14.0)	-	(8.4)	3	-
181	土器壺	松河戸式	古墳時代前期	16E	39層	9026	15.4	丸底	27.2	10	12
182	土器壺		古墳時代早期～前期	16E	34層	8926	(22.0)	-	(4.5)	1	-
183	土器甕		古墳時代早期～前期	16E	面検出	8828	-	11.3	6.5	-	3
184	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	表面精査	8829	-	(11.7)	(5.5)	-	1
185	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	面検出	9026	17.9	-	(5.0)	10	-
186	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	農水管確認深堀下層泥質土層	8928	(15.0)	-	(3.7)	1	-
187	土器鉢		古墳時代早期～前期	16E	43層(補足調査時)	8828	(12.6)	-	(4.5)	2	1
188	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	43層(補足調査時)	8828	-	(10.7)	(6.0)	-	3
189	土器高杯	松河戸式	古墳時代前期	16E	44層	8927	-	-	(7.8)	-	-
190	須恵器盤	0-10号窯式		11A	033SD	9711F	-	(8.7)	(1.5)	-	2
191	須恵器短頸壺	0-10号窯式?		11A	041SD/091NR	9712M	-	-	(9.0)	-	-
192	須恵器蓋		8世紀後半	11A	058SK	9811E	-	17.0	(2.2)	-	2
193	土器甕	三河型甕	奈良時代	11A	059SD	9810M	29.6	-	(10.95)	3	-
194	須恵器蓋	0-10号窯式		11A	053SK	9811C	(18.8)	-	(1.5)	1	-
195	須恵器盤	K-7号窯式?		11A	053SK	9811C	-	(9.0)	(1.5)	-	2
196	灰釉陶器碗	K-90号窯式		11A	053SK	9811C	-	(7.0)	(2.5)	-	5
197	灰釉陶器皿	0-53号窯式		11A	053SK	9811C	-	(7.0)	(1.9)	-	3
198	土器甕(把手付)			11A	029SD	9712H	-	-	(15.6)	-	-
199	須恵器無台杯	0-10号窯式		11A	057SK	9711T	-	(7.0)	(1.6)	-	1
200	須恵器有台杯		8世紀後半	11A	057SK	9711T	-	(8.8)	(1.1)	-	1
201	灰釉陶器碗	0-53号窯式		11A	057SK	9711T	-	(7.0)	(1.4)	-	5
202	土器甕(把手付)			11A	057SK	9711T	-	-	(2.8)	-	-
203	灰釉陶器碗	K-90号窯式		11A	032SE	9712S	-	(9.0)	(2.8)	-	3
204	灰釉陶器碗	0-53号窯式以降		11A	032SE(最下層)	9712S	(15.6)	-	(2.9)	2	-
205	灰釉陶器碗	0-53号窯式		11A	032SE第4層	9712S	-	(7.6)	(2.25)	-	2
206	灰釉陶器碗	H-72号窯式		11A	032SE No.1	9712S	17.0	3.7	7.1	1	12
207	灰釉陶器碗	H-72号窯式		11A	032SE	9712X	-	7.0	(1.6)	-	4

E-no.	器種	型式	時期・備考	調査区	遺構番号	グリッド	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率・口/12	残存率・底/12
208	灰種陶器段皿	K-90号窯式		11A	032SE (最下層)	9712S	-	(6.2)	(1.7)	-	6
209	灰種陶器皿	0-53号窯式		11A	032SE	9712S	12.6	6.0	2.35	?	?
210	土器甕	三河型甕	平安時代	11A	032SE	9712S	(23.8)	-	(4.5)	1	-
211	土器甕	三河型甕	平安時代	11A	032SE第1層	9712S	-	-	(2.6)	1	-
212	土器甕	三河型甕	平安時代	11A	032SE第4層	9712S	-	-	(2.0)	1	-
213	灰種陶器碗	H-72号窯式		11A	017SD	9713F	-	(6.4)	(1.9)	-	4
214	灰種陶器皿	H-72号窯式		11A	027SK	9713T	-	6.8	(1.6)	-	5
215	土錘			11A	009SD	9613K	長さ2.7	幅0.9	厚さ0.9 孔径0.4	重量 1.5g	
216	須恵器蓋	-		11A	表土剥ぎ	-	-	-	(1.4)	-	-
217	灰種陶器平瓶		9世紀代	11A	サブトレンチ	9712I	-	-	(4.0)	-	-
218	須恵器壺	0-10号窯式前後		11A	表土剥ぎ	-	4.0	-	(4.9)	7	-
219	灰種陶器皿	0-53号窯式		11A	-	9811M	-	6.6	(1.5)	-	12
220	灰種陶器碗	H-72号窯式		11A	表土剥ぎ	-	-	(9.0)	(2.2)	-	3
221	須恵器壺	H-11号窯式以前?		11B	066SD/030SI (B)	9710M	(18.0)	-	(6.4)	2	-
222	須恵器甕		8世紀代	11B	066SD	9710R	18.7	-	(5.8)	3	-
223	須恵器無台碗	C-2号窯式?	7世紀代	11B	066SD	9710M	15.4	5.2?	6.0	6	9
224	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	066SD	9710R	-	(10.0)	(2.3)	-	3
225	須恵器高杯		7世紀後半	11B	030SI (D)	9513J	-	9.8	(3.6)	-	2
226	須恵器高杯		7世紀後半	11B	030SI (A)	9513J	-	12.8	(1.4)	-	2
227	須恵器無台杯	0-10号窯式		11B	030SI	95130	-	6.0	(2.4)	-	6
228	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	030SI (D)	9513J	-	(10.4)	(3.5)	-	1
229	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	030SI/128SK	9512K	15.2	10.4	4.2	12	12
230	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	030SI	9512Q/9612N/9513J	14.0	9.8	4.2	?	?
231	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	030SI	9512P	16.0	11.8	3.4	2	4
232	須恵器杯			11B	030SI	9513J	15.0	-	(2.7)	2	-
233	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	030SI (C)	9513J	-	(13.0)	(2.0)	-	1
234	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	030SI (D)	9513J	-	(11.9)	(1.4)	-	4
235	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	030SI	9512P	-	(11.4)	(1.5)	-	6
236	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	030SI	9512P	-	11.4	(1.1)	-	7
237	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	030SI (A)	9513J	-	(11.0)	(1.4)	-	2
238	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	030SI	9512K	-	(9.6)	(1.2)	-	3
239	須恵器盤	NN-32号窯式		11B	030SI (A)	9513J	21.8	-	(2.0)	2	-
240	須恵器盤 (長脚)	0-10号窯式		11B	030SI (C)	9513J	-	-	(4.8)	-	-
241	須恵器蓋	NN-32号窯式		11B	030SI (A) (D) / 066SD	9513J/9512Q / 9513T/9710G	22.6	-	4.6	8	-
242	須恵器蓋	NN-32号窯式		11B	030SI	9513T	15.6	-	4.35	6	-
243	須恵器蓋	NN-32号窯式		11B	030SI	9513J	16.6	-	(2.1)	2	-
244	須恵器蓋		8世紀後半	11B	030SI (A)	9513J	16.0	-	(2.7)	2	-
245	須恵器蓋	0-10号窯式		11B	030SI (D)	9513J	22.8	-	(3.1)	2	-
246	須恵器蓋	0-10号窯式		11B	030SI (C)	9513J	14.2	-	(3.4)	2	-
247	須恵器碗	(口縁部小片)		11B	030SI	9513J	14.4	-	(3.2)	2	-
248	須恵器鉢 (平底)	0-10号窯式		11B	030SI (B)	9513J	14.8	-	(3.8)	2	-
249	土器甕	三河型甕	奈良・平安	11B	030SI	9512K	(28.0)	-	(2.5)	1	-
250	土器甕	三河型甕	奈良・平安	11B	030SI (A)	9513J	(24.0)	-	(3.8)	1	-
251	土器甕	三河型甕	奈良・平安	11B	030SI (C)	9513J	-	-	(3.8)	1	-
252	土器甕	三河型甕	奈良・平安	11B	030SI (C)	9513J	-	-	(4.6)	1	-
253	土器甕	三河型甕	奈良・平安	11B	030SI (D)	9513J	(19.0)	-	(4.9)	1	-
254	土器甕	三河型甕	奈良・平安	11B	030SI	9513J	(12.5)	-	(2.8)	1	-
255	製塩土器 (脚部)			11B	030SI	9513J	長さ(3.3)	幅1.5	厚さ1.4	-	-
256	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	067SI	9513J	15.7	11.7	3.45	3	3
257	須恵器蓋	NN-32号窯式		11B	070SK/030SI (A)	9512K	(18.0)	-	(3.0)	2	-
258	須恵器盤		8世紀後半	11B	070SK	9512K	(13.0)	-	(2.1)	1	-
259	須恵器壺・甕		8世紀後半	11B	022SD	9413W	-	-	(5.9)	1	-
260	灰種陶器皿	K-90号窯式		11B	022SD	9413W	-	(7.3)	(1.5)	-	3
261	土器甕	三河型甕	奈良・平安	11B	119SK	9512Q	(14.0)	-	(2.7)	1	-
262	須恵器坏身	I-17号窯式		11B	017SK	9613E	(10.0)	-	(1.4)	1	-
263	灰種陶器碗	0-53号窯式		11B	017SK	9613E	-	(8.4)	(1.7)	-	2
264	灰種陶器碗	0-53号窯式		11B	017SK	9613E	-	(7.0)	(2.5)	-	5
265	土器甕	三河型甕	奈良・平安	11B	017SK	9613E	(20.0)	-	(3.5)	1	-
266	土器甕	三河型甕	奈良・平安	11B	017SK	9613E	-	-	(2.8)	1	-
267	須恵器無台 (杯力碗)		8世紀後半	11B	063SK	9710S	14.0	5.6?	4.1	3	10
268	須恵器蓋		8世紀後半	11B	114NR	9612L	-	-	鈕径2.5	(3.1)	-
269	須恵器蓋		7世紀後半	11B	114NR	9612N	-	-	鈕径1.9	(1.6)	-
270	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	114NR	9611W	-	9.1	(1.0)	-	8
271	灰種陶器碗	K-90号窯式		11B	114NR	9611W	-	(6.2)	(2.1)	-	3
272	製塩土器	三河型鍋	平安時代	11B	114NR	9612P	長さ(3.0)	幅1.5	厚さ1.4	-	-

<< 土器・陶磁器類 >>

E-no.	器種	型式	時期・備考	調査区	遺構番号	グリッド	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率・口/12	残存率・底/12
273	土器鍋	三河型鍋	平安時代	11B	114NR	9611U	(20.0)	-	(2.0)	1	-
274	土器鍋	三河型鍋	平安時代	11B	検出2	9611W	(29.4)	-	(3.5)	1	-
275	土器鍋	三河型鍋	平安時代	11B	検出2	9611W	(21.0)	-	(3.3)	1	-
276	土器鍋	三河型鍋	平安時代	11B	検出2	9611W	-	-	(2.2)	1	-
277	製塩土器			11B	検出2	9512Q	長さ(3.3)	幅1.8	厚さ1.3	-	-
278	土器土鍾			11B	検出2	9611W	長さ(4.4)	幅1.0	厚さ0.9 孔径0.35	重量 4.4g	-
279	須恵器無台(金属器写し碗)	NN-32号窯式		11B	-	9512Q	(15.0)	(6.0)	4.3	3	2
280	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	検出2	9709P	16.0	11.2	3.8	1	3
281	須恵器有台杯(転用碗)	0-10号窯式		11B	検出2	9709P	13.4	10.6	3.6	1	9
282	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	-	9710S	-	(14.0)	(1.4)	-	2
283	須恵器有台杯	0-10号窯式		11B	-	9709P	-	9.4	(1.6)	-	9
284	須恵器蓋		8世紀後半	11B	サブトレンチ	9710S	-	-	(1.2)	-	-
285	須恵器蓋	0-10号窯式?		11B	-	9709P	14.0	-	(2.1)	3	-
286	須恵器盤	0-10号窯式		11B	-	9413S	15.4	8.0	2.6	3	7
287	須恵器盤(長脚)		8世紀後半	11B	-	9413X	-	-	(12.7)	-	-
288	須恵器鉢(平底)	0-10号窯式?		11B	検出2	9710I	18.0	-	(3.9)	2	-
289	灰釉陶器碗	K-14号窯式		11B	検出3	9612B	-	(8.0)	(2.5)	-	1
290	灰釉陶器短頸壺	K-14~K-90号窯式		11B	-	9613D	9.0	-	(3.8)	2	-
291	灰釉陶器碗?			11B	-	9613D	-	11.0	2.8	-	5
292	土器土鍾			11B	-	9710A	長さ(3.5)	幅1.0	厚さ1.0 孔径0.4	重量 3.8g	-
293	土器甕	三河型甕	平安時代	11B	-	9512F	(21.0)	-	(5.4)	2	-
294	土器鍋	三河型鍋	平安時代	11B	試掘坑	9710G	-	-	(2.3)	-	-
295	土器片(圧痕資料)	-	-	11B	サブトレンチ	9612L	-	-	(5.1)	-	-
296	灰釉陶器碗	0-53		12A	013SX/検出	9815W/0217W	16.0	-	(2.6)	2	-
297	山茶碗			12A	013SX	08150	-	7.45	(2.9)	-	12
298	須恵器蓋	0-10号窯式		12A	表土	-	16.6	-	(1.4)	1	-
299	須恵器盤		8世紀後半	12A	検出1	0016V~ 0016X	-	13.6	(1.7)	-	1
300	灰釉陶器段皿	K-90号窯式		12A	検出1	0015A	-	7.2	(1.4)	-	4
301	灰釉陶器碗	0-53号窯式		12A	検出1	9815W	-	8.0	(2.8)	-	2
302	灰釉陶器碗	0-53号窯式		12A	検出1	0117I	-	7.0	(1.5)	-	4
303	灰釉陶器(皿)	0-53号窯式		12A	検出1	0015A	-	6.0	(1.6)	-	3
304	須恵器盤	0-10号窯式		12B	001SD	94130	-	(9.2)	(2.1)	-	6
305	灰釉陶器碗	-		12B	001SD	94130	15.8	-	(2.2)	1	-
306	灰釉陶器碗	0-53号窯式		12B	001SD	94130	-	9.0	(1.8)	-	1
307	須恵器有台杯		8世紀代	12B	005SK	9413M	-	9.8	(3.1)	-	2
308	土器土鍾			12B	006SK	94130	長さ(5.1)	幅1.5	厚さ1.4 孔径0.5	重量 9.2g	-
309	須恵器短頸壺		8世紀後半	12B	攪乱	94130	-	-	(3.7)	-	-
310	須恵器盤(長脚)		8世紀後半	12B	検出1	9413E	-	-	(4.1)	-	-
311	須恵器長頸瓶		8世紀代	12B	検出1一括	-	-	10.2	(2.3)	-	2
312	土器甕	三河型甕	奈良・平安時代	12B	検出1	9413E	(22.6)	-	(5.5)	1	-
313	須恵器無台杯	0-10号窯式		12C	002SD	9616B	(13.0)	(6.7)	3.3	3	3
314	須恵器無台碗	NN-32号窯式		12C	002SD	9616D	(13.3)	(2.8)	(3.9)	4	10
315	須恵器有台杯	0-10号窯式		12C	004SD	9418X	15.0	11.2	3.4	1	2
316	須恵器有台杯	0-10号窯式		12C	004SD	9418N	-	13.7	(2.5)	-	9
317	灰釉陶器碗	K-90号窯式		12C	004SD	9418N	-	6.9	(2.4)	-	4
318	灰釉陶器碗	K-90号窯式		12C	004SD	9418N	-	6.8	(1.8)	-	2
319	灰釉陶器碗	0-53号窯式		12C	004SD	9418N	12.0	-	(2.9)	2	-
320	灰釉陶器皿	0-53号窯式		12B	001SD	-	-	(6.5)	(1.6)	-	4
321	土師器甕	-	平安時代	12C	001SD	9517H	(23.0)	-	(10.4)	2	-
322	灰釉陶器輪花碗	H-72号窯式?		12C	006SE	9418N	17.2	8.2	6.3	4	12
323	土器甕	三河型甕	平安時代	12C	006SE	9417K	(22.7)	-	(27.5)	1	-
324	土器土鍾			12C	003SD	9418X	長さ6.1	幅2.1	厚さ2.0 孔径0.8	重量 24.4g	-
325	須恵器蓋		8世紀後半	12C	検出2	9616D	(20.0)	-	(1.6)	1	-
326	須恵器盤		8世紀後半	12C	検出1	9418N	-	18.4	(1.3)	-	2
327	畿内系土師器皿		奈良時代	12C	検出1	9616B	(21.8)	-	(2.3)	1	-
328	須恵器水瓶	NN-32カ		12C	検出1	9417K	-	-	(5.4)	-	-
329	須恵器壺	-		12C	排土	-	-	(9.0)	(4.1)	-	4
330	須恵器有台杯	0-10号窯式		12D	007SD	9318S	-	(13.9)	(1.7)	-	3
331	須恵器有台杯	0-10号窯式		12D	001SD	9418D	(13.0)	-	(3.7)	1	1
332	須恵器坏蓋	I-17号窯式		12D	003SD	9417C	8.8	-	3.5	12	-
333	須恵器無台杯	0-10号窯式		12D	003SD	9417C	-	5.8	2.7	-	11
334	須恵器有台杯	0-10号窯式		12D	003SD	9417C	(14.0)	(10.0)	3.9	3	1
335	須恵器有台杯	0-10号窯式		12D	003SD	9417C	12.8	9.9	3.8	12	12

E-no.	器種	型式	時期・備考	調査区	遺構番号	グリッド	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率・口/12	残存率・底/12
336	灰釉陶器碗	-		12D	010SD	9416N	-	-	(1.5)	1	-
337	須恵器有台杯	0-10号窯式		12D	検出1	9417C	(14.8)	(11.0)	4.3	3	5
338	須恵器有台杯	0-10号窯式		12D	検出1	9417C	-	(10.6)	(1.8)	-	5
339	須恵器盤		8世紀後半	12D	検出1	9417C	-	-	(1.6)	1	-
340	灰釉陶器浄瓶	0-10号窯式 (K-7?)		12D	撿乱	9416X	-	-	(1.1)	-	-
341	灰釉陶器碗	H-72号窯式		12D	北壁サブトレ ンチ	-	-	(8.2)	(3.2)	-	3
342	須恵器皿	I-17号窯式		15	002SX	915225	-	-	(5.9)	-	-
343	土鍾 (大型)			15	002SX	910225	長さ4.2	幅4.1	厚さ1.8 孔径1.2	重量 44.0g	
344	土鍾 (大型)			15	002SX	915225	長さ11.0	幅3.9	厚さ3.2 孔径1.4	重量 58.7g	
345	土鍾 (大型)			15	002SX	910230	長さ11.0	幅3.9	厚さ4.0 孔径1.3	重量 181.1g	
346	加工円盤		中世以降瓦カ	15	002SX	915225	長さ3.5	短径3.4	厚み2.3	-	-
347	須恵器有台杯	0-10号窯式		15	005SW北	920215	-	11.0	(2.1)	-	3
348	灰釉陶器碗	K-90号窯式		15	005SW北	915220	-	(6.2)	(2.6)	-	5
349	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	005SW北	920215	-	(8.8)	(2.4)	-	3
350	緑釉陶器碗	K-90号窯式	(鳴海)	15	005SW	915220	-	(8.0)	(1.6)	-	1
351	灰釉陶器碗	K-90号窯式		15	005SW北	920215	-	(7.2)	(2.1)	-	5
352	灰釉陶器碗	K-90号窯式		15	005SW北	915215	-	(7.4)	(1.8)	-	2
353	灰釉陶器皿	K-90号窯式		15	005SW北	915220	-	(6.3)	(1.8)	-	1
354	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	005SW南	930215	-	(7.4)	(2.3)	-	6
355	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	005SW北	920215	-	(6.8)	(1.7)	-	2
356	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	005SW北	920215	-	6.7	(1.7)	-	?
357	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	005SW北	915220	-	(6.4)	(1.4)	-	3
358	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	005SW北	920215	-	(6.0)	(1.7)	-	1
359	灰釉陶器碗	H-72号窯式		15	サブトレ ンチ 920220・ 005SW内	915220	-	7.4	(1.9)	-	5
360	土器甕	三河型甕	平安時代	15	005SW北	915220	(21.0)	-	(3.2)	3	-
361	土器甕	三河型甕	平安時代	15	005SW北	915220	-	-	(4.6)	1	-
362	土器甕	三河型甕	平安時代	15	005SW北	915220	-	-	(3.5)	1	-
363	土器甕	三河型甕	平安時代	15	005SW北	920215	-	-	(2.5)	1	-
364	土器鍋	三河型鍋	平安時代	15	005SW北	920215	-	-	(2.3)	1	-
365	土器鍋	三河型鍋	平安時代	15	005SW北	920215	-	-	(1.9)	1	-
366	灰釉陶器長頸瓶	-		15	005SW北	915220	-	(10.3)	(3.0)	-	4
367	フイゴ羽口			15	005SW北	915215	長さ(6.0)	幅(4.5)	厚さ(2.4) 孔径(2.0)	-	-
368	灰釉陶器碗	K-90号窯式		15	006SW中	925210	-	6.2	(2.0)	-	11
369	土器片 (圧痕資料)			15	表土最下 ~ 006・007SW上 面	920205・ 925205・ 920210・ 925210	-	-	(2.4)	-	-
370	須恵器有台杯	0-10号窯式		15	007SW南	935210	11.0	7.8	3.3	1	5
371	灰釉陶器皿	K-90号窯式		15	007SW	930215	-	(7.8)	(1.7)	-	2
372	土器甕	三河型甕	平安時代	15	007SW北	925205	-	-	(2.0)	1	-
373	土器有台碗		内面黒色	15	011SK	925225	-	(7.0)	(2.5)	-	4
374	畿内系土師器皿	C-2号窯式以降		15	020SD	920230	(16.7)	(7.5)	(2.1)	2	-
375	須恵器短頸壺	NN-32号窯式	8世紀代	15	020SD	920230	10.0	-	(14.0)	1	-
376	土器甕	三河型甕	7世紀代?	15	020SD/016SD/ 060SK/062SX	920230	(21.6)	丸底	33.2	3	12
377	土器土鍾			15	020SD	920235	長さ9.3	幅4.2	厚さ4.1 孔径1.5	重量 160.0g	
378	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	032SX	920210	-	(7.0)	(2.2)	-	5
379	須恵器蓋		6世紀 (猿投窯でない)	15	035SI	905240	(14.0)	銚径 (3.25)	5.0	1	-
380	土器甕	伊勢型甕	奈良時代	15	035SI	905240	(21.9)	-	(3.5)	1	-
381	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	035SI西	905240	-	(7.0)	(2.4)	-	1
382	土器甕	伊勢型甕	奈良時代	15	043SK	905245	(21.0)	-	(13.0)	3	-
383	土器鍋	三河型鍋	平安時代	15	050SK	900245	-	-	(4.7)	1	-
384	土器無台碗		8世紀後半カ	15	054SD	920215	-	5.3	(2.2)	-	8
385	須恵器 (有台) 杯	0-10号窯式		15	053SK	920215	(13.8)	-	(3.3)	1	-
386	須恵器蓋	0-10号窯式		15	053SK	920215	(20.4)	-	(2.8)	1	-
387	須恵器短頸壺	I-41号窯式?		15	057SP	920210	-	-	(9.5)	-	-
388	須恵器無台杯	I-17号窯式	7世紀後半	15	056SK	915225	11.0	-	(4.1)	?	-
389	灰釉陶器皿	K-90号窯式		15	056SK	915220	-	(6.0)	(2.0)	-	4
390	土器甕	三河型甕	平安時代	15	056SK	915220	(29.0)	-	(5.1)	1	-
391	須恵器皿	I-15号窯式		15	061SD	920230	-	-	(5.2)	-	-
392	須恵器皿	I-17号窯式		15	061SD	920230	-	-	(6.5)	-	-

登録遺物一覽表

7

E-no.	器種	型式	時期・備考	調査区	遺構番号	グリッド	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率・口 /12	残存率・底 /12
393	土器甕	伊勢型甕	奈良時代	15	061SD	920230・925230	(20.8)	-	(20.4)	3	-
394	土鍾			15	TT16_001SK	-	長さ(5.5)	幅2.5	厚さ2.3 孔径0.8	重量 35.8g	-
395	須恵器無台杯	I-17号窯式		15	包含層下	925225	10.7	4.0	4.0	2	9
396	須恵器無台碗	NN-32号窯式		15	包含層	925225	11.0	7.2?	2.8	1	-
397	須恵器無台杯	NN-32号窯式		15	包含層	925225	-	6.6	(1.2)	-	12
398	須恵器無台碗	NN-32号窯式		15	包含層	920215	-	5.4	(1.8)	-	6
399	須恵器無台杯			15	包含層	925215	13.9	6.9	2.4	2	6
400	須恵器無台杯	0-10号窯式		15	包含層	920215	-	8.0	(2.1)	-	3
401	須恵器蓋	-		15	南攪乱	-	-	-	(1.9)	-	-
402	須恵器蓋	0-10号窯式		15	包含層	920215	-	-	(1.9)	-	-
403	須恵器蓋	0-10号窯式		15	包含層下	925225	-	-	(2.4)	-	-
404	須恵器盤	NN-32号窯式		15	包含層	915220	16.2	9.0	2.45	2	3
405	須恵器盤	0-10号窯式		15	包含層	925215	14.8	8.4	2.6	2	4
406	須恵器盤	0-10号窯式		15	包含層	925230	-	8.0	(2.0)	-	6
407	須恵器有台杯	0-10号窯式		15	包含層/035S1	920225	15.8	12.0	3.95	1	3
408	須恵器有台杯	0-10号窯式		15	包含層	920215	-	13.8	(2.9)	-	2
409	須恵器(盤力杯)	0-10号窯式		15	包含層	920215	-	14.8	(2.0)	-	4
410	須恵器長頸瓶	I-41号窯式		15	包含層	910245	-	(12.6)	(10.7)	-	2
411	須恵器瓶類	-		15	包含層	910250	-	(8.4)	(1.8)	-	2
412	須恵器長頸瓶		8世紀後半	15	包含層下	920220	-	3.9	(8.0)	-	12
413	須恵器長頸瓶	0-10号窯式		15	包含層	915220	-	8.2	(6.2)	-	7
414	須恵器長頸瓶	0-10号窯式		15	包含層	910250	-	8.4	(7.2)	-	3
415	須恵器長頸瓶	0-10号窯式		15	包含層上	925220	-	9.8	(7.5)	-	2
416	須恵器長頸瓶	0-10号窯式		15	包含層	915220	-	11.5	(4.6)	-	?
417	須恵器壺	-		15	包含層	915220	-	-	(2.1)	1	-
418	須恵器壺		8世紀後半	15	包含層上	925230	15.0	-	(5.4)	3?	-
419	須恵器壺		8世紀後半	15	包含層下	925225	20.6	-	6.45	?	-
420	須恵器壺			15	包含層	925230	(28.0)	-	(3.1)	1	-
421	灰釉長頸瓶?	-		15	包含層上	920220	-	-	(7.8)	-	-
422	緑釉陶器碗	K-90号窯式	(鳴海)	15	包含層	920215	-	7.8	(1.85)	-	1
423	緑釉陶器皿	K-90号窯式		15	本調査付近表 採	-	-	(6.6)	(1.2)	-	3
424	緑釉陶器碗?		猿投窯	15	包含層	920215	-	(5.2)	(1.2)	-	3
425	灰釉陶器碗	K-90号窯式		15	包含層	920215	-	7.2	(1.9)	-	5
426	灰釉陶器碗	K-90号窯式		15	包含層	910250	-	(8.0)	(2.0)	-	2
427	灰釉陶器碗	K-90号窯式		15	包含層	915220	-	7.0	(2.1)	-	2
428	灰釉陶器碗	K-90号窯式		15	包含層	925220	-	(7.2)	(2.1)	-	2
429	灰釉陶器碗	K-90号窯式		15	包含層	920215	-	7.0	(1.8)	-	2
430	灰釉陶器碗	K-90号窯式		15	包含層	925220	-	(6.2)	(2.0)	-	4
431	灰釉陶器段皿	K-90号窯式		15	中央攪乱	-	14.6	6.6	3.0	1	1
432	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	包含層	920215	-	(8.0)	(2.5)	-	6
433	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	包含層	915220	-	7.0	(2.2)	-	2
434	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	包含層	910250	-	(7.4)	(2.0)	-	5
435	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	包含層	920215	-	6.0	(1.5)	-	5
436	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	包含層	925220	-	(5.4)	(2.3)	-	2
437	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	包含層	915220	-	5.8	(1.2)	-	3
438	灰釉陶器皿	0-53号窯式		15	包含層	920215	13.4	6.8	2.7	1	3
439	灰釉陶器皿	0-53号窯式		15	包含層	920215	12.8	6.0	3.5	2	3
440	灰釉陶器皿	0-53号窯式		15	包含層	925225	13.8	6.0	2.4	3	4
441	灰釉陶器皿	0-53号窯式		15	包含層	920210	-	7.1	(1.85)	-	3
442	灰釉陶器皿	0-53号窯式		15	包含層	915220	-	7.0	(1.5)	-	3
443	灰釉陶器皿	0-53号窯式		15	包含層	925220	-	(6.9)	(1.3)	-	2
444	須恵器甕		8世紀後半	15	包含層下	920225	-	-	(4.0)	-	1
445	器種不明(瓦質)		古代	15	包含層	910250	-	8.6?	(2.7)	-	3
446	土器有台碗			15	包含層	910250	-	6.7	(1.5)	-	3
447	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	包含層	920210	-	7.0	(1.55)	-	8
448	灰釉陶器碗	K-90号窯式		15	包含層	925225	-	8.4	(1.8)	-	3
449	灰釉陶器碗	0-53号窯式		15	包含層	925225	-	7.0	2.9?	-	12
450	灰釉陶器碗力	?		15	包含層	930215	-	-	(1.3)	-	-
451	土器甕	伊勢型甕	奈良時代	15	包含層	920220	-	-	(3.4)	1	-
452	土器甕	伊勢型甕	古墳時代後期~古代	15	包含層	915220	(14.8)	-	(4.0)	1	-
453	土器甕	伊勢型甕	奈良時代	15	包含層	915225	(20.0)	-	(4.4)	2	-
454	土器甕	伊勢型甕	奈良時代	15	包含層	915220	(20.0)	-	(4.9)	1	-
455	土器甕(把手付)			15	包含層下	920230	-	-	(13.7)	-	-
456	土器甕	三河型甕	平安時代	15	包含層	910250	(24.0)	-	(4.6)	1	-
457	土器甕	三河型甕	平安時代	15	南攪乱	-	-	-	(4.0)	1	-
458	土器甕	三河型鍋	平安時代	15	包含層	915220	20.6	-	(3.8)	1	-
459	土器甕	三河型甕	平安時代	15	包含層	920220	-	-	(4.0)	1	-
460	土器甕	三河型鍋	平安時代	15	北攪乱	-	(22.2)	-	(3.5)	1	-
461	土器甕	三河型鍋	平安時代	15	北攪乱	-	(14.7)	-	(4.1)	1	-

E-no.	器種	型式	時期・備考	調査区	遺構番号	グリッド	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率・口 /12	残存率・底 /12
462	土器甕	三河型鍋	平安時代	15	包含層	915220	-	-	(3.7)	2	-
463	土器甕	三河型鍋	平安時代	15	包含層	925220	-	-	(2.2)	1	-
464	土器甕	三河型鍋	平安時代	15	包含層下	920225	-	-	(2.7)	1	-
465	土製品			15	包含層上	925230	長さ(4.3)	幅4.8	厚さ(3.8)	-	-
466	土製品		羽口	15	包含層	915220	長さ(4.0)	幅(3.7)	厚さ(2.2) 孔径(2.0)	-	-
467	土鉢 (大型)			15	南境乱	-	長さ(5.6)	幅3.9	厚さ(2.9) 孔径(1.4)	重量 52.7g	-
468	土鉢			15	包含層	915220	長さ3.9	幅1.1	厚さ1.0	重量 3.3g	-
469	土鉢			15	南境乱	-	長さ(3.3)	幅1.2	厚さ1.0 孔径0.5	重量 3.7g	-
470	灰釉陶器碗	K-14号窯式		16A	南トレンチ	8048	-	7.8	(1.1)	-	4
471	土器碗?		古代	16B	011SK	8144	-	6.5	(1.6)	-	8
472	須恵器托	0-10号窯式?		16B	南トレンチ	8342	-	10.6	2.5	-	3?
473	土器甕 (把手付)		古代	16C	006SD	8437・8436	長さ (4.9)	厚さ2.8	-	-	-
474	土器甕 (把手付)		古代	16D	023SD	8730k	長さ6.6	径4.2	-	-	-
475	須恵器提瓶		7世紀後半	16C	076SX	8340	-	-	(11.5)	-	-
476	須恵器長頸瓶			16C	083SD	8240	-	7.0	(2.1)	-	12
477	灰釉陶器碗	0-53号窯式		16C	011SI	8436X	-	7.4	(2.7)	-	3
478	土器甕	三河型甕	平安時代	16C	001SD	8436P	(24.5)	-	(3.8)	2	-
479	製塩土器			16C	攪乱	-	長さ(3.2)	幅1.1	厚さ1.1	-	-
480	須恵器坏蓋	I-17号窯式		16D	117SD	8633	11.1	-	3.9	1	-
481	須恵器坏蓋	I-17号窯式		16D	117SD	8633	12.4	-	3.3	2	-
482	須恵器坏身	I-17号窯式		16D	117SD	8633	9.0	(3.5)?	3.5	12	12
483	土師器高杯		7世紀代	16D	117SD	8633	11.9	6.8	6.4	10	10
484	須恵器蓋		7世紀前半	16D	079SX	8534	-	3.9	(1.7)	-	12
485	須恵器高杯カ		7世紀後半	16D	079SX	8534	11.0	-	3.4	2	-
486	須恵器壺			16D	051SI	8632	(12.4)	-	(5.0)	1	-
487	須恵器高杯		7世紀前半	16D	080SX	8635	-	-	(4.1)	-	-
488	須恵器短頸壺	I-41号窯式		16D	080SX 2区	8635	12.0	-	(4.5)	2	-
489	土器甕 (把手付)			16D	082SX	8734	長さ6.05	径3.7	-	-	-
490	須恵器坏身	H-15号窯式		16D	090SK	8534	9.7	2.85	4.0	10	12
491	須恵器坏身	I-17号窯式		16D	090SK	8534	10.0	-	(2.7)	2	-
492	須恵器有台碗		猿投窯でない	16D	090SK	8534	17.0	9.0	4.4	2	6
493	須恵器有台杯		8世紀後半	16D	090SK下層	8534	-	8.8	(1.5)?	-	10
494	須恵器甕	I-17号窯式		16D	090SK	8534	-	8.7	(3.1)	-	3
495	須恵器高杯		7世紀後半	16D	090SK	8534	-	(7.0)	(5.4)	-	1
496	フラスコ形瓶 (細頸瓶)	I-41号窯式		16D	090SK	8534	11.7	-	(10.7)	6	-
497	須恵器横瓶		7世紀代	16D	090SK	8534	-	-	(20.5)	-	-
498	須恵器壺			16D	090SK下層	8534	-	-	(7.0)	-	-
499	須恵器瓶		7世紀代	16D	090SK下層	8534	-	-	(1.2)?	-	-
500	製塩土器			16D	090SK下層	8534	長さ(6.4)	幅1.4	厚さ1.3	-	-
501	製塩土器 (脚部)			16D	090SK	8534	長さ(3.0)	幅1.4	厚さ1.3	-	-
502	土器甕	伊勢型甕		16D	090SK	8534	(14.6)	-	(3.9)	2	-
503	土器甕	三河型甕		16D	090SK	8534	(18.2)	-	(3.7)	1	-
504	土器甕	伊勢型甕	奈良時代	16D	090SK下層	8534	(31.0)	-	(4.3)	1	-
505	土器甕 (把手付)			16D	090SK下層	8534	21.0	丸底	13.8	11	12
506	土器甕			16D	090SK下層	8534	-	丸底	(8.1)	-	12
507	土器甕 (把手付)			16D	090SK上層	8534	31.6	-	22.6	4	-
508	須恵器有台杯	0-10号窯式		16D	008SX	8831	-	9.4	(1.0)	-	2
509	須恵器甕		8世紀後半以降	16D	008SX 4区	8831	-	13.6?	(5.3)	-	2
510	土器甕	三河型鍋	平安時代	16D	008SX 3区	8831	-	-	(1.8)	-	-
511	土器甕 (把手付)			16D	008SX	8831	長さ5.2	径3.7	-	-	-
512	須恵器蓋		8世紀後半	16D	026SD	8632	>(13.6)	-	(1.7)	?	-
513	須恵器長頸瓶		8世紀後半	16D	026SD	8632	-	9.0	(1.9)	-	3
514	土器甕			16D	026SD	8632	-	-	(2.4)	-	-
515	須恵器壺		8世紀後半	16D	026SD	8632	22.7	-	(5.2)	?	-
516	灰釉陶器碗	0-53号窯式		16D	065SD	8733	-	7.0	(2.1)	-	4
517	灰釉陶器碗	0-53号窯式		16D	002SD	-	-	6.8	(2.0)	-	?
518	土器甕	伊勢型甕		16D	100SD	8634	(18.0)	-	(4.5)	1	-

E-no.	器種	型式	時期・備考	調査区	遺構番号	グリッド	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率・口/12	残存率・底/12
519	土器甕	伊勢型甕		16D	055SK	8635	-	-	(3.8)	1	-
520	須恵器蓋	I-17号窯式		16D	北トレンチ	8631	10.0	-	(1.1)	1	-
521	須恵器高杯	-	7世紀代	16D	表土	8533	-	-	(6.0)	-	-
522	須恵器有台杯	-		16D	攪乱	8831	-	8.8?	1.1	-	?
523	灰釉陶器	-		16D	表土	8831	-	8.0	(2.3)	-	5
524	灰釉陶器碗	-		16D	-	8733	-	8.0	(2.6)	-	3
525	灰釉陶器皿	K-90号窯式		16D	表土	8730	-	7.0	(1.8)	-	4
526	灰釉陶器碗	O-53号窯式		16D	表土	8730	-	7.0	(1.8)	-	5
527	土鉢	-		16D	-	8633	長さ5.4	幅1.7	厚さ5.5 孔径0.6	重量 14.0g	
528	須恵器坏身	H-44号窯式		16E	009SD	9028D	11.6	4.7	4.4	2	12
529	須恵器坏身	H-44号窯式		16E	009SD	9028	10.2	-	(4.45)	1	-
530	須恵器坏蓋	-		16E	009SD	9028	-	5.5	1.35	-	10
531	須恵器高杯	-	7世紀代	16E	009SD	9028J	-	12.6?	(3.0)	-	1?
532	須恵器壺	-	7世紀後半代	16E	009SD, 033SU	8928Y	9.7	3.3	17.2	10	12
533	土器甕	三河型甕	7世紀代?	16E	009SD	9028	(19.0)	-	(8.7)	1	-
534	土器甕	三河型甕	7世紀代?	16E	009SD	9028	(13.2)	-	(7.1)	2	-
535	土器甕	-	-	16E	009SD	9028E	-	(2.8)	(11.0)	-	3
536	土器甕 (把手付)	-	古代	16E	009SD	9028	長さ6.3	幅3.9	厚さ3.5	-	-
537	須恵器平瓶	-	7世紀代	16E	019SK	9028	-	-	(5.0)	-	-
538	須恵器平瓶	I-17号窯式前後		16E	019SK	9028	-	-	(2.6)	-	-
539	土器甕	伊勢型甕		16E	070SP	8930	-	-	(3.1)	-	-
540	不明土製品 (移動式甕片?)	-		16E	013SD	8929	長さ(7.7)	幅2.5	厚さ2.2	-	-
541	須恵器蓋 (焼成不良)	-		16E	059SD	8927	-	鈕径2.1	(2.2)	-	-
542	須恵器長頸瓶	-	8世紀後半	16E	059SD	8927	-	7.6	(6.2)	-	12
543	灰釉陶器碗	O-53号窯式		16E	016SK	8929	-	7.0	(2.2)	-	2
544	灰釉陶器皿	H-72号窯式		16E	016SK	8929	-	6.8	(1.0)	-	5
545	土器甕	三河型鍋	平安時代	16E	017SD	8830	(20.0)	-	(2.8)	1	-
546	須恵器坏蓋	H-44号窯式		16E	055SK	8927	12.8	-	3.8	5	-
547	須恵器横瓶	-	7世紀代	16E	055SK	8927	15.2	-	(1.9)	1	-
548	須恵器高杯	-	6世紀カ (猿投窯以外)	16E	055SK	8927	-	11.2?	(8.3)	-	?
549	須恵器無台杯	-		16E	055SK	8927	-	7.2	(1.6)	-	4
550	土器甕	伊勢型甕		16E	055SK	8927	(18.8)	-	(12.0)	2	-
551	灰釉陶器皿	O-53号窯式		16E	34層	8827	-	6.8	(1.5)	-	3
552	土器甕	三河型鍋	平安時代	16E	東トレンチ	9025	-	-	(3.2)	1	-
553	山茶碗	尾張型第4型式併行		11A	018SD	9713H	-	(7.4)	(1.8)	-	3
554	山茶碗	尾張型第8型式		11A	020SD	9713H	-	(5.7)	(3.2)	-	6
555	山茶碗	尾張型第8, 9型式		11B	010SE	9613E	-	5.7	(1.4)	-	12
556	灰釉盤類	古瀬戸後期		11B	010SE	9613E	-	15.9	(2.8)	-	3
557	山茶碗	尾張型第8, 9型式		11B	012SE 4段目	9413W	(14.0)	-	(3.4)	1	-
558	土師器皿	ロクロ調整	(井戸廃絶儀礼)	11B	012SE	9413W	7.9	5.2	1.8	11	12
559	土師器鍋	伊勢型鍋	鎌倉時代	11B	012SE 第4層	9413W	-	-	(1.1)	1	-
560	灰釉平碗	古瀬戸後期IV新		11B	-	9613E	-	(5.0)	(1.2)	-	4
561	山茶碗	尾張型第5型式併行		12B	001SD	94130	15.0	-	(2.9)	2	-
562	山茶碗	尾張型第5型式併行		12B	001SD	94130	-	7.2	(4.6)	-	12
563	山茶碗	尾張型第3型式?		12B	検出1	9312G	-	6.8	(2.1)	-	3
564	山茶碗	尾張型第4型式併行		12C	検出1	9417K	-	(9.4)	(2.6)	-	5
565	陶丸	-		12C	検出1	9419A	長さ2.2	幅2.0	厚さ2.0	-	-
566	灰釉盤類	古瀬戸後期		12C	検出1	9419C	26.8	-	(3.85)	1	-
567	鉄軸丸皿	-	近世 (美濃窯)	12C	攪乱	9417W	(9.8)	-	(2.3)	2	-
568	鉄軸端反皿	大窯第2段階		12C	検出1	9419C	11.8	-	(1.55)	2	-
569	壺・瓶類	-	-	12D	検出1	9416B	-	(9.2)	(2.8)	-	5
570	灰釉合子蓋	-	近世 (美濃窯)	12D	検出1	9417C	(7.9)	-	(1.5)	1	-
571	陶器端反碗	-	近世	12D	検出1	9417C	(8.7)	-	(2.6)	1	-
572	土器サナ	-	近世以降	12D	攪乱	9416X	(10.0)	(9.0)	(1.4)	-	1
573	山茶碗	尾張型第7型式		15	015SK	910250	(15.0)	-	(4.2)	4	-
574	山茶碗	灰釉末?		15	005SW北	915220	(14.6)	-	(3.0)	1	-
575	加工円盤 (常滑窯製品片)	-		15	南東攪乱	-	長さ3.9	幅4.3	厚さ1.3	-	-
576	山茶碗	尾張型第4型式併行		15	南東攪乱	-	-	(9.0)	(1.9)	-	2
577	山茶碗小皿	尾張型第6型式		15	包含層	920205	-	5.4	(1.7)	-	12
578	陶胎染付広東碗	瀬戸美濃	近世	15	南攪乱	-	-	4.2	(2.0)	-	1
579	鉄軸播鉢	瀬戸美濃	近世	16A	南トレンチ	8048	26.4	-	3.5	2	-
580	陶丸	-		15	035SI東上面	905240	長さ2.0	幅2.0	厚さ1.7	-	-
581	山茶碗	-		16B	019SK	8044	-	7.2	(2.1)	-	3
582	鉄軸播鉢	古瀬戸後期IV新		16B	002SK	8243	-	-	(3.0)	1	-
583	山茶碗	尾張型第3型式		16B	015SK	8242	-	7.7	(1.8)	-	8

E-no.	器種	型式	時期・備考	調査区	遺構番号	グリッド	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率・口/12	残存率・底/12
584	山茶碗			16B	015SK	8242	-	7.1	(1.5)	?	?
585	山茶碗			16B	015SK	8242	-	5.0	(2.3)	-	3
586	常滑窯産甕	常滑窯第8型式	14世紀後半	16B	015SK	8242	-	-	(5.5)	1	-
587	片口鉢		中世	16B	015SK	8242	-	9.6	(4.8)	-	4
588	器種不明灰釉	古瀬戸?		16B	015SK	8242	-	-	(0.7)	-	-
589	陶器碗	京・信楽窯系	18世紀	16B	015SK	8242	-	4.1	(2.4)	-	12
590	磁器小杯		18世紀	16B	015SK	8242	-	3.0	(2.1)	-	12
591	鉄袖筒型容器		18世紀	16B	015SK	8242	19.8	-	(15.9)	1	-
592	陶器鉄絵鉢		18世紀後半	16B	015SK	8242	29.2	-	(6.4)	1	-
593	土器鍋	くの字形内耳鍋		16B	009SK	8144	(22.3)	-	(5.0)	2	-
594	土器鍋	くの字形内耳鍋		16B	010SK	8144	(22.0)	-	(3.7)	1	-
595	鉄袖播鉢	連房式登窯第6小期	18世紀前半	16B	010SK	8144	-	-	(3.1)	1	-
596	山茶碗小皿	尾張型第5型式		16B	攪乱	-	9.8	5.5	1.9	2	4
597	陶丸			16B	表土	-	長さ1.95	幅1.85	厚さ1.7	-	-
598	山茶碗小皿	尾張型第6型式併行		16C	攪乱	8437	8.0	4.4	1.8	3	3
599	青磁碗	龍泉窯		16C	攪乱	8437	-	-	(2.6)	1?	-
600	青磁蓮弁文碗	龍泉窯		16C	西トレンチ	8340	11.8	-	(1.35)	1	-
601	山茶碗	尾張型第6型式併行		16D	053SX 1区	8632	-	3.1	(1.9)	-	12
602	土器鍋	くの字形内耳鍋		16D	026SD	8632	-	-	(2.6)	1	-
603	古瀬戸盤類	後IV新カ		16D	049SD	8732	24.6	-	(2.8)	1	-
604	土器鍋	くの字形内耳鍋		16D	049SD	8633	-	-	(3.0)	1	-
605	山茶碗			16D	北トレンチ	8632	15.6	-	(3.4)	2	-
606	鉄袖壺	大窯		16E	表面精査	8927	9.8	-	(3.0)	1	-
607	志野袖皿	大窯第4段階	近世	16E	壁面精査	8926	-	5.7	(1.2)	-	2

<< 金属製品・金属関連遺物 >>

M-No.	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	調査区	遺構番号	グリッド
1	含鉄遺物	3.76	1.72	7.4	11B	サブトレンチ	9612L
2	鉄塊系遺物	4.98	2.84	37.6	15	042SK	905240
3	鉄塊系遺物	6.14	5.14	57.8	15	005SW北	920210
4	鉄塊系遺物	2.98	2.6	12.8	15	北攪乱	-
5	鉄塊系遺物	4.18	2.8	32.4	16D	049SD	8633
6	含鉄遺物	4.83	1.94	17.1	16D	049SD	8731
7	椀形鉄滓	3.78	3.73	34.3	16E	34層	8926
8	錆金具	3.71	2.76	2.6	16B	015SK	8242
9	銭貨 (寛永通宝)	2.22	1.38	1.2	16B	015SK	8242
10	銭貨 (寛永通宝)	2.65	2.44	1.7	16B	015SK	8242

登録遺物一覽表 << 石器・石製品 >>

11

S-no.	器種	石材・備考	調査区	遺構番号	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
1	磨石・敲石	片麻岩	11A	059SD	9810H	13.0	4.7	4.1	402
2	竈支柱か	花崗岩 (アブライト), スス 付着	11A	032SE NO. 3	9712S	17.6	13	7.8	1790
3	石材	片麻岩, 立方体に加工	11A	032SE NO. 5	9712S	11.9	10.4	9.5	2196
4	石材	片麻岩, スス付着	11A	032SE NO. 4	9712S	12.1	11.6	6.5	1379
5	磨石	砂岩円礫	11B	012SE (石NO. 4)	9613W	9.8	8.3	3	33
6	磨石	花崗岩, 広範囲にスス付着	11B	012SE (最下段)	9613W	13.4	7.5	4.2	582
7	竈支柱か	片麻岩	11B	012SE (最下段)	9613W	10.0	7.4	4.6	472
8	火打石	チャート	15	001SX	915225	2.2	1.7	1.5	7
9	敲石・磨石	花崗岩	15	012SX直下	925235	10.4	9.2	4.9	570
10	砥石	凝灰質砂岩	15	033SK	925200・925205	8.4	7.3	1.4	126
11	台石	花崗岩	15	TT15 001SK	-	10.5	8.5	4.4	554
12	台石	花崗岩	15	北中央攪乱	-	22.3	14	4.6	1848
13	石材	はんれい岩, 立方体に加工	16B	015SK	8242	10.9	8.2	5	660
14	石帯	滑石	16B	015SK	8242	2.8	2.6	0.8	10.6
15	硯	方形	16B	015SK	8242	5.2	3	0.6	17.7
16	磨石	花崗岩円礫	16C	077SD	8538・8537	12.2	6.5	4.9	574
17	磨石	砂岩円礫	16C	077SD	8538・8537	9.5	7.6	3.8	327
18	石材	アブライト, 赤変あり	16C	南壁16層	8340V	28.0	16.8	19	8600
19	器種不明	緑泥片岩	16D	100SD	8634	4.8	3.3	0.4	6
20	砥石か	砂質凝灰岩	16D	090SK下層	8534	12.7	9.1	2.7	262
21	磨石	アブライト, 使用面複数	16E	019SK	9028	12.0	11.8	10.2	1878
22	磨石	チャート	16E	055SK	8927	10.7	9.5	6.5	773
23	磨石・敲石	片麻岩	16E	055SK	8927	18.3	6.2	4.4	616
24	台石	砂質凝灰岩	16E	059SD	8927	20.4	17.4	5.4	1888
25	砥石	花崗岩	16E	表面精査	8829	20.0	9.6	6.6	1960
26	石材	凝灰岩 / (写真図版10)	16D	117SD	8633				

<< 木製品 >>

W-no.	器種ほか	樹種	木取り	時期	調査区	遺構等	グリッド	長さ (cm)	幅・径 (cm)	厚さ (cm)	年輪数 (本)	年輪幅 (cm)	試料 No.
001	曲柄鋸軸部	コナラ属アカガシ亜属	榎目	古墳時代前期	16C	2面北トレンチ	8339	(12.0)	3.1	1.3	13	0.1~0.2	2
002	鋸膝柄	サカキ	芯持丸木	古墳時代前期	16C	2面北トレンチ	8339	(10.0)	8.6	3.6	17	0.5~1.5	3
003	掘り棒	コナラ属アカガシ亜属	榎目	古墳時代前期	16C	2面北トレンチ	8339	(61.7)	7.6	1.0	44	0.1~0.2	4
004	鎌柄未成品	コナラ属クスギ節	榎目	古墳時代前期	16C	2面北トレンチ	83390	37.5	8.0	1.0	51	0.1~0.25	5
005	榼	ヒノキ	板目	古墳時代前期	16C	2面北トレンチ	8339	(67.5)	8.2	2.1	23	0.05~0.15	6
006	柱	ブナ属	芯持丸木	古墳時代前期	16C	2面北トレンチ	8339I	154.9	16.4	7.7	38	0.05~0.15	78
007	杭	サカキ	芯持丸木	古墳時代前期	16C	2面北トレンチ	8339I	(42.0)	6.1	3.6	25	0.05~0.2	75
008	台輪状	クリ	追榎目	古墳時代前期	16C	2面北トレンチ	8339	(69.3)	27.2	5.6	54	0.1~0.9	79
009	穿孔板	スギ	板目	古墳時代前期	16C	2面北トレンチ	8339C	22.6	8.4	0.8	8	0.1~0.2	76
010	穿孔板	アスナロ	板目	古墳時代前期	16C	2面北トレンチ	8339I	66.2	15.1	2.6	12	0.25~0.4	77
011	有段板	クリ	板目	古墳時代前期	16C	2面北トレンチ	8339B	(43.0)	17.0	5.1	24	0.1~0.4	80
012	杭	クリ	芯持丸木	古墳時代前期	16C	2面南トレンチ	8439A	(43.0)	8.5	7.4	21	0.2~0.4	81
013	柱	クリ	1/4分割材	古墳時代前期	16E	033SK	8928	(76.3)	11.3	10.0	26	0.1~0.2	89
014	ヨコヅチ	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	7世紀以降	16D	050SK	8534	(30.9)	6.1	6.1	52	0.05~0.15	7
015	曲物側板	アスナロ	板目	平安時代	11A	032SE		最大高 4.7	(43.6)	0.5	6	0.05	8
016	曲物側板	ヒノキ	板目	平安時代	12C	006SE		最大高 31.6	長 54.0、 短40.0	0.7	15	0.03~0.09	37
017	柱根	ヒノキ	芯持丸木	平安時代	11B	041SK		(44.0)	(14.4)	17.3	残存 58	0.1~0.3	14
018	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	平安時代以降?	11B	086SK	9513H	33.0	4.6	3.9	14	0.1~0.2	90
019	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	平安時代以降?	11B	087SK	951-	39.6	5.5	3.5	10	0.2~0.4	91
020	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	平安時代以降?	11B	127SK	9513H	(23.4)	3.4	1.9	12	0.05~0.1	92
021	曲物側板	アスナロ	追榎目	鎌倉時代	11B	012SE	9413W	最大高 17.5	推定径 (37.3)	0.6	11	0.01~0.05	10
022	曲物側板	ヒノキ	追榎目	鎌倉時代	11B	012SE	9413W	残存高 (16.2)	(39.0)	0.6	9	0.05~0.1	9
023	曲物側板	ヒノキ	追榎目	鎌倉時代	11B	012SE	9413W	最大高 21.7	推定径 (38.0)	0.7	12	0.05	11
024	曲物側板	アスナロ	追榎目	鎌倉時代	11B	012SE	9413W	最大高 31.2	推定径 (41.0)	0.9	37	0.025	12
025	曲物側板	ヒノキ	追榎目	鎌倉時代	11B	012SE	9413W	最大高 22.4	44.1	0.5	6	0.05	13
026	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	鎌倉時代	11B	012SE		(45.5)	5.0	3.4	15	0.1~0.2	93
027	杭	ヒノキ	芯持丸木	中世以降?	16E	061SA 杭1	8829	(85.5)	10.0	80.4	20	0.1~0.2	82
028	杭	スギ	芯持丸木	中世以降?	16E	061SA 杭2	8828	(51.4)	4.4	4.4	20	0.1~0.2	83
029	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	中世以降?	16E	061SA 杭3	8828	72.5	7.1	6.0	24	0.1~0.2	84
030	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	中世以降?	16E	061SA 杭4	8829	48.5	7.0	4.7	15	0.1~0.2	85
031	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	中世以降?	16E	061SA 杭5	8828	64.2	6.7	5.5	33	0.1~0.2	86
032	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	中世以降?	16E	061SA 杭6	8828	(49.6)	6.9	6.1	22	0.1~0.2	87
033	杭	ヒノキ	芯持丸木	中世以降?	16E	061SA 杭8	8828	(84.5)	12.3	7.1	18	0.1~0.3	88
034	井戸枠	スギ	板目	江戸時代	11B	010SE		62.0	9.3	2.2	36	0.1~0.6	16
035	井戸枠	サワラ	板目	江戸時代	11B	010SE		61.7	12.8	2.4	68	0.05~0.1	17
036	井戸枠	サワラ	榎目	江戸時代	11B	010SE		(54.6)	7.2	2.0	53	0.05~0.1	18
037	井戸枠	サワラ	榎目	江戸時代	11B	010SE		(55.3)	8.0	1.9	37	0.05~0.1	19
038	井戸枠	サワラ	榎目	江戸時代	11B	010SE		61.5	16.1	1.8	91	0.03~0.15	20
039	井戸枠	サワラ	榎目	江戸時代	11B	010SE		(50.6)	10.0	(1.8)	22	0.1~0.2	21
040	井戸枠	サワラ	榎目	江戸時代	11B	010SE		(58.5)	9.1	1.7	25	0.05~0.2	22
041	井戸枠	スギ	板目	江戸時代	11B	010SE		61.1	7.7	1.8	12	0.1~0.3	23
042	井戸枠	スギ	板目	江戸時代	11B	010SE		61.7	11.4	2.1	8	0.5~0.7	24
043	井戸枠	スギ	榎目	江戸時代	11B	010SE		(58.9)	4.3	1.8	30	0.05~0.1	25
044	井戸枠	スギ	榎目	江戸時代	11B	010SE		(60.1)	9.6	1.9	65	0.05~0.1	26
045	井戸枠	スギ	板目	江戸時代	11B	010SE		58.5	6.6	1.9	36	0.05~0.1	27
046	井戸枠	スギ	板目	江戸時代	11B	010SE		(62.0)	10.3	1.9	56	0.05~0.2	28
047	井戸枠	サワラ	追榎目	江戸時代	11B	010SE		(59.4)	7.6	1.8	49	0.1~0.2	29
048	井戸枠	サワラ	榎目	江戸時代	11B	010SE		61.5	12.7	2.5	109	0.05~0.2	30
049	井戸枠	ヒノキ	追榎目	江戸時代	11B	010SE		61.1	10.9	1.8	21	0.1~0.3	31
050	井戸枠	サワラ	榎目	江戸時代	11B	010SE		61.6	10.7	1.9	21	0.15~0.35	32
051	井戸枠	ヒノキ	板目	江戸時代	11B	010SE		61.5	9.5	2.1	36	0.05~0.6	33
052	井戸枠	ヒノキ	板目	江戸時代	11B	010SE		(60.9)	12.5	2.1	14	0.3~0.5	34
053	井戸枠	サワラ	板目	江戸時代	11B	010SE		62.3	11.8	2.1	9	0.5~0.6	35
054	井戸枠	ムクノキ	追榎目	江戸時代	11B	010SE		(9.2)	2.7	1.6	13	0.1~0.2	15
055	井戸枠	マツ属複雑管束亜属	板目	江戸時代	16C	109SE	8438U	48.5	(7.4)	1.7	8	0.15~0.2	56
056	井戸枠	マツ属複雑管束亜属	板目	江戸時代	16C	109SE	8438P	49.0	10.3	1.8	14	0.15~0.2	57
057	井戸枠	イイギリ	板目	江戸時代	16C	109SE	8438P	(43.3)	(7.2)	1.4	12	0.1~0.45	58
058	井戸枠	イイギリ	板目	江戸時代	16C	109SE	8438P	(42.0)	7.3	1.3	11	0.1~0.45	59
059	井戸枠	イイギリ	板目	江戸時代	16C	109SE	8438P	(43.8)	6.5	1.4	11	0.1~0.5	60

W-no.	器種ほか	樹種	木取り	時期	調査区	遺構等	グリッド	長さ (cm)	幅・径 (cm)	厚さ (cm)	年輪数 (本)	年輪幅 (cm)	試料 No.
060	井戸枠	クワ属	板目	江戸時代	16C	109SE	8438P	46.6	6.5	1.8	15	0.05~0.3	61
061	井戸枠	モチノキ属	板目	江戸時代	16C	109SE	8438U	47.0	6.6	1.6	14	0.05~0.35	62
062	井戸枠	マツ属複雑管束亜属	板目	江戸時代	16C	109SE	8438U	47.1	6.5	1.5	11	0.1~0.3	63
063	井戸枠	マツ属複雑管束亜属	板目	江戸時代	16C	109SE	8438U	47.1	5.0	1.4	10	0.15~0.5	64
064	井戸枠	マツ属複雑管束亜属	板目	江戸時代	16C	109SE	8438U	48.4	6.4	1.3	8	0.1~0.7	65
065	井戸枠	クスノキ科	板目	江戸時代	16C	109SE	8438U	47.0	4.0	1.4	8	0.1~0.5	66
066	井戸枠	クワ属	板目	江戸時代	16C	109SE	8438U	47.2	7.0	1.6	11	0.1~0.4	67
067	井戸枠	モチノキ属	板目	江戸時代	16C	109SE	8438U	47.1	6.6	1.6	16	0.1~0.25	68
068	井戸枠	モチノキ属	板目	江戸時代	16C	109SE	8438U	(44.4)	5.1	1.3	12	0.05~0.5	69
069	井戸枠	イイギリ	板目	江戸時代	16C	109SE	8438U	43.2	8.0	1.5	14	0.2~0.5	70
070	井戸枠	イイギリ	板目	江戸時代	16C	109SE	8438U	46.5	6.5	1.5	12	0.15~0.6	71
071	井戸枠	モチノキ属	板目	江戸時代	16C	109SE	8438U	45.5	5.4	1.6	14	0.05~0.35	72
072	井戸枠	マツ属複雑管束亜属	板目	江戸時代	16C	109SE	8438U	46.5	6.2	1.5	6	0.2~0.6	73
073	井戸枠	スギ	芯去削出	江戸時代	16C	109SE	8438P	71.3	5.0	3.1	10	0.25~0.3	55
074	井戸枠	アスナロ	板目	江戸時代	16C	109SE	8438U	99.2	27.2	1.8	50	0.15~0.8	74
075	杭	ツバキ属	芯持丸木	近世以降	16B	015SK	8242V	(44.9)	4.9	4.0	17	0.1~0.2	39
076	杭	ツバキ属	芯持丸木	近世以降	16B	015SK	8242Q	(20.8)	2.9	3.2	13	0.05~0.3	46
077	杭	ツバキ属	芯持丸木	近世以降	16B	015SK	8242Q	(43.5)	3.4	3.2	16	0.03~0.2	42
078	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	近世以降	16B	015SK	8242P	(20.9)	3.5	2.9	10	0.1~0.2	47
079	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	近世以降	16B	015SK	8242V	(34.1)	2.8	2.4	14	0.03~0.1	40
080	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	近世以降	16B	015SK	8242V	(38.3)	3.9	3.9	16	0.05~0.1	41
081	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	近世以降	16B	015SK	8242Q	37.0	4.1	3.5	8	0.1~0.3	43
082	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	近世以降	16B	015SK	8242Q	(43.3)	5.1	4.1	13	0.2~0.3	45
083	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	近世以降	16B	015SK	8242Q	(34.3)	3.4	3.1	8	0.1~0.2	44
084	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	近世以降	16B	015SK	8242U	(50.0)	5.2	6.0	13	0.05~0.15	49
085	杭	コナラ属クスギ節	芯持丸木	近世以降	16B	015SK	8242P	(39.4)	4.0	3.2	14	0.03~0.1	48
086	杭	コナラ属クスギ節	芯持丸木	近世以降	16B	015SK	8242U	(53.1)	4.5	3.1	8	0.2~0.4	50
087	杭	マツ属複雑管束亜属	芯持丸木	近世以降	16B	017SK	8144E	(19.1)	6.0	4.6	17	0.05~0.1	38
088	曲物底板	スギ	板目	近世以降	16B	021SK	8044T	57.3	11.8	2.1	20	0.05~0.4	52-1
089	曲物底板	スギ	板目	近世以降	16B	021SK	8044T	74.2	10.9	(1.9)	11	0.3~0.6	52-2
090	曲物底板	スギ	板目	近世以降	16B	021SK	8044S	85.8	11.0	2.2	19	0.05~0.55	54
091	曲物底板	スギ	板目	近世以降	16B	021SK	8044T	(89.6)	11.2	2.3	25	0.05~0.35	53
092	曲物底板	スギ	板目	近世以降	16B	021SK	8044T	85.2	11.3	11.6	22	0.1~0.45	51
093	曲物底板	スギ	板目	近世以降	16B	021SK	8044T	(74.8)	12.1	2.1	21	0.1~0.4	52-3
094	曲物底板	スギ	柱目	近世以降	16B	021SK	8044T	(52.5)	11.2	2.1	12	0.2~0.5	1
095	米俵状		-		11B	010SE		(33.0)	40.3	0.6			



1. 遺跡遠景 (16C 付近から北西方向を望む) / 2. 遺跡遠景 (東を望む) / 3. 11A 区第 1 面完掘状況 (南西から) / 4. 11A-089SD 溝断面 / 5. 11A-032SE 井戸検出状況 / 6. 11A-032SE 井戸断面 / 7. 11B 区第 2 面西部検出状況 / 8. 11B 区第 2 面完掘状況



1. 11B-030SI 竪穴建物（北西から）／ 2. 11B-030SI 南北ベルト北側／ 3. 11B-030SI・128SK 焼土検出状況／
4. 11B-012SE 井戸最下段（東から）／ 5. 11B-066SD 遺物出土状況（北から）／ 6. 11B-010SE 井戸最下段（東から）
／ 7. 12A 区検出状況（北から）／ 8. 12A-005SE 区完掘状況（北西から）



1. 12B区完掘状況(南から) / 2. 12C区完掘状況(東から) / 3. 12C-003SD遺物出土状況(東から) / 4. 12C-003SD遺物出土状況(南から) / 5. 遺跡遠景(北西方向を望む) / 6, 7. 12C-003SD下層遺物出土状況 / 8. 12C-002SD遺物出土状況(北から)



1. 12C-007SD 付近完掘状況（北から）／ 2. 12C-011SK 断面（東から）／ 3. 12C-006SDE 井戸断面（北東から）／ 4. 12C-006SDE 曲物検出状況／ 5. 12D 区完掘状況（北西から）／ 6. 12D-009SD 遺物出土状況／ 7. 12D-003SD 断面（南東から） 8. 12D-003SD 遺物出土状



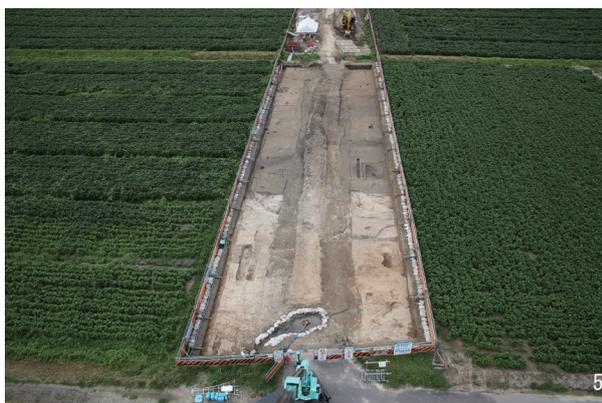
1. 15区完掘状況 / 2. 15-036SI・072SK完掘状況 / 3. 16A区完掘状況（東から） / 4. 16B区完掘状況（南東から） / 5. 16B-015SK導水施設検出状況（南東から） / 6. 16B-015SK杭列（北から） / 7. 11B-005～011SK土坑群完掘状況（東から） / 8. 11B-006～011SK断面（南東から）



1, 2. 16C 区下層北トレンチ自然流路検出状況／3, 4, 5. 16C 区下層北トレンチ木製品出土状況(W-008, 004, 011)
／6. 16C 区下層南トレンチ全景(南東から)／7. 16C 区下層北トレンチ全景(南東から) 8. 16C 区下層北ト
レンチ砂層までの深堀／9. 16C-077SD 溝遺物出土状況(北東から)／10. 16C-006SD 溝遺物出土状況(東から)



1. 16C区完掘状況／2. 16C-081, 082SD付近（南西から）／3. 16C-058SD（北から）／4. 16C-013SI 竪穴建物（西から）／5. 16C-013SI 竪穴建物A断面（北から）／6. 16C-004SI 竪穴建物床面検出状況（南西から）／7. 16C-026SI 竪穴建物B断面（東から）8. 16C-109SE 井戸検出状況（北から）



1. 16D区完掘状況（左側に16E区、右側に16C区が続く）／2. 16D-8731グリッドピット群（南から）／
3. 16D-090SK土坑断面（南から）／4. 16D-011SI 竪穴建物（南から）／5. 16E区全景（南西から）／6. 16E-055SK・
059SD 遺物出土状況（南西から）／7, 8. 16E-033SU 遺物出土状況／9. 16E-009SD 遺物出土状況（東から）



12C-003SD



16E-033SU



16C-006SD · 077SD



424

422

423

350

S-14

344

345

377

308

527

324

394

凝灰岩礫

215

468

292

278



507

505



S-17



S-5



6



31



9



82



24



78



44



30



39



94



120



112



156



121



165



161



138



144



168



173



145



172



174



181



11B-030SI



241



256



492



242



337



481



229



223



332



335



388



332



542



276



483



528



379



532



490



548



482



376



374



471



445



500



505



206



322



501



507



W-011



W-005



W-002



W-004



W-009



W-003



|



W-008



W-016



W-023



W-036,038



W-088,089,090,094



W-062,063



W-091,092,093



11B-010SE (井戸裏込に使用の土囊か)

報告書抄録

ふりがな	おかやまみなみいせき							
書名	岡山南遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第212集							
編著者名	武部真木(編)・宮腰健司・池本正明・鈴木正貴・樋上 昇・鬼頭 剛・藤根 久・米田恭子							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2019年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おかやまみなみいせき 岡山南遺跡	あいちけん にしおし 愛知県西尾市 きらちよう 吉良町	23213	590016	34度 50分 15秒	137度 04分 38秒	2011.12.～ 2012.2. 2012.04.～07. 2015.06.～09. 2016.08.～12.	4,100	道路改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
岡山南遺跡	集落	古墳時代 ～ 平安時代 鎌倉時代 江戸時代	掘立柱建物跡、 溝、井戸、土坑等 自然流路跡	土師器、須恵器、石器、 灰釉陶器、山茶碗、 瀬戸・美濃窯産陶器、 木製品、金属製品、 石製品等		下層自然流路で 古墳時代木製品 を検出		
文書番号	発掘届出 (23埋セ第92号,2011.10.5/第180号,2012.3.23/27埋セ第1-1号,2015.4.7/28埋セ第38号,2016.7.6) 通知(23教生第1604号,2011.10.12/24教生第178号,2012.4.10 /27教生第171号,2015.4.20/28教生第1262号,2016.7.19) 終了届・保管証・発見届(23埋セ第164号,2012.3.1/24埋セ第66号,2012.8.6 /27埋セ第72号,2015.9.14/28埋セ第74号,2016.11.21) 鑑定結果通知(23教生第2897号,2012.3.23/24教生第1246号,2012.8.22 /27教生第1745号,2015.10.5/28教生第3355号,2017.2.15)							
要約	本遺跡は矢作古川の下流左岸域、岡山丘陵の南側の沖積地に立地する集落遺跡である。丘陵上に展開した弥生時代集落遺跡や古墳群との関連性が注目されており、調査では弥生土器や古墳時代前期から中期の土師器・木製品など多様な遺物が得られた。低地部の開発が始まっていたこと、また飛鳥・奈良時代から平安時代に営まれた集落の一端が明らかとなった。							

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第212集

岡山南遺跡

2019年3月31日

発行 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 新日本法規出版株式会社